

君津市芋窪原遺跡

— 一般国道410号久留里馬来田バイパス事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和6年3月

千葉県教育委員会

き み つ し い も く ほ は ら い せ き
君津市芋窪原遺跡

— 一般国道410号久留里馬来田バイパス事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —





(2) SK001 完掘



(2) SK001 遺物出土状況



主な後・晩期出土土器



主な出土石器・石製品

序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会では、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的とした諸活動に加え、千葉県が行う開発事業に係る埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について実施しております。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第51集として、千葉県教育委員会による一般国道410号久留里馬来田バイパス事業に伴って実施した君津市芋窪原遺跡の発掘調査報告書です。

この調査では、東京湾に流れ込む小櫃川によって形成された段丘上に営まれた縄文時代中期から晩期にかけての集落跡が検出され、竪穴住居跡や土坑墓などが発見されたほか、縄文土器や石器などの遺物が多量に出土し、この地域の歴史を知る上で貴重な成果を得ることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

令和6年3月

千葉県教育庁教育振興部
文化財課長 稲村 弥

凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部道路整備課による一般国道410号久留里馬来田バイパス事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。

芋窪原遺跡 君津市芋窪字芋窪台124の一部ほか（遺跡コード225-033）
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部道路整備課の依頼を受け、千葉県教育庁教育振興部文化財課が、平成30年度～令和元年度に発掘調査を実施し、令和元年度～5年度に整理作業を実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、第1章に記した。
- 5 本書の執筆は、第4章第2節3・4、同章第3節3・4、同章第4節3・4、第5章5・6を主任上席文化財主事 蜂屋孝之が行い、それ以外を文化財主事 館 祐樹が行った。
また、編集については館が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで以下の機関及び方々からご指導、ご協力を得た。
千葉県県土整備部道路整備課、千葉県県土整備部君津土木事務所、君津市教育委員会、吉村光敏、八木令子、渡辺 新、丸山啓志、加藤久佳、宮川尚子
- 7 本書で使用した地図の座標値は、世界測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 8 本書で使用した地形図は下記の通りである。

第2図 地理院タイル(標高タイル)を「Web等高線メーカー」サイトで作成して編集
地形断面図 電子国土Webで作製した陰影起伏図をもとに編集

第3図 国土地理院発行 1:25,000「久留里」・「坂畑」平成4年発行を編集
- 9 図版1の航空写真は、国土地理院による平成17年撮影のものを使用した。
- 10 本書に掲載した遺構の番号は、調査段階の遺構番号をそのまま使用している。調査は第1次から第3次まで実施していることから、遺構名の前に(1)～(3)の略号を付している。なお、整理作業の段階で検討の結果遺構から除外したものがあり、遺構番号に欠番が生じている。
- 11 遺構の種別は、以下の記号を使用した。
SI：堅穴住居跡・堅穴状遺構 SK：土坑・土坑墓 SD：溝状遺構
- 12 本書に掲載した調査区等の縮尺、記号等の用例については挿図中に示した。
- 13 遺物実測図の縮尺は、以下のとおりである。
土器実測図 1/4 拓本図 1/3 剥片石器 2/3 礫石器 1/3
土製品・玉類 必要に応じて1/2または1/1

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	事業の経緯と経過	1
2	調査の方法	2
第2節	遺跡の位置と環境	3
1	遺跡の位置と地理的環境	3
2	周辺の遺跡と歴史的環境	5
第3節	調査成果の概要	8
1	本調査の範囲と成果	8
2	基本層序	8
第2章	旧石器時代から縄文時代草創期の遺物	14
第3章	縄文時代の遺構と遺物	15
第1節	竪穴住居跡	15
第2節	竪穴状遺構群	24
第3節	土坑	43
第4節	溝	51
第4章	縄文時代の包含層と遺物	53
第1節	概要	53
第2節	A区包含層	54
1	土器	54
2	土製品	70
3	石器	131
4	石製品	148
第3節	B区包含層	149
1	土器	149
2	土製品	150
3	石器・石製品	150
第4節	C区包含層	155
1	土器	155
2	土製品	164
3	石器	201
4	石製品	205
第5章	総括	237
附章	石器の黒色付着物の材質分析	244
	写真図版	
	報告書抄録	

挿図目次

第1図	確認調査トレンチ配置図	2	第34図	(3) SK007～SK010・SK012～SK015	48
第2図	周辺地形図	4	第35図	土坑出土遺物(1)	49
第3図	遺跡の位置と周辺の遺跡	6	第36図	土坑出土遺物(2)	50
第4図	基本層序	9	第37図	土坑出土遺物(3)	51
第5図	調査範囲と周辺地形	10	第38図	(3) SD001・SD002	52
第6図	A区遺構配置図	11	第39図	A・C区遺物包含層土層断面図	55
第7図	B区遺構配置図	12	第40図	A区遺物分布図	56
第8図	C区遺構配置図	13	第41図	C区遺物分布図	57
第9図	旧石器時代石器	14	第42図	A区後期土器出土分布図(3・4群)	71
第10図	(1) SI002(1)	17	第43図	A区包含層出土土器(1)	72
第11図	(1・2) SI004(1)	18	第44図	A区包含層出土土器(2)	73
第12図	(1) SI001(1)	19	第45図	A区包含層出土土器(3)	74
第13図	(1) SI001(2)	20	第46図	A区包含層出土土器(4)	75
第14図	(1) SI001(3)	21	第47図	A区包含層出土土器(5)	76
第15図	(3) SI001(1)	22	第48図	A区包含層出土土器(6)	77
第16図	(3) SI001(2)	23	第49図	A区包含層出土土器(7)	78
第17図	竪穴状遺構群(1)	24	第50図	A区包含層出土土器(8)	79
第18図	竪穴状遺構群(2)	25	第51図	A区包含層出土土器(9)	80
第19図	竪穴状遺構群(3)	30	第52図	A区後期土器出土分布図(5群)	81
第20図	竪穴状遺構群(4)	31	第53図	A区包含層出土土器(10)	82
第21図	竪穴状遺構群(5)	32	第54図	A区包含層出土土器(11)	83
第22図	竪穴状遺構群(6)	33	第55図	A区包含層出土土器(12)	84
第23図	竪穴状遺構群(7)	34	第56図	A区包含層出土土器(13)	85
第24図	竪穴状遺構群(8)	35	第57図	A区包含層出土土器(14)	86
第25図	竪穴状遺構群(9)	36	第58図	A区包含層出土土器(15)	87
第26図	竪穴状遺構群(10)	37	第59図	A区包含層出土土器(16)	88
第27図	竪穴状遺構群(11)	38	第60図	A区包含層出土土器(17)	89
第28図	竪穴状遺構群(12)	39	第61図	A区包含層出土土器(18)	90
第29図	竪穴状遺構群(13)	40	第62図	A区後期土器出土分布図(6群)	91
第30図	竪穴状遺構群(14)	41	第63図	A区包含層出土土器(19)	92
第31図	竪穴状遺構群(15)	42	第64図	A区包含層出土土器(20)	93
第32図	(1) SK001・SK002・SK004・SK008・ SK009	44	第65図	A区包含層出土土器(21)	94
第33図	(1) SK010～SK012・(2) SK001・(3) SK006	46	第66図	A区包含層出土土器(22)	95
			第67図	A区後期土器出土分布図(7群)	96
			第68図	A区包含層出土土器(23)	97

第69图	A区包含層出土石器(24)·····	98	第106图	A区包含層出土石器(5)·····	139
第70图	A区包含層出土石器(25)·····	99	第107图	A区包含層出土石器(6)·····	140
第71图	A区包含層出土石器(26)·····	100	第108图	A区包含層出土石器(7)·····	141
第72图	A区後期土器出土分布图(8·9群)···	101	第109图	A区包含層出土石器(8)·····	142
第73图	A区包含層出土石器(27)·····	102	第110图	A区包含層出土石器(9)·····	143
第74图	A区包含層出土石器(28)·····	103	第111图	A区包含層出土石器(10)·····	144
第75图	A区包含層出土石器(29)·····	104	第112图	A区包含層出土石器(11)·····	145
第76图	A区包含層出土石器(30)·····	105	第113图	A区包含層出土石器(12)·····	146
第77图	A区包含層出土石器(31)·····	106	第114图	A区包含層出土石器(13)·····	147
第78图	A区後期土器出土分布图(10群)·····	107	第115图	A区包含層出土石製品·····	148
第79图	A区包含層出土石器(32)·····	108	第116图	B区包含層出土石器(1)·····	151
第80图	A区包含層出土石器(33)·····	109	第117图	B区包含層出土石器(2)·····	152
第81图	A区包含層出土石器(34)·····	110	第118图	B区包含層出土石器(3)·土製品···	153
第82图	A区包含層出土石器(35)·····	111	第119图	B区包含層出土石器·····	154
第83图	A区包含層出土石器(36)·····	112	第120图	C区後期土器出土分布图(3·4群)··	165
第84图	A区包含層出土石器(37)·····	113	第121图	C区包含層出土石器(1)·····	166
第85图	A区包含層出土石器(38)·····	114	第122图	C区包含層出土石器(2)·····	167
第86图	A区包含層出土石器(39)·····	115	第123图	C区包含層出土石器(3)·····	168
第87图	A区包含層出土石器(40)·····	116	第124图	C区後期土器出土分布图(5·6群)··	169
第88图	A区晚期土器出土分布图(11群)·····	117	第125图	C区包含層出土石器(4)·····	170
第89图	A区包含層出土石器(41)·····	118	第126图	C区包含層出土石器(5)·····	171
第90图	A区包含層出土石器(42)·····	119	第127图	C区包含層出土石器(6)·····	172
第91图	A区晚期土器出土分布图(12群)·····	120	第128图	C区包含層出土石器(7)·····	173
第92图	A区包含層出土石器(43)·····	121	第129图	C区包含層出土石器(8)·····	174
第93图	A区包含層出土石器(44)·····	122	第130图	C区包含層出土石器(9)·····	175
第94图	A区包含層出土石器(45)·····	123	第131图	C区包含層出土石器(10)·····	176
第95图	A区包含層出土石器(46)·····	124	第132图	C区包含層出土石器(11)·····	177
第96图	A区包含層出土石器(47)·····	125	第133图	C区包含層出土石器(12)·····	178
第97图	A区包含層出土石器(48)·····	126	第134图	C区包含層出土石器(13)·····	179
第98图	A区土製品出土分布图·····	127	第135图	C区包含層出土石器(14)·····	180
第99图	A区包含層出土石器(49)·····	128	第136图	C区後期土器出土分布图(7~9群)··	181
第100图	A区包含層出土土製品(1)·····	129	第137图	C区包含層出土石器(15)·····	182
第101图	A区包含層出土土製品(2)·····	130	第138图	C区包含層出土石器(16)·····	183
第102图	A区包含層出土石器(1)·····	135	第139图	C区包含層出土石器(17)·····	184
第103图	A区包含層出土石器(2)·····	136	第140图	C区包含層出土石器(18)·····	185
第104图	A区包含層出土石器(3)·····	137	第141图	C区後期土器出土分布图(10群)·····	186
第105图	A区包含層出土石器(4)·····	138	第142图	C区包含層出土石器(19)·····	187

第143図	C区包含層出土土器(20)……………188	第160図	C区包含層出土土器(5)……………210
第144図	C区包含層出土土器(21)……………189	第161図	C区包含層出土土器(6)……………211
第145図	C区包含層出土土器(22)……………190	第162図	C区包含層出土土器(7)……………212
第146図	C区包含層出土土器(23)……………191	第163図	C区包含層出土土器(8)……………213
第147図	C区晩期土器出土分布図(11・12群)…192	第164図	C区包含層出土土器(9)……………214
第148図	C区包含層出土土器(24)……………193	第165図	C区包含層出土土器(10)……………215
第149図	C区包含層出土土器(25)……………194	第166図	C区包含層出土土器(11)……………216
第150図	C区包含層出土土器(26)……………195	第167図	C区包含層出土土器(12)……………217
第151図	C区包含層出土土器(27)……………196	第168図	C区包含層出土土製品(1)……………218
第152図	C区土製品出土分布図……………197	第169図	C区包含層出土土製品(2)……………219
第153図	C区包含層出土土器(28)……………198	第170図	後期中葉以降の精製土器集成図……………240
第154図	C区包含層出土土製品(1)……………199	第171図	器種組成……………241
第155図	C区包含層出土土製品(2)……………200	第172図	石鎌石材組成……………241
第156図	C区包含層出土土器(1)……………206	第173図	磨製石斧石材組成……………242
第157図	C区包含層出土土器(2)……………207	第174図	打製石斧石材組成……………242
第158図	C区包含層出土土器(3)……………208	第175図	磨石類石材組成……………242
第159図	C区包含層出土土器(4)……………209	第176図	石鎌未成品石材組成……………243

表目次

第1表	発掘調査及び整理作業……………1	第5表	遺構出土土器一覧表……………222
第2表	周辺遺跡一覧表……………7	第6表	A区遺構外出土土器一覧表……………223
第3表	土器片円盤一覧表……………220	第7表	B区遺構外出土土器一覧表……………226
第4表	旧石器時代から縄文時代草創期の 石器一覧表……………222	第8表	C区遺構外出土土器一覧表……………227
		第9表	石器一覧表(挿図非掲載分)……………229

図版目次

巻頭図版1	(2) SK001完掘・遺物出土状況	図版8	A区調査風景・セクション・検出、遺物出土状況
巻頭図版2	主な後・晩期出土土器・石器・石製品	図版9	A区包含層遺物出土状況
図版1	芋窪原遺跡周辺航空写真	図版10	C区調査風景・セクション・遺物出土状況
図版2	遺跡全景・A区全景	図版11	C区包含層遺物出土状況
図版3	B区全景・C区全景	図版12	(1) SI001・(3) SI001・(1) SI002・ (1)・(2) SI004・堅穴状遺構群出土縄文土器
図版4	(1) SI001・(1) SI002・(1) (2) SI004	図版13	堅穴状遺構群・(1) SK009・(2) SK001・ (3) SD001・A区包含層出土縄文土器
図版5	(3) SI001		
図版6	堅穴状遺構群		
図版7	土坑・溝		

- 図版14 A区包含層出土縄文土器
- 図版15 A区包含層出土縄文土器
- 図版16 A区包含層出土縄文土器
- 図版17 A区包含層出土縄文土器
- 図版18 A区包含層出土縄文土器
- 図版19 A区包含層出土縄文土器
- 図版20 A区包含層出土縄文土器
- 図版21 A区包含層出土縄文土器
- 図版22 A区・B区・C区包含層出土縄文土器
- 図版23 C区包含層出土縄文土器
- 図版24 C区包含層出土縄文土器
- 図版25 C区包含層出土縄文土器
- 図版26 C区・A区包含層出土縄文土器
- 図版27 (1) SI001・(1) SI002・(1)(2) SI004・
竪穴状遺構群出土縄文土器
- 図版28 竪穴状遺構群出土縄文土器
- 図版29 竪穴状遺構群出土縄文土器
- 図版30 竪穴状遺構群・(3) SI001・(1) SK001・
(1) SK002・(1) SK004・(1) SK009出土
縄文土器
- 図版31 (1) SK009・(1) SK010・(1) SK011・
(1) SK012・(2) SK001・(3) SK006・
(3) SK007・(3) SK008・(3) SK009・
(3) SK010・(3) SK012・(3) SK013・
(3) SK014・(3) SD001・(3) SD002出土
縄文土器
- 図版32 A区包含層出土縄文土器
- 図版33 A区包含層出土縄文土器
- 図版34 A区包含層出土縄文土器
- 図版35 A区包含層出土縄文土器
- 図版36 A区包含層出土縄文土器
- 図版37 A区包含層出土縄文土器
- 図版38 A区包含層出土縄文土器
- 図版39 A区包含層出土縄文土器
- 図版40 A区包含層出土縄文土器
- 図版41 A区包含層出土縄文土器
- 図版42 A区包含層出土縄文土器
- 図版43 A区包含層出土縄文土器
- 図版44 A区・B区包含層出土縄文土器
- 図版45 B区・C区包含層出土縄文土器
- 図版46 C区包含層出土縄文土器
- 図版47 C区包含層出土縄文土器
- 図版48 C区包含層出土縄文土器
- 図版49 C区包含層出土縄文土器
- 図版50 C区包含層出土縄文土器
- 図版51 C区包含層出土縄文土器
- 図版52 竪穴状遺構群・A区包含層出土縄文時代土
製品
- 図版53 B区・C区包含層出土縄文時代土製品
- 図版54 A区包含層出土縄文時代土製品
- 図版55 C区包含層出土縄文時代土製品
- 図版56 (1) SI001・(1) SI002・(1)(2) SI004・
(1) SK004・(1) SK012・(2) SK001・
(3) SI001・(3) SK006・(3) SK007・
(3) SK014・(3) SK012・SK013・SK014
出土縄文時代石器
- 図版57 竪穴状遺構群・B区包含層出土縄文時代
石器
- 図版58 旧石器時代から縄文時代草創期石器・A区
包含層出土縄文時代石器
- 図版59 A区包含層出土縄文時代石器
- 図版60 A区包含層出土縄文時代石器
- 図版61 A区包含層出土縄文時代石器
- 図版62 A区包含層出土縄文時代石器・石製品
- 図版63 A区・B区・C区包含層出土縄文時代石器
- 図版64 C区包含層出土縄文時代石器
- 図版65 C区包含層出土縄文時代石器
- 図版66 C区包含層出土縄文時代石器
- 図版67 C区包含層出土縄文時代石器
- 図版68 C区包含層出土縄文時代石製品

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 事業の経緯と経過

一般国道410号は館山市北条を起点とし、木更津市街地の国道16号との交差点を終点とする。館山市から木更津市を結んだ上総丘陵を南北に縦断している路線である。この410号の一部に関連した君津市芋窪地先における久留里馬来田バイパス整備事業を行うにあたり、平成14年1月に千葉県君津幹線道路建設事務所長から、事業地内における「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成14年3月に事業計画地内に埋蔵文化財包蔵地(芋窪原遺跡)が存在する旨の回答を行った。

この回答を受けて、その取扱いについて関係諸機関で協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、千葉県教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、平成30年度から令和元年度(平成31年度)にかけて3次にわたり実施した。その後、令和元年度から令和5年度にかけて整理作業を行った。発掘調査の期間、調査面積及び担当者、その後の報告書刊行に至る整理作業については、第1表のとおりである。

第1表 発掘調査及び整理作業

【発掘調査】

年度	調査期間	調査体制	担当者	対象面積	上層		
					確認調査	本調査	
平成30年度 (1次調査)	H30.7.17～H30.12.26	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課 発掘調査班	課長 古泉弘志 副課長 加納 実 班長 山田貴久	文化財主事 平原信崇	5,100㎡	516㎡	1,530㎡
令和元年度 (2次調査)	H31.4.15～R元.5.30	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課 発掘調査班	課長 大森けい子 副課長 高梨俊夫 班長 大内千年	文化財主事 平原信崇	5,100㎡	—	160㎡
令和元年度 (3次調査)	R元.5.27～R元.8.30	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課 発掘調査班	課長 大森けい子 副課長 高梨俊夫 班長 大内千年	文化財主事 平原信崇	5,100㎡	—	850㎡

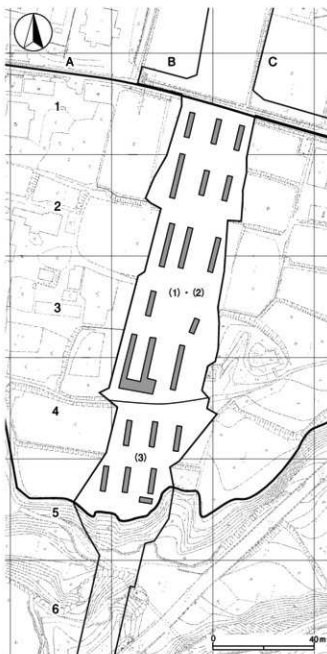
【整理作業】

年度	整理期間	整理体制	担当者	本調査	
令和元年度	H31.4.1～R2.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課 発掘調査班	課長 大森けい子 副課長 高梨俊夫 班長 大内千年	文化財主事 平原信崇	記録整理～水洗・注記の一部まで
令和2年度	R2.4.1～R3.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課 発掘調査班	課長 田中文昭 副課長 高梨俊夫 班長 大内千年	主任上席文化財主事 韓福孝之 文化財主事 鈴木彩奈	水洗・注記の一部～分類・接合の一部まで
令和3年度	R3.4.1～R4.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課 発掘調査班	課長 田中文昭 副課長 高梨俊夫 班長 吉野健一	文化財主事 武田芳雅	分類・接合～実測の一部まで
令和4年度	R4.4.1～R5.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課 発掘調査班	課長 金井一喜 副課長 四柳 隆 班長 黒沢 崇	文化財主事 館 祐樹	実測・トレースの一部～原稿執筆の一部まで
令和5年度	R5.4.1～R6.3.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課 発掘調査班	課長 橋村 秀 副課長 四柳 隆 班長 黒沢 崇	文化財主事 館 祐樹	原稿執筆・刊行・移管

2 調査の方法(第1・5図)

発掘調査 発掘調査にあたっては、公共座標(世界測地系)に基づいてグリッドを設定した。芋窪原遺跡の発掘調査対象地全体をカバーするようにX=-80,340、Y=20,600を起点に40m×40mの方眼を大グリッドとし、北から南へ1・2・3…、西から東へA・B・C…、とし更に大グリッドを4m×4mの小グリッドで分割し、北西隅から東へ00、01、02…、南へ00、10、20…とし、南東隅を99とした。これにより、大グリッドとの組み合わせで、例えば「1A-01」などと表記した。なお、遺物は小グリッドをさらに4分割した2m×2mを単位として取り上げ、小グリッドの北西から時計回りにa・b・c・d…とし「1A-00a」などと表記した(第5図)。

平成30年度は、第1図に示したように、調査対象面積5,100㎡の全域を対象に、南北を縦断する路線に沿って2m幅のトレンチ22本を設定し、計516㎡の縄文時代以降の上層確認調査を実施した。表土は基本的には重機で除去したが、踏査時点ですでに調査対象範囲中央に位置する平坦面周辺から縄文時代



第1図 確認調査トレンチ配置図

晩期の土器を採集していたため、当該範囲については重機による掘削作業を最小限にとどめ、必要な範囲について人力で掘削をおこなった。調査対象範囲の北側から最も標高が低い南端までの範囲について、縄文時代後期の竪穴住居跡などの遺構のほか、後期・晩期の遺物包含層を確認したことから、その結果を基に2,540㎡の本調査を実施することとした。立川ロームを対象とする旧石器時代の調査については、遺跡内に立川ロームの堆積がないことから調査対象外とした。

縄文時代以降を対象とする上層本調査については、平成30年度の第1次調査(以下(1)と表記)では、現場内を通る用水路を除く平坦面から北斜面にかけての区域1,530㎡を対象に本調査を実施した。また、第1次調査で掘削できなかった用水路周辺の部分160㎡については、令和元年度に2次調査(以下(2)と表記)として本調査を実施した。残る一段段丘面が低い南側調査区については、第3次調査(以下(3)と表記)として850㎡の本調査を実施して全域の調査を完了した。

本調査を実施するにあたり、表土は重機で除去し、その後、遺物包含層の調査を進めるとともに遺構検出作業を行い、遺構の検出に努めた。

遺構精査は、土層観察用のベルトを設定して床面まで掘り下げ、床面の精査後に柱穴などの施設の検出などを行った。遺構内や遺物包含層から出土した遺物は、器種が分かる程度の大きさのもの以上は、その出土地点を記録して取り上げることとした。

記録図面は、平板測量によって地形測量図・トレンチ配置図・遺構平面図・遺物分布図を作成し、遺構平面図についても手実測により作成した。ただし、(1)で出土遺物がきわめて膨大であることが判明したため、(3)ではトータルステーションと「遺構くん」(株式会社CUBIC)を使用し、遺構平面図・遺物分布図を作成した。また写真記録は、デジタルカメラ(Raw・JPEGデータ)とともに、35mmカラーリバーサルフィルムを使用して撮影した。遺物包含層中には、遺構の範囲や形態などが捉えきれない遺構の存在が予想されたことから、現場段階では堅穴住居跡として遺構番号を付して調査を実施した。整理作業段階の検討によって一般的な堅穴住居跡の諸施設を伴わない遺構群があり、堅穴状遺構として取り扱うこととしたものも含まれている。遺構番号については、調査時に付された番号を本報告でも使用している。

整理作業 整理作業は出土遺物の水洗・注記作業を行った後、種別・器種分類し、実測・拓本作業を行った。発掘調査で作成した調査図面・写真等の記録整理の後、挿図・写真図版原図を作成し、トレースや写真補正等を行った。その後、原稿執筆・編集・校正作業を経て、報告書刊行に至った。また、報告書のデジタル編集中に報告書に基づいた収納整理作業も併せて実施した。

第2節 遺跡の位置と環境

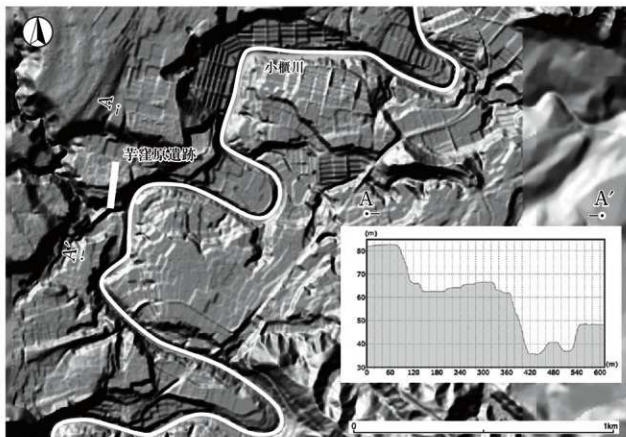
1 遺跡の位置と地理的環境

芋窪原遺跡は、君津市芋窪原芋窪台に所在している。本遺跡が所在する君津市は、房総半島の中南部に位置し、周囲は木更津市、市原市、夷隅郡大多喜町、鴨川市、富津市の4市1町が隣接している。市域の一部が東京湾に接し、昭和40年代以降、千葉工業地帯における製鉄の拠点として現在に至っている。

市内を流れる主要河川は、二級河川の小糸川と小櫃川で、小糸川は千葉県では3番目に長い河川である。房総丘陵の清澄山地(標高365m)に源を発して君津市のほぼ中央を北西に流れ、富津市との市境で東京湾に注いでいる。小糸川の本流に沿って広く河岸段丘が広がっている。この河岸段丘上には関東ロームの被覆がなく、沖積層の段丘からなっており、河道近くの比高が下流域では5m～10mの低位の段丘面、中流域では10m～15mの高い段丘面が広く展開している。また、市の東側を流れる小櫃川は、千葉県内では利根川に次いで2番目に長い河川で、房総丘陵の清澄山地に源を発して上総丘陵を北流し、君津市、木更津市、袖ヶ浦市を蛇行しながら貫流し、再び木更津市に入って東京湾に注いでいる。

芋窪原遺跡は、小櫃川の中流域から上流域の中間地点に位置している。小糸川周辺に広がる段丘帯に比べれば狭いものの、小櫃川本流に沿って広く段丘地帯が広がっており、特に本流の蛇行は顕著で、多くの段丘面が識別される。芋窪原遺跡は、小櫃川の開析によるこれらの段丘上にあつて、計画された路線の当該地点は、鹿島 薫が久留里面と呼んだ先の南総Ⅲ面以下に相当する段丘を縦断している(鹿島 1982)。

小櫃川上流域は上位からV面～I面の5段の段丘面が確認されている。V面は上位の南総Ⅰ面と下位の南総Ⅱ面の2段に細分類されており、最上位にあたる南総Ⅰ面の形成年代は、AT火山灰に覆われる。AT火山灰の時期は、現在30078±48caLBPと推定されている。一方、Ⅲ面は火山灰が見つかっていないが、小櫃川上流域の段丘面の中で最も広く発達している特徴があることから、縄文海進最盛期に形成されたと推定されている。鹿島によれば、段丘の分布の特徴から小櫃川の上～中流域における更新世末期以降の河谷



※国土地理院標準地図及び地形起伏図転写用

第2図 周辺地形図

の侵食過程は以下のようにまとめられている。小櫃川の上～中流域では更新世末期以来、堆積段丘は形成されず、侵食が継続していた。第四紀完新世前半（久留里Ⅲ面形成期まで）には、蛇行部における河道の切断が多発し、比較的側刻の卓越する生育蛇行状態にあった。特にこの時期の最後には、側刻が強まり、久留里Ⅲ面が広く形成された。完新世後半（久留里Ⅲ面形成期以降）は、蛇行部における河道の切断は減少し、河道のそれまでの蛇行形態を残したまま下刻の進む掘削蛇行状態へと侵食作用が変化した。なお、この時期の中ごろには、一時的にやや側刻が強まった時期があり、久留里Ⅳ面が形成された。しかし、久留里Ⅳ面の面積は久留里Ⅲ面に比べて一般的に小さく、久留里Ⅳ面形成時の側刻力は久留里Ⅲ面形成時に比べてはるかに小さかったと推定されるという（鹿島 1982）。

この地域の地質は、いわゆる上総層群の第三紀鮮新世から第四紀更新世古期の半固結の凝灰岩と泥岩の互層からなり、河川の浸食を受けやすい地質構造であり、小櫃川流域は著しい蛇行の、いわゆる穿入蛇行の代表的な河川の一つとなっている。このように河川の開析が顕著で、縄文時代には既にこのような段丘の景観が出来上がっており、人々はこの段丘面を生活の場として集落を営んできた。近世以降は新田開発のためにこの地域独特の方法として、河川の顕著な蛇行頸状部を人工的に切断する「川廻し」と呼ばれるトンネルや開削による土木工事によって河川を切断、短絡し、旧河道を水田として利用する方法が発達している。

第2図に示した起伏図を見てもわかるように遺跡周辺には大小多くの段丘面がある。調査地点は久留里面とされる段丘面が北側と南側の2面に分かれ、北側は標高65m、南側は62mを示し、約4mの比高がある。

また、調査区のさらに北側には、古い時期に形成された標高約80mの南総Ⅱ面と呼ばれる段丘面があり、調査区とは15mあまりの高低差がある。調査区上位面は段丘面が広いため、中央が窪み、東方向に向かう緩い谷地形となっており、水田として利用されてきた。この谷地形に堆積した粘質の強い腐食土層中に縄文時代後期・晩期の遺物包含層が形成されていた。また、南側の段丘面は狭く、南に向かう緩やかな傾斜地となっており、南端の段丘崖に至る。南端の段丘崖は小櫃川の支流に面しており、崩落の危険がある急崖となっている。崖下の支流との比高は約30mにも及んでいる。

2 周辺の遺跡と歴史的環境 (第3図・第2表)

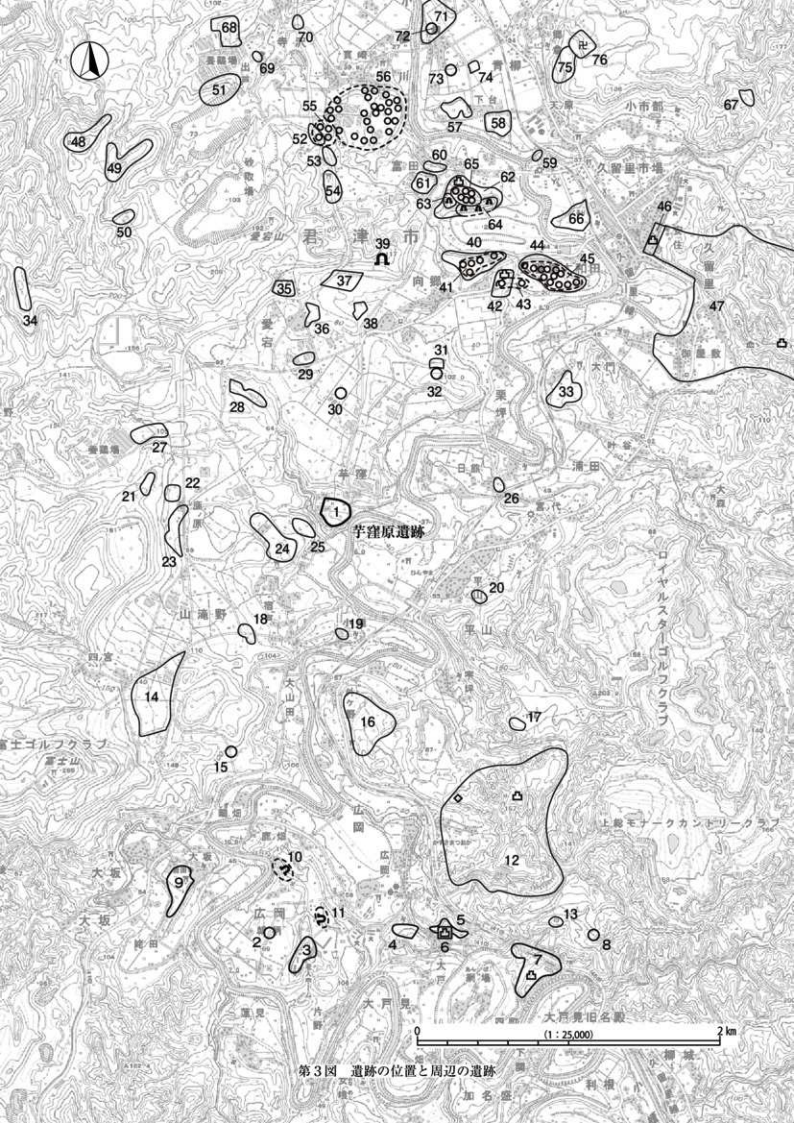
芋窪原遺跡周辺の小櫃川兩岸の丘陵上には、数多くの遺跡が認められる。ここでは、芋窪原遺跡と時期が関連する周辺遺跡について、縄文時代の遺跡を中心に概要を述べる。

旧石器時代 当地域は、立川ロームの堆積が上位段丘面でしか確認できないことから、旧石器時代の調査事例は少ない。向郷菩提遺跡(61)で、旧石器時代終末の本ノ木形尖頭器・細石刃石核・船底形石器が出土している程度である。

縄文時代 縄文時代の遺跡については、鉄塔などの建設に伴う調査が周辺遺跡で実施されており、その調査成果が報告されている。いずれも小規模な調査ではあるが、表土層から土器片が出土している遺跡が確認されている。大戸城跡(城ノ作遺跡)(7)では、諸磯式を主体として、早期(惣糸文)から中期(加曾利E式)にかけての土器が出土している。千本城跡・千本城遺跡(12)では、中期初頭の土器が出土している。用替(大戸見・見附)遺跡(13)では、早期(稻荷台式)の土器が数点出土している。山滝野塚(15)では、早期(惣糸文)土器が数点出土している。宮ノ上遺跡(25)では、早期(夏鳥式)、中期(阿玉台式)、後期(加曾利B・安行式)の土器が出土しており、土坑数基からは中期～後期の土器が出土している。国光遺跡(52)では、早期(惣糸文)、前期、中期(阿玉台式)、後期の土器が数点出土している。上ノ山遺跡(53)では、早期(貝殻条痕文)、前期、中期(加曾利E式)、後期の土器数点が出土している。菩提遺跡(54)では、前期、中期(阿玉台式)～後期の土器数点が出土している。向郷菩提遺跡(61)では早期(惣糸文・条痕文)、前期(花積下層・関山・興津式)、中期(五領ヶ台・阿玉台・勝坂・加曾利E式)、後期(称名寺・堀之内・加曾利B・安行式)の土器が出土している。寺沢戸遺跡(69)では早期(惣糸文)、前期(花積下層式)、中期(勝坂・阿玉台・加曾利E式)、後期(加曾利B・安行式)の土器が出土している。青柳向台遺跡(71)では後期の土器数点が出土している。

また、小櫃川上流域の現在の亀山湖周辺では、縄文時代の中期から後・晩期にかけての集落が調査されており、中流域に所在する本遺跡との関係性が注目される。海老山遺跡では、炉が1基検出され、加曾利EⅡ式や曾利式が多量に出土している。豊田遺跡は、標高約100mの中期～後期の集落跡で、これまでの調査で当該期の住居跡11軒や土坑20基、包含層、北側斜面に形成された「土器捨て場」が確認され、中期勝坂式～晩期千網式に至る相当量の土器が出土している。その中でも主体を占めていたのは後・晩期安行式であるが、特に千網式の出土については、現在のところ君津市内では極めてまれであり注目に値する。坂畑南遺跡は、標高約140mの丘陵平坦面に位置しており。早期～晩期の集落跡で、堅穴住居15軒(前期前業1・中期中業10・後期後業1・晩期終末1・不明2)、炉穴2基、土坑11基(中期1・後期3・不明7)が確認された。

寺ノ代遺跡は、標高約100mの北側緩斜面に形成された後期の集落跡で、後期堀之内1式～安行1式にかけての住居跡8軒、埋設土器集中遺構2基、土坑88基が検出されている。土器・石器・土製品が多量に出土している。なかでも注口土器30点、石皿片129点、石棒9点や、礫石錘が出土している。少量であるが、稲荷台式と中期阿玉台式も出土している。



第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第2表 周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	時期	遺跡番号	遺跡名	時期
1	芋窪原遺跡	縄文	39	向郷横穴	古墳
2	朝新屋	中近世	40	向郷上野台遺跡	縄文、古墳
3	上総園遺跡	縄文	41	上野台古墳群	古墳
4	幸田寺前遺跡	古墳	42	向郷障屋	近世
5	三本松遺跡	縄文、古墳	43	松葉古墳群	古墳
6	三本松障屋跡	近世	44	御障屋遺跡	古墳
7	大戸城跡	縄文(早・前)、中世	45	御障屋古墳群	古墳
8	朝見塚	中世	46	安住障屋跡	近世
9	富士見台遺跡	縄文、古墳	47	久留里城跡	中近世
10	戸穴横穴群	古墳	48	高塚遺跡	縄文
11	前坂横穴群	古墳	49	大広北遺跡	縄文
12	千本城跡・千本城遺跡	縄文、中世	50	大広遺跡	縄文
13	用替(大戸見・見附)遺跡	縄文(早)	51	出戸古墳群	古墳
14	四ノ宮遺跡	縄文、古墳	52	国光遺跡	縄文
15	山滝野塚	中近世	53	上ノ山遺跡	古墳
16	外ヶ野遺跡	縄文、古墳	54	菩提遺跡	古墳
17	早稲谷遺跡	縄文(早)、古墳	55	国光古墳群	古墳
18	宿戸遺跡	古墳	56	瓜倉原古墳群	古墳
19	小滝遺跡	古墳	57	青柳宮ノ前遺跡	古墳
20	平山遺跡	古墳	58	青柳西の前遺跡	古墳
21	鹿ノ原西遺跡	縄文	59	青柳天王遺跡	平安
22	鹿ノ原遺跡	縄文	60	富田面遺跡	弥生、古墳、奈良・平安、中近世
23	山滝野塚ノ原遺跡	縄文	61	向郷菩提遺跡	旧石器、縄文、古墳、奈良・平安、中近世
24	菅間遺跡	縄文	62	岩室城跡	中世
25	宮ノ上遺跡	縄文	63	富田横穴群	古墳
26	浦田上ノ台遺跡	縄文	64	日陰山横穴群	古墳
27	鹿ノ原北遺跡	縄文、古墳	65	日陰山古墳群	古墳
28	愛宕前遺跡	縄文、古墳	66	寺後遺跡	縄文
29	愛宕谷遺跡	縄文	67	新林遺跡	縄文
30	三山塚	中近世	68	寺沢遺跡	縄文、弥生、古墳
31	向郷遺跡	縄文	69	寺沢出戸遺跡	縄文、古墳、奈良、平安 報告書
32	寺ノ台古墳	古墳	70	野中遺跡	古墳、奈良
33	大門遺跡	縄文、弥生、古墳	71	青柳向台遺跡	縄文、弥生(中)、古墳、奈良・平安、中世
34	奥須田遺跡	縄文	72	向台塚	中近世
35	愛宕鶴場遺跡	縄文	73	鏡畑塚	中近世
36	愛宕遺跡	縄文、古墳	74	青柳下原遺跡	古墳
37	愛宕坪山遺跡	古墳	75	郷倉遺跡	弥生
38	桑埴遺跡	縄文、古墳	76	入定寺塚寺跡	中近世

弥生時代～中世 本遺跡から約3km下流の段丘上には弥生時代～中世の遺跡が集中して分布する。

小櫃川東岸の標高約35mの段丘上には、青柳向台遺跡(71)では、弥生時代後期の壺棺墓1基、奈良時代の竪穴住居跡3軒、中世の掘立柱建物跡3棟・井戸1基等が検出されている。青柳向台遺跡に連続する段丘上では、青柳下原遺跡(74)で古墳時代の溝、道路跡、水田跡が検出され、青柳天王遺跡(59)では平安時代の道路跡と土坑を調査している。また、青柳西の前遺跡(58)では古墳時代後期の竪穴住居跡61軒や中世初頭のピットが確認され、ピット内から完形の土師質土器小皿が出土している。中心的な古墳時代後期の集落と耕作地が展開していたと考えられる。

対岸の小櫃川西岸の標高約70mの段丘上には瓜倉原古墳群(56)があり、大型円墳1基と2基の方墳、54基の円墳で構成される。その一支群とも考えられる国光古墳群(55)は円墳7基で構成され、うち2基が調査され、供献土器や直刀・刀子・鉄鎌・耳環・玉類のほか、板状素環鏡板付簪1点が出土している。

この南には上ノ山遺跡(53)が位置し、古墳時代前期竪穴住居跡5軒、土坑4基、溝3条を検出した。さらに南には菩提遺跡(54)が位置し、古墳時代後期竪穴住居跡4軒、中世の掘立柱建物跡3棟・溝14条・道

路跡6条、袋状土坑1基などが検出されている。

標高約50m～60mの段丘上では富田田面(60)で、古墳時代中期1軒・後期4軒、奈良・平安時代1軒、中近世ビット158基、向郷菩提遺跡(61)では、古墳1基、奈良・平安時代掘立柱建物跡1棟、中・近世溝5条・土坑7基が検出されている。

北側の寺沢出戸遺跡(69)では古墳時代後期～平安時代の堅穴住居跡が検出されている。古墳時代前期の堅穴住居跡1軒、後期11軒・掘立柱建物跡1棟、奈良時代堅穴住居跡3軒などが検出された。北側の野中遺跡(70)でも古墳時代後期の堅穴住居跡、掘立柱建物跡等が検出されている。

中世以降の遺跡には久留里城跡(47)があり、また、支城と考えられる千本城跡(12)では16世紀前半に位置づけられる陶磁器が出土している。

第3節 調査成果の概要

1 本調査の範囲と成果(第5～8図)

確認調査の結果、本調査は第5図に示した3地区で実施した。調査対象範囲のうち上位段丘面の北側をA区、南側をB区、下位段丘面の南端をC区と呼称する。検出された遺構・遺物は、ほぼ縄文時代中期～晩期に限られている。

A区で検出された遺構群は、北東側で縄文時代中期の堅穴住居跡2軒・土坑1基、中央部から北西側へ下る緩斜面にかけて、縄文時代後期～晩期と考えられる焼土2か所とビット212基を検出した。また、多量の中期～晩期にかけての縄文土器を主体とする遺物包含層の調査を実施している。

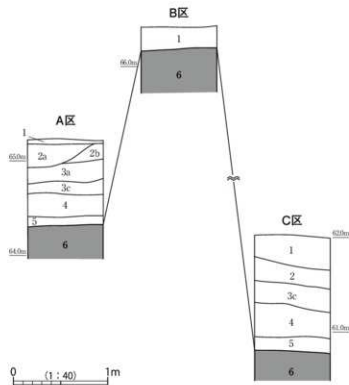
B区は上位段丘面南側のA区よりも標高の高い緩斜面で、縄文時代後期の堅穴住居跡1軒、晩期の堅穴状遺構群4基、後期～晩期の土坑7基を検出した。

C区は、縄文時代後期の堅穴住居跡1軒、後期～晩期と考えられる土坑8基・ビット130基・焼土1か所、時期不明の溝状遺構2条を検出した。また、多量の後期～晩期にかけての縄文土器を主体とする遺物包含層の調査を実施している。

以上の各地区の成果を合計すると、中期の堅穴住居跡2軒、後期の堅穴住居跡2軒、晩期の堅穴状遺構4基、中期～晩期の土坑18基、ビット342基、溝2条、焼土3か所を検出した。遺構に伴う遺物の出土量は、晩期の堅穴状遺構、土坑を除いて総じて少なかったが、A区・C区の遺物包含層からは、後期を主体とする後期～晩期の土器・石器などが出土している。

2 基本層序(第4図)

各調査区の堆積土の基本土層を第4図に示した。A区～C区はいずれも上総層群の半固結砂泥層を基盤としており、堆積土の供給は、この砂泥層の風化などによるものと考えられる。遺物を包含する堆積土はA区・C区で確認され、B区では薄い堆積土にとどまっている。堆積土の供給量や地山層の違いから、堆積土には若干の違いが見られたが、各層から出土する遺物の主な時期から、上部の2層(暗褐色土)を晩期包含層、3層(黒色土)を後期包含層と概ね捉えることができる。

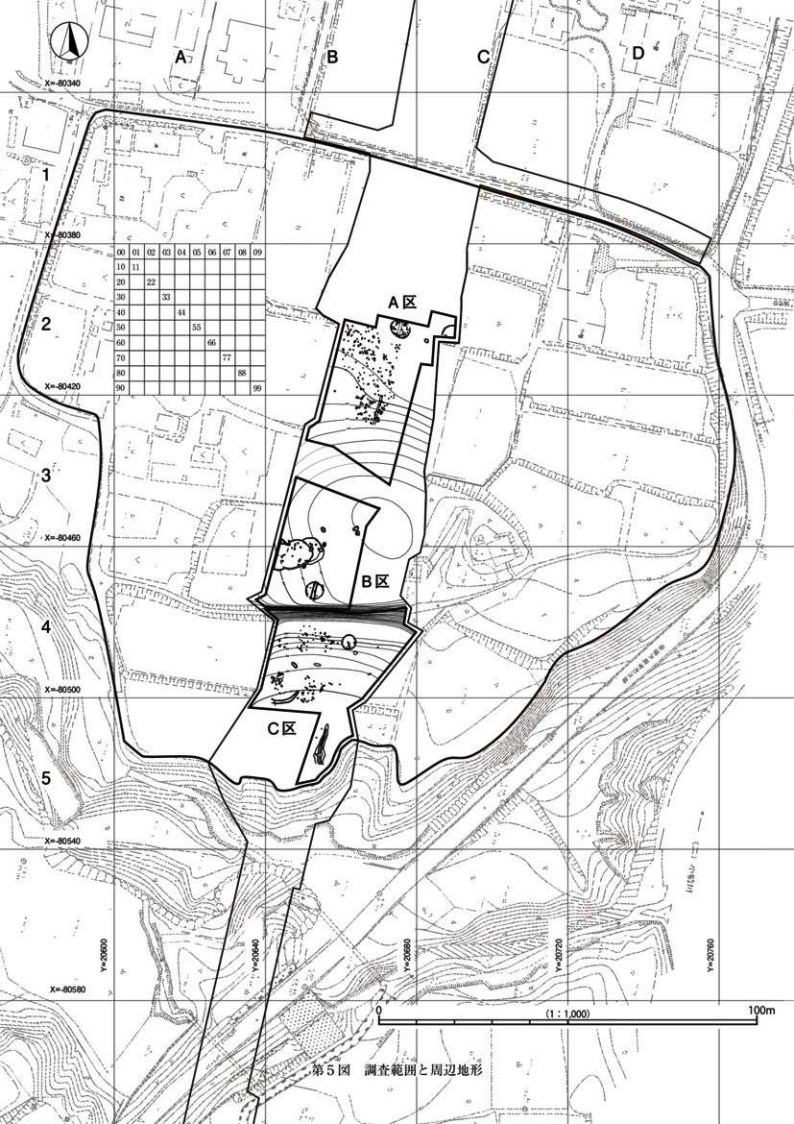


第4図 基本層序

- 1層 表土：畑の耕作土である。C区では旧表土の黒色土が遺存している。
- 2a層 暗褐色土：焼骨片・炭化物片を微量含む。B区の地山に含まれる白色礫片を含む。A区南側に広がる。晩期の遺物が出土する。C区では2層は単層となる。
- 2b層 暗褐色土：焼骨片・炭化物片を少量含む。A区北側に広がる。晩期の遺物が出土する。
- 3a層 黒色土：A区西側の一部に広がる。焼骨片・炭化物片を中量含む。後期の遺物が出土する。特に大型破片が多く出土する。
- 3b層 黒褐色土：A区西側の一部に広がる。後期の遺物が出土する。骨片・炭化物が一部にまぎって含まれる。
- 3c層 黒色土：A・C区の広範囲に広がり、後期の遺物包含層の主体となる。C区ではA区よりも色調が明るく黒褐色土となる。
- 4層 黒色土：A・C区ともにしまりが極めて強く、後期以降の遺物はほとんど出土しない。このことから本層上面近くが後期の生活面と想定される。C区ではA区よりも色調が明るく黒褐色土となる。
- 5層 ぶい黄色褐色土

参考文献

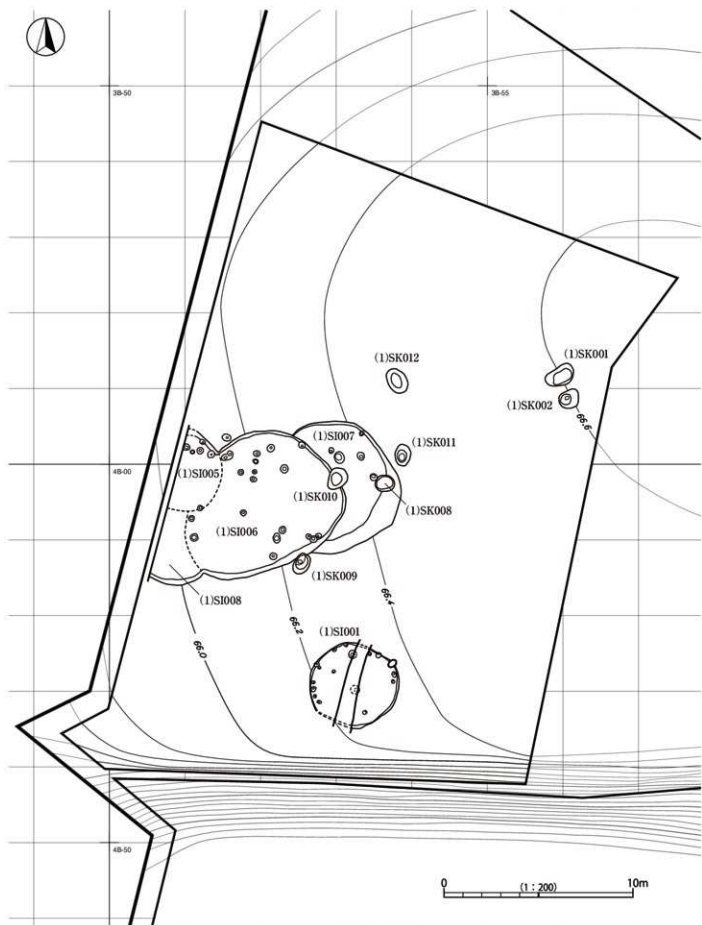
- 千葉県 1976「房総半島総合開発地域 土地分類基本調査 富津 5万分の1」
- 千葉県 1976「房総半島総合開発地域 土地分類基本調査 大多喜 5万分の1」
- 君津市教育委員会 1981「青柳宮ノ前遺跡」
- 君津市教育委員会 1982「青柳西の前遺跡」
- 鹿島 薫 1982「小櫃川流域と養老川流域の更新世末期以降の地形発達史」『地理学評論』55-2
- (財)君津郡市文化財センター 1983「青柳向台遺跡発掘調査報告書」報告書第1集
- (財)君津郡市文化財センター 1986「上総線鉄塔建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書」発掘調査報告書第19集
- (財)君津郡市文化財センター 1986「年報No. 4」
- (財)君津郡市文化財センター 1987「富田遺跡群」発掘調査報告書第25集
- 君津市教育委員会 1991「平成2年度君津市内遺跡発掘調査報告書」
- (財)君津郡市文化財センター 1991「年報No. 8」
- (財)君津郡市文化財センター 1991「君津郡市文化財センター年報9」
- 君津市教育委員会 1998「寺沢出戸遺跡」
- (財)君津郡市文化財センター 1999「夷崎線鉄塔建設用地内埋蔵文化財調査報告書」発掘調査報告書第153集
- (財)千葉県文化財センター 2001「君津市寺ノ代遺跡」調査報告第412集
- (財)君津郡市文化財センター 2002「坂畑南遺跡」発掘調査報告書第177集
- (財)千葉県文化財センター 2003「君津市山滝野塚」『国道道路改築(広岡)埋蔵文化財調査報告書』調査報告第463集
- (財)千葉県文化財センター 2005「君津市富田田面遺跡・向郷菩提遺跡」『国道道路改築委託(久留里)埋蔵文化財調査報告書』調査報告第507集
- (財)千葉県教育振興財団 2007「君津市上新田張山遺跡・青柳向台遺跡」『国道道路改築委託(久留里)埋蔵文化財調査報告書2』調査報告第587集
- 福井県年輪博物館 2022「福井県年輪博物館 解説書」



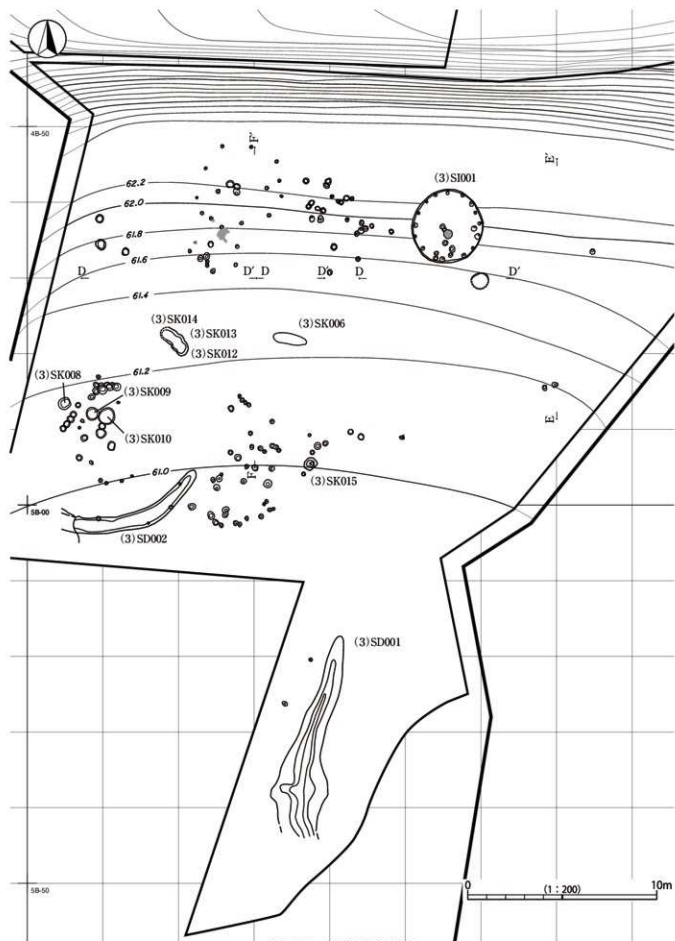
第5図 調査範囲と周辺地形



第6图 A区遺構配置図



第7图 B区遺構配置図



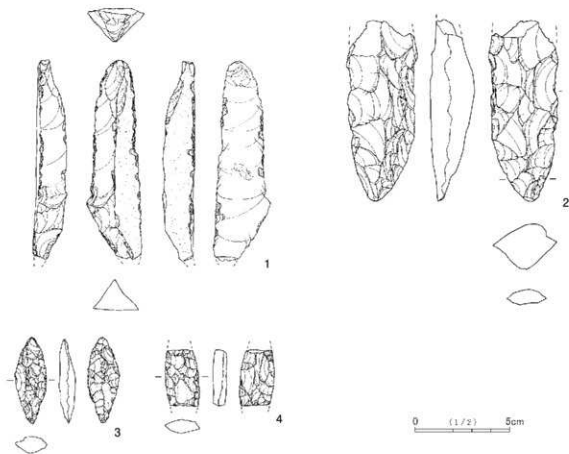
第8图 C区遺構配置図

第2章 旧石器時代から縄文時代草創期の遺物

第1節 旧石器時代から縄文時代草創期の遺物 (第9図)

旧石器時代の遺物が、数点出土している。すべて縄文時代遺物の包含層からの出土である。今回の調査地点の段丘面よりも一段高い北側の段丘面には、立川ローム層の堆積が確認できることから、より上位の段丘面から今回の調査地点に流入したものかもしれない。

1はB区4B-92グリッド出土のチャートの石刃である。両側縁に細かい刃こぼれが認められる。下端部は石核調整の痕跡と思われる。立川ロームⅢ層あたりの時期ではないかと考えられる。2はA区2B-96グリッド出土の縄文時代草創期の本ノ木型尖頭器であろう。石材は砂岩質ホルンフェルスである。全体に調整は粗く、未成品の可能性がある。3はC区4B-70グリッド出土、4はC区14トレンチ出土の小型尖頭器の可能性があるので、あるいは縄文時代の石鏃かもしれない。2点とも縁辺の調整は丁寧に行われている。4は両端を欠損している。また、両面の剥離稜線が不明瞭で、研磨されている可能性がある。3・4の石材はチャートである。



第9図 旧石器時代石器

第3章 縄文時代の遺構と遺物

第1節 竪穴住居跡

1 中期

(1) S1002 (第10図)

位置・形態 2C-52グリッドを主体に位置する。北西側の一部を調査したが、大半が調査区外となるため調査できなかった。平面の形態は略円形を呈し、規模は直径約4.6mである。検出面から床面までの深さは、北壁60cm、西壁40cmであり遺存状態はよい。

覆土 上層の黒色土と下層の黒褐色土の大きく2層に分けられる。

施設等 ビット2基が検出された。P1は深さ42cmで主柱穴と考えられる。断面で柱跡が観察される。覆土上層から遺物が多く出土した。

出土遺物 遺物は、中期中葉の土器および石器が覆土上層から多く出土している。1～3は勝坂式と考えられる。1・2は多載竹管を用いた連続押圧によるキャタピラ文に三角押文が伴うもの。1は区画内に玉抱三叉文を施す。3は隆帯にキザミを施すもの。4～20は加曽利E式と考えられる。4は地文燃糸に口縁部に沈線と刺突で文様を施すもの。5は地文縄文に口縁部を隆帯により区画する。6・7は渦巻文を施している。8～11は深鉢の胴部で、磨消縄文が垂下するものである。12～15は曾利式の口縁部、12・13は斜行文、14・15は重弧文を施す。棒状または太い半載竹管によって施された沈線は太く、隆帯状である。16は中期の浅鉢の口縁部で一部赤彩が残る。17はミニチュア土器である。

石器は石鏃5点、石鏃未成品1点、石核2点、磨製石斧1点、磨石類2点が出土している。18・19は石鏃である。2点とも凹基式で、柄継りがやや深く、片面に主要剥離面を残している。18は黒曜石、19はチャートである。20は打製石斧である。扁平な円礫の片方のみ調整剥離を行い刃部としている。石材は砂岩である。21は磨製石斧である。刃部と基部を欠損している。石材は緑色岩である。22は磨石類である。扁平の円礫の側縁に敲打痕を伴っている。

出土遺物から、本遺構の時期は中期後葉と考えられる。

(1・2) S1004 (第11図)

位置・形態 2B-58・59グリッドを主体に位置する。平面の形態は略円形を呈し、規模は直径約4.2mと考えられる。柱穴の配列から2軒が重複しているようにみえる。建て替え、あるいは時期が若干異なる可能性が想定されるが、土層断面では新旧関係が捉えられないことから、楕円形の竪穴1軒の可能性もあるかもしれない。検出面から床面までの深さは、北壁60cmで、南壁は削平されており、遺存状態は悪い。床面は北側へやや下っている。

覆土 上層の黒色土と下層の黒褐色土の大きく2層に分けられる。

施設等 ビットは28基検出された。柱穴は壁際に概ね一巡する状態で検出された。しかし、その配置間隔は一定しない。炉は攪乱により壊されていると考えられる。

出土遺物 遺物は、中期中葉～後葉の土器で、遺物は覆土上層を主体に数多く出土している。1はキャリパー形の深鉢の口縁である。沈線により方形区画し、褶曲文状のモチーフにさらに複曲文状の文様を施す。2～6は中期後葉の深鉢土器の胴部で、2は地文単節縄文に、隆帯による懸垂文を施すもの。3は複節の

地文縄文に、半截竹管状工具による沈線を施し沈線間の縄文を磨消すもの。4は複線の地文縄文に蛇行沈線を施すもの。5は条線を施すもの。6は地文撫糸に横位沈線を施すもの。

石器は石鎌2点、石核2点、打製石斧3点、磨石類4点が出土している。7・8は凹基式で長脚の石鎌で、特異である。9・10は打製石斧である。9は円礫を打割り、自然面をほとんど残したまま、わずかな刃部の剥離を行っている。10は片面のみに調整剥離が施され、もう片面は自然面を残している。装着部に若干の抉りを施している。2点とも石材はシルト質のホルンフェルスである。11は円礫の側縁に敲打痕がある。石材は砂岩である。12は敲打痕が認められる叩石である。

2 後期

(1) S1001 (第12～14図)

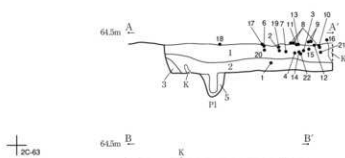
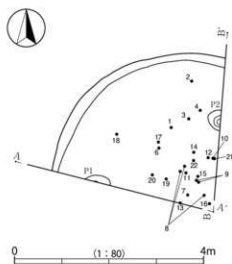
位置・形態 4B-23グリッドを主体に位置する。平面の形態は略円形を呈し、規模は直径約3.8mである。検出面から床面までの深さは、北壁35cm、西壁29cm、南壁38cm、東壁15cmであり遺存状態はよい。床面は北側へやや下っている。

覆土 上層の暗褐色土と下層の黒褐色土の大きく2層に分けられる。下層からは焼土及び炭化材が全体的に出土しており、焼失住居と考えられる。東側に焼土が多く、西側に炭化材が多く混入していた。特に北西側は炭化材と焼骨片が多く混入していた。

施設等 ビット16基と炉1基が検出された。ビットは壁際にほぼ一巡する状況で検出されており、柱穴と考えられる。しかし、その配置間隔は一定しない。南側に比較し北側に多く検出された。深さはP5・10が約45cmで、その他のビットの深さは10cm～30cmで一定しない。炉は、攪乱により遺存状態が悪いが、中央からやや南東側によった位置に設けられていた。柱穴と炉の配置状況から入口は谷の方向である南側に設けられていた可能性が高い。

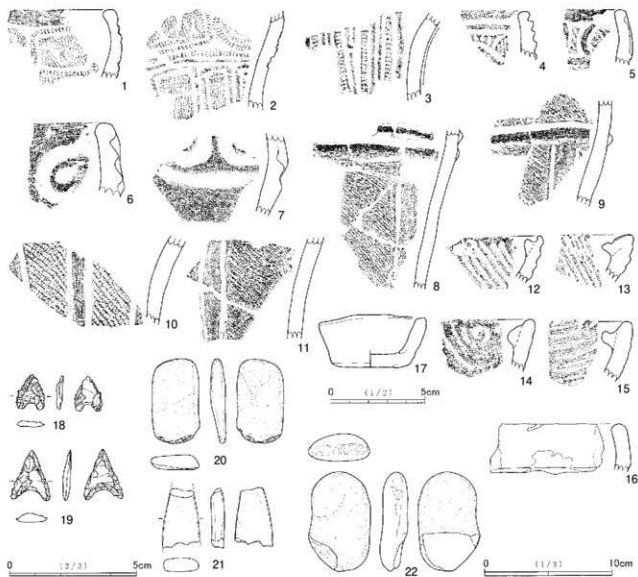
出土遺物 遺物は、後期中葉から後葉にかけての土器および石器が覆土から出土している。1～19は堀之内1式、20は堀之内2式、21～25は加曾利B1式と考えられる。1は口縁部から頸部を無文とし、胴体下半の胴部に三本単位の沈線による文様を施している。2は口縁部に縄文を施し、波頂部下に2本単位の隆帯を垂下させ、胴部には沈線による渦巻文を施す。3・7・8は三本単位の沈線による懸垂文、9～11は垂下隆帯を施している。9はさらに斜行文、10は弧線文を施す。13は口縁部を無文とし、胴部に条線を施すもの。14は蛇行沈線を垂下させている。15は口縁部に刺突を施すもの。16は無文で口唇部を面取りするもの。17～19は粗製深鉢形土器で縄文を施すもの。20はX字状の斜行文を施している。21は口縁部が内側に屈曲する浅鉢である。沈線により区画し、脇に刻みを施す。22・23は紐線を貼り付ける土器で、堀之内2式～加曾利B1式の粗製土器である。22は口縁が内湾する器形を呈し、三条の紐線を横走させ、紐線の間に交互刺突状の調整を施す。胴部には地文縄文に鋸歯状の沈線を施す。23は壺形土器の頸部と考えられる。地文縄文に2本単位の紐線が垂下するとともに、両脇に紐線をメガネ状に貼付け、間に横位沈線を充填する。24は浅鉢で横帯文間にS字状の沈線が垂下する。25は深鉢の底部で、網代痕が残る。

石器は石鎌2点、石鎌未成品4点、両極石核1点、石皿1点、磨石類4点、石棒1点が出土している。このうち6点を図示した。26・27は石鎌未成品である。小さな扁平の円礫の縁辺を加工している。石材はチャートである。28は石皿である。大きな円礫を半截し、平らな面を研磨面としている。石材は火山礫凝灰岩である。29・30は磨石類である。29は片面中央と側縁に敲打痕があるほか片面が研磨されている。30

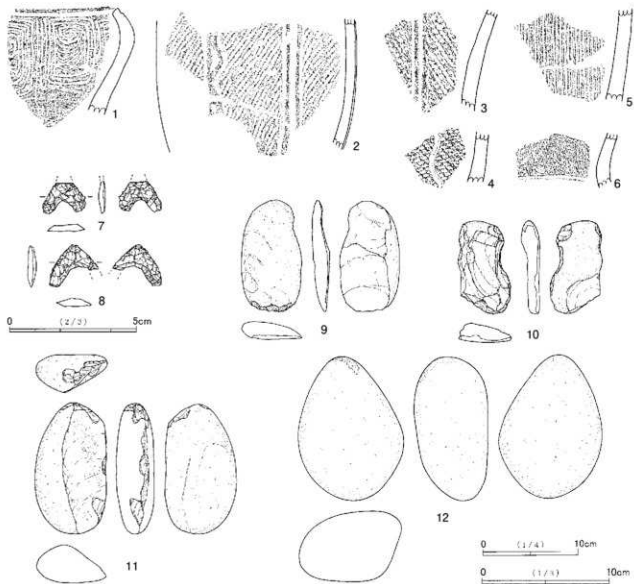
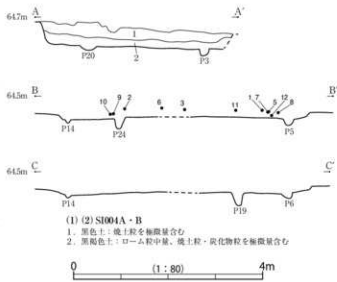
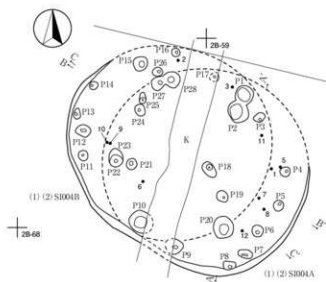


(1)SI002

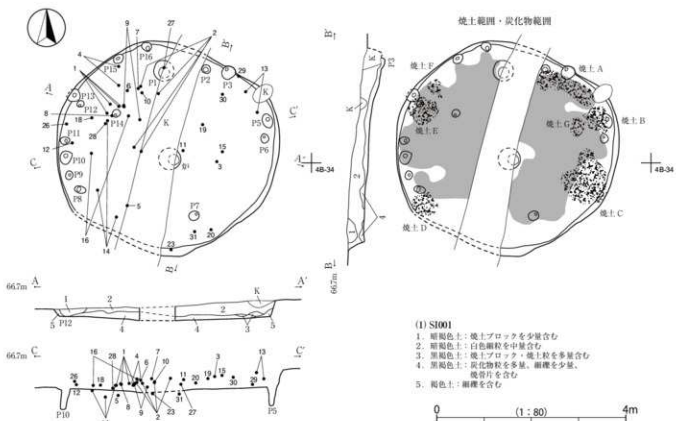
1. 黑土：晚土粒微量含む
2. 黑褐色土：褐色細砂を少量含む
3. 暗褐色土：褐色細砂を多量含む
4. 黑褐色土
5. 黑褐色土：褐色細砂を少量含む



第10图 (1)SI002 (1)

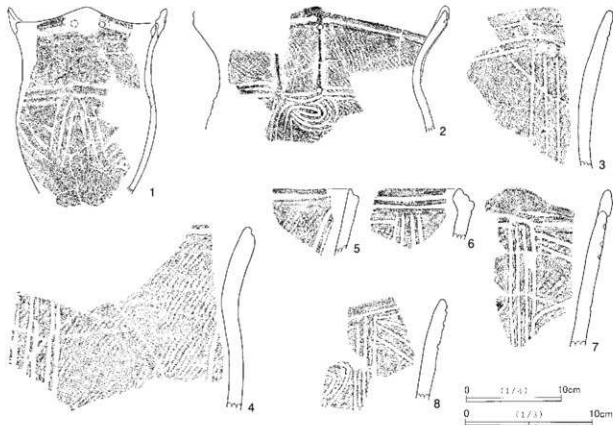


第11図 (1) (2) SI004 (1)

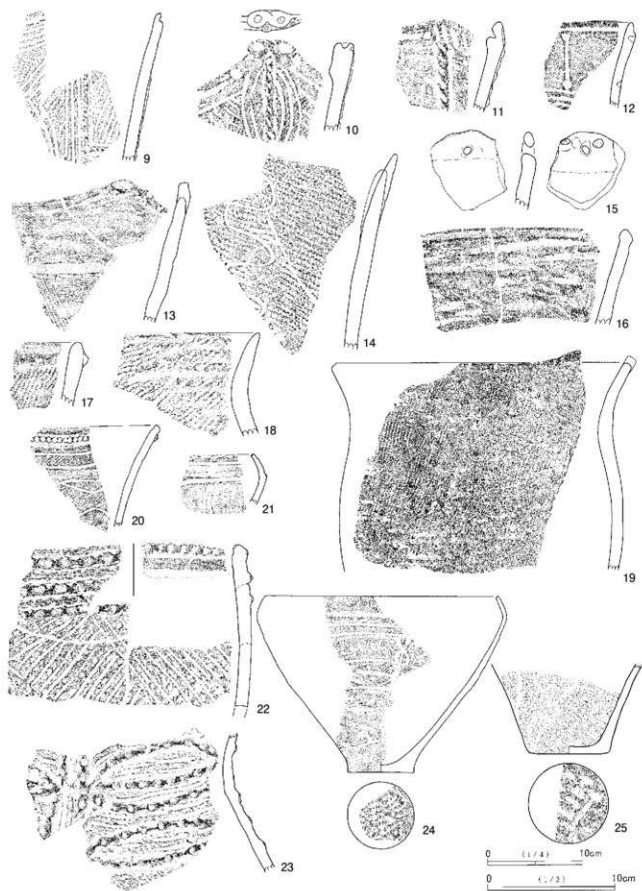


(1) SI001

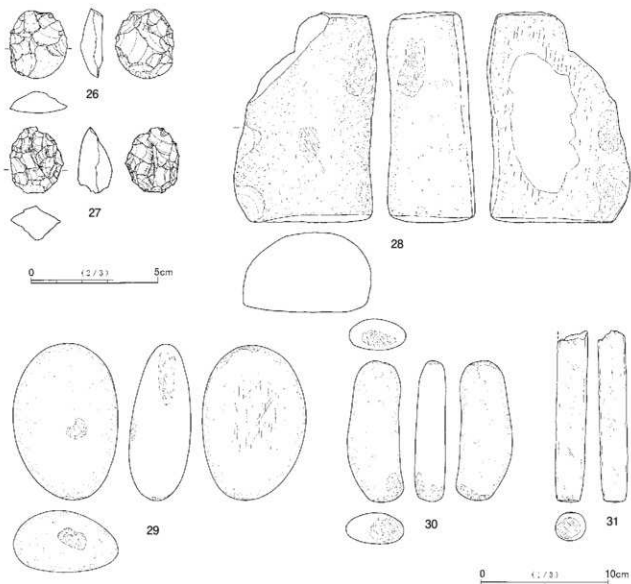
1. 黒褐色土：焼土ブロックを少量含む
2. 黒褐色土：白色細粒を中量含む
3. 黒褐色土：焼土ブロック、焼土粒を多量含む
4. 黒褐色土：炭化物を多量、細粒を少量、焼骨片を含む
5. 褐色土：細粒を含む



第12図 (1)SI001 (1)



第13图 (1)SI001 (2)



第14図 (1)SI001(3)

は細長い円礫の両端に敲打痕がある。31は石棒の基部である。断面は円形で、表面はよく研磨されている。石材は緑泥片岩である。

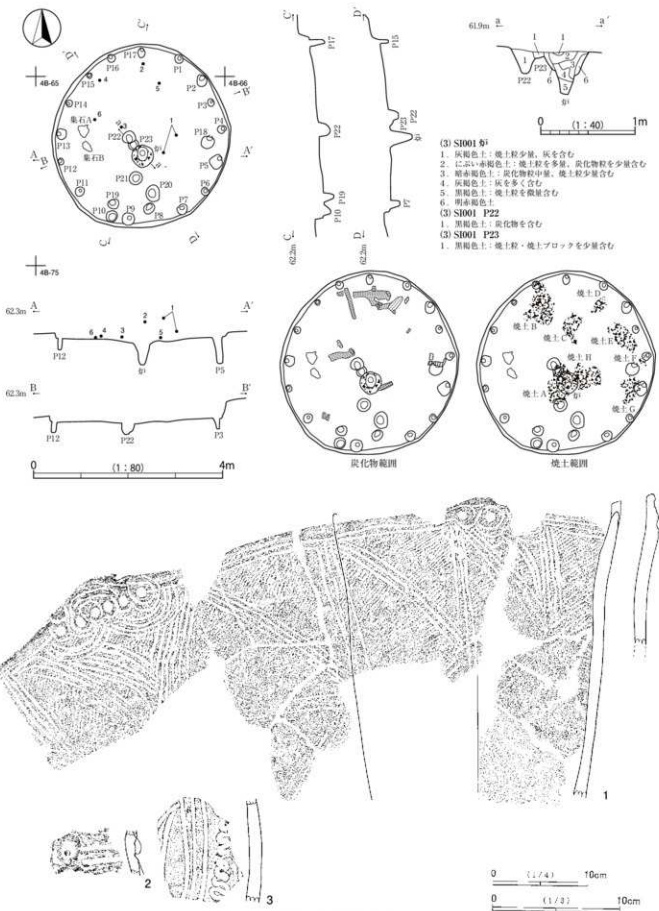
出土遺物から、本遺構の時期は堀之内I式と考えられる。

(3) S I 0 0 1 (第15・16図)

位置・形態 4B-65グリッドを主体に位置する。平面の形態は略円形を呈し、規模は直径約4.6mである。検出面から床面までの深さは、約20cmであり遺存状態はよい。床面は南側へやや下っている。

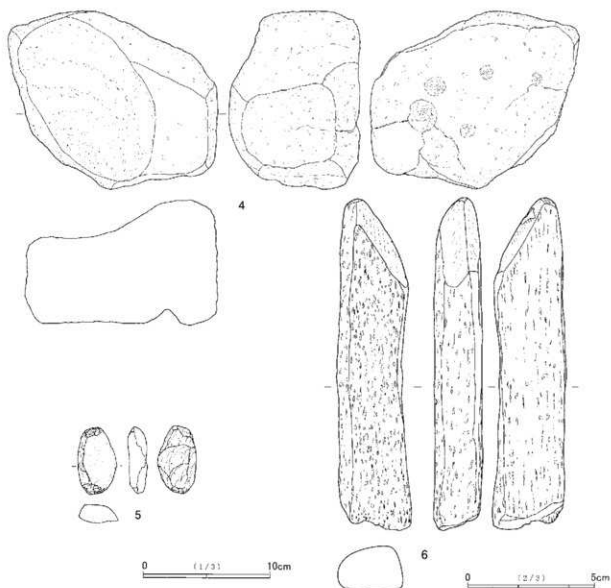
覆土 包含層の黒褐色土と暗褐色土に分けられる。下層からは焼土及び炭化材が主に北東側から出土しており、焼失住居と考えられる。

施設等 ビット23基と炬1基が検出された。壁際のビットはほぼ一巡する状況で検出された。概ね一定の間隔で配置されており、柱穴と考えられる。径は約10cm～20cm、深さは約20cm～60cmである。炬の径は40cm、深さは50cm、覆土に焼土粒と灰を多く含み、壁面がよく焼けている。中央からやや南側によった位置に設けられていた。炬の配置状況から入口は南側に設けられていた可能性が高い。



- (3) SI001 51
1. 灰褐色土：焼土粒少量，炭を含む
 2. 濃い赤褐色土：焼土粒を多量，炭化物粒を少量含む
 3. 暗赤褐色土：炭化物粒少量，焼土粒少量含む
 4. 灰褐色土：炭を多く含む
 5. 灰褐色土：焼土粒を微量含む
 6. 明赤褐色土
- (3) SI001 P22
1. 灰褐色土：炭化物を含む
- (3) SI001 P23
1. 黒褐色土：焼土粒・焼土ブロックを少量含む

第15図 (3)SI001 (1)



第16図 (3)SI001 (2)

出土遺物 遺物は、後期中葉の土器および石器が覆土から出土している。1～3は堀之内1式と考えられる。

1は波頂部に双頭状の突起が付き、地文縄文に三～四本単位の懸垂文が施され、間には斜行文が施される。施文は粗雑で、単位文様の間隔もしっかりした割り付けがされておらず、即興的な施文となっている。2は口縁部に8の字状の浮文を貼り付け、横位に2条の沈線を巡らせるものと考えられる。3は弧線文と蛇行沈線を施すものである。

石器は打製石斧1点、石皿1点、石棒1点が出土している。このほか加工痕のある化石1点が出土している。4は大きな石皿の破片である。底面は平らで、凹みが伴う。磨り面は深い。石材は安山岩である。5は石材が安山岩であることから打製石斧としたものである。円礫を使用しており、自然面を残している。6は骨器で、先端に擦痕が遺る。万田野層に由来するヒゲクジラ類の下顎骨の化石で、他の石材とともに遺跡周辺の河川等から持ち込み利用したものと考えられる。市原市石神台遺跡において類似したクジラの化石骨が出土している。

出土遺物から、本遺構の時期は堀之内1式と考えられる。

第2節 竪穴状遺構群

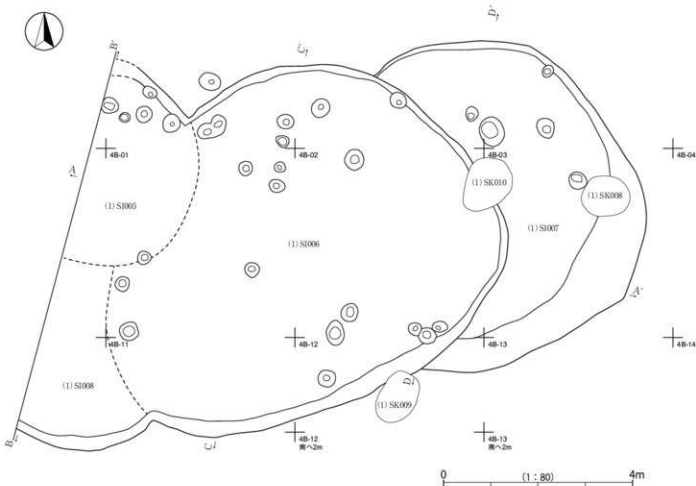
1 遺構群の概要 (第17～31図)

上位段丘面のB区で検出された遺構群で、調査時は広く黒色土が堆積する範囲に、数軒の竪穴住居跡の存在を想定して調査を実施している。調査の結果、炉や明確な柱穴の配列、壁などが確認することができず、竪穴住居としての諸施設の属性を伴っていないことから、ここでは4基の竪穴状遺構として報告する。平面図に示したように4基の竪穴状遺構が東西に広がり、重複して検出されている。竪穴の掘り込みは、上総層群の半固結砂岩層を掘り込んでいる。覆土は大きく上層の黒色土と、下層の白色細礫を多く含む黒褐色土に分けられる。竪穴同士の切り合い関係を明確に示す壁の立ち上がりなどが土層断面では確認できなかったことから、連続的に竪穴の構築がなされていると思われる。底面からの遺物の出土は少なく、第18図に示したように出土遺物のほとんどは覆土中位から上位にかけての分布を示している。

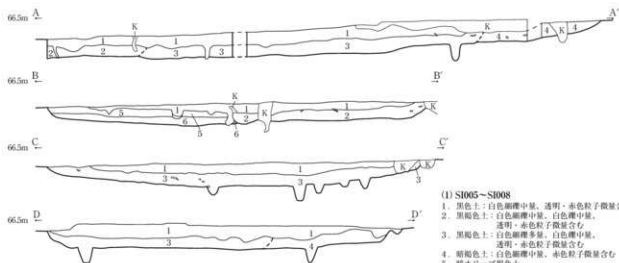
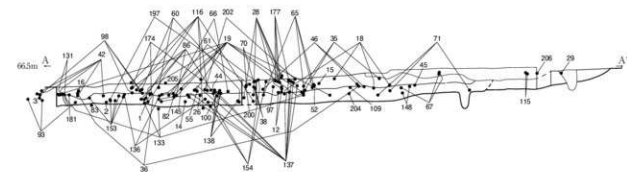
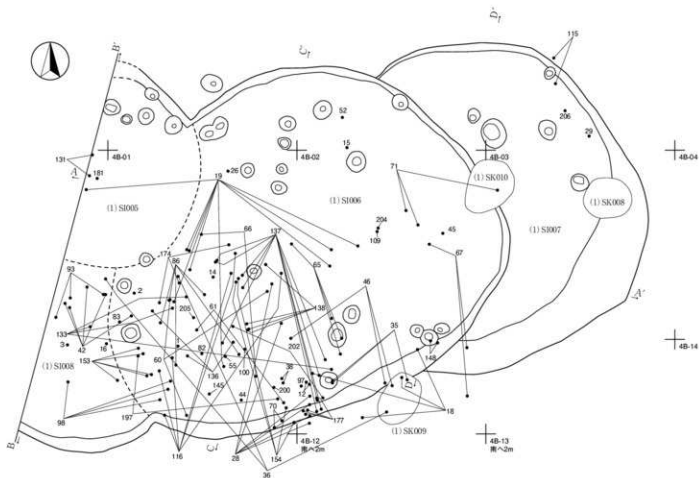
各遺構や各土層の新旧関係を明確に判別できるような遺物の出土状況は確認できない。土器の出土状況から、遺構群の廃絶後も広範囲に窪地状を呈していたと推測され、埋没する過程の中で、(1)SI006の南側の範囲を中心に晩期前葉～中葉の土器群が出土している。また、石器についても一般的な器種が全て出土している。各竪穴状遺構に帰属する遺物として峻別することが難しいことから、遺構群の覆土から出土した土器・石器を一括して掲載する。

(1)SI005

位置・形態 4B-01グリッドを主体に位置する。平面の形態は円形を呈し、規模は直径約4.4mと想定され



第17図 竪穴状遺構群(1)



- (1) S1005～S1008
1. 黒色土：白色細礫中量、透明・赤色粒子微量含む
 2. 黒褐色土：白色細礫中量、白色礫中量、透明・赤色粒子微量含む
 3. 黒褐色土：白色細礫多量、白色礫中量、透明・赤色粒子微量含む
 4. 暗褐色土：白色細礫中量、赤色粒子微量含む
 5. 暗オリーブ褐色土

第18図 竪穴状遺構群(2)

る。検出面から床面までの深さは、北壁約40cmである。(1)SI006・(1)SI008と重複しており、検出面の切り合い関係から、(1)SI008よりも古く、(1)SI006よりも新しいと想定される。

覆土 上層の黒色土と下層の黒褐色土の2層に分けられる。下層には白色細礫が中量に含まれている。

施設等 ビット6基が検出された。ビットは遺構の主に北側にまともって検出された。径は約20cm～40cm、深さは、約20cmである。炉は検出されなかった。

遺物出土状況 遺物は上層から主に晩期中葉の土器が出土している。重複する遺構間の接合関係がみられる。

(1)SI006

位置・形態 4B-01・02グリッドを主体に位置する。平面の形態は不整形を呈し、規模は直径約8.0mである。検出面から床面までの深さは、20cm～40cmで壁はなだらかに立ち上がる。(1)SI005・(1)SI007・(1)SK010と重複しており、検出面の切り合い関係から、(1)SI005・(1)SI008よりも古く、(1)SI007・(1)SK010よりも新しいと想定される。

覆土 上層の黒色土と下層の黒褐色土の2層に分けられる。下層には(1)SI007よりも暗い黒褐色土が堆積していた。基盤層由来の白色細礫が多量に含まれている。

施設等 ビット19基が検出された。ビットは遺構の北西側と南東側にまともって検出された。しかし、その配置間隔は一定しない。径は約40cm、深さは、P1・P2が50cm、その他は、10cm～30cmで一定しない。炉は検出されなかった。

遺物出土状況 遺物は晩期前葉から中葉にかけての土器が、遺構の南側を中心に上層及び下層から多量に出土した。晩期後葉の土器が数点上層から出土している。上・下層間・重複する遺構間との接合関係がみられる。

(1)SI007

位置・形態 4B-03グリッドを主体に位置する。平面の形態は不整形を呈し、規模は直径約7.0mである。検出面から床面までの深さは、約40cmで東壁は緩やかに立ち上がる。(1)SI006・(1)SK008・(1)SK010と重複しており、検出面の切り合い関係から、(1)SI006よりも古く、(1)SK008・(1)SK010よりも新しいと想定される。

覆土 上層は攪乱されており、下層には(1)SI006よりも明るい黒褐色土が堆積していた。

施設等 ビット5基が検出された。ビットは遺構の北側にまともって検出された。しかし、その配置間隔は一定しない。径は20cm～60cm、深さは15cm～35cmで一定しない。炉は検出されなかった。

遺物出土状況 遺物は下層から主に晩期中葉の土器がまともって出土している。

(1)SI008

位置・形態 4B-10グリッドを主体に位置する。平面の形態は円形を呈し、規模は重複から不明である。検出面から床面までの深さは、南壁24cmである。(1)SI005・(1)SI006と重複しており、検出面の切り合い関係から、(1)SI005・(1)SI006よりも古いと想定される。

覆土 上層の黒色土、中層の暗褐色土、下層の暗オリーブ褐色土の3層に分けられる。下層には基盤層由来の白色細礫が多量に含まれている。

施設等 ビット・炉は検出されなかった。

遺物出土状況 遺物は下層及び中層から晩期前葉～中葉にかけての土器が出土している。重複する遺構間

との接合関係がみられる。

出土遺物 遺物は、晩期中葉を主体とする。晩期前葉～終末にかけての土器が本遺構群から集中して出土した。また土偶3点、有孔土器片盤1点が出土した。

2 出土遺物(第19～31図)

遺物の主体は土器で、石器も一般的な千葉県内縄文遺跡から出土する石器群と同様の器種が全て出土している。このほか、土偶などの土製品がわずかに加わる。遺物の出土は遺構群の南側で特に集中しており、晩期前葉～中葉にかけての安行式系土器を主体に出土している。以下、出土遺物について詳述する。

後期の精製土器(第19図1～4)

1は口縁部を無文とし、胴部に綾杉状の沈線を施すもの。加曾利B3式と考えられる。2・3は帯縄文を施すもの。口唇内側が内屈する。4は貼瘤が二瘤のもの。安行1式と考えられる。

紐線文系土器(第19図5～11)

紐線が貼付けられる土器を一括した。5～10は押引状の紐線文を貼付ける土器。5～9は弧状の条線が施される。10はレンズ状の沈線文が施される。11は口唇部に三角形のキザミが施される。安行1式以降と考えられる。

安行3a式・3b式土器(第19図12～27)

入組文・弧線文を伴い、縄文を施文するものを一括した。12は口縁部に入組文を施し、入組文下半に縄文を充填する。13・14は2条の沈線間を無文とし、上下に縄文を充填するもの。13は鉢である。15は口縁部にステッキ状の沈線を施し、下半に縄文を充填する。16は内傾する深鉢の口縁で、2条の沈線間に縄文を充填する。17は胴部の屈曲部に2条の沈線を施し、間に縄文を充填する。18は鉢で、口縁部に沈線で弧線文を配し、間に入組三叉文を施す。入組部分を残し縄文を充填する。2個一対の波頂部が4単位巡る。波頂部には鉢巻状貼付文が認められる。19～22・24は台付鉢で粘土紐による貼付文がみられる。19は弧線の連結部下に上下に対抗する「の」の字状の沈線が施される。口縁内面に2条の沈線が施される。21・22は口縁部に弧線が施される。23は波状の小突起が付く鉢である。26は台付鉢の台部である。27は口縁が外傾し、胴部が最大径になる器形の深鉢と考えられる。頸部の2条沈線間を無文とし、上下に縄文を充填する。波状の突起が付く。

安行3c式土器(第20図28～44)

入組文・弧線文を伴い、縄文が施されないもの、また列点を伴うものを一括した。28は緩い括れを伴う器形で、波頂部から垂下する2条の沈線が施され、間に列点文が充填されている。波底部には小突起が付けられ、上下に対向する弧線文が施され、間に三叉文が施される。三叉文は連結し横位のI字文のような沈線文が施されている。29はレンズ状の沈線文内部に刺突が施される。30は入組文と列点文が疎らに施される。31は波頂部の小破片で、粘土紐による貼付文がみられる。内面には刺突が施される。32は弧状の平行沈線間に刺突が施される。弧線の波頂部の口唇には貼瘤が伴う。33は荒い沈線と刺突が施される。34は2条の横位沈線が施される。35は緩く内湾する器形で、口縁部にキザミを施し、対向弧線と入組文が施される。36は口唇部が肥厚し、上端に連続する弧線が施される。口縁部には平行沈線による入組文が施される。37は胴部に単沈線による入組文が施される。38～41は鉢で、38は口縁部に平行沈線により連続する弧線を施す。39は2条の沈線が弧状や斜位に施される。口縁部には粘土紐による貼付文がみられる。40・41は沈線文が施され内部に列点文が充填される。

42は口縁が外傾し、胴部が最大径になる器形の深鉢と考えられる。頸部に2条の沈線が施される。43は台付鉢の台。44は沈線文内部に刺突文が充填されるもので、時期については疑問が残るが安行3c式に併行するものとして考えておきたい。

安行3d式土器(第20図45～64)

器形は胴部が膨らんで、緩い括れを伴い、口縁部が外傾ないしは外反するものが多い。入組三叉文を主体とし、主文様間を埋める沈線文は単一性の薄い即興的な施文のものが多い。沈線は彫刻刀で彫り込んだような深い沈線によって描出されている。45は胴部に連続する弧線が施される。46は菱形文の内部に入組文が施されており、前浦式の文様構成に類似している。56は2条の沈線による菱形文の間に入組文が施されており、姥山式の文様構成に類似している。57は胴部に緩い弧状の沈線が施される。61～64は浅鉢で、61は波頂部に2個一対の突起を有し、入組弧線文が施される。64は対向弧線文が施される。

姥山系波状口縁深鉢土器(第21図65～96)

姥山式及びその系統を引くものを一括した。器形は5単位の大波状口縁を呈するものが主体である。姥山系土器に特有の口縁部が内傾しつつ波頂部が外反する器形を呈する菱形文の区画を主文様とし、縦列に円文や、入組円弧文が施されている。65～86は縄文が施されるもの。65～69は菱形文区画内に縦列に円文が施される。円文の中心部に列点状の刺突が施される。70・71は上下につながった入組円弧文が施される。72は垂線文を基調とする縦列文様が施され、間に列点文が充填されている。波頂部から菱形文を縦断して胴部区画文まで施されると考えられる。73・74は鉢巻状貼付文の下部に4つの刺突を施した貼付文が伴う。76～80は波長部から斜位に縄文帯が垂下するものである。79は内面に列点が施される。84は縦列文様が施され、間に列点文が充填されている。さらに斜位に2条の沈線が施され、間に列点を施す。82・83は姥山式の波状口縁と比較し、波頂部は平坦になる特徴が認められる。波頂部下に三叉文が施される。前浦直前型式と考えられる。86は浅鉢で入組弧線文が施される。87～96は縄文が伴わないもの。87は円文が施されるもの。88～90は縦列文様間に列点が施されるもの。90は波頂部下に並列する刺突を施した貼付文が施される。92は入組文が施される。93～95は波頂部にT字状に近い三叉文が施されるもの。93は粗雑な沈線で入組文や菱形文のモチーフを施している。95は浅鉢で、三叉文が上下に対向する。96は円文を施す台付鉢の台。

前浦式土器(第22図97～136)

前浦式のメルクマールである「の」の字文が認められる土器も多く確認されている。口唇部は肥厚し沈線が巡り、2個一対の小突起状の貼付文が付されるものが多い。今回の調査では、本道構群から集中して出土している。97～108・131は深鉢で張りの強い球状の胴部を有し、文様帯は太沈線によって描き出されており、口縁部から胴部上半に文様を施文し、内部に縄文を施している。前浦1式と考えられる。97は口縁部と胴部上半に対向弧線文を施し、菱形文内部に入組三叉文を施文する。胴部上半に縄文を充填した横位の平行沈線を施文し、区画文としている。100は入組三叉文、101は入組弧線文を施す。105・106は浅鉢で、105は対向弧線文を施す。131は浅鉢と考えられる。入組三叉文が施され、口唇部内面には沈線区画内に三叉文が連続して施される。109～130は横帯化した帯縄文間の入組三叉文が「の」の字状に変容している。これらは前浦2式(松丸2012)に属するものと考えられる。前浦式は地文にほぼLRを施すが、111は地文にRLを施す。116は口縁部に4単位の小突起を有する。帯縄文間に「の」の字状の沈線が施される。122はちどり掛け状の連続する楕円形区画からなる文様構成を持つもので、125はS字状入組文が施されて

いる。132～136は浅鉢や台付鉢である。135・136は台付鉢の台で、135は陰刻三叉文、136は三叉文が施される。

帯縄文による区画文を伴う平口縁深鉢土器 (第23図137、第24図138～144)

帯縄文により区画された中に沈線による楕円形の枠状文が施された平口縁深鉢を一括する。137・138は上下2段の枠状文が施されており、枠状文間の口縁に簡略化した貼瘤が付される。137～139には緩い弧状の条線が胴部下半に施されている。140～142は施される縄文が連続刺突に置換したものである。142～144は上下に独立した扁平なボタン状の貼付文が付けられている。安行3a式と考えられる。

長方形枠状文を伴う平口縁深鉢土器 (第24図145～152、第25図153～173)

純山Ⅱ式から前浦式に伴うとされる長方形枠状文は、量的には多く出土している。器形は緩く開くものもわずかにあるが、内湾する砲弾形が多い。口縁部に2段の長方形枠状文が並んで施文されている。口唇部は僅かに肥厚するものが主体である。胴部下半に緩い弧線状の条線が施されるものが多く見られる。153・154・165は焼成後の穿孔を伴う。173は口縁部文様帯に弧線文を施し、内部に列点を充填するものであろう。安行3c式～3d式と並行するものか。

条線のみが施される粗製土器 (第25図174～180、第26図181～189)

口縁部が内湾しないしは内傾する砲弾型の器形で、口唇部は肥厚し、丸味のあるものがあるが、口端が面取りされた角頭状を呈するものが多い。弧状の条線を主体とし、条線は左から右への動きで施文されている。条線の密な施文から次第に疎な施文へと簡略化され、さらに口縁部の横位の条線が失われて、縦の条線のみとなるのであろう。本類の時期は安行3c～3d式であろう。174は口唇部に附点状の刺突が施されている。175～180は口唇部が肥厚する砲弾形の深鉢である。口唇部から胴部には短い弧状の条線が縦列を意識して施されている。条線は、左から右への動きで施文されており、さらに縦列を意識して左から右へと施文されている。181～189は条線が雑に施されている。189は口縁部に横位条線を施した後に胴部下半に縦位条線を施している。190は小型の深鉢で、縦の条線が施されるもの。

無文の粗製土器 (第26図191～199)

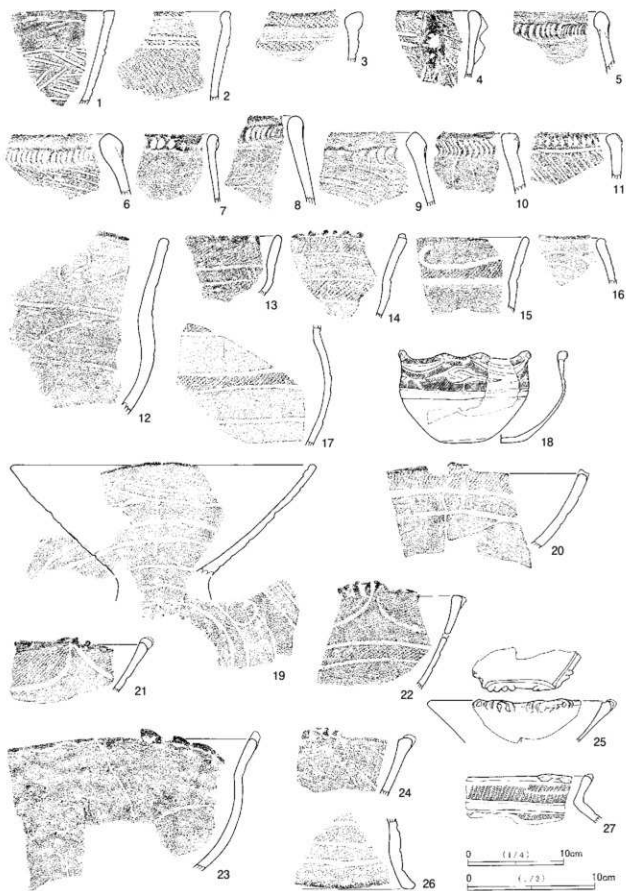
縄文や沈線などが施されない無文の土器を本類とする。191は輪積み痕を残す。192・195～197は外反するもの。193は口縁部が「く」の字状に外傾するもの。194は口縁部が内湾し砲弾形の器形となるものと考えられる。196は浅鉢と考えられる。土器の内外面の調整は191の例は少なく、丁寧な調整が行われ輪積痕が消し去られているものが多い。

大洞系などの土器 (第26図200～206)

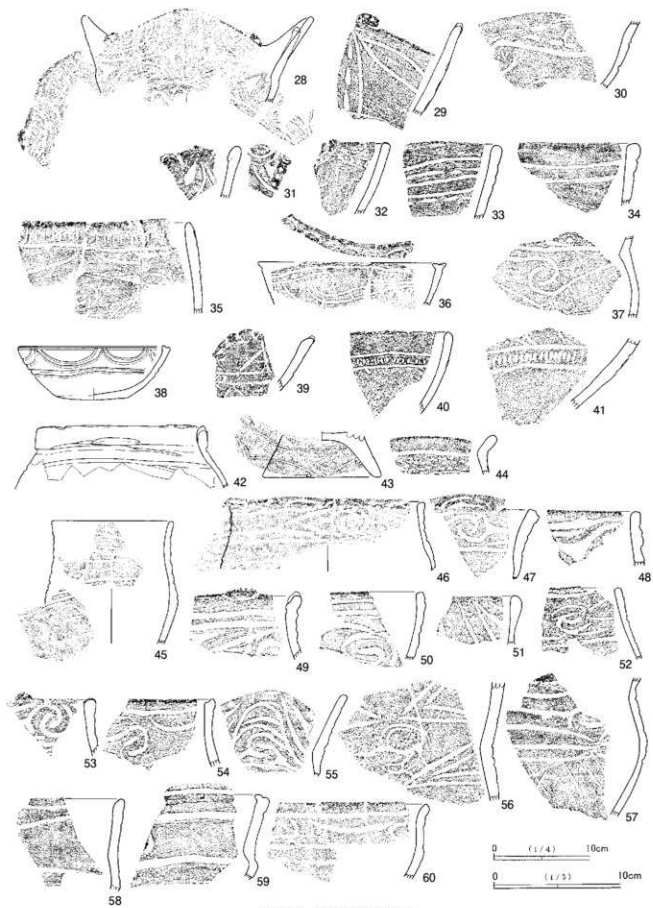
200は口縁部が「く」の字状に屈曲して開く鉢で、口唇部は細かい波状線となっている。沈線が巡り等間隔に刺突が施され、その下に縄文が施文されている。201は鉢で、口唇部には刺突文が巡り、その下に雲形文が施されている。大洞C1式と考えられる。202は丸底の浅鉢で、口唇に4単位の小突起が伴い、内面に沈線が巡る。口唇部と胴部上半に羊歯状文が施される。203肥厚した口唇に連続する弧線を施し、口縁部には沈線間に交互に入組む弧線を施す。204・205は小波状を呈する口縁部で、口縁部に数条の横位沈線が施されるものである。内外面とも丁寧な磨かれている。206は壺型土器で口縁部に二条の沈線が巡る。浮線文系土器と考えられる。

底部 (第26図207～210)

底部を一括した。後期加曾利B式から安行期のものであろう。網代痕のものはなく、207は小型品で底部近くに横位の沈線が巡る。



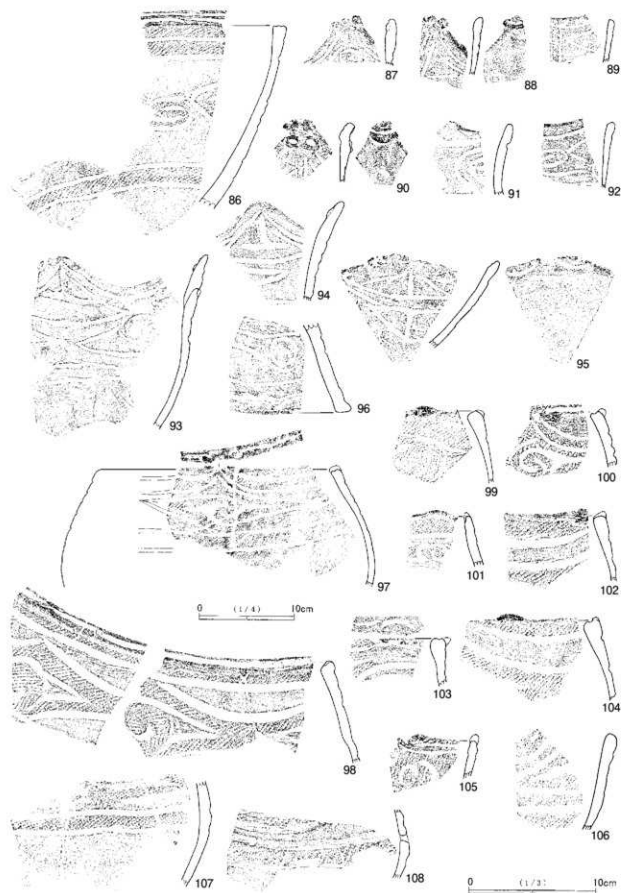
第19图 竖穴状遺構群(3)



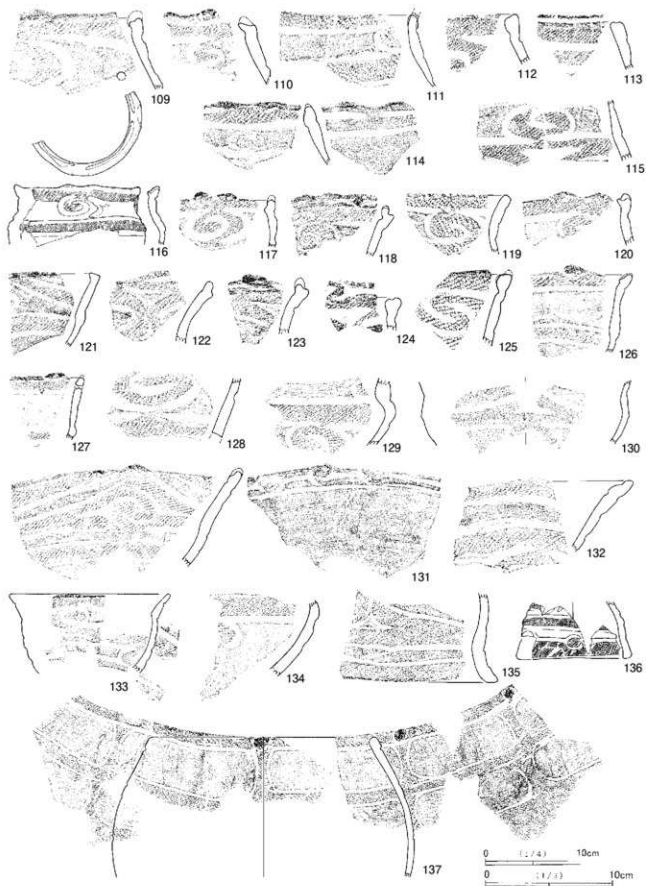
第20図 竪穴状遺構群(4)



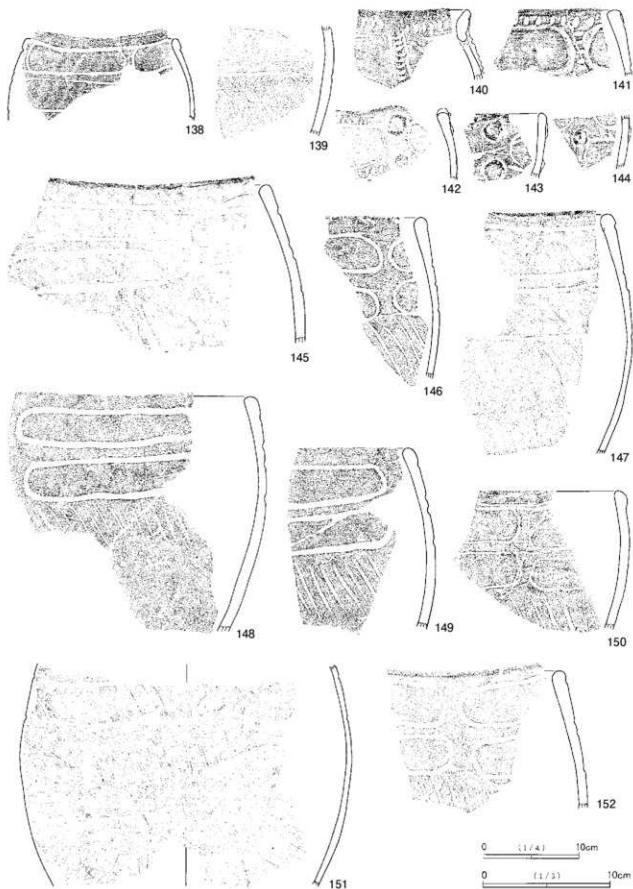
第21图 竖穴状遗物群(5)



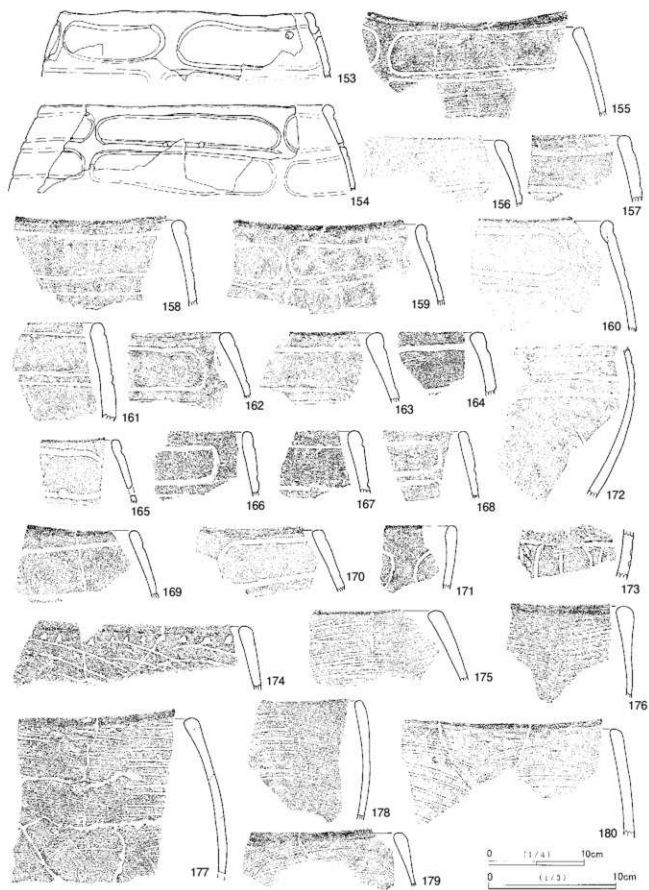
第22图 竖穴状遺構群(6)



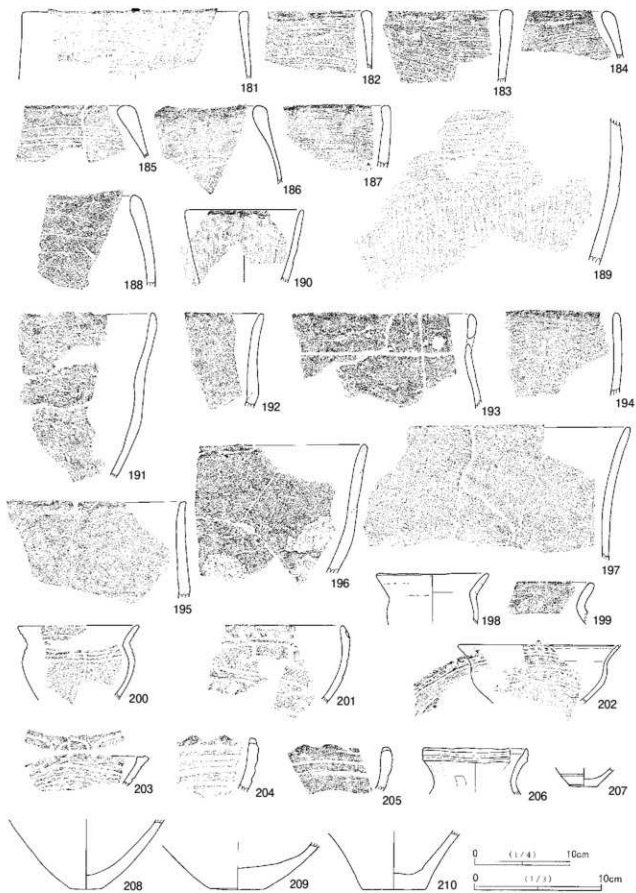
第23图 竖穴状遺構群(7)



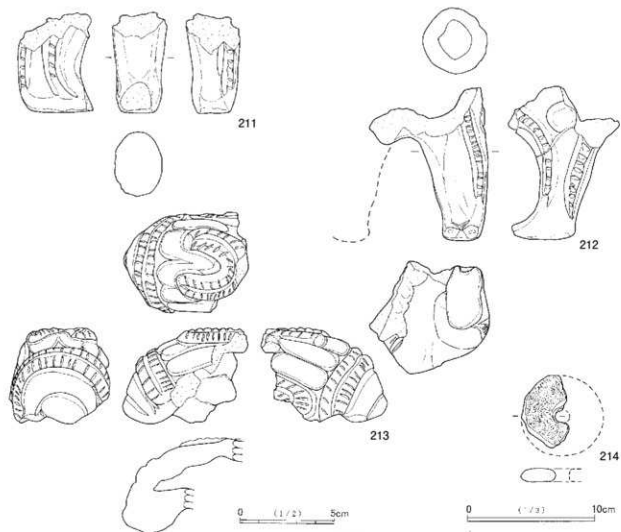
第24图 竖穴状遗物群(8)



第25図 竪穴状遺構群(9)



第26图 竖穴状遺構群 (10)



第27図 竪穴状遺構群 (11)

土製品 (第27図211～214)

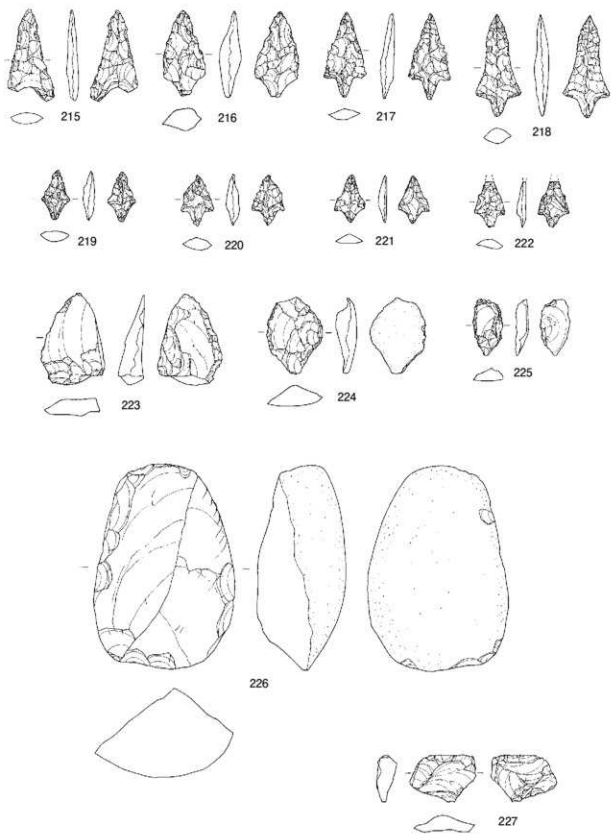
211～213は土偶である。212・213は中空土偶で、足部分である。側面の沈線間にキザミを施す文様が類似している。212は沈線間に凹文が施され、足先は二股に分かれている。213は土偶の肩から手にかけての部分と考えられる。「I」字状文と隆帯に沈線とキザミが施される。肩部にはさらにU字状の隆帯に沈線とキザミが施される。晩期中葉と考えられる。214は有孔土器片円盤である。

石器 (第28図～31図)

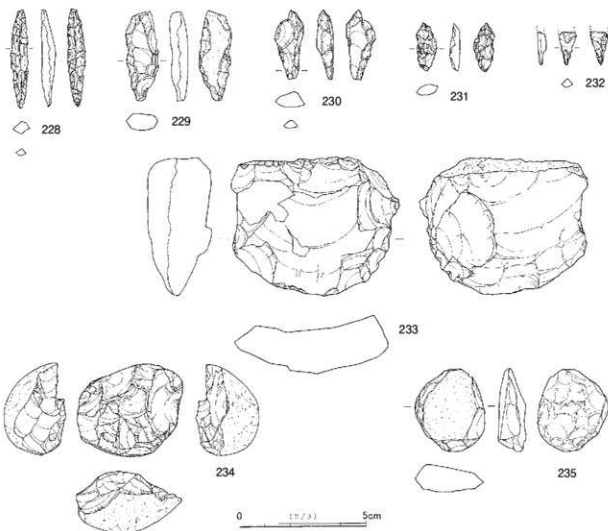
石器は石鏃8点、石鏃未成品3点、両極石核1点、石核1点、石錐5点、磨製石斧2点、打製石斧未成品1点、磨石類12点、礫器2点、石製円盤1点が出土している。

215～222は石鏃である。215は凹基式の大きな石鏃である。片脚を欠損している。二辺が長く調整は粗い。216～222は有茎石鏃で、216・219を除けば、晩期に現れるいわゆる飛行機鏃と呼ばれるものであろう。

216は調整が粗いことから未成品の可能性が有る。217は茎が鋭く作り出されている。二辺の中間がやや脹らみ、あえて割離による凹凸を残しており、飛行機鏃と考えられる。218は大きな石鏃で二辺の先端部が脹らみ中央が緩やかにへこむ特異な形態である。219は菱形を呈する。やや調整が粗い。220～222は小型品で、二辺の中央付近に若干の作り出しが意識されており、飛行機鏃と判断される。石材は、219が流紋岩



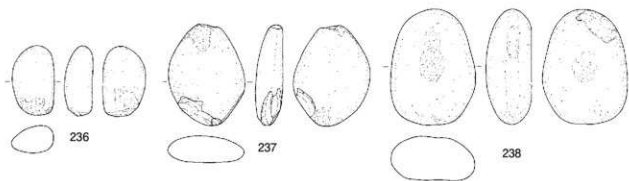
第28图 竖穴状遺構群 (12)



第29図 竪穴状遺構群 (13)

であるほかは、チャートである。223～225は石鏃未成品である。それぞれ主要剥離面を残している。226は打製石斧の未成品としたものだが、円礫を打割り、若干の加工をし始めたものであろう。227は両極石核である。石鏃の素材であろう。228～232は石錐と考えられる。228は細い棒状の錐で、両側縁の調整が丁寧に行われている。229～232は全体に調整が粗い。229・230は先端部を欠損している。233は使用痕のある剥片としたものである。メノウの円礫から両極打法により剥片を取っており、縁辺に粗い調整が施されている。一辺に細かい二次的な剥離痕が認められる。234は石核である。珪質頁岩の円礫で石鏃の素材を採取したものであろう。235は円礫の周囲に剥離調整を加えたもので、片面に自然面を残している。石斧の可能性が低いことから、石裂円盤とした。235～240・247～253は磨石類である。円礫を素材としており、ほとんどの側縁に敲打痕が伴っている。238・240・251・253には、表裏に凹みや敲打痕が認められる。

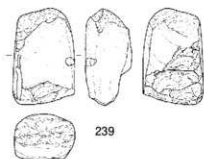
241・242は礫器としたものである。241は円礫を横割し割れ面の縁辺部に調整を加えている。石材は石英斑岩である。242は円礫を打ち欠いて若干の剥離を行ったものである。打製石斧の未成品とは思われない。石材は砂岩である。243・244は石核である。石材は2点ともチャートであることから、石鏃の素材を取ることを目的とした石核であろう。245・246は磨製石斧である。245は刃部を246は基部を欠損している。2点とも定角式で丁寧な研磨が行われている。ともに石材は砂岩である。



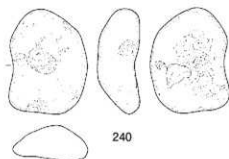
236

237

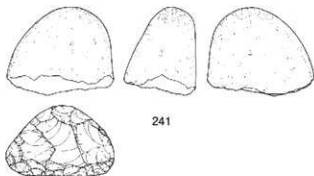
238



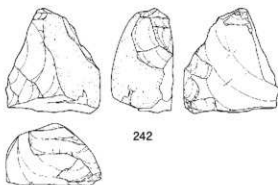
239



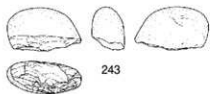
240



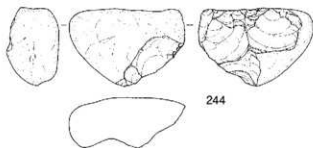
241



242



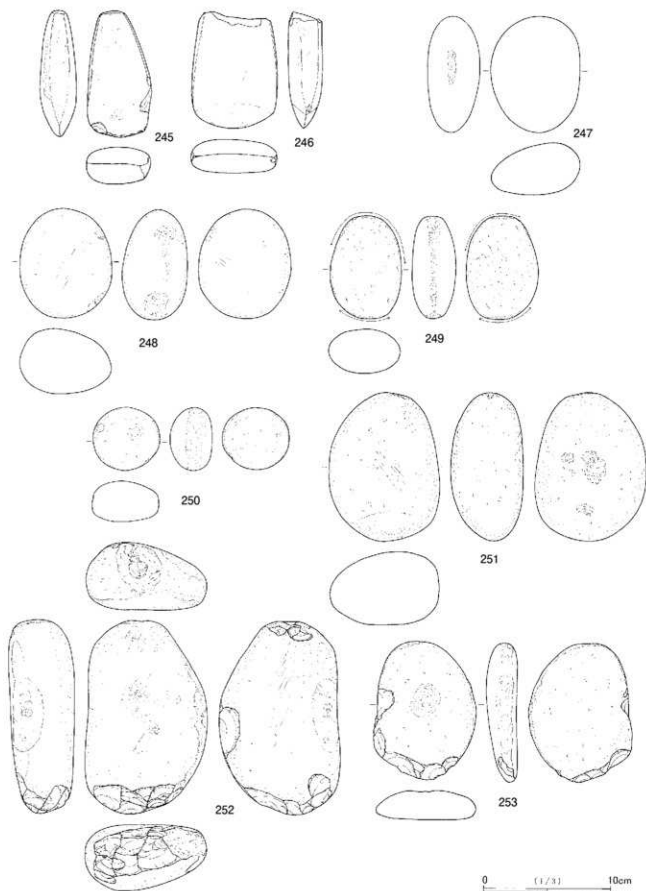
243



244



第30图 整穴状遺構群 (14)



第31图 竖穴状遺構群 (15)

第3節 土坑

(1) SK001 (第32・35図)

3B-85・86グリッドに位置し、平面形は長軸158cm、短軸94cmの楕円形である。検出面から底面までの深さは52cmである。覆土には1層～3層に基盤層由来の白色細砂を含む。

遺物は1層から出土している。1は安行3c式と考えられる。口縁部に2本の沈線が巡り胴部に入組文が施される。2は前浦式土器で、穿孔がある。3は帯縄文により区画された中に沈線による楕円形の上下2段の杵状文が施されたもの。杵状文間の口縁に簡略化した貼輪が付される。4は口縁部が内傾する砲弾型の粗製深鉢土器で、条線が施される。安行3cあるいは姥山Ⅱ式に伴うものと考えられる。遺構の時期は晩期中葉と考えられる。

(1) SK002 (第32・35図)

3B-95・96グリッドに位置し、平面形は長軸110cm、短軸92cmの楕円形である。検出面から底面までの深さは52cmである。覆土には1層～3層に白色細砂を含む。

遺物は上層から出土しており、1は安行2式～3a式の土器と考えられる。波状口縁の波長にS字状の突起が付き、そこから鎖状の貼付文が連なる。地文縄文に2本の沈線が施される。遺構の時期を決定できる資料が少ないが、図示した遺物から後期～晩期と考えられる。

(1) SK004 (第32・35図)

2B-60グリッドに位置し、平面形は長軸112cm、短軸88cmの楕円形である。検出面から底面までの深さは32cmである。覆土には1層に焼土粒を微量含む。

遺物は、1は摺糸文が施される。2は加曾利EⅡ式の胴部で、地文縄文に沈線間の縄文が磨り消されている。3は地文摺糸文に2本単位の沈線による文様が施される。速連瓦土器と考えられる。4は土玉。5は黒曜石の無茎石鏃。遺構の時期は中期後葉と考えられる。

(1) SK008 (第32図)

4B-03グリッドに位置し、平面形は長軸104cm、短軸88cmの楕円形である。検出面から底面までの深さは10cmである。(1)SI007と重複しており、検出面の切り合い関係から(1)SI007よりも古いと判断した。覆土には白色細砂を含む。

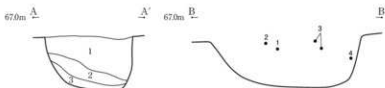
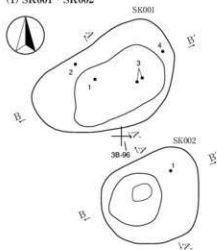
遺物は出土しなかった。遺構の時期は後期～晩期と考えられる。

(1) SK009 (第32・35図)

4B-12グリッドに位置し、平面形は長軸114cm、短軸78cmの楕円形である。検出面から底面までの深さは38cmである。(1)SI006と重複しており、検出面の切り合い関係から(1)SI006よりも新しいと判断した。覆土には白色細砂を含む。

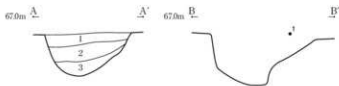
遺物は上層から集中して出土している。1は口縁部に入組文を施す鉢で縄文を充填する。2は浅鉢で菱形区画内部に対向弧線を施す。内沈線が2条巡る。1は安行3b式、2は前浦式と考えられる。3は口縁部が無文帯となる深鉢で、胴部上半を横位沈線で区画し、入組文の内部を複列の刺突のような列点文で充填する。4は口縁部に列点文を施し頸部を区画する沈線間を無文とする。胴部に入組文・列点ともかなり簡略化されている。5は口唇部に小突起を有し、口縁部下に2条の沈線を横走させ縦位沈線を充填する。列点文の代わりに綾杉状の沈線が施されている。4・5は安行3c式と考えられる。6は帯縄文により区画された中に沈線による楕円形の上下2段の杵状文が施されたもの。7は口縁部に2段の長方形杵状文が並

(1) SK001・SK002



(1) SK001

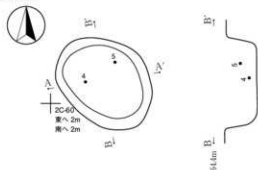
1. 黒色土：白色細砂少量
2. 黒褐色土：白色細砂中量
3. にぶい黄褐色土：白色細砂



(1) SK002

1. 黒褐色土：白色細砂少量
2. 黒色土：白色細砂中量、白色埋ごく微量
3. 暗褐色土：白色細砂・白色埋少量

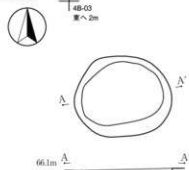
(1) SK004



(1) SK004

1. 黒色土：焼土粒微量含む
2. 暗褐色土
3. 黒色土：堆山の黄褐色細砂が中量混じる

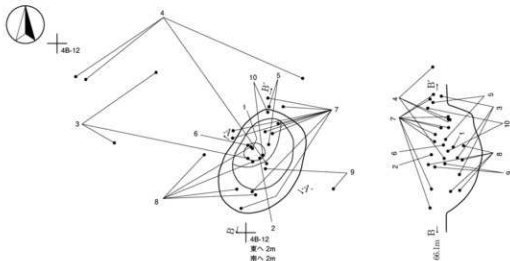
(1) SK008



(1) SK008

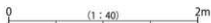
1. にぶい黄褐色土：白色細砂中量、白色埋少量

(1) SK009



(1) SK009

1. 黒褐色土：白色細砂少量、白色埋微量
2. 暗褐色土：白色埋少量
3. 褐色土：白色細砂多量



第32図 (1) SK001・SK002・SK004・SK008・SK009

んで施文されている。胴部下半に緩い弧線状の条線が施される。8～9は無文の深鉢土器で緩い括れを伴う。10は無文の浅鉢で口縁が大きく開く。遺構の時期は晩期中葉と考えられる。

(1) SKO10 (第33・36図)

4B-02・03グリッドに位置し、平面形は長軸126cm、短軸96cmの楕円形である。検出面から底面までの深さは40cmである。(1)SI006・007と重複しており、検出面の切り合い関係から(1)SI006・007よりも古いと判断した。覆土には白色細礫を含む。

遺物は縄文土器片が少量出土した。1は安行3a式の波状口縁深鉢と考えられる。波頂部は撥状に成形されており、口唇部から内面に向かって沈線を施す。外面に付けられたブタ鼻状貼付文は2本単位の沈線を縦方向に2条施している。遺構の時期は晩期前葉と考えられる。

(1) SKO11 (第33・36図)

3B-93グリッドに位置し、平面形は長軸116cm、短軸82cmの楕円形である。検出面から底面までの深さは38cmである。覆土には白色細礫を含む。

遺物は縄文土器片が数点出土した。1は安行3c式で口唇に列点とその下に沈線が施される。遺構の時期を決定できる資料が少ないが、図示した遺物から晩期中葉と考えられる。

(1) SKO12 (第33・36図)

3B-83グリッドに位置し、平面形は長軸138cm、短軸98cmの楕円形である。検出面から底面までの深さは50cmである。覆土には白色細礫を含む。

遺物は上層から出土している。1は前浦式で一部に赤彩が残る。2は口縁部破片で杵状文を施すもの。3は砂岩の円礫で、中央が窪んでいることから加工の可能性がある。4はメノウの石鏃。遺構の時期は晩期中葉と考えられる。

(2) SKO01 (第33・36図)

3B-06グリッドに位置し、平面形は長軸70cm、短軸45cmの楕円形である。方位はN-48°-Eである。検出面から底面までの深さは18cmである。覆土には白色細礫を含む。南西側壁面近くには、横位に据えられた浅鉢とその底部に扁平な円礫が据えられた状態で出土した。

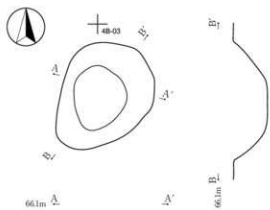
遺物は完形の浅鉢と土器片数点が出土している。1は浅鉢で口縁部を縄文帯で区画し、口唇部と縄文帯に6単位のブタ鼻状貼付文が巡る。口縁部に菱形のモチーフを配し、貼付文間に対向弧線文を施し、内部に縄文を充填する。胴部には弧状の無文部に逆「の」の字状の沈線を配する。外面には煤が残る。安行3b式と考えられる。2・3は安行1式以降の粗製土器と考えられる。出土した円礫は石英の班晶が目立つ流紋岩である。遺構の時期は晩期の土坑墓と考えられる。

(3) SKO06 (第33・36図)

3B-83・93グリッドに位置し、平面形は長軸206cm、短軸88cmの楕円形である。検出面から底面までの深さは32cmである。

遺物は上層から集中して出土している。1は後期の紐線文土器。内・外面に穿孔しようとした跡が見られるが、やや位置がずれており貫通はしていない。2は加曾利B3式の鉢か。3は斜行沈線を施し、波頂部に瘤状の突起が付く。加曾利B3式と考えられる。口縁部に2条の沈線を横走させ、内部に縦位の沈線を施す加曾利B3式か。5は無文の浅鉢。6は口縁部に帯縄文を施すもの。安行1式～2式と考えられる。7は押しききの紐線文土器。安行1式以降と考えられる。8は装飾的な渦巻状の突起で加曾利B3式と考え

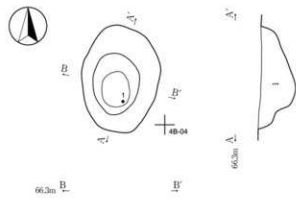
(1) SK010



(1) SK010

1. 黒褐色土：白色細礫多量、白色礫少量
2. 濃い黄褐色土：白色細砂多量

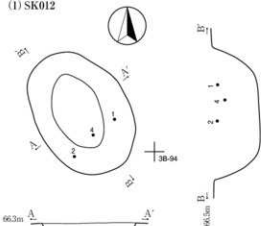
(1) SK011



(1) SK011

1. 黒褐色土：白色細礫多量、白色礫少量

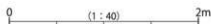
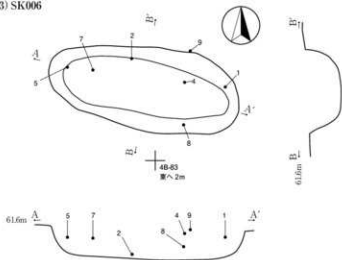
(1) SK012



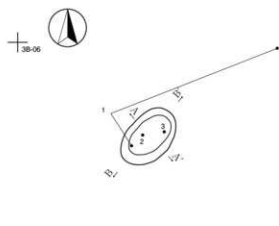
(1) SK012

1. 黒褐色土：白色細礫多量、白色礫少量
2. 濃い黄褐色土：白色細礫多量、白色礫少量

(3) SK006

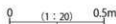


(2) SK001



(2) SK001

1. 黒褐色土：白色礫・硬土粒・炭化物粒ごく微量



第33図 (1) SK010 ~ SK012 · (2) SK001 · (3) SK006

られる。9は緑色凝灰岩の局部磨製石斧である。遺構の時期は後期と考えられる。

(3) SK007 (第34・36図)

4B-73グリッドに位置し、平面形は長軸90cmの円形とみられ、検出面から底面までの深さは35cmである。

遺物は上層から集中して出土している。1～3は加曾利B3式の深鉢と考えられる。1は口縁部に刺突が回り、沈線が施され、縄文が充填される。2・3は地文縄文に斜格子や条線を施すもの。4は胴部に紐線文が施されるもの。地文縄文に紐線に沿って条線が施されている。5は胴部に縦位条線を施し、2条の沈線を横走させ沈線間にキザミが充填される。安行1式～2式の附点紐線土器と考えられる。7は砂岩の墨形石製品。遺構の時期は後期と考えられる。

(3) SK008 (第34・36図)

4B-80グリッドに位置している。平面形は直径65cmのやや歪な円形である。検出面から底面までの深さは10cmである。遺物は上層から集中して出土している。1は地文縄文で、口縁部に竹管状工具による刺突が施され、沈線により文様が施される。堀之内1式と考えられる。2は口縁が外反する紐線土器で、条線が密に施される。3は口縁部が外反する器形で、口唇部にキザミが施され、口縁部には条線が施される。台付鉢の口縁部と考えられる。加曾利B3式か。4は条線のみを施す粗製土器。遺構の時期は後期と考えられる。

(3) SK009 (第34・36図)

4B-80グリッドに位置し、平面形は直径65cmのやや歪な円形である。検出面から底面までの深さは10cmである。遺物は上層から集中して出土している。1は堀之内1式の口縁部突起、2は口縁部がやや内湾し、口唇が内削ぎ状で内側に突出している。幅が広く浅い沈線が横方向に施される。加曾利B3式と考えられる。遺構の時期は後期と考えられる。

(3) SK010 (第34・36図)

4B-80・81グリッドに位置し、平面形は直径90cmのやや歪な円形である。検出面から底面までの深さは10cmである。

遺物は上層から集中して出土している。1は紐線土器。2は浮線文併行の深鉢土器と考えられる。口唇部直下に2条の沈線が巡る。3は深鉢の底部で胴部に縄文を施すもの。遺構の時期は晩期後葉と考えられる。

(3) SK012～SK014 (第34・37図)

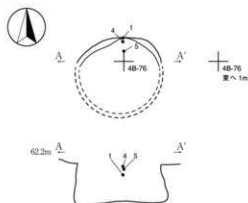
4B-71・72・82グリッドに位置し、各土坑の平面形は直径70cmのやや歪な円形で連続して切り合っていると考えられ、新旧関係は不明である。検出面から底面までの深さは44cmである。

遺物は上層から集中して出土している。1～4・6は後期の粗製土器。1は紐線を施すもの。2～4・6は地文縄文に弧状の条線を施すもの。4は条線が密に施される。5は浅鉢。7・8は櫛歯状工具により条線を施すもの。8は頸部を磨削している。加曾利B3式か。11は地文縄文に波頂部から沈線が施される。堀之内1式か。12は口唇部直下に1条の沈線を横走させ、キザミを施す。縄文を充填する。13は紐線文を施すもの。14はノの字状の貼瘤が付くもの。曾谷式か。15は口縁部に帯縄文を施すもの。安行1式～2式と考えられる。11～13は底部。遺構の時期は後期と考えられる。

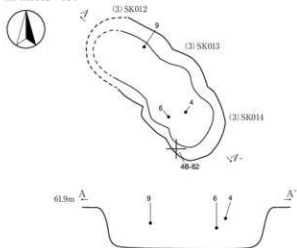
(3) SK015 (第34図)

4B-83・93グリッドに位置し、平面形は直径70cmのやや歪な円形である。検出面から底面までの深さは

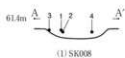
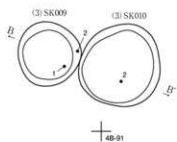
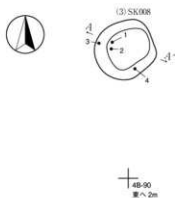
(3) SK007



(3) SK012~014



(3) SK008~010

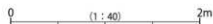


(3) SK015



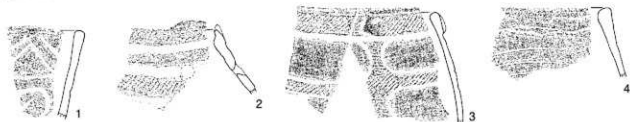
(3) SK-015

1. 原褐色土：炭化物粒少量，焼土粒ごく微量



第34図 (3) SK007 ~ SK010 · SK012 ~ SK015

(1) SK001



(1) SK002

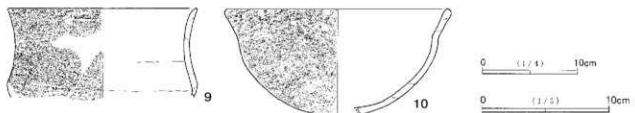
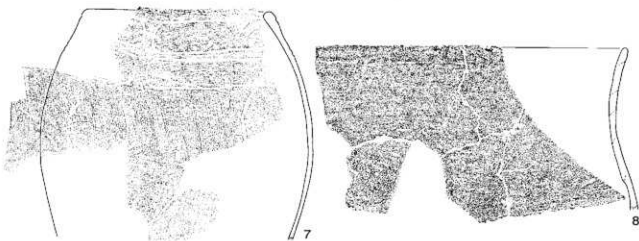
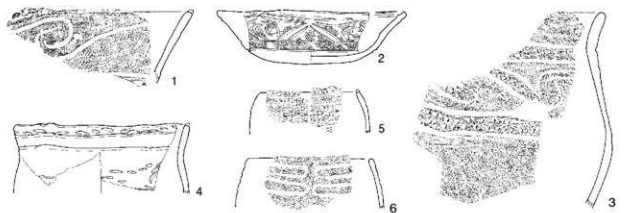


(1) SK004



0 (1/2) 5cm 0 (2/3) 5cm

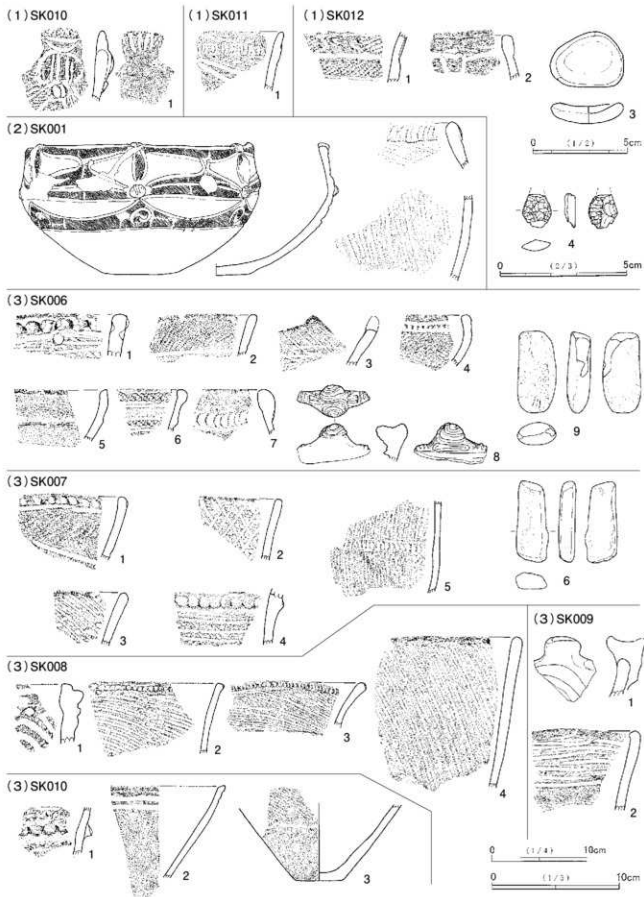
(1) SK009



0 (1/4) 10cm

0 (2/5) 10cm

第35图 土坑出土遺物(1)

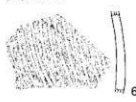


第36図 土坑出土遺物(2)

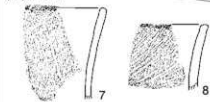
(3)SK012



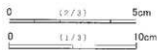
(3)SK013



(3)SK014



(3)SK012-013-014



第37図 土坑出土遺物(3)

10cmである。覆土中からは被熱した礫が多く出土した。後期の集石遺構と考えられる。

第4節 溝

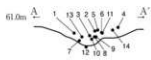
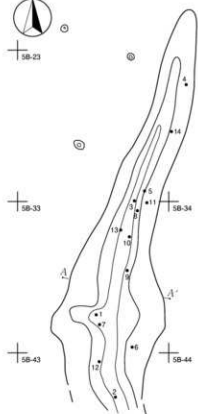
(3)SD001 (第38図)

5B-14～3B-44グリッドから南北方向に伸びる溝が検出されている。総延長は約11m、上端の幅は1m～3m、検出面から底面までの深さは50cmで、断面は底面から緩く広がっている。上総層群の基盤層を穿った溝で、覆土は上総層群の砂を含む黒褐色土からなり、縄文土器が出土しているが、時期は不明で、人為的な遺構ではない可能性がある。南に向かっていることから、自然の流路である可能性が考えられる。遺物の時期が限定的であることから、縄文期に遡る可能性はある。1は波状口縁に沿って沈線が施され、2列のキザミが施される。加曾利B3式と考えられる。2は深鉢の胴部で求心集合弧線を施すもの。3は安行2式～3a式の浅鉢で、上下に貼瘤を有する縦位のレンズ状の文様を施し、縄文を充填する。4は波状口縁で口唇部直下に縄文を施し、キザミを施した貼付けで口縁部を区画し、3本の沈線を横走させる。口唇部内面が内屈している。曾谷式と考えられる。5は口縁部に条線を施し、頸部を磨消すもの。6・7は紐線文を貼付ける土器で、6は胴部の括れ部に指頭による凹凸が顕著な紐線を貼付け、条線を充填するもの。7は砲弾状を呈する器形で、押し状の紐線を貼付ける土器。安行1式以降と考えられる。8・9は無文の深鉢で、8は緩やかな波状口縁となる。9・10は浅鉢で、9は口唇内面が肥厚するもの、10は無文となるもの。11～13は底部。14は2窓式の釣手土器で釣手間に貼付が付され、胴部に密な条線が施される。加曾利B3式～安行1式か。遺構から後期の遺物が出土しているが、溝の時期、性格については不明である。

(3)SD002 (第38図)

4B-92グリッドから北東-南西方向に緩やかにカーブを描きながら伸び、検出部分の総延長は約7mである。最大幅は80cm、検出面から底面までの深さは10cmと浅い。C区の大半を覆う黒褐色土を掘り込んでおり、覆土は、上総層群のシルト白色礫などを含む。法面中段に若干の段が現れている部分がある。黒褐色土を掘り込んでいることから、新しい時期の遺構であろうが、調査前まで使われていた稲田が作られる以前のものであろう。遺物は、加曾利B3式～曾谷式の後期中葉の土器に限られている。15は条線を施すもの。16は波状口縁となるもの。

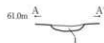
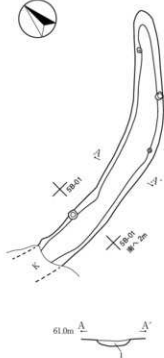
(3) SD001



(3) SD-001

1. 黑褐色土：白色細礫之少量
2. 暗褐色土：白色礫中層，白色細礫少量

(3) SD002

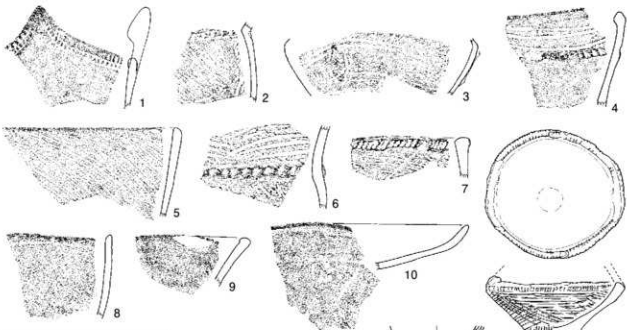


(3) SD-002

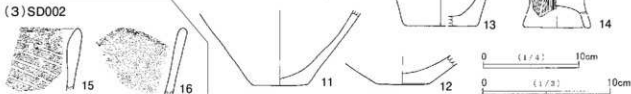
1. 黑色土：黃褐色上段中層，炭化物粉微量



(3) SD001



(3) SD002



第38圖 (3) SD001 · SD002

第4章 縄文時代の包含層と遺物

第1節 概要

第1章の地理的環境でふれたように、調査対象範囲は、北側の上位段丘面と南側の下位段丘面の大きく2面の段丘をまたいでいる。本調査は3地区からなり、上位段丘面の北側をA区(2B-47～3B-48・56～58)、上位段丘面の南側をB区(3B-51・52・61～4B-35)、下位段丘面(4B-40～5B-53)をC区と呼称することにした。B区は上位段丘の南端にあたり、A区よりもやや高い標高であることから、上総層群の基盤層の上に堆積する遺物包含層は、ほとんど生成していなかった。多量の土器を包含していたのは、A区・C区における堆積土である。基本土層で示したようにA・C区ともに、2層の暗褐色土層からは晩期の遺物が多く出土し、3層の黒色土層からは後期の遺物が主体的に出土していることから、2層を晩期包含層、3層を後期包含層として概ね捉えることができる。また、中期の遺物は3層～4層にかけて少量出土している。A区の北側は、調査前まで畑地として耕作されていたことから、その影響を受けているものと考えられる。また、晩期包含層中には上総層群由来の白色礫片が含まれている。これは上位段丘面B区の地山に含まれるもので、A区・C区の晩期包含層が堆積する過程で、基盤層が露出したB区から流れ込んだものと考えられる。A区・C区包含層の土層堆積状況は第39図に示した。土層断面図のポイント位置は、第6・8図の各遺構配置図に示した。

A区・B区・C区における掲載土器点数は、底部を除いて1,310点である。このうち、前期の土器が2点、中期79点、後期961点、晩期268点に及び、後期が全体の7割を占めている。石器は、定形石器で398点が出土している。

A区の包含層は、標高65.0mのコンターライン前後に分布している。出土遺物は、土器・土製品・石器・石製品などである。出土遺物の主体は土器が占めており、時期としては前期前半から晩期末葉までの遺物が検出されている。その主体は後期後半の加曾利B3式～安行1式である。中期の土器は薄い分布を示しており、A区北西側でやや集中しているようである。後期の土器は2B-84グリッドとその北側、また、3B-06グリッドで集中して分布している。この範囲は、後期の包含層の厚さが約40cmで、耕作による攪乱を受けず遺存状態が良かったことから、土器が集中して検出された可能と考えられる。また、A区ではビット群が3B-17付近から2B-55にかけて分布する。時期は概ね後期と考えられる。晩期の土器は、散在的に検出されているが、後期同様2B-84グリッドとその北側、3B-06グリッドにやや集中して分布する傾向がある。晩期包含層は北側では堆積層厚が減ることから、耕作による影響を受け、多くが失われていると推測される。

B区では、東から西へ下る緩やかな緩斜面となっており、堆積土は薄く、南端では表土層の下がすぐに上総層群の基盤層となっていた所もある。B区から出土した遺物は、後期前葉～後期後葉の称名寺式～安行2式、晩期中葉の安行3c式～前浦式である。B区では中期の遺構は検出されていないが、中期後葉の加曾利EⅡ式の大形破片が出土している。

C区の包含層は、標高61.0m～62.0mの範囲に分布している。出土した遺物は、A区と同様に土器が主体を占めている。時期は前期前半から晩期末葉までの遺物が検出され、主体となるのは後期後半の加曾利B3式～安行1式である。前・中期の遺物は図示できたもので3点である。後期の遺物は、加曾利B3式は全体的に分布し、曾谷式～安行2式は散発的に集中している。晩期の遺物は標高61.6m前後に集中して分布しており、晩期中葉の土器がまとまって出土している。

第2節 A区包含層

1 土器

確認調査及び本調査によって出土したA区の縄文土器は、縄文時代前期前半～晩期末葉、前期の黒浜式、中期の阿玉台式・加曾利E式・曾利式、後期の称名寺式、堀之内式、加曾利B1式～加曾利B3式、曾谷式、安行1・2式、晩期の安行3a・3b・3c式、前浦式、大洞式、荒海式にわたっている。出土した縄文土器を以下のように13群に大別し、各群の中で類別を行っている。

第1群 前期の土器

第2群 中期の土器

第3群 称名寺式・堀之内式土器

第4群 加曾利B1式・B2式土器・加曾利B式無文浅鉢

第5群 加曾利B3式深鉢土器

第6群 加曾利B式鉢・台付鉢

第7群 曾谷式土器

第8群 安行1式土器

第9群 安行2式土器

第10群 後期粗製土器

第11群 晩期精製土器

第12群 後期安行1式以降の粗製土器

第13群 底部

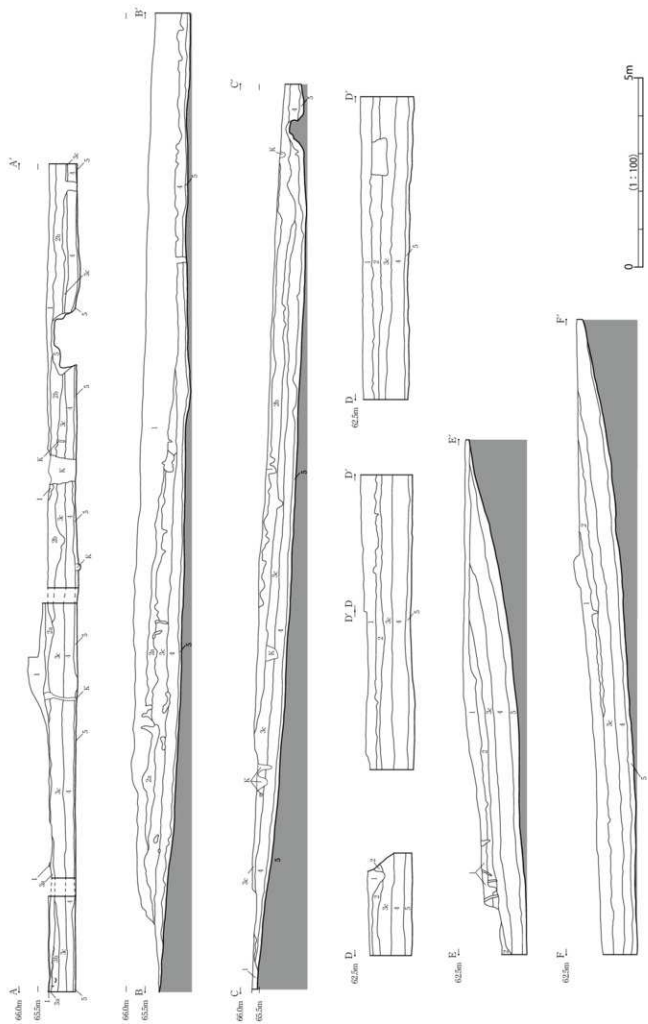
出土量が多かった後期以降の土器群については、遺物の接合状況及び分布図を可能な限り示すことにした。土器の接合状況については、1個体の土器が広い範囲に散っている例も数例見られるが、割れた個体の多くは破片がまとまって出土しており、廃棄後に割れて周囲に散ったものと考えられる。投げ込みなどの土器廃棄や廃棄後に広範囲に拡散するような攪乱は、包含層中においてなかったと推測される。

掲載したA区の土器点数は、底部を除き779点である。このうち、前期の土器が1点、中期75点、後期553点、晩期150点に及び、後期がA区全体の土器量の7割を占めている。

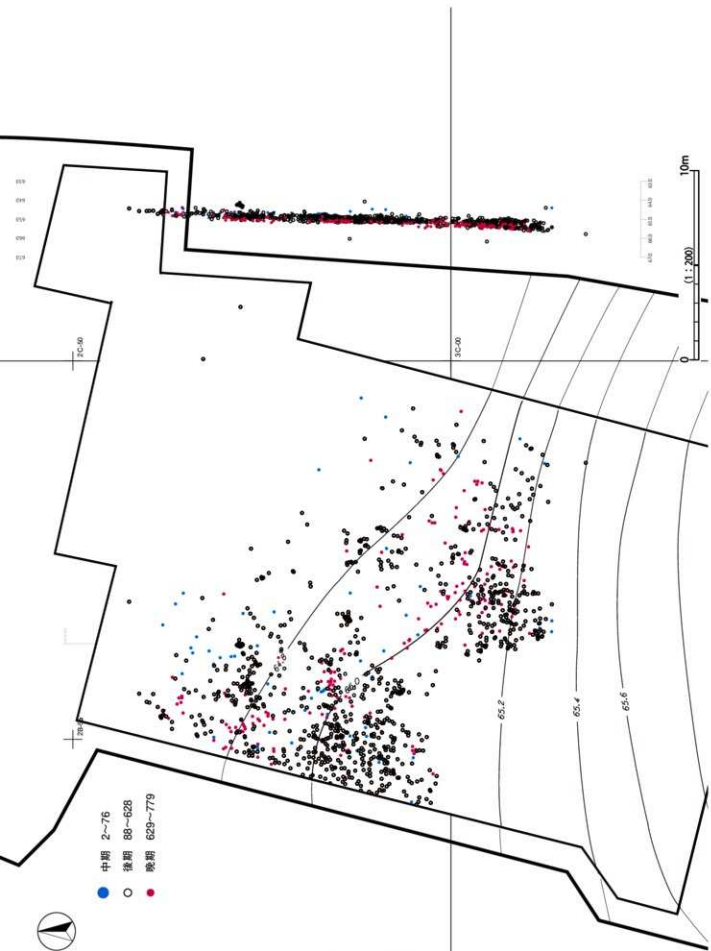
中期の土器は、中期後葉の加曾利EⅡ式・曾利式土器を主体に出土している。A区北西側の低位段丘面にやや集中して分布している。A区北東側同様に、A区西側にも中期集落の展開が想定される。

後期前葉の土器は、称名寺式・堀之内式土器がA区西側を中心に11点出土している。また、三十稲場系の土器が1点出土している。後期中葉～後葉では、加曾利B1式・B2式がA区東側と西側に分布する。B1式は破片ではあるが、50点と深鉢・鉢ともにまとまって出土している。B2式深鉢は数点出土している。主体となるのは後期中葉から後葉の加曾利B3式～安行1式であり、精製土器で加曾利B3式が185点、曾谷式が58点、安行1式が67点となり、加曾利B3式がA区出土土器全体の約2割～3割、曾谷式・安行1式が約1割を占め、曾谷式・安行1式も一定量出土している。特に加曾利B3式精製土器や後期紐線文土器は、多量に出土し、多種に渡ることから、器形や地文の種類、施文の順などから類別に分類した。鉢類も大きく開く無文の浅鉢や、ソロバン玉形の鉢、丸みの強い丸底の鉢などが一定量出土している。また後期後葉の窟付土器が1点出土している。

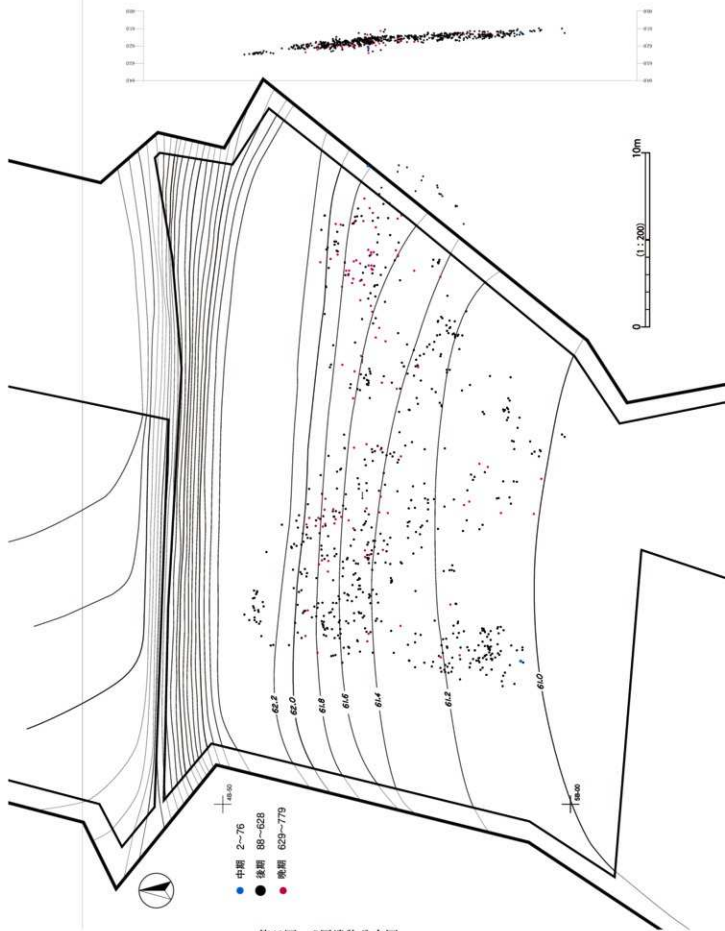
後期の土器の分布は2B-84グリッドとその北側、また、3B-06グリッドに集中する傾向がみられる。包含



第39图 A·C区重物包含层土層断面图



第40图 A区遗物分布图



第41图 C区遺物分布图

層の遺存状態が良好である3B-06グリッドでは焼土が検出されている。住居に伴う掘り込みや床、規則的な配列や深度を有するピットは検出されなかったが、焼土周辺からは後期安行期の注口土器、異形台付土器、耳飾り、ミニチュア土器などの特殊遺物が数点集中して分布している。出土土器は、加曾利B3式精製土器を主体に曾谷式・後期安行式・晩期安行式期まで連続と集中して分布する様相が見られる。

晩期の土器は、後期と同様の範囲に集中して分布しており、A区の精製土器は安行3a式・安行3b式がやや多く出土している。A区では晩期粗製土器が多く出土しており、地文・文様要素から類別に分類を行った。また、荒海式が1点出土している。

第1群 前期の土器

黒浜式土器 (第43図1)

図示できるものは1点のみで、無節の縄文が施されるのみである。

第2群 中期の土器

1類 勝坂式土器 (第43図2～6・8～9)

2は楕円形の区画内に隆帯に沿って2条の角押文を施している。3は連続爪形文が施された隆帯に沿って三角押文がめぐり、区画内に地文縄文に陰刻の三叉文が施される。4・5は連続爪形文が施されるもの。6は隆帯上にキザミヤ、半截竹管状工具による押引文が施される。8はキザミが施された隆帯により区画され、区画内に三叉文が施される。胎土に雲母を含む。9は浅鉢の口縁である。波状口縁となり、口唇に竹管状工具による押引文が施され、波頂部下に隆帯による凹文が施される。

2類 阿玉台式土器 (第43図10～13)

10は隆帯による楕円形の区画に沿って2条の角押文が施される。内部に斜位の角押文を充填する。胎土に雲母を多く含む。11はキザミが施された隆帯により口縁部を区画し、区画内に沈線や刺突が施される。12は隆帯に沿って三角押文が施される。13は地文に条線が施される。

3類 加曾利E式土器

加曾利EⅠ式土器 (第43図14～18、第44図35・36)

14が口唇に沈線を施し口縁部を無文とする。胴部には地文縄文に沈線による文様が施されている。15は口縁部に縦位沈線を施すもの。16・17・18は口縁部に渦巻文を施すもの。35・36は深鉢の胴部で、35は地文に燃糸文を施す。36は地文に縄文を施し、沈線を垂下させる。

加曾利EⅡ式土器 (第44図19～34、第44図37～40)

24は4単位の波状口縁となり、口縁部には高い隆帯による円形区画や、沈線による楕円の区画文が施される。25は渦巻文が施される。30は口縁部に弧状の平行沈線を施し、間の縄文を磨り消している。弧線間に蛇行沈線を垂下させる。32は地文に条線が施される。33・34は橋状把手の破片である。33は蕨手状の沈線が施される。37～40は胴部破片で、37は磨消文間に蛇行沈線を施す。38は磨消文間の幅が狭い。40は磨消文間に竹管状工具による刺突が充填される。

4類 連弧文土器 (第43図7、第44図41～46)

7は地文に縦位沈線を施す。口唇部に2条の沈線が横走し、波状沈線が施されると考えられる。沈線の波頂部には列点状の沈線が施される。41～44は地文に燃糸文を施している。41は口縁上部に交互刺突を施し、口縁部には半截竹管状工具による連弧文が施される。42は口唇部に2条沈線を横走させ交互刺突を

施す。45・46は口唇部に複列の列点を施す。45は地文縄文に半截竹管状工具による連弧文が施される。46は地文に条線を施すもの。

5類 曾利式土器 (第44図47～65、第45図66～70)

47～51は口縁部に斜行文を施すもの。52～54は口縁部に重弧文を施すもの。55・56は地文に縄文を施すもの。57は縦位条線を施すもの。58～70は胴部の破片で、59は蛇行する隆帯を貼り付ける。58・60～62は地文に条線、63は懸糸が施される。66～70は櫛歯状工具による条線が施されるもの。66・67は蛇行する条線が施される。69は横位に条線が施される。70は縄文RL施文後に条線が施されるもの。

6類 中期の鉢 (第45図71～76)

71は口縁部が無文となり、胴部に縦位条線が施される。口端は角頭状になる。口縁部と胴部の間に焼成後の穿孔が2つ見られる。72は無文で胴部が屈曲するもの。73・74は橋状突起が付くもの。73は竹管状工具による刺突が施される。75・76は有孔鈔付土器である。胴部には沈線による文様が描かれる。

第3群 称名寺式・堀之内式土器

1類 称名寺式土器 (第45図77～80)

量的に少なく図示したものがそのほとんどである。77・78は太い沈線により描かれた意匠内に縄文を充填する称名寺I式である。77は突起状の小波状口縁となり、沈線内には竹管状工具による刺突が等間隔に施され、沈線間には縄文LRが施される。78はJ字状の沈線内に縄文RLが充填されている。79は沈線区画内に列点が施される。称名寺II式である。80は隆帯による渦巻文と、竹管状工具による刺突文が全体的に施されることから、北陸地方を故地とする三十稲場式系の土器と思われる。

2類 堀之内式土器 (第45図81～87)

81は堀之内I式土器。頸部が括れ、口縁部が外反する器形と考えられる。頸部に3本の平行沈線が横走り、胴部には地文縄文に、沈線による懸垂文が施される。破断面(粘土帯の接合面)に刺突が2か所残されている。土器成形で粘土紐を積み上げる際に、接着面を増やし接着を強化するために施されたものと考えられる。82・83は堀之内2式である。82はキザミが施された隆帯がめぐり、口縁部には縄文LRが充填された帯縄文により、三角を基調とした文様が描かれると考えられる。帯縄文の一部が浅く窪んでいる。83はキザミが施された隆帯に8字状貼付文が付けられている。口縁部には方形を基調とした文様が描かれる。縄文が充填される部分と無文の部分交互に施される。

3類 縄文を伴う粗製土器 (第45図84～87)

堀之内1式～2式に伴う縄文を施した粗製土器をまとめた。84は口唇部に一条の沈線が横走する。胴部には縄文LRが施されているが、輪積み痕が明瞭に残っている。85・86は半截竹管状工具により三角文や蛇行文、弧線などが描かれる。87は鉢で、無節Rが施されるのみである。

第4群 加曾利B1式・B2式土器・加曾利B式無文浅鉢

1類 加曾利B1式土器 (第46・47図)

精製の深鉢土器 (第46図88～113)

数段の横帯文に縄文が充填されるものが多い。88は口唇にキザミが施され、無文帯を挟んで2段の横帯文が施される。89は口縁部下に1段の横帯文、無文帯を経て2段の横帯文が施される。内面に段を有する。90～100は単位文をもつ横帯文を施文し、口唇部にはキザミを施している。90は4段の横帯文に縦列に刺突が施される。91～94は鉤の手状沈線で区画し、間に縄文を施している。96～100は波状口縁で波頂部

に立体的な装飾がある突起をもつ。97は波頂部下に逆「の」の字文が施され内部に縄文が充填される。98～100は波頂部下に三角形の区画文が施される。101～112は器面内面にも沈線と刺突を主とする文様がめぐる。101は1条の稜と4条の沈線がめぐる。102は内面に段を有し、沈線が施される。口唇には縄文が施される。103は口唇と沈線間に刻みが施される。104は緩い小波状となり、沈線下に刻みが施され、内面には刺突と沈線間に刻みが施される。105は縄文が施され、内面に刺突と沈線が施される。107～112は、口唇部に刻みが施されるもの。113は胴部破片で、地文縄文に横位沈線と縦位に弧状の刺突が交互に施される。

鉢・浅鉢 (第47図)

114～118は碗状の鉢である。119～129は内湾する鉢で、122～125は口唇部がやや内屈する。116・118・121・123・127は鉤の手状の区画文に縄文が施される。119・124・125・126は横帯文に縦連対弧文が施される。128・129は横U字状の区画に縄文が施される。130～137は内面に文様をもつ浅鉢で、沈線と縄文を主とする文様がめぐる。131・132は波状口縁となる。130・133～135・136は外面に文様がなく、131は楕円区画を刺突と単沈線により上下に分割し、下半に縄文を充填する。132は内面に対向弧線文が施される。134は口唇部に刻みを施し、口縁部内面に刺突を伴う突帯がめぐる、逆「の」の字状文に縄文を充填し、その下には沈線間に刻みが施される。さらにその下にやや幅の広い縄文帯が設けられる。137は横U字状の区画に縄文が施される。

2類 加曾利B2式精製土器 (第48図138～142)

138は推定口径約30cmの4単位の突起が付く深鉢である。突起の下に沈線と刺突による単位文を施す。口縁部下半には突起間に上下に対向する弧線文を配置し、弧線文間に斜位沈線を充填する。器面内面には二本の沈線がめぐる。140は縦連対弧文が施される。141は対向弧線が施される。142は口縁部が大きく開く深鉢であろう。頸部に刺突文が施される。胴部は地文縄文に横位の沈線が施され、さらに雑な蛇行沈線が垂下する。

3類 加曾利B式無文浅鉢 (第48図143～150、第49～51図)

大きく開く胴部に、内傾・直立する口縁部をもつ無文の浅鉢である。口縁部は無文でやや肥厚する。個体数が多く出土しており、時期は加曾利B2式～B3式であろう。143～147・153～163は平口縁となるもの。148～150・164～175は波状口縁となるもの。148は小波状となるもの。149は4単位の波状となるもの。175は焼成後の穿孔が見られる。147・151～154・176～182は口唇部にキザミや刺突が施されるもの。151・152・178～182は口縁部に双頭状の突起が貼付けられる。151は平口縁で4単位の突起が付く。152はソロバン玉形に近い器形で口縁部下端に沈線を施し、口縁部に双頭状の突起が付く。181は内面に鉤の手状沈線が施される。加曾利B2～B3式であろう。

第5群 加曾利B3式深鉢土器

本群は本遺跡において出土量の多かった土器群である。縄文が施される波状口縁・平口縁・瓢形のもの。また、頸部無文帯を有し、条線や斜格子、綾杉文が施されるものなどからなる。

1類 波状口縁深鉢 (第53図、第54図191～194・196～198、第55図、第56図216～230)

4乃至は5単位の波状口縁深鉢が、数多く出土している。口縁部文様はいくつかの文様要素を組み合わせた多様なあり方を示す。胴部文様は互連弧充填縄文及びそれに類するもの、求心集合弧線文が施されるものの2種類に分けられる。183は6単位の波状口縁となるもので、波状口縁に沿って沈線が施され、キザ

ミが施される。184・226～229は口縁部に縄文帯が伴わないもの。口縁の特徴としては、波状となる口縁は185のように波頂部が緩やかなラインを描くものと、221のように波頂部が尖るものの2種類がある。口縁部文様は波状線に沿って沈線が施され、刺突文や押し文が施される。201・212・213のように、波底部に瘤状の貼付が伴うものもある。口縁直下の縄文帯は、202のように波状線に沿って蛇行するもの、214～217のように連続する弧線を施すものなどは少なく、ほとんどは水平線により区画されたものである。頸部の無文帯は、土器の大きさにかかわらず一定の幅が保持されている。胴部の特徴としては、183は地文縄文に斜位条線を施している。184は横帯文を施し、波頂部下の胴部に蛇行沈線を垂下させる。185～189・196～200は互連弧充填縄文を施すもの。190はタスキ掛け状入組文が施され縄文が充填されている。191～193・201・202は求心集合弧線文を施すもの。194は、綾杉文を施している。

2類 平口縁深鉢土器 (第54図195)

波状口縁深鉢が主体的な中で、1類の文様構成を持ちながら平口縁となる深鉢はほとんどないと言える。195は、頸部無文帯とほぼ同じ幅の縄文帯が口縁部に施されている。頸部下端には1条の沈線が施され、直下に連続刺突文が付けられる。胴部には斜位に条線が施される。胴部を最大径とし、くの字状に屈曲して立ち上がる。

3類 瓢形深鉢土器 (第56図231～237)

この形態の深鉢は量的に限られており、図示した口縁部破片が確認できた程度である。胴部が最大径で頸部から上は内湾しながらすぼまる器形である。234は背向する弧線文内に縄文を充填している。235はトの字文が施されている。236・237はタスキ掛け状入組文を施し、縄文を充填している。類別が難しいため本類に含めたが、第7群3類曾谷式に含まれるものもあるだろう。

4類 頸部無文帯を伴い条線を施す深鉢 (第57図238・239、第58図251・252、第59図、第60図269)

頸部に沈線区画された無文帯をもち、口縁部と胴部に斜位の条線を施す土器を本類とする。地文に一部縄文を伴うものもある。5単位の小波状口縁のものが主体となり、口唇部又は頸部に連続刺突文を施すものが多い。条線は充填されるものが多いが、磨り消されるものも一部ある。口縁部の条線は右上がり、胴部の条線は右下がりに施されるものが多い。238・239・252・253～259は波状口縁となるもの。253は胴部に横位の弧状条線が密に施されている。一部頸部の連続刺突が施されない部分がある。261は胴部に蛇行沈線が垂下する。265は口唇にキザミが施される。266～269は条線を施した後、頸部を磨り消している。251は地文縄文に沈線区画を行い、口縁部と胴部にそれぞれ条線を施した後、最後に頸部の縄文を磨り消して無文帯とするもの。

5類 条線ないしは斜格子を伴う頸部無文帯土器

5b類 口縁部と胴部それぞれに条線を施した後に、頸部を磨り消し無文帯とするもの (第57図240、第58図250、第60図270・271、第61図290～292)

240・270は沈線で頸部を区画し、内部を磨り消し無文帯としている。250・271・291・292は頸部を磨り消し無文帯とするもの。290～292は歯輪状工具による条線が施される。266～268は波状口縁、240・250・269～271は平口縁になるもの。

5c類 斜格子を施すもの (第57図241～243、第58図244～249、第60図272～282)

241・272～275は沈線区画された頸部無文帯を設けた後に、斜格子を充填するもの。242・243・244・276～279は、口縁部と胴部それぞれに条線を施した後に、沈線で頸部を区画し、内部を磨り消し無文帯とす

るもの。245～249・280～282は、頸部を磨消すもの。281・282の磨消しは括れ部を線状に撫でる程度の磨消しである。249・279のように横方向に弧状の条線を密に施し、斜位に沈線を施すことにより、格子状にするものもみられる。

5d類 地文に縄文を施すもの (第61図283～289)

283・284は地文縄文に沈線区画を行い、口縁部に条線を施した後、最後に頸部の縄文を磨消して無文帯とするもの。285～289は地文縄文に口縁部と胴部それぞれに斜格子文乃至は条線を施した後、最後に頸部の縄文を磨消すもの。285・286は沈線区画を行い頸部の縄文を磨消すもの。

5e類 鋸歯状文や綾杉文を施すもの (第61図293～302)

293・294は頸部が無文となり、口縁部に鋸歯状の条線が施される。295～300・302は口縁部を無文とするもの。295は3単位の大波状口縁になるものと考えられる。C区包含層出土土器144などに類似するものと考えられる。296～301綾杉文乃至は綾杉文が崩れた斜線文が施されるもの。296～299は波状口縁となる。297は口唇に刻みが施される。301は口縁部に綾杉文が施され、頸部が無文となる。302は口縁が無文となり、胴部に格子目状の沈線が施される。

第6群 加曾利B式鉢・台付鉢

1類 ソロバン玉形鉢 (第63図303～307、第64図328～331)

胴部で屈曲するソロバン玉形の器形の深鉢や浅鉢は量的には少ない。掲載したものがそのほとんどである。303・304は胴部の屈曲部を境に上下に背向する弧線文が施され、縄文が充填されている。弧線間と304には弧線頂部の口唇に貼瘤がある。305・328・329は単沈線によるタスキ掛け状入組文が施され、305・328は、入組み部分が磨消されている。306は口縁部に幅の狭い縄文帯、胴下半に交互に斜線を施した綾杉文が施されている。307は胴部に斜行沈線が施される。330・331はトの字状文が施される。

2類 浅鉢 (第63図308～315、第64図316～327・332～336、第65図)

加曾利B3式が主体で一部曾谷式にかかるものもありそうだ。器形は、内湾または緩く内湾し、全体に丸みの強い丸底の器形が主体である。口縁部には横位の沈線が2本巡り刺突が加えられる。308～313・315・332・333は平口縁で体部中位に無文帯があり、その上下に縄文が充填されている。318は斜行沈線が充填されており、無文帯によって3段の文様帯構成となっている。324は口縁部が外反し大きく開くもの。334～338は緩やかな波状口縁となるもので、口唇部に沿って2条の沈線や刺突が廻っている。336は口縁部に小波状突起をもつ。314・316・317・319・320は連続する弧線の内部に縄文が充填されるもの。314は波底部間に大柄な弧線が施され、縄文が充填される。317・319は弧線間に貼瘤が施される。317は間にキザミをもつ平行沈線により連続する弧線を施し、内部に縄文が充填される。320は口縁部が外反する波状口縁で無文帯となるもの。321・323・343・345は弧状の条線が施される。343・345は沈線区画内に弧線を充填する。322・326は大きく開く浅鉢で、他の浅鉢とは異質である。326は小型の浅鉢で綾杉文が施される。補修口とは異なる穿孔が1つみられる。325・327は縄文のみを施すもので、325は口唇が肥厚する。327は底部が平底となる。339～342は体部に文様が施されるもの。339は瘤状の貼付けを施すもの。340は斜位に縄文を磨消すもの。341・342は弧線文の内部に縄文を充填するもの。343・345は弧状条線、344は綾杉文が施される。347～349は胴部破片である。

3類 台付鉢など (第66図)

350～352・356は条線を施すもの。350は口縁部と胴部にキザミを施し、縦位の条線が施される。351・

356は口縁部と胴部に刺突を施し、頸部は無文帯となる。口縁部に斜位の弧状条線、胴部に横位の弧状条線が施される。353～355・357～360は縄文を施すもの。353・354は胴部上半に縄文が施される。355は波状口縁で無文となり、胴部上半には縄文が充填された弧線文が施される。358・359は頸部は無文帯とするもの。360は大きく開く浅鉢で他の浅鉢とは異質である。A区包含層出土土器322に類似するものと考えられる。361～365は台付の台である。361～363は平行沈線間にキザミが充填される。363は焼成後の穿孔がみられる。364～367は縄文施すもの。367は弧線文が施される。

第7群 曾谷式土器

口縁部の帯縄文をノの字状の貼付文で分割するものが多い。沈線は加曾利B式の沈線と比較すると細く弱々しく、弧線文なども粗雑に描かれるものが多い。加曾利B式に見られる口唇内面の沈線は残っている。

1類 波状口縁深鉢 (第68図368・370・371、第69図380～383、第70図386～390、第71図411～416)

368は4単位の波状口縁で、波底部に貼瘤が付く。頸部にかけて波底部間に大柄な弧線が施され、縄文が充填される。370は4単位の大波状となるもので、波頂部は扁平で直下にキザミを施した粘土紐が垂下する。波底部にはノの字状の貼瘤が付く。口縁外面は、細かい縄文が地文として施され、その上に5条の沈線を施している。頸部は無文となり、胴部には右に大きな弧線、左に小さな2段の弧線が求心集合弧線文を構成している。つの字文やトの字文などと呼ばれている文様からなっている。無文部分は丁寧な磨きが施されている。371は、胴部に求心集合弧線文が施される。383は4単位大波状となるもので、波頂部は扁平で直下にキザミを施した粘土紐が垂下する。波底部にはノの字状の貼瘤が付く。口縁外面は、細かい縄文が施される。386は波頂部に扇状の突起が貼付けられ、波状縁に沿って2条の太い沈線が施される。波頂部と波底部には楕円の貼付文が付く。高井東系の土器と考えられる。390は地文に綾杉文を施し、波底部の貼瘤下に2本沈線を垂下させる。胴部のみであるが、380・381・411・413・416は互連弧充填縄文が施される。415はタスキ掛け状入組文が施され、縄文が充填されている。胴下半には沈線が施され、縄文が施されている。

2類 平口縁深鉢 (第68図369・372～377、第69図379、第70図384・385・391～402)

369・372～375は口縁部の帯縄文をノの字状の貼付文で分割している。帯縄文に施される沈線は、1類同様浅く弱い点の特徴とする。頸部までの文様は弧線文が施され縄文が充填されている。帯状文は、キザミや沈線のみのもみられる。369は頸部上半に弧線文、下端に縄文帯を施し、胴部上半に互連弧充填縄文、胴部下半に縄文帯を施す。373は胴部の上半と下半にも括れを有する器形となる。括れ部には刺突が施され区画される。頸部と胴下半には弧線文、同上半には幅の狭い帯縄文が施される。374は口縁部に3列の帯縄文が横走し、複列の刺突により区画された頸部には上半に弧線文、下半にレンズ状文様が施される。376は綾杉文を施している。377は口縁部に3本の沈線が横走し、頸部全体に縄文が施される。頸部と胴部は無文帯により区画される。402は頸部に綾杉状文が施される。

3類 瓢形深鉢 (第69図378、第70図403～406、第71図407～410)

378は口唇部下と括れ部には2本の沈線が巡り、沈線間に連続した刺突を施している。胴部上半と下半には互連弧充填縄文が施されている。403～410は口縁部である。404はトの字文が施されている。408～410は地文縄文に3本～4本単位の沈線が横走する。

4類 浅鉢類 (第71図417～425)

417～421は内湾する浅鉢。417～419はノの字状の貼付文が施される。418は沈線間に縄文が充填される。

421は底部で、胴部に弧線が施され縄文が充填される。422～424は大きく開く浅鉢である。422は口縁部に4条の横走る沈線が施され、胴部にキザミと縄文が施される。423は口縁部に平行沈線を施し、内部を無文帯とする。424は頸部に4条の横走る沈線が施され、胴部には縄文が充填された弧線文が施され、弧線間に貼瘤がつく。425は口縁に3条の横走る沈線が施され、体部中位に無文帯を有する。

第8群 安行1式土器

安行1式については、精製土器と紐線文系土器の粗製土器に分けられる。量的には粗製土器が多く、精製土器の量は少ないと言える。粗製土器については別に記述する。曾谷式と安行1式を分ける目安としては、口縁部の帯縄文が2段から3段に多段化したものや単純な貼付文で分割された単位文様の枠内に太い沈線で区画するもの、多段化した帯縄文を連結するような縦長の貼付文を伴うものを本類とした。

1類 大波状口縁深鉢（第73図426・427・430・431・433～440、第74図441～454）

426は4単位の大波状の口縁となるもので、4単位の帯縄文が波頂部と波底部に貼付けられた縦長の貼付文によって区画される。頸部には、波頂部下に間を無文とする垂下する平行沈線と綾杉文が施される。427は胴部に互連弧充填縄文が施される。430・431・433・434は扁平もしくは緩やかな扇状の波頂部を有し、貫通孔が伴う。435は目玉状の貼付文が施される。436は双頭状の貼付文を有する。437～443は波頂部が山形となるもの。444～446は突起が棒状に張り出すもの。447～454は波底部で、454は焼成後の穿孔を有する。

2類 平口縁深鉢（第73図428・429・432、第74図455～465、第75図466～477）

428は砲弾状の器形を呈し、3段～4段の帯縄文に上下に連結した貼瘤が伴う。胴部に条線が密に施されている。432は体部から張り出す深鉢で、口縁部に3段の帯縄文が施され上下に連結した貼瘤が伴う。胴部に横位条線が密に施されている。455～461は帯縄文下の連続する弧線文内に縄文が充填される。459～469は口縁が緩やかな波状になるもの。469は口縁部の平行沈線間にキザミが施される。内外面ともよく磨かれている。474～477は口縁が内傾するもの。

3類 瓢形深鉢（第75図478～480）

478～480は瓢形の深鉢で、帯縄文に沿って押引文が施されている。478は口縁部に弧状沈線を施し、内部に縄文を充填する。

4類 鉢類（第75図481～492）

481～484は浅鉢である。481は波状口縁で一部に帯縄文が施される。胴部には地文条線に、垂下する平行沈線が施される。485～489は台付鉢。484は口唇の内外面が面取りされ、尖った形状となる。486は口縁の帯縄文が楕円状の区画となり、区画間の口唇に窪みを有する。487は平行沈線による対向する弧線が施され、その下に2個一対のブタ鼻状貼付文が付く。489はキザミを施した隆帯により区画され、2個一対の貼瘤と退化した縦長のブタ鼻状の貼付文が施される。胴部には弧状条線が施される。490～492は台付鉢の台である。490は3条のキザミを施した隆帯と縄文帯が施される。貫通孔と貼瘤が2つずつ施される。491・492は2条の縄文帯が施される。

第9群 安行2式土器

1類 大波状口縁深鉢（第76図493～496、第77図503～511）

波頂部は、山形状のもの、中央が緩く凹むもの、両端が瘤状に突出するもの、扁平で扇状の丸いものなど多様である。波頂部、波底部にはキザミを伴う縦長の貼瘤などが付く。口唇部に縄文が施され、口縁部に

ら頸部はキザミを施した隆帯によって三角形文が形作られる。小ぶりのブタ鼻状貼付文が伴うものがある。493・509・510は口縁部下半に綾杉文が施され、493・509は貼付け文間に垂下する平行沈線が施される。494は斜位沈線が施される。胴部には縄文が充填された連続弧線文を施す。495・507は三角形文下に対向・内向する弧線文が施される。507は波頂部にブタ鼻状貼付文を付し両脇にキザミを施した貼瘤がつく。その下にはキザミを施した貼瘤を縦に貼り付ける。496は上下に交錯する弧線文を施し、弧線文間に縄文を充填する。一部、第11群1a類である安行3a式に含まれるものもあるだろう。

2類 平口縁深鉢土器 (第76図497～502、第77図512～517・523・524)

498・499・501は帯縄文により区画された中に沈線による楕円形の枠状文が施されたもの。498は2段の枠状文が施される。口唇部に2個一対のキザミを伴う貼瘤と、突起の下に対となるブタ鼻状貼付文が貼付けられる。胴部下半は緩い弧状の条線が施される。499はキザミを伴う縦長の貼瘤とブタ鼻状の貼付文が施される。501は口縁部が内湾する砲弾形の器形を呈する。1段の枠状文が施され、2個一対のキザミを伴う縦長の貼瘤とブタ鼻状貼付文が施される。497は口縁部に縄文が充填された弧線文、胴部には互連弧充填縄文、胴部下半には沈線下に縄文を施す。500は口唇に複列の刺突を施し、垂下する蛇行沈線と、幅の広い蛇行沈線によりレンズ状のモチーフを多段に描いている。502はソロバン玉状の形態で口唇に貼瘤が付く。キザミを施した隆起線により複雑な文様が施される。注口部は遺存しないが、器形・施文文様から注口土器の可能性はある。516・523・524もキザミを施した隆起線が施されるもの。513は広い縄文帯に上下に対向する弧線文内にブタ鼻状貼付文が付く。514・515は垂下する蛇行沈線とレンズ状文が施される。

4類 鉢類 (第77図518～526)

518～519は台付鉢。521・522は浅鉢で522は枠状文が施される。525は口縁が内傾する器形で、口唇には刺突が施される。口縁部に綾杉文が施され、縄文を施した隆帯が弧状に貼付けられる。526は入組文を施し、刻み目が充填される。東北地方を故地とする瘤付土器系の土器と思われる。

第10群 後期粗製土器

紐線文系、附点紐線系、条線のみのもを一括した。時期は堀之内式から曾谷式までが含まれると考えられる。紐線の押捺が重なり合うものは少なく、器形は頸部で括れ外反するものと、砲弾状になるものがある。出土層位は、精製土器と同様の層準から出土している。口縁内面に沈線を伴うものが多い。

1類 口縁部だけに紐線が貼付けられる土器 (第79図527～532、第83図)

口縁部だけに紐線が施されるものは量的に限られている。紐線は太く、指頭圧による押捺がしっかり行われる。器形については、緩い括れがみられる。胴部文様は縄文のみものと縄文に条線が施されるものがある。529は密な条線が施されている。527・530・531は口縁部から胴部にかけて、弧線文を縦列の単位で施している。528・558は頸部に紐線の貼付けはないが、口縁部と胴部で条線の施文方向に違いがあり意識して施文しているようだ。563～566は縄文が見えなくなるほど条線を密に施している。532・567・568は縄文のみである。

2類 口縁部及び頸部に紐線が貼付けられる土器

2a類 地文縄文に紐線貼付け後に条線充填するもの (第79図533・534、第80図535～540、第84図569～572、第86図615～619)

口縁部に横方向、胴部に斜方向の弧線状の条線が施されるものが多い。また、内沈線も明瞭なものが多い。条線が密に施される。器形は口縁部と胴部がほぼ同じ最大径となるものが多い。

2b類 地文縄文に条線を施し、最後に紐線が貼付けられるもの (第80図541～543、第81図、第82図551～553・556・557、第84図573～583、第85図590～605、第86図620)

紐線は扁平化し、紐線に施した押捺が一部で重複するものがある。口縁部が最大径となるものが多い。条線は2a類よりもさらに密になり、地文縄文の存在を消してしまうかのようなものや、さらには地文縄文が省略されるような例も見られる。544～546の波状口縁を除けば、ほぼ平口縁に限られる。556は胴部が強く張り出し、口縁部が直立気味に立ち上がるもの。590～605は口縁部の小破片で頸部の状況は不明であるが、590は斜位に条線を施すもの。591・598は横方向に条線を施すもの。600～602は縄文が見えなくなる程密に条線を施すもの。603～605は縄文のみのもの。

3類 砲弾状の器形で、口縁部に紐線のみ紐線が施される土器 (第82図554・555、第86図606～611)

個体数は本群1類・2類の粗製土器に比べて極めて限られている。器形は、胴部が最大径となり滑らかな曲線を描く。平口縁が主体となる。紐線は押捺が一部で重複するものも見られる。口端はやや内傾し、内面沈線を伴うものはない。胴部文様は縄文のみのものと、縄文を施した後に条線を施すものがある。

4類 広口の壺で、口縁部に紐線による弧状の文様が施される土器 (第86図612～614)

口縁部を紐線で区画し、内部に弧状の文様を紐線で施すもの。内沈線が2条廻り、内面もよく磨かれている。広口の壺形になるものと考えられる。612～613は口縁部に弧状に紐線を施すもの。614は垂下する紐線と弧状の紐線が施される。列点状の沈線を横位に充填する。

5類 紐線に施した押捺が重なり合うことなく連続して施される土器 (第85図584～589)

地文縄文に紐線と押捺が重なり合うことなく施される。紐線は1条～3条のものがある。内面には沈線が廻る。584は竹管状工具による格子状の沈線が施される。585は地文縄文に、斜位の条線を施している。堀之内式～加曾利B1式と考えられる。

6類 いわゆる附点紐線文系土器 (第87図621～624)

紐線の貼付けがなく、工具による連続刺突文が口唇と胴部に施される。地文として弧状の条線が施される。おおよそ曾谷式～安行2式の時期と考えられる。後述する752～765と概ね同時期のものと考えられるが、器形は頸部で緩く括れ外反している。口唇は内屈することから後期の粗製土器に一括した。621・623・624は三角形の刺突が施されるもの。621は内沈線が廻る。622は口唇部と胴部に沈線を横走させ、連続刺突を充填する。

7類 条線のみのもの (第87図625～628)

625は器形は頸部で緩く括れ外反している。弧状の条線が縦列を意識して密に施されている。626～628は胴部で、底部周辺には条線が施されない。

第11群 晩期精製土器

本群は、安行3a式、安行3b式、安行3c式、姥山系土器、前浦式、大洞式の精製土器などからなる。安行3d式は見られなかった。

1類 安行3a式土器 (第89図・第90図652～658・661・662)

1a類 大波状口縁深鉢 (第89図629・635～637)

安行2式においては、大波状口縁の波頂部に施される貼付文は楕円を呈し、横位の沈線乃至はブタ鼻状の刺突文を伴うものが特徴となっているが、安行3a式に入ると貼付文はより長く扁平のものが多くなり、間延びした縦長の縦位沈線へと変化していく。また、口唇の内面の肥厚も、安行3a式に入ると次第に見られ

なくなる。629は4単位の波状口縁で、波頂部は粘土を貼り付けて成形されており、口唇部に沈線を施す。波頂部側面は粘土紐を巻き付けて瘤状に突出させ、沈線を施す。キザミが施された縦長の貼瘤とブタ鼻状貼付文が施される。635・636はキザミを伴った扇状の波頂部に、指頭で強く押し付けた大柄なブタ鼻状貼付文が付く。三角形文内には単沈線による弧線や、縄文が充填された弧線文が施される。

1b類 平口縁深鉢など(第89図630～634・638～651、第90図652～658)

630・632は緩やかな波状口縁となる深鉢で、630は口縁が「く」の字状に開く器形で、口縁部には縄文が充填された平行沈線による弧線文が、胴部には連続三叉入組文が施される。文様間には、陰刻の三叉文が施される。632は口縁部に玉抱き入組三叉文が施される。634はソロバン玉状の器形で口唇に刻みを施した貼瘤、頸部に素文の貼瘤が付く。胴部には縄文が施される。631・633は平口縁の浅鉢で、631は縄文帯に刻みを施した貼瘤が等間隔に貼付けられ、縄文帯間には弧線文と三叉文が施される。633は体部に突帯を伴い最大径となっている。太い沈線による連続する弧線文が施される。口縁部の弧線文間に三叉文が施され、弧線文内部にステッキ状の沈線が施される。638～658は陰刻の三叉文や入組文、弧線文を伴い、縄文が充填される安行3a式～3b式の破片資料である。639～647は内湾するもの。648～656は直線的に立ち上がるもの。638は帯縄文間に三叉文を施す。640は2段の杵状文を施すもの。波状の突起の下に縦列に指頭で強く押し付けた大柄なブタ鼻状貼付文が付く。641は大柄なキザミを伴った貼瘤の下に円形の隆線文が施される。642は口縁部に突帯が回り、細い縄文帯による区画内に三叉文が施される。643・652・654は玉抱き入組三叉文が施される。644・657・658は入組み三叉文が施される。646は弧線文や円文が施される。648・649は弧線文間に陰刻の三叉文が施される。650はキザミを伴った大柄な突起が付き、口縁部には入組弧線文を施し、沈線間に縄文を交互に施している。

2類 安行3b式土器(第90図661～674)

661・662は鉢で入組み三叉文が施される。664・665は弧状の平行沈線を施し、縄文を充填する部分がある。667は口縁部に杵状の区画を行い、内部に上下に対向する弧線文と間に横走する平行沈線が施される。杵状文間に上下に対向する三叉文を施し、摺糸文を充填する。全体に丁寧に磨かれており、浅く弱い沈線で施文されている。口端が面取りされた角頭状を呈し、器形は外反する。668は連続入組文で、複線化して内部に縄文が充填されている。669は緩い波状口縁で平行沈線による弧線文が施され内部に縄文が充填される。口縁部と胴部を分ける縄文帯には列点を充填する。胴部には入組三叉文を施す。間には陰刻の三叉文が施される。全体に丁寧に磨かれている。670は粗雑な平行沈線内に斜位のキザミが充填される。671は口縁部にステッキ状の沈線が施される。672はレンズ状の沈線が施される。674は口唇部にキザミが施され、口縁部に弧線が施される。

3類 文様帯に細密沈線を充填する土器(第90図675～681)

施文工具は先端の細い棒状工具であろう。器形は口縁部が内湾し砲弾型を呈するものと考えられる。675・676は口唇にキザミが付けられる。675は横位の沈線文によって文様帯が描出され、縞杉状弧線文が充填される。676～680は口縁部に斜行する細密沈線が充填される。その下部の横位の平行沈線による区画文は無文とし、胴部には垂線文と弧線文を組み合わせた沈線文様が施される。本類は安行3b式～3c式に並行すると考えられる。

4類 安行3c式土器(第90図682～690)

入組文・弧線文を伴い、縄文が施されないもの、また列点を伴うものを一括した。682は拵れ部に刺突を

施した平行沈線により区画し、粗雑な沈線による対向弧線が施される。683は平行沈線間にキザミを施す。684は刺突を施した平行沈線で口縁部を区画し、対向弧線文と平行沈線による栴門文が施される。685は壺で肩部には平行沈線間に刺突が充填される。687は肥厚した口唇に三叉文が施され、口縁部には平行沈線間に刺突が等間隔に施される。687は平行沈線間に刺突が施される。688は浅い沈線により、背向する弧線文とレンズ状文が施される。689は三叉文と横位の弧状条線が施される。690は鉢で口唇部に粘土紐による波状の貼付文が施され、胴部には平行沈線が施される。

6類 姥山系波状口縁深鉢土器 (第90図659・660)

姥山式及びその系統を引くものを一括した。659・660は姥山式系波状口縁深鉢。659は入組弧線文、660は菱形文と円文が施される。

7類 前浦式土器 (第90図691・692)

691・692は、太い沈線により文様帯が描き出されている。

8類 大洞系など他の土器 (第90図693～701)

693～694は大洞C1式の鉢で、693は口唇部に平行沈線が施され、その下に雲形文が施されている。694は口唇部を小波状とし、頸部を縄文帯とする。胴部に羊歯状文が施される。695は条痕を地文として、口縁下に数条の横走する沈線が施される。695～698は浮線文系の鉢で、口縁下に3条の沈線が施される。696はハンガー状浮線文が施される。内面に沈線が巡る。荒海1式と考えられる。697は口縁部に突起を持つ小波状口縁となる。699は口唇部に刺突が施され、口縁部には三叉文とレンズ状文が施される。700・701は綾杉文が施されるもの。

第12群 後期安行1式以降の粗製土器

2類 杵状文を伴う平口縁深鉢土器 (第96図766)

姥山Ⅱ式から前浦式に伴うとされる長方形杵状文で、A区では図化できるものは766の1点のみである。口縁部に2段の長方形杵状文が並んで施文されている。

3類 紐線文系土器 (第92図～95図)

本類は、紐線文として一括し、文様の有無などから6つに細別する。加曾利B式期の紐線文系土器は、口縁部と胴部に貼り付けられた粘土紐に指頭押圧を加えるものが中心であったが、安行期になると押し引き状に指頭押圧を加えるものが主体となっていく。文様は、地文となった条線のものから次第に沈線による平行線や弧線による文様が施されるようになる。器形は、砲弾状を呈するものが主体となり、口唇部は肥厚して外面に粘土紐を貼付けるものが普通だが、内面側が肥厚するものもある。紐線文は、粘土紐の明瞭な貼付けから次第に口唇部で一体化し、口唇部下端に押し引き状の紐線文的な施文が行われるようになる。後期後葉からの紐線文土器は、紐線文の形状によってある程度の時期差を示すことは確かだが、施文される文様は漸次多様な施文方法によってバラエティを増やしていくことから各型式に峻別することは難しいと思われる。

地文に条線が施されるもの (第92図702～704・706～711、第93図712～732・734、第94図735～742・744・748～750)

3a類 地文となる条線のもの (第92図702・706～711、第93図712～726、第94図748・749)

加曾利B式期の紐線文に比べ、主に左から右方向への押し引き状の指頭圧により描出された紐線文からなり、胴部の紐線文も同様である。胴部の紐線文はタガ状に巡るものが主体だが、末端が下方乃至は上方に逃げ

るものがある。口唇部と胴部に施される紐線文は指頭による押し引状を呈する密なものが多い。口縁部には横位又は斜位の条線が施され、胴部では緩い弧線状の条線が施されるものが多い。おおよそ安行1式～安行2式の時期と考えられる。702は胴部の紐線を境に、条線が口縁部は横位、胴部は斜位に施文方向を意図的に変えている。713は上下の紐線文をつなぐ斜位の紐線文が貼り付けられている。714は三角形のキザミが口縁部と胴部に施される。719などから、条線を施した後に紐線を貼り付けていることがわかる事例がある。720は口縁部の紐線文が重複している部分があり、粗雑に施されている。748・749は口唇部と胴部に施されるべき紐線文が失われ帯縄文となっているもの。

3b類 沈線による文様を加えられるもの (第92図703・704、第93図727～732・734、第94図735～741・750)

3a類の口縁部文様帯に沈線による背弧線やレンズ状の弧線、斜線などが施される。3a類に比べ紐線文は更に細かな押し引状の指頭押しとなるもののほか、ヘラ状工具によるものなどが見られる。地文となる条線は、全体に疎となる。本類の時期は、安行2式～安行3a式と考えられる。703は方向の異なる4本の弧線が単位文様となっている。胴部の紐線文の末端が下方に逃げている。704は平行沈線内に蛇行沈線が施されている。727は弧線に沿うように列点を施している。732は弧線が施され、胴部から連続すると考えられる紐線文が見られる。734は紐線文と弧状の平行沈線内に押し引状の刺突が施される。735は紐線文に三日月状の刺突を施し、口縁部にレンズ状の弧線文を施す。736は列点文を充填したレンズ状弧線文の両脇に対向弧線を施文する。737は2条単位の垂下する平行沈線内部に押し引き状の刺突が施されている。750は口唇部と胴部に施されるべき紐線文が失われ帯縄文となっているもの。口縁部に弧状の平行沈線が施される。

3c類 口縁部文様帯に地文の条線と沈線文を施し、沈線文内部の条線を磨消すもの (第94図742・744)

条線を施した口縁部文様帯に沈線文で施文し、沈線文部の条線を磨消す紐線文系土器一群で、量的には微量である。地文の条線は密である。時期は安行2式～安行3a式であろう。

742はレンズ状弧線文と弧線文間の条線を磨り消している。744は垂下する平行沈線内に施し内部の条線を磨消している。丁寧に磨消している部分と指でなぞっただけの荒い磨消しが見られる。

地文となる条線が施されないもの (第92図705、第93図733、第94図743、745～747・751、第96図767～769) 条線が全く施されず、口縁部に沈線文が施されるもので、条線が伴う3b類がより簡略化されたものと考えられる。本類の時期は安行3b式～安行3c式であろう。

3d類 沈線文が施されるもの (第93図733、第94図743・747・751、第96図767～769)

733はレンズ状弧線文の中央に沈線が施され、木の葉状を呈する。斜行する平行沈線と弧線文が施される。743は弧状沈線が施される。747は口縁部に沈線で弧線や直線を施す。751・767～769は口唇部と胴部に施されるべき紐線文が失われ無文となる。751は口縁部に弧状の平行沈線を施す。焼成後の穿孔が施される。767～769は口縁部に弧線文、768は横走する沈線、769は対向弧線と平行沈線による弧線が施される。折返し状口縁となる。

3e類 沈線文の内部に縄文を充填するもの (第94図745・746)

本類は、3b類や3c類において施される沈線文に縄文を充填するものである。本類の時期は安行3a式～安行3b式であろう。745・746は弧状の平行沈線が施され、縄文が充填されている。

3f類 沈線文の内部に列点が充填されるもの (第92図705)

705は胴部の紐線には棒状工具を押し当てたような押捺、口唇には連続する刺突を施す。口縁部にはハ

の字状に並行沈線文を施し、内部に押しき状の列点を充填している。本類の時期は安行3c式であろう。

4類 附点紐線文系土器 (第95図)

紐線の貼付けがなく、工具による連続刺突文が主である。地文として弧状の条線が施されるものや一部沈線が施されるものがある。おおよそ安行1式～安行2式の時期と考えられる。口唇部は肥厚するが紐線の貼付けがないので、口唇部内面に沈線は施されない。器形は砲弾形乃至は口縁部が直線的に立ち上がる器形のもので占められる。752は口唇部と胴部に2本の横位沈線を施し、間に連続刺突が施される。条線は口唇部から胴部上半にかけて施した後に、底部から胴部下半にかけて施されている。底径3cm程度である。755・764は沈線による文様を施すもので、755は地文条線がなく、口縁部に弧状や斜位の平行沈線を施すもの。764は口縁部に細い沈線に対向弧線が施される。756・761は口端が角頭状になる。

5類 条線のみが施される土器 (第96図770～772)

770～772は条線のみが施される土器。口縁部が内湾乃至は内傾する砲弾形の器形で、口唇部は肥厚し、丸味のあるものよりも口端が面取りされた角頭状を呈するものが多い。弧状の条線を主体とし、条線は左から右への動きで施文されている。本類の時期は安行3c式～安行3d式であろう。

770は焼成後の穿孔が施されている。

6類 縄文のみが施された土器 (第96図773～774)

773は直線的に立ち上がる深鉢で、口縁部を沈線で区画し、縄文が充填される。口端は角頭状になる。焼成後の穿孔が1つ見られる。後期の可能性も考えられる。774は口縁部に1条の沈線を横走させ、胴部に結節縄文を施す。

7類 無文の土器 (第96図775～779)

縄文や沈線文などが施されない無文の土器を本類とする。器形は口縁部が内湾し砲弾形の器形と、口縁部が直立気味に立ち上がるものがある。775・776は口縁部が内湾する大型の砲弾形の深鉢土器である。775は口唇部が肥厚し有段となるもの。口唇部にはなにも施されず無文となっている。口唇部の形態から紐線文土器の系譜を持つものと考えられる。776は焼成後の穿孔が見られる。777～779は小型のもので、779は口唇部が肥厚し、内沈線が巡る。

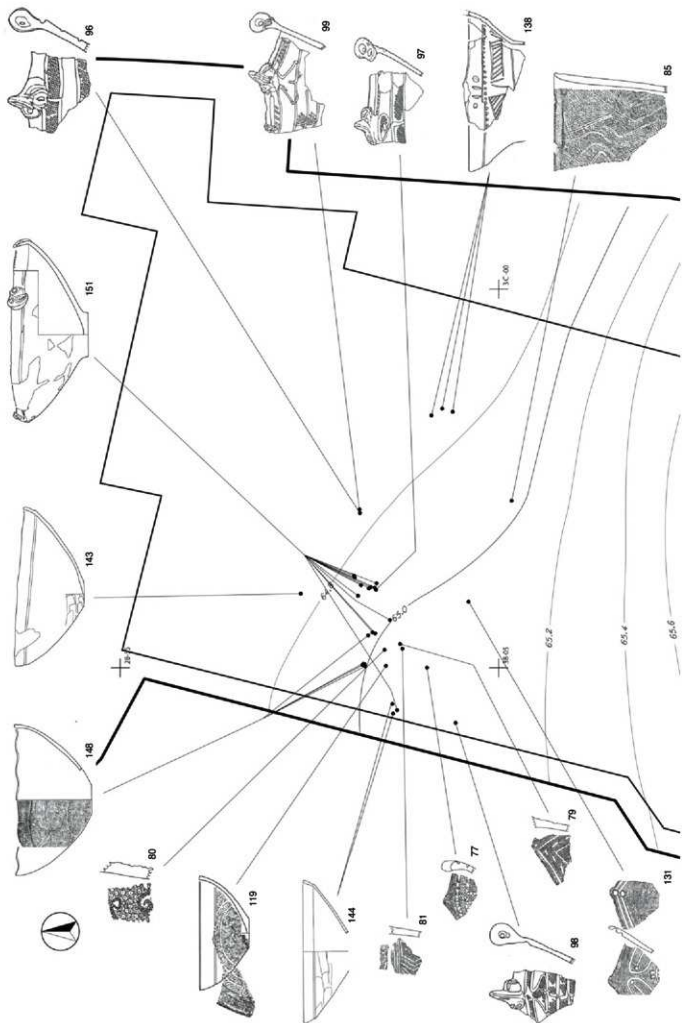
第13群 底部 (第97図)

780～804は網代痕を伴うもの。780は、経1本潜り1本超え、緯1本超え1本潜り1本送り。781は、経2本潜り2本超え、緯2本超え2本潜り1本送り。782は、経2本潜り2本超え、緯2本超え2本潜り2本送り。783～796は、経2本潜り1本超え、緯2本超え1本潜り右1本送り。797～799は、経2本潜り1本超え、緯2本超え1本潜り左1本送り。800～802は不明なもの。805は地文縄文に平行沈線が施される。806は弧線文内に充填縄文が施される。

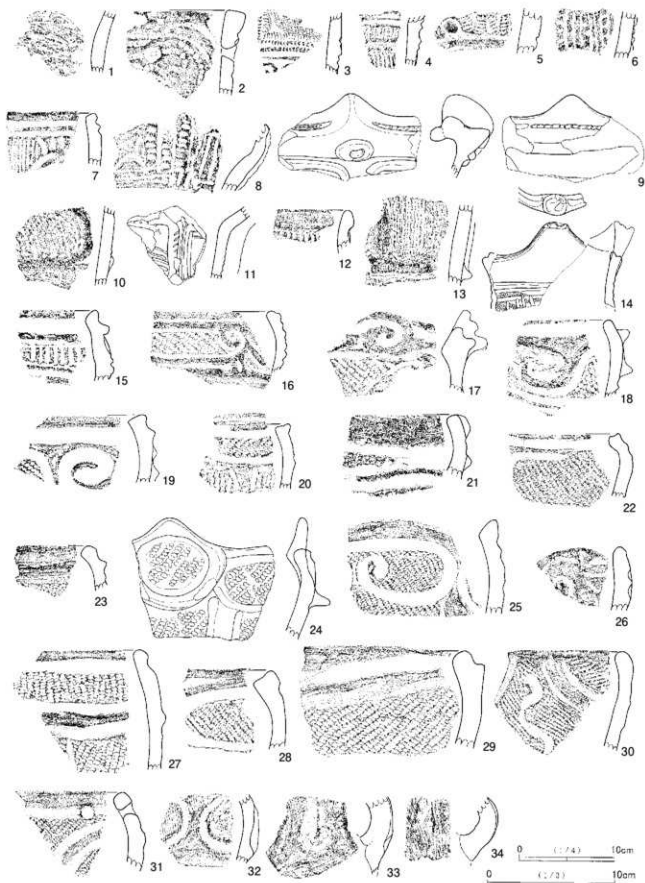
2 土製品

A区から出土した土製品は、注口土器11点、異形台付土器8点、ミニチュア土器2点、手燭形土製品1点、釣手土器1点、耳飾6点、土偶1点、断面に擦痕が残る土器が1点、土器片錘7点、有孔円盤2点、土器片円盤は190点、内肉化したもので52点である。時期は後期から晩期中葉にわたっている。

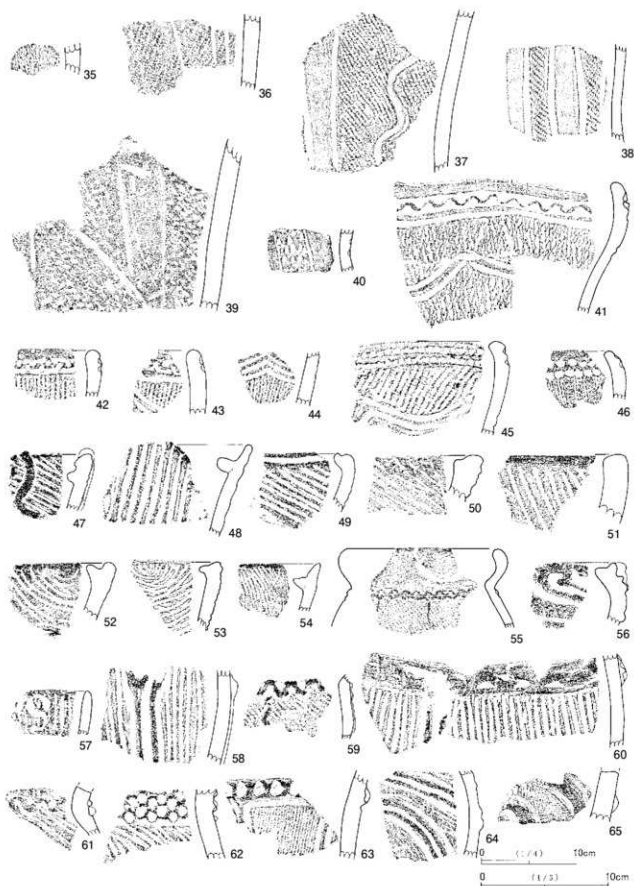
808～818は注口土器である。808は集合細線と撚紐状の文様が施される。810は交差する縄文帯が巡る。808～810は加曾利B1式と考えられる。812は4単位の小突起を有する波状口縁となり、口縁部は無文と



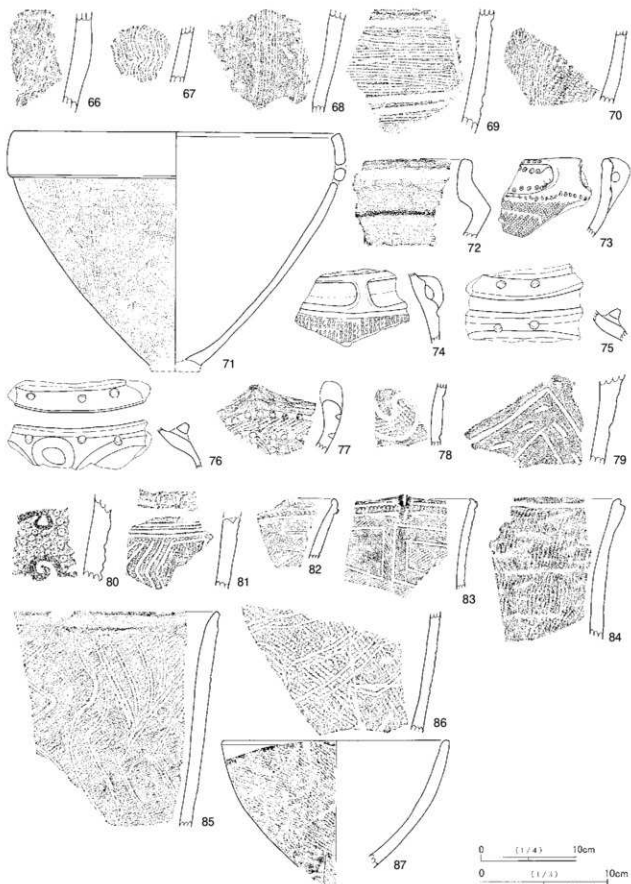
第42图 A区后期土器出土分布图(3·4群)



第43图 A区包含层出土器(1)



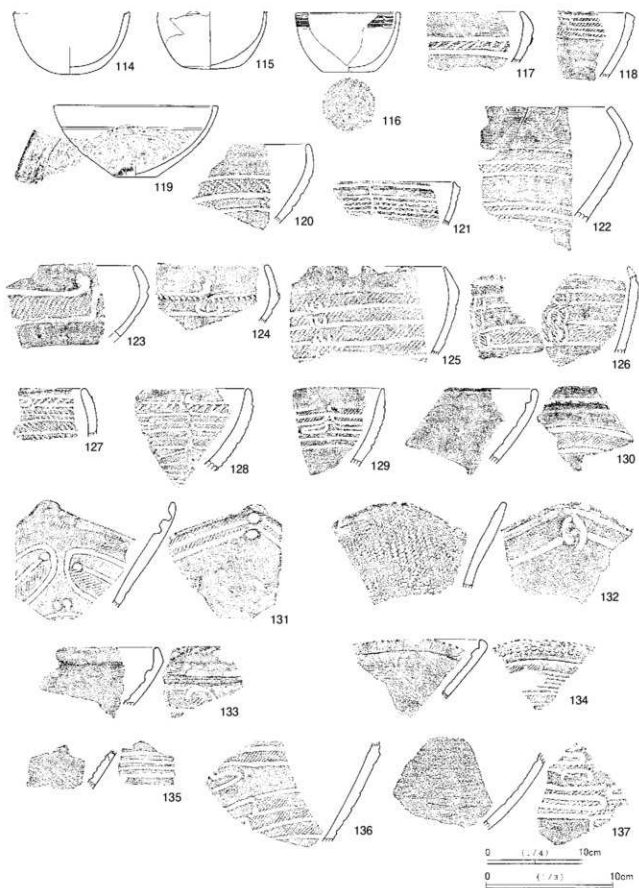
第44图 A区包含层出土器(2)



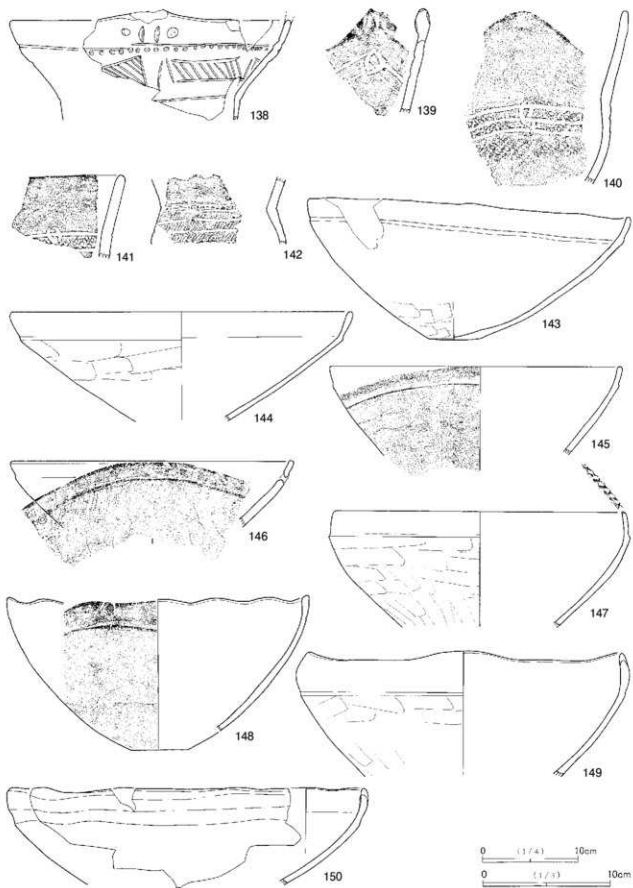
第45图 A区包含层出土土器(3)



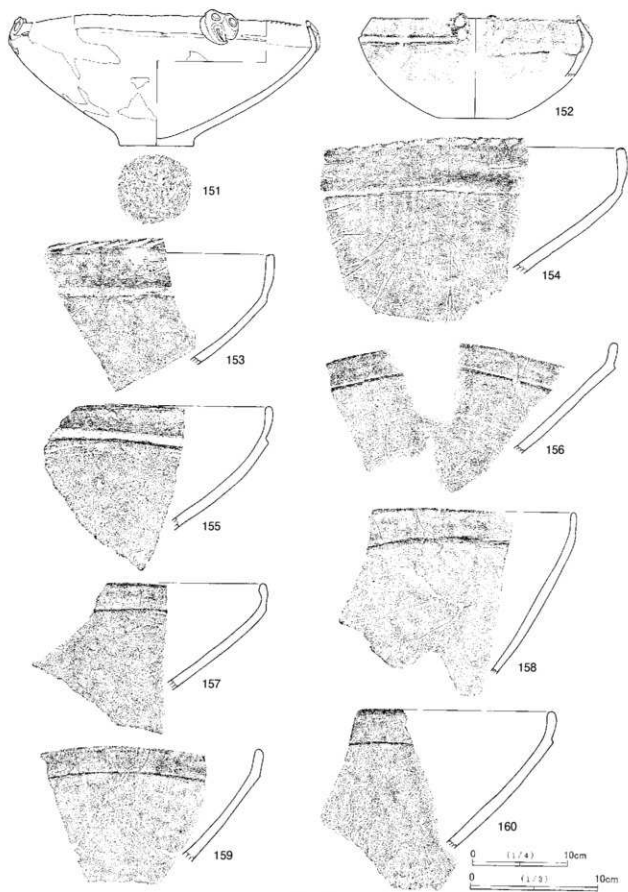
第46图 A区包含层出土土器(4)



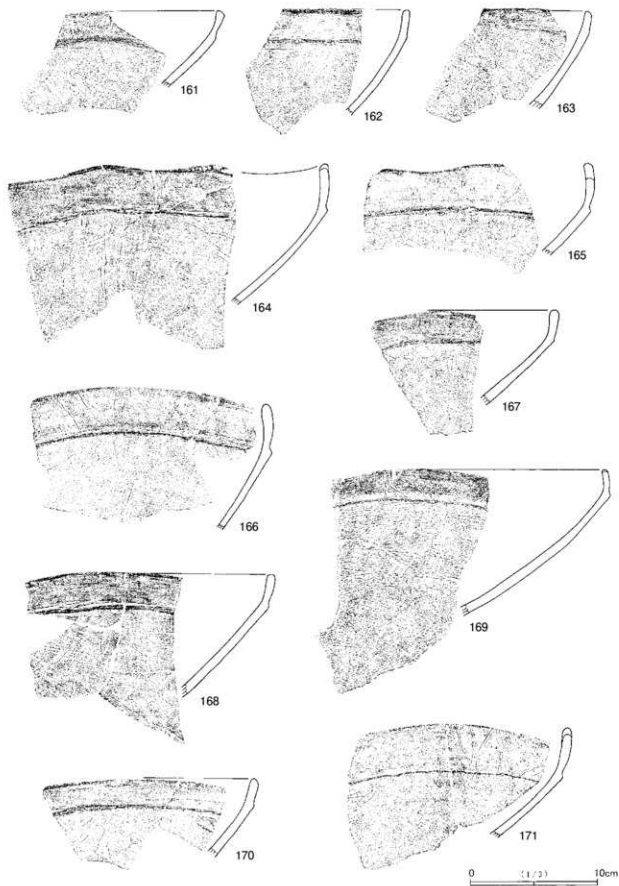
第47图 A区包含层出土器(5)



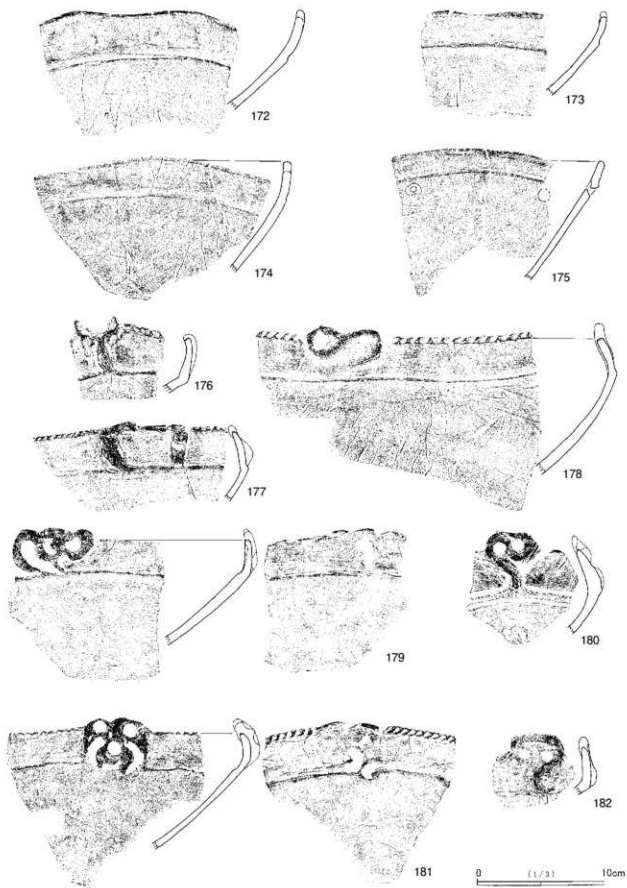
第48图 A区包含层出土土器(6)



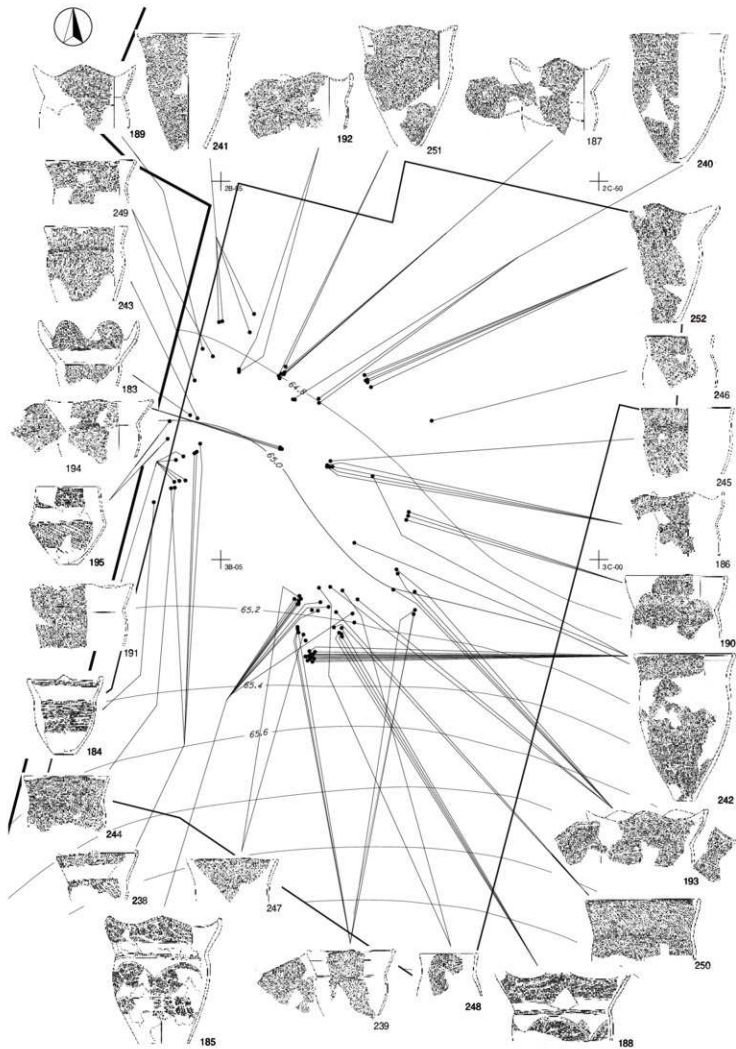
第49图 A区包含层出土土器(7)



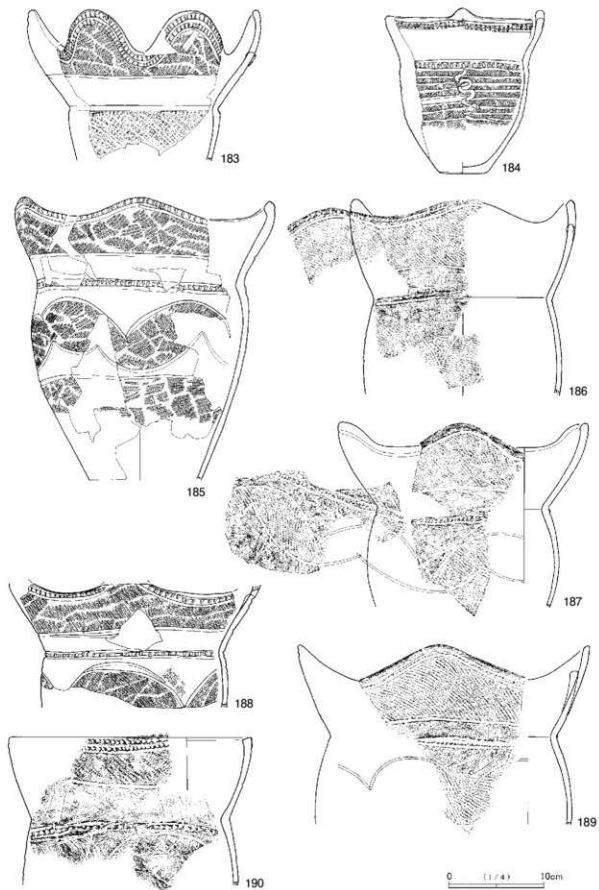
第50图 A区包含层出土土器(8)



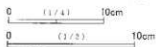
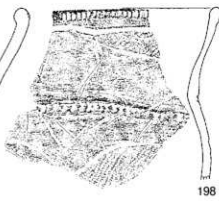
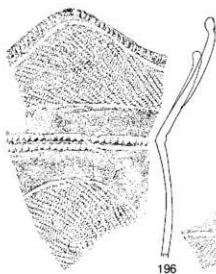
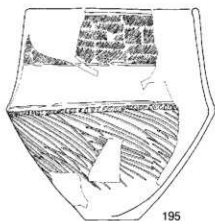
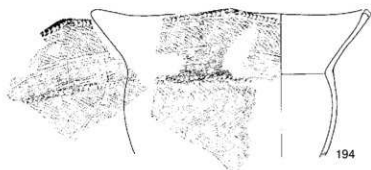
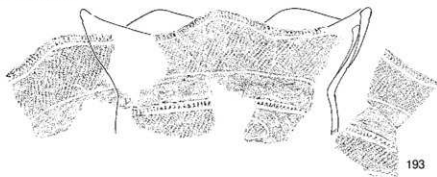
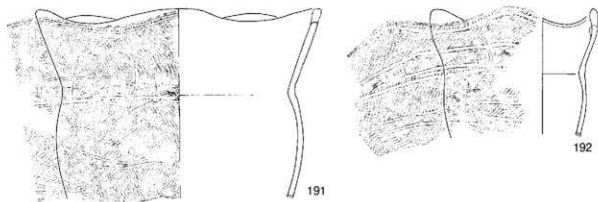
第51图 A区包含层出土器(9)



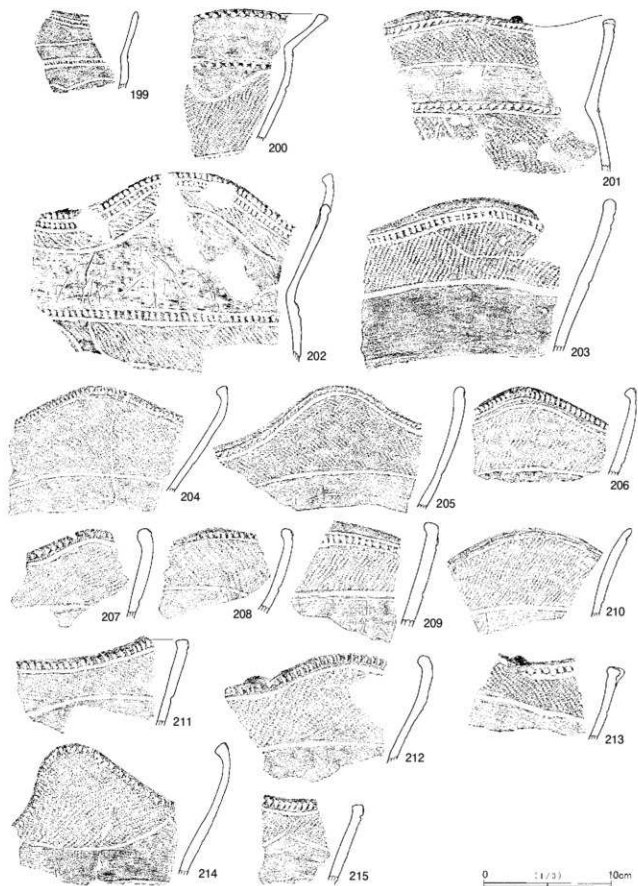
第52图 A区後期土器出土分布图(5群)



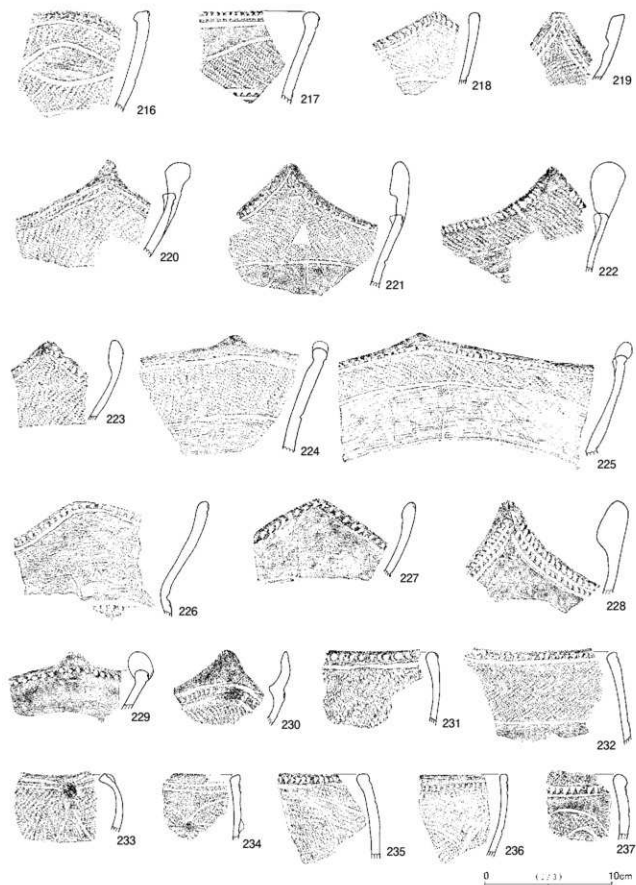
第53图 A区包含层出土土器(10)



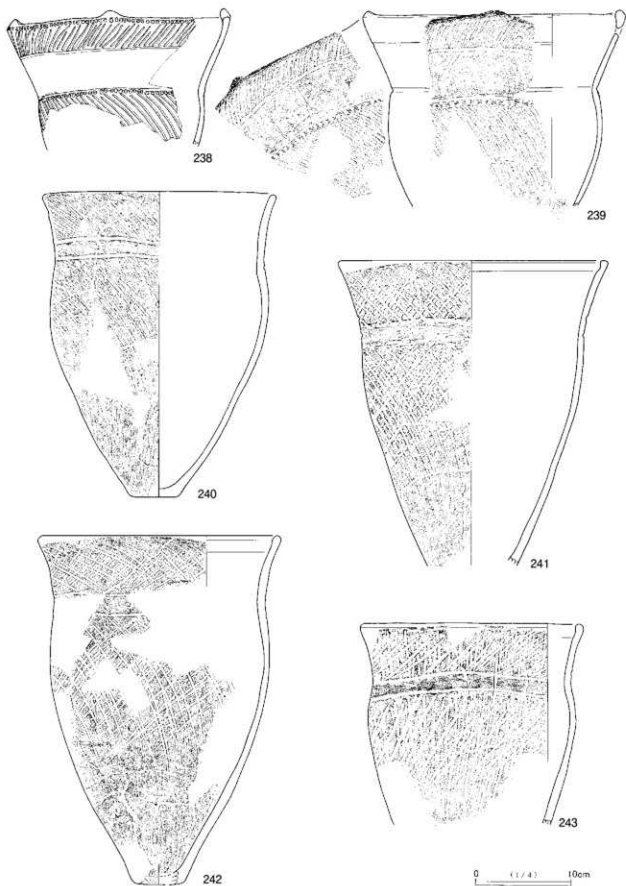
第54图 A区包含层出土器(11)



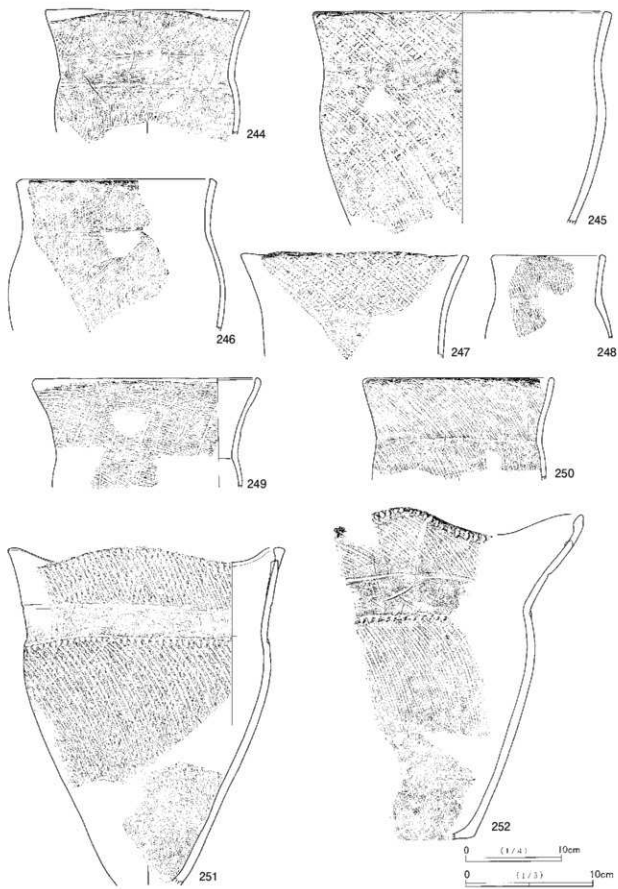
第55图 A区包含层出土土器(12)



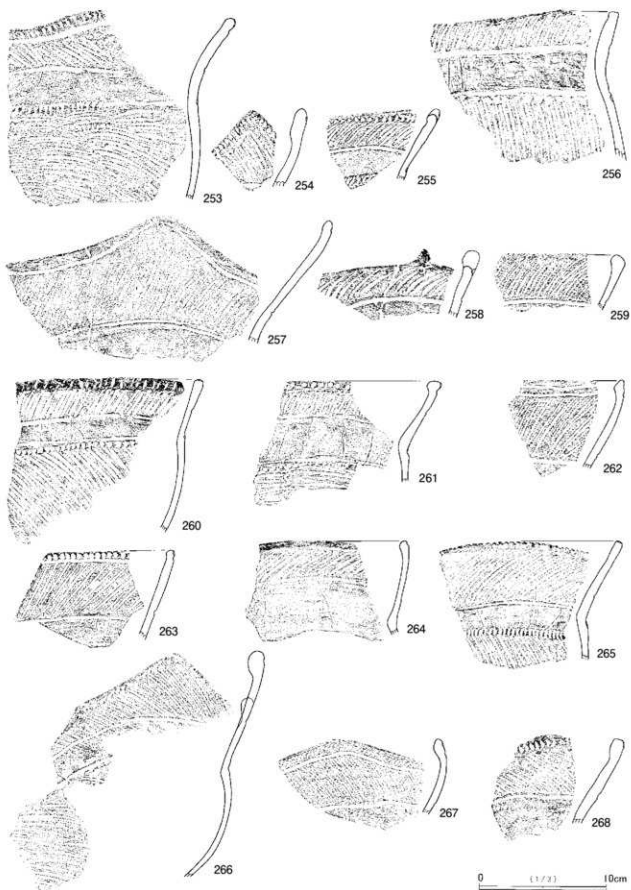
第56图 A区包含层出土器(13)



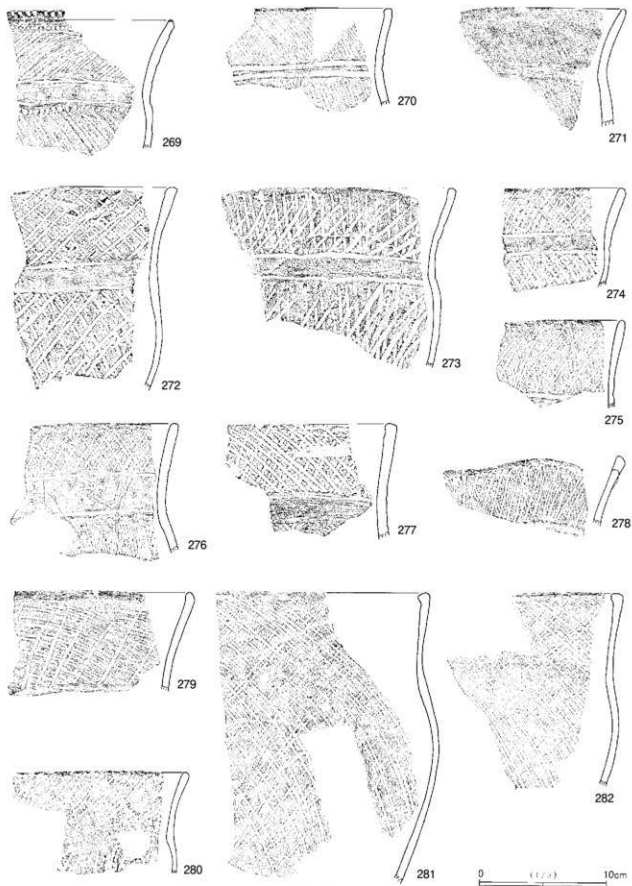
第57图 A区包含层出土土器(14)



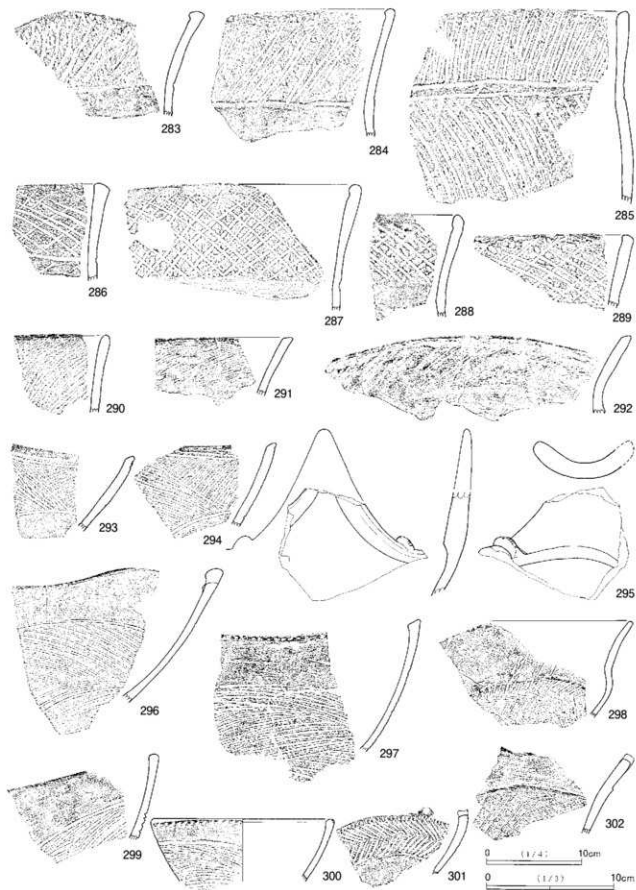
第58图 A区包含层出土土器(15)



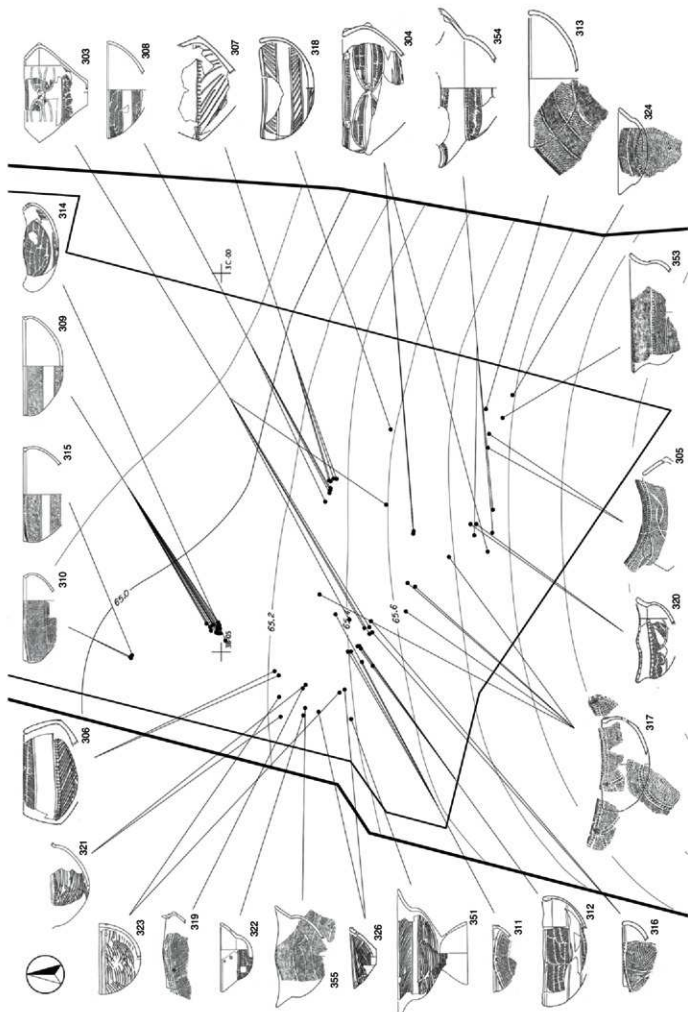
第59图 A区包含层出土土器(16)



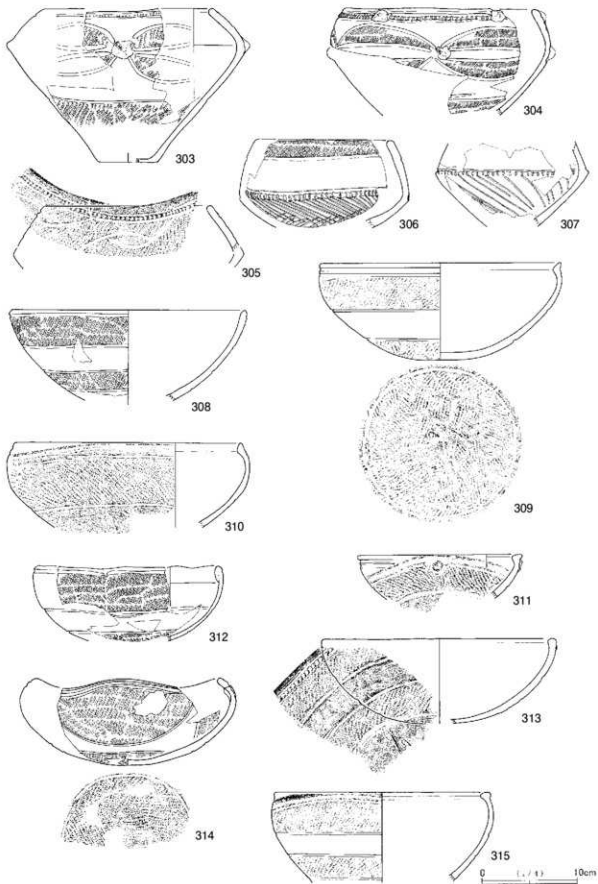
第60图 A区包含层出土土器(17)



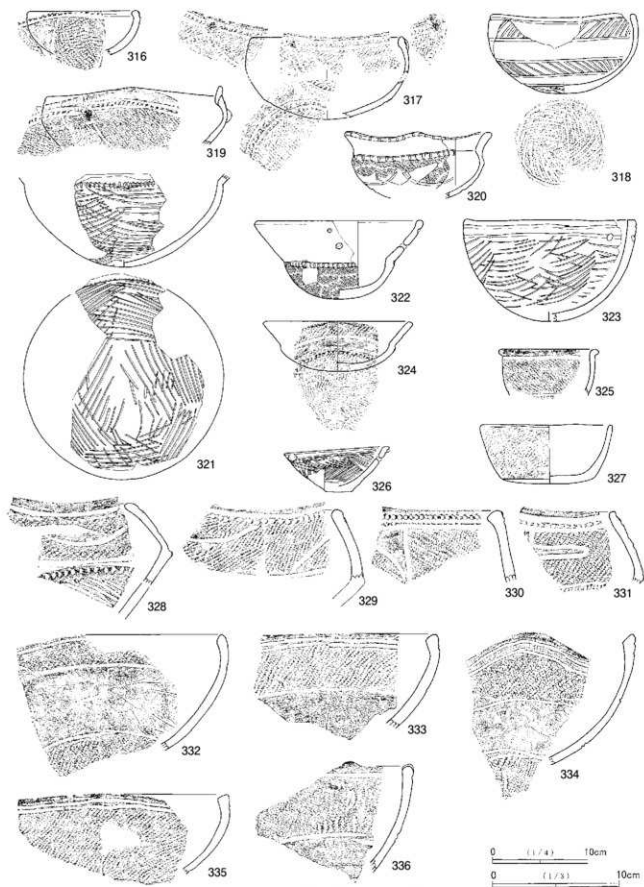
第61图 A区包含层出土土器(18)



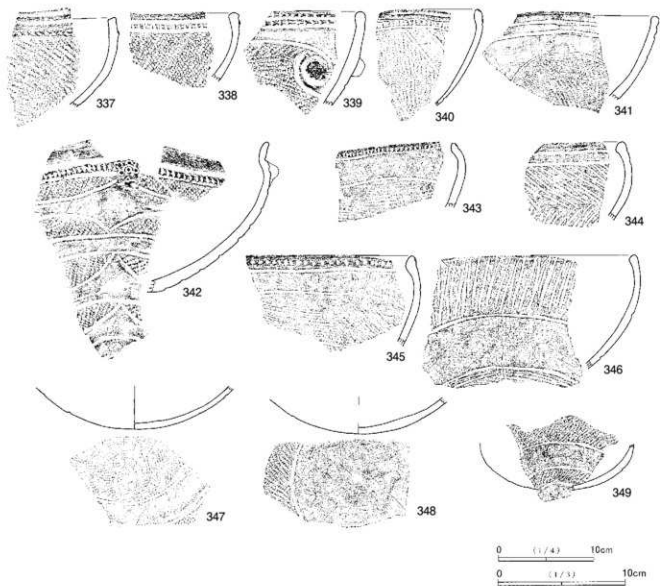
第62图 A区后期土器出土分布图(6群)



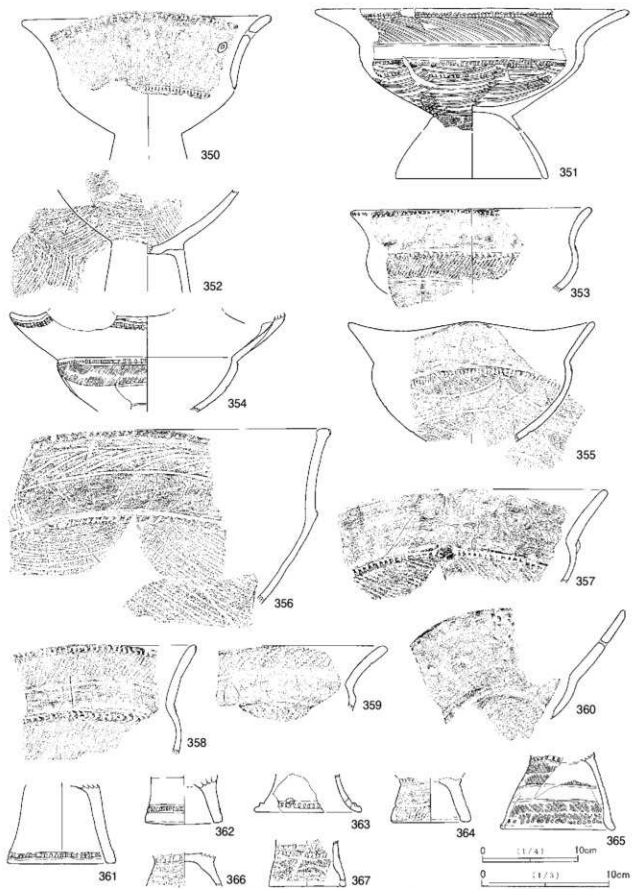
第63图 A区包含层出土土器(19)



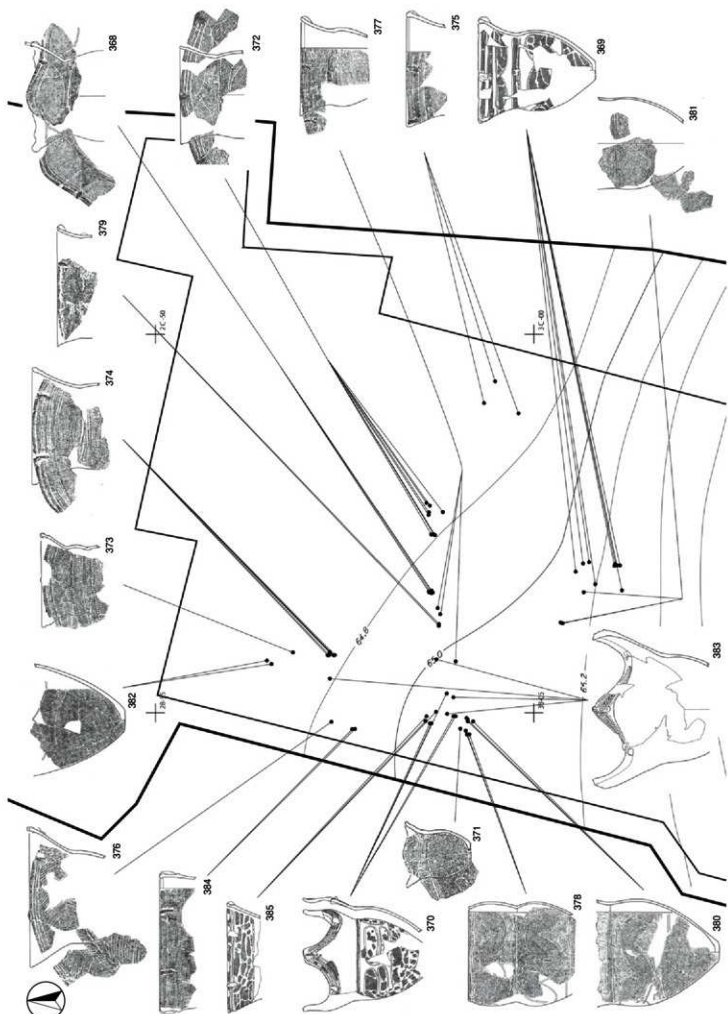
第64图 A区包含层出土土器(20)



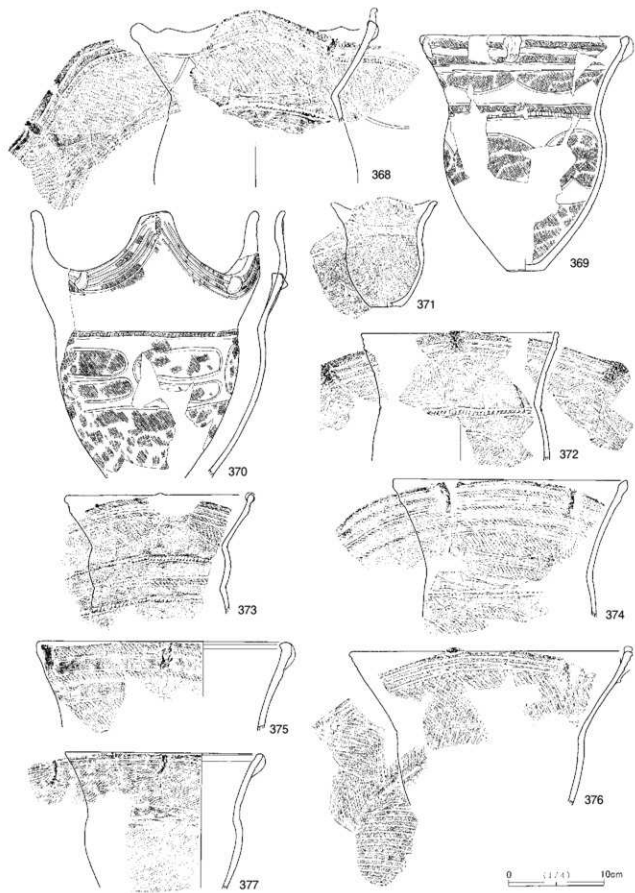
第65图 A区包含层出土土器(21)



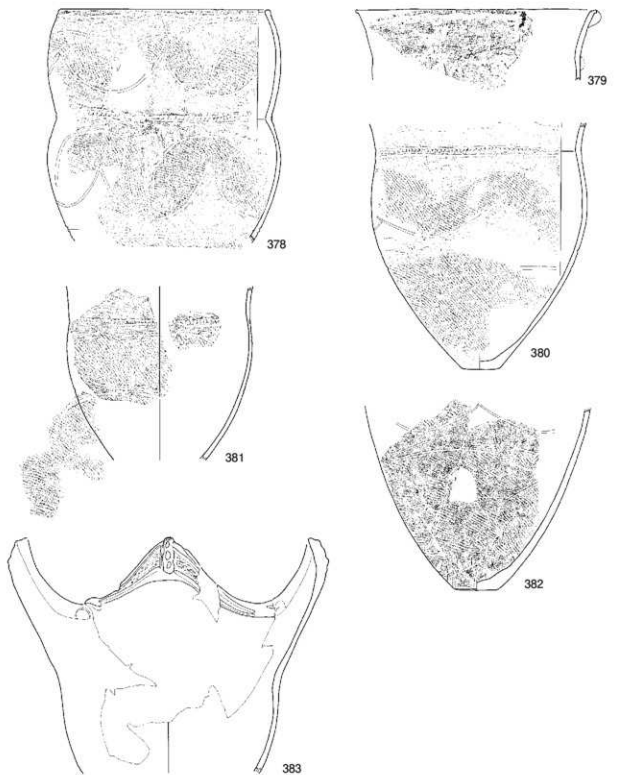
第66图 A区包含层出土土器(22)



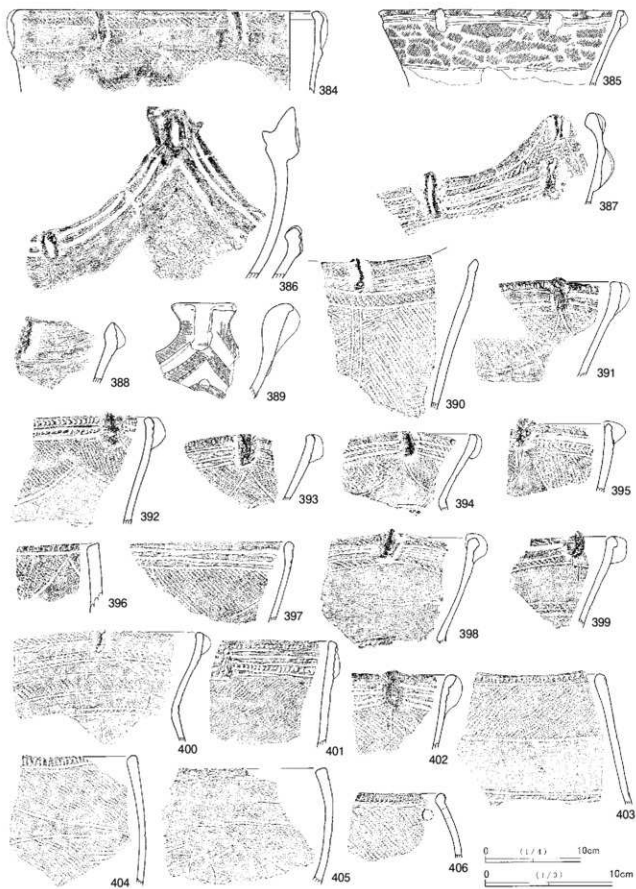
第67图 A区後期土器出土分布图(7群)



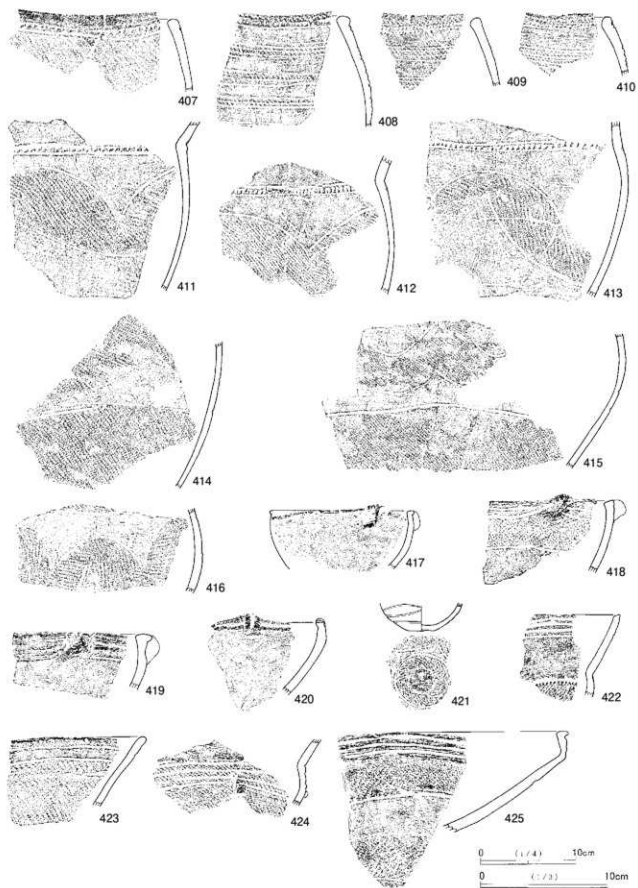
第68图 A区包含层出土土器(23)



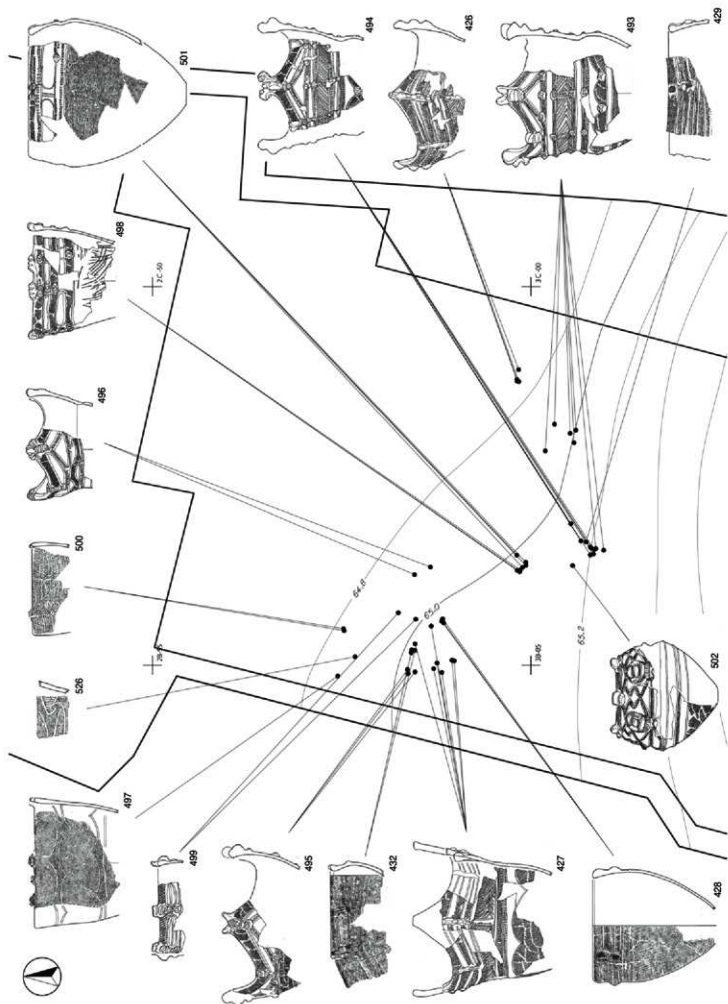
第69图 A区包含层出土土器(24)



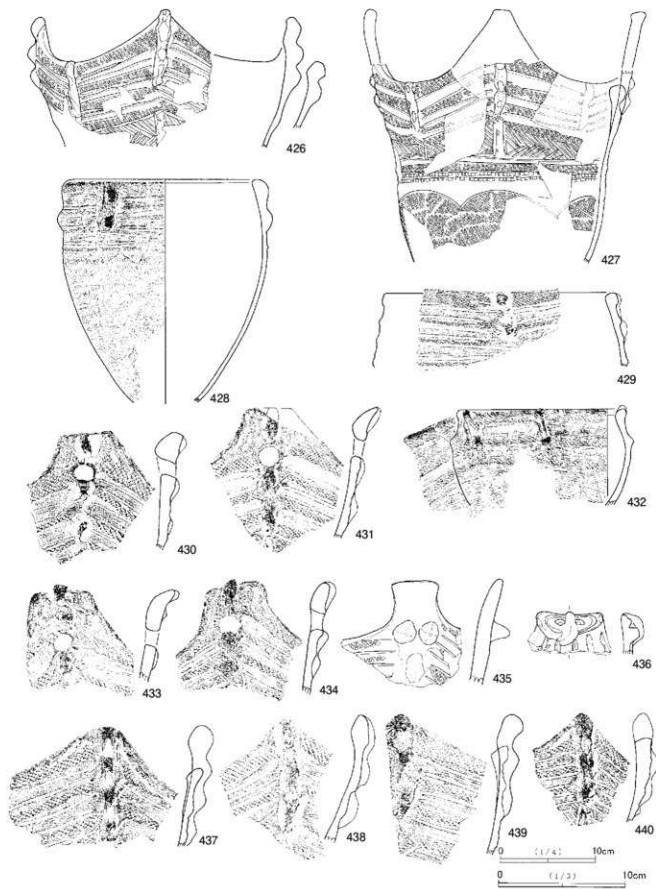
第70图 A区包含层出土土器(25)



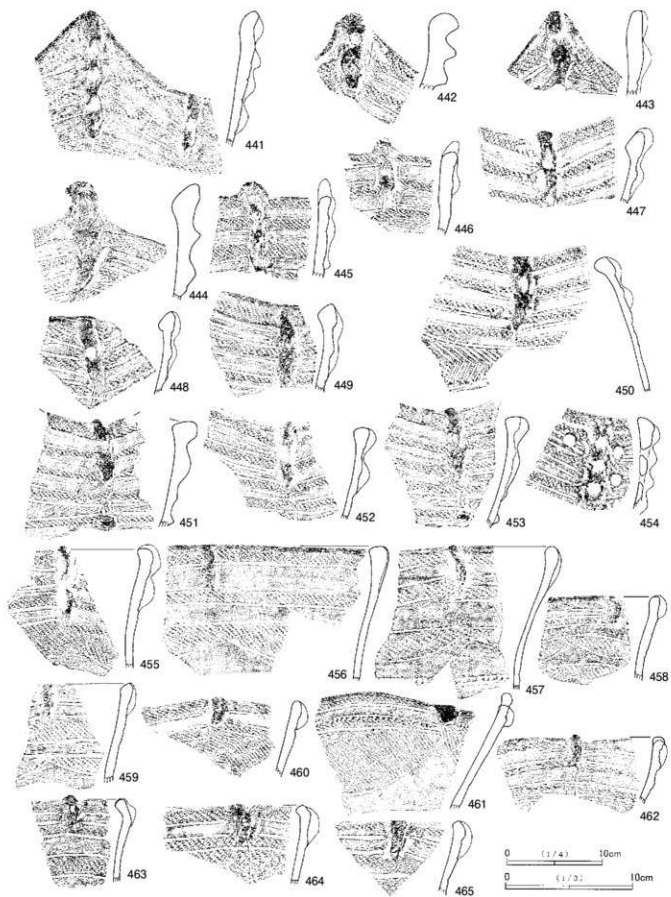
第71图 A区包含层出土器(26)



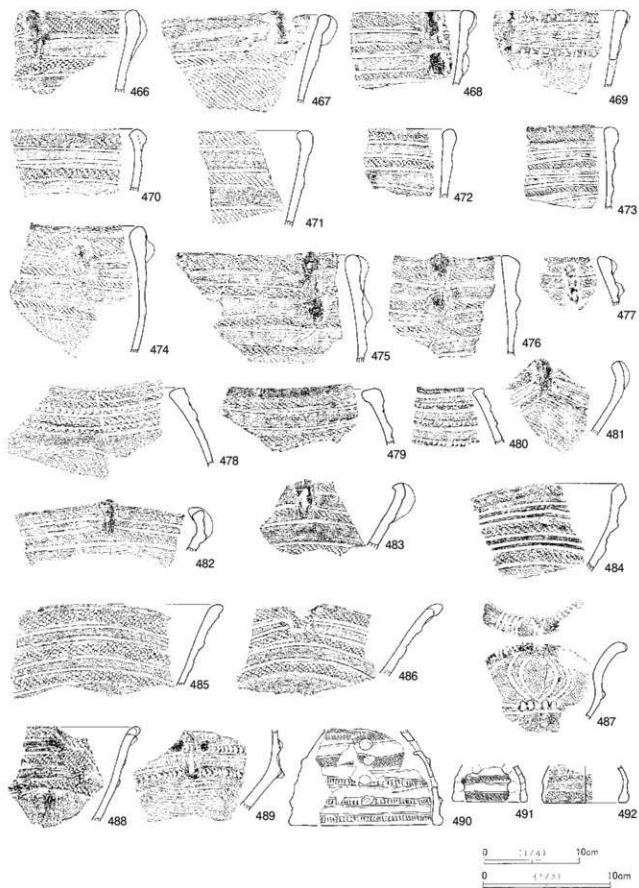
第72图 A区後期土器出土分布图(8·9群)



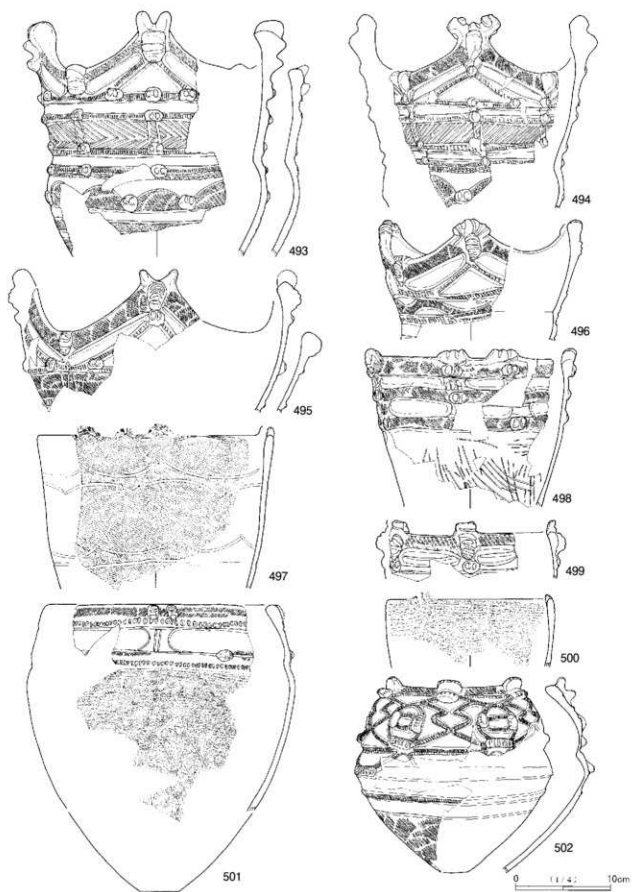
第73图 A区包含层出土土器(27)



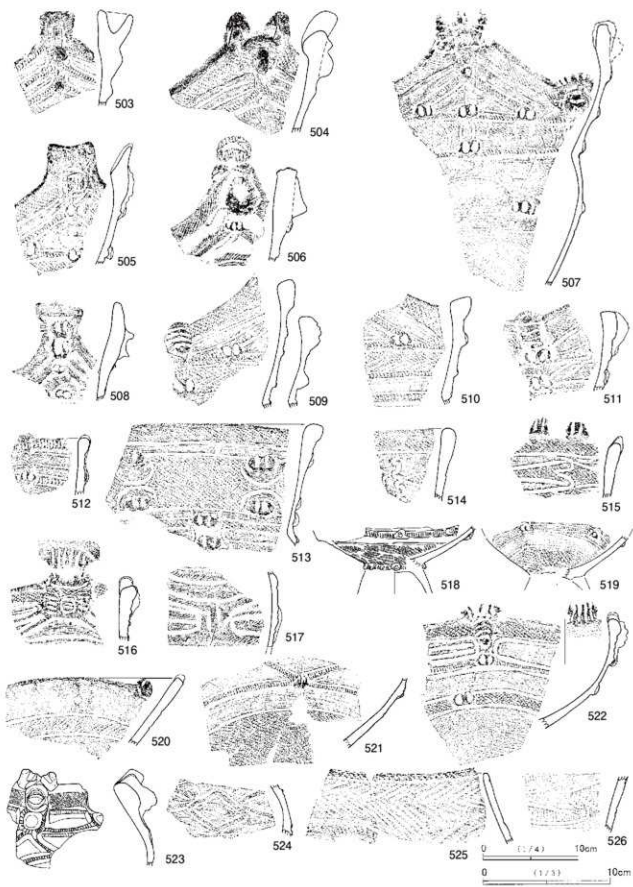
第74图 A区包含层出土土器(28)



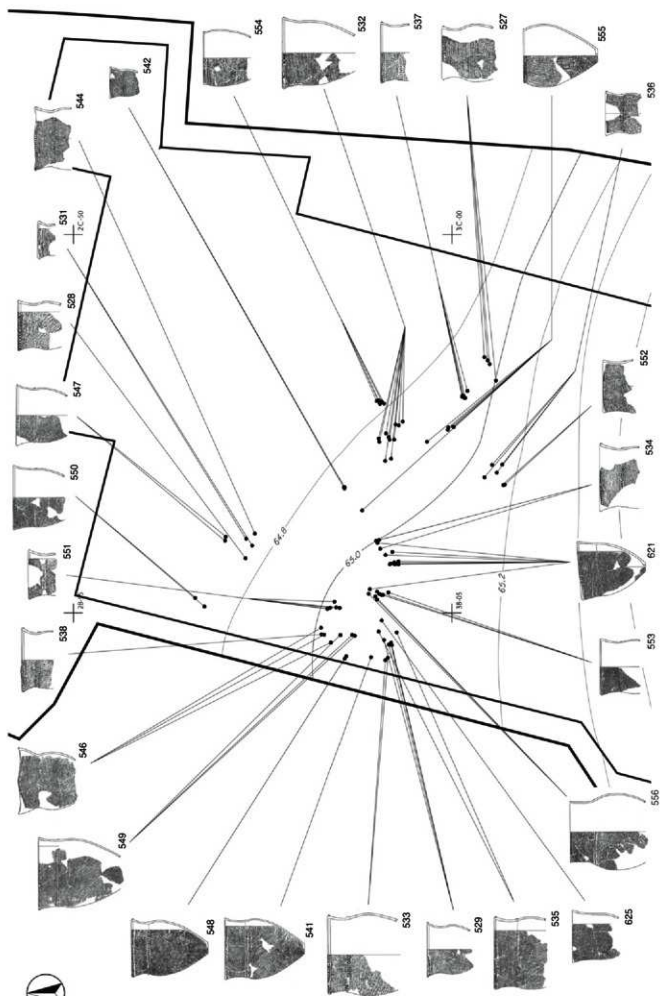
第75图 A区包含层出土器(29)



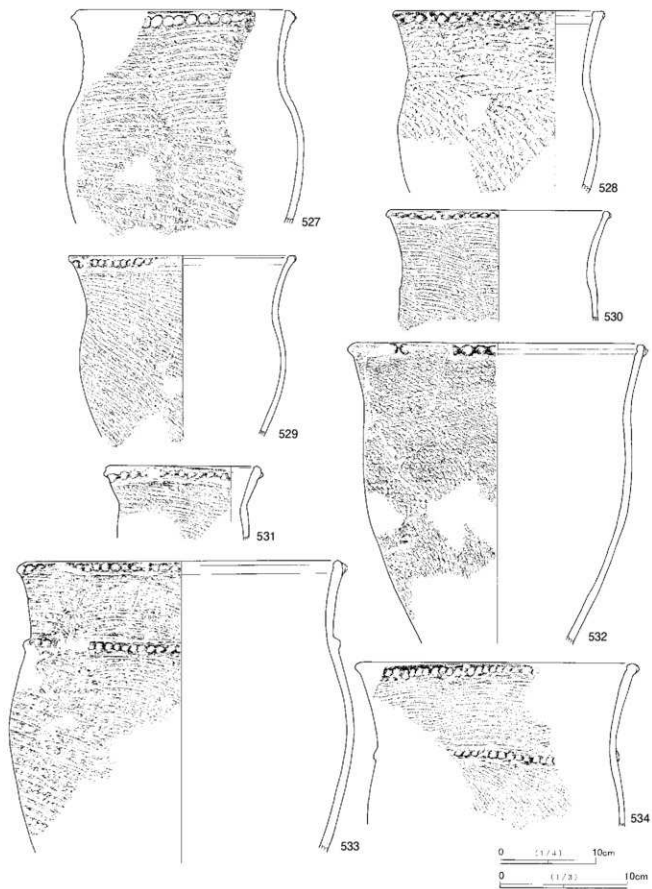
第76图 A区包含层出土土器(30)



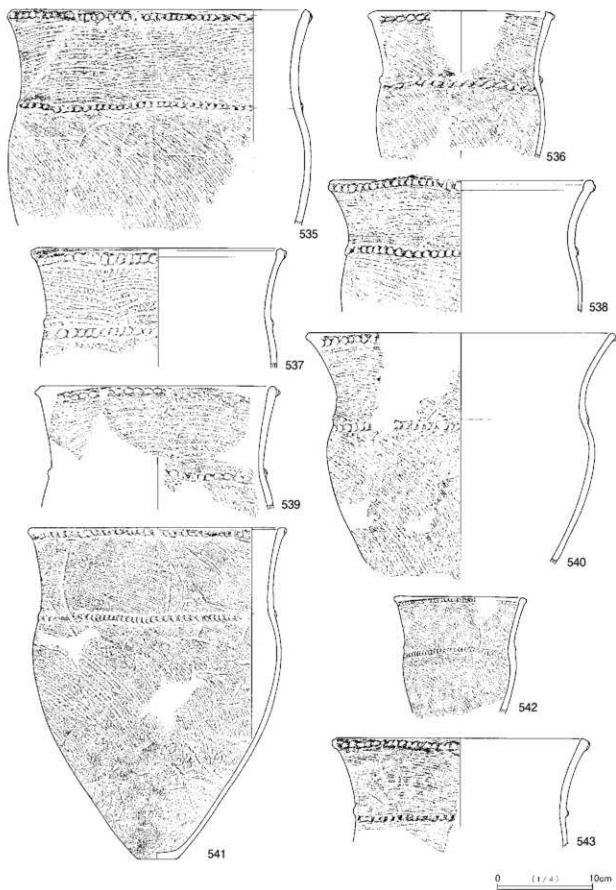
第77图 A区包含层出土土器(31)



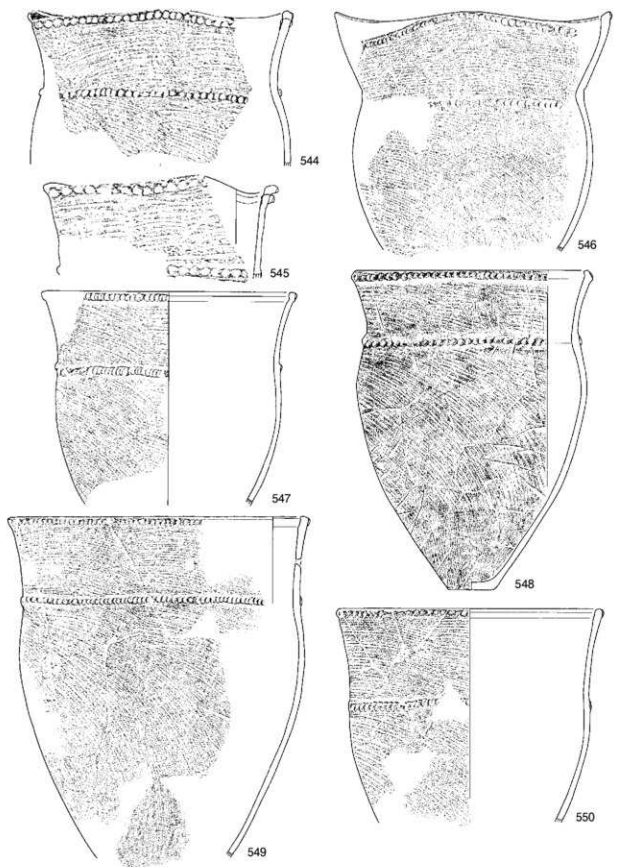
第78图 A区後期土器出土分布图(10群)



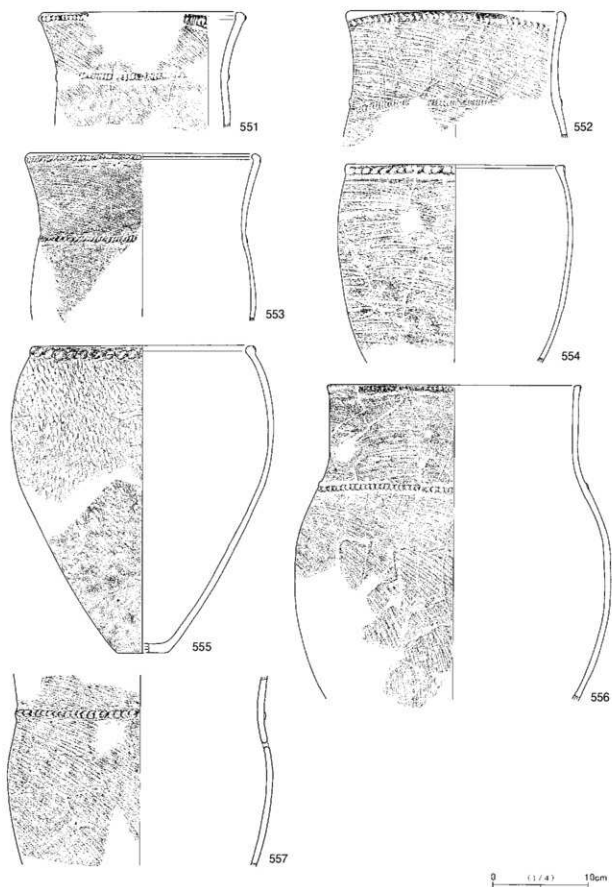
第79图 A区包含层出土土器(32)



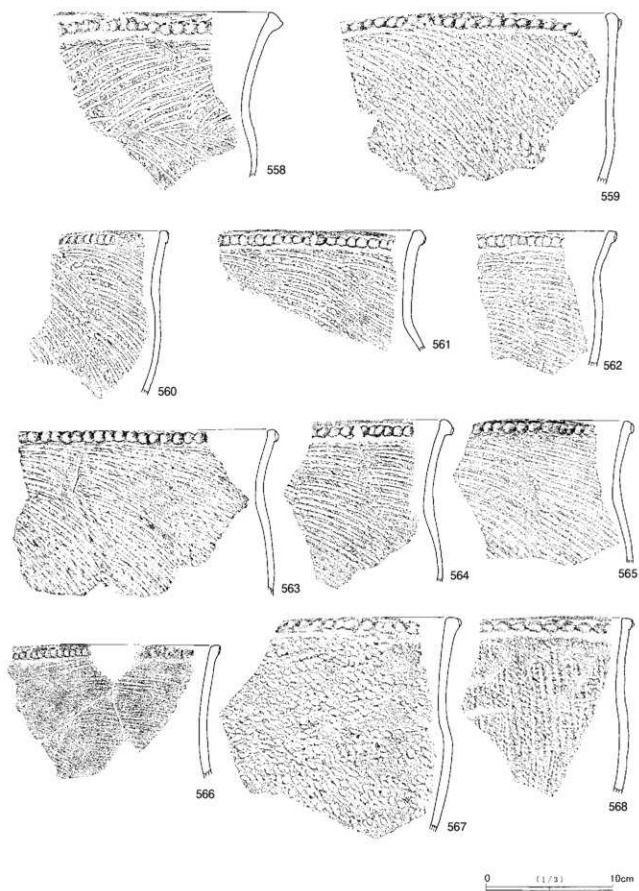
第80图 A区包含层出土土器(33)



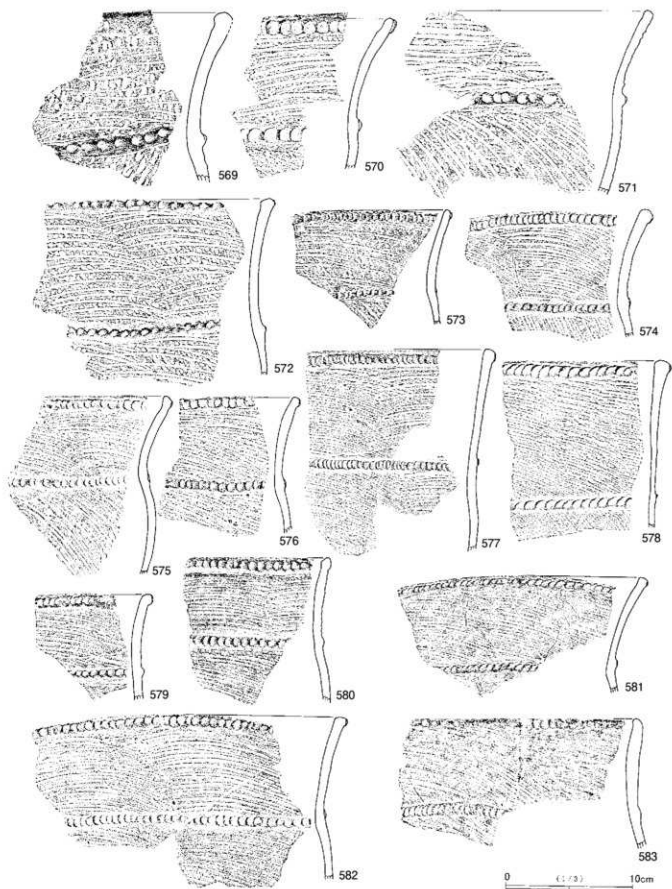
第81图 A区包含层出土土器(34)



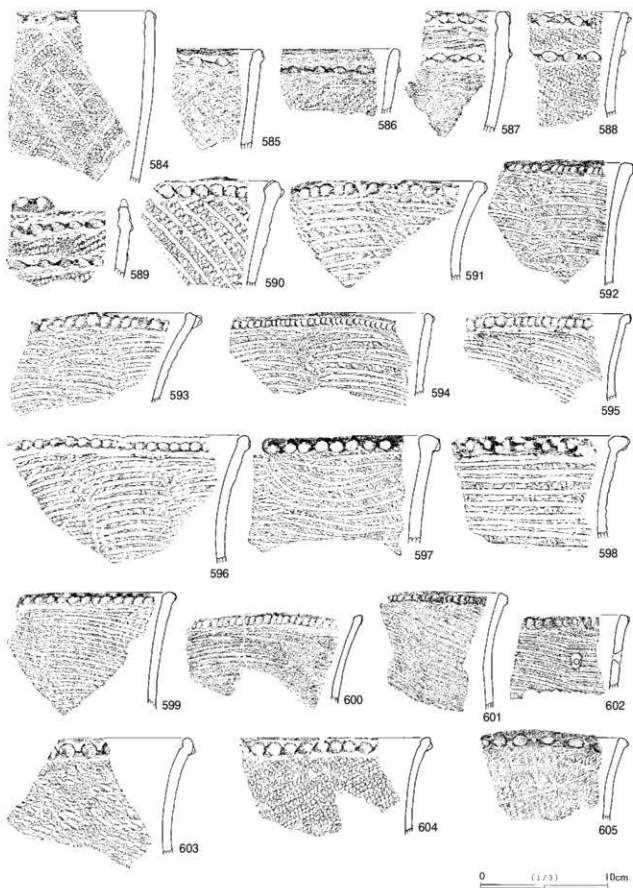
第82图 A区包含层出土土器 (35)



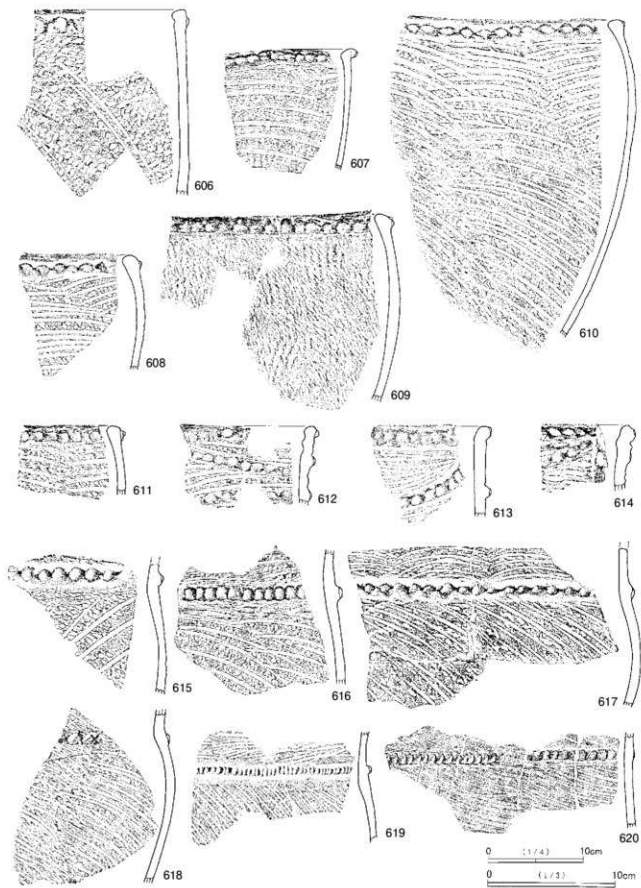
第83图 A区包含层出土土器(36)



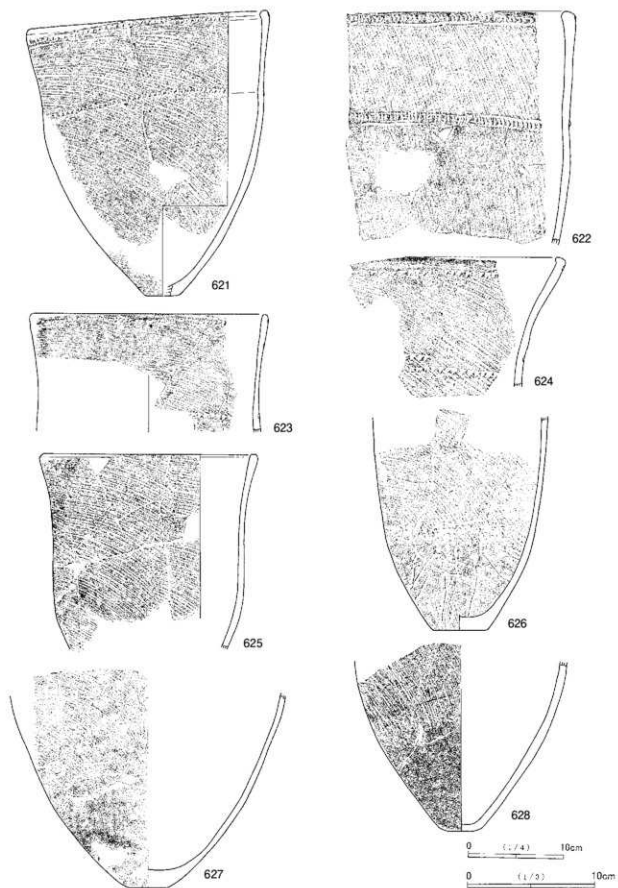
第84图 A区包含层出土土器(37)



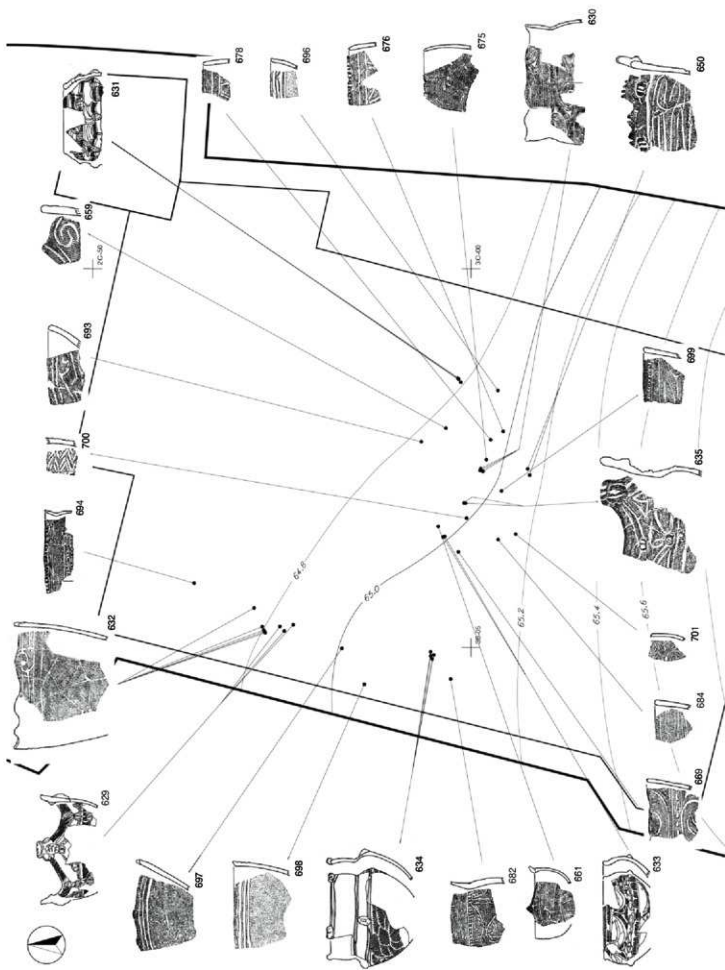
第85图 A区包含层出土土器(38)



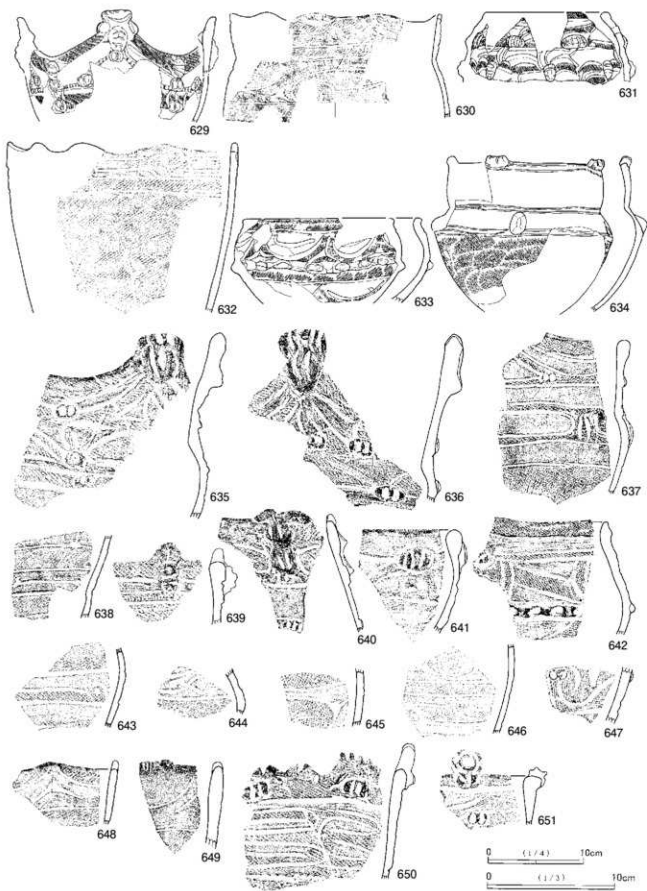
第86图 A区包含层出土土器(39)



第87图 A区包含层出土土器(40)



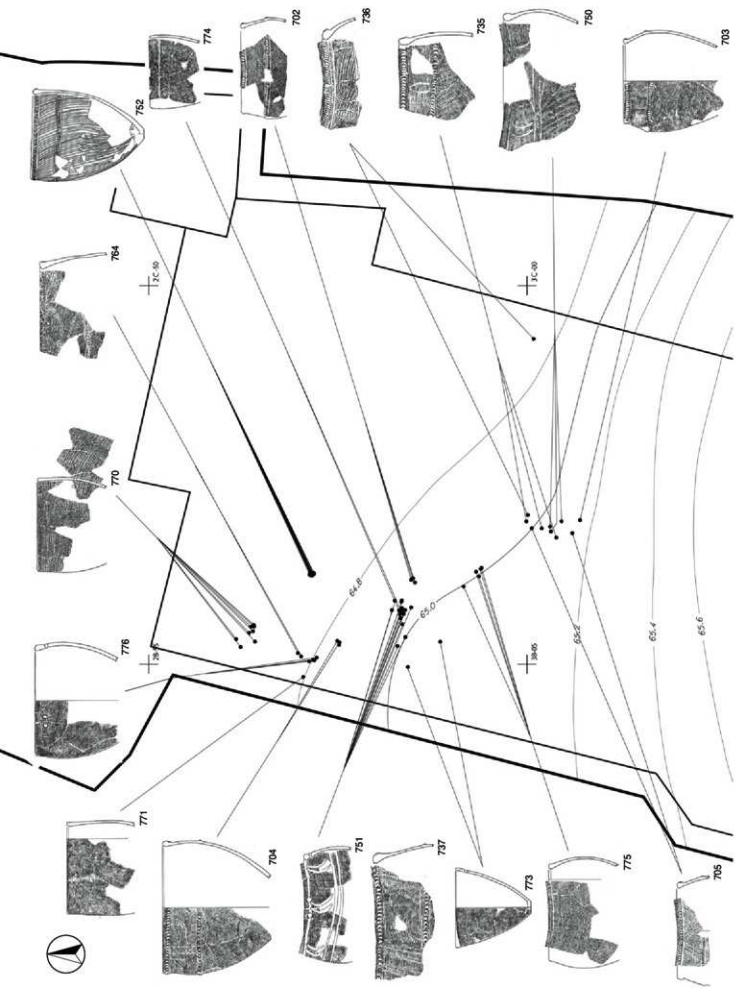
第88图 A区晚期土器出土分布图(11群)



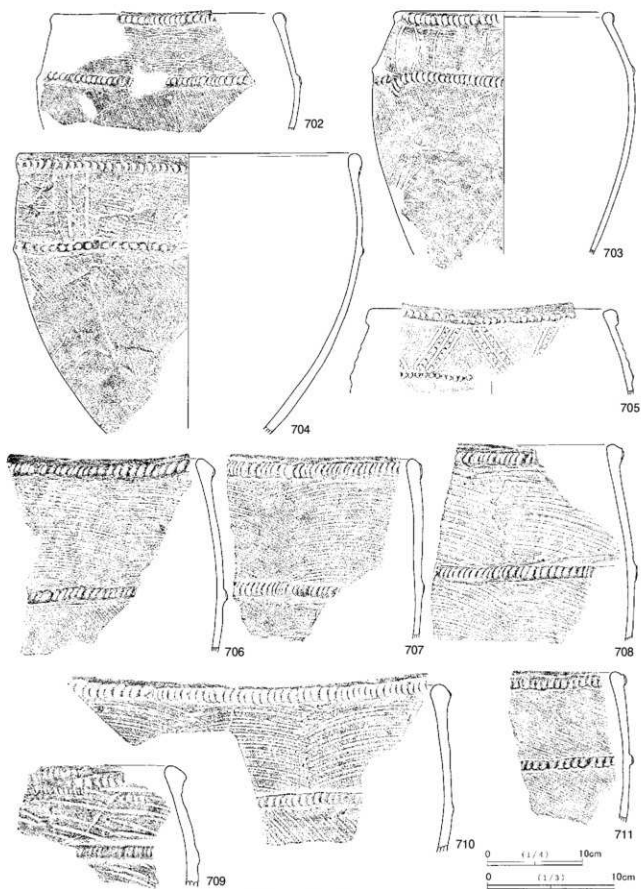
第89图 A区包含层出土土器(41)



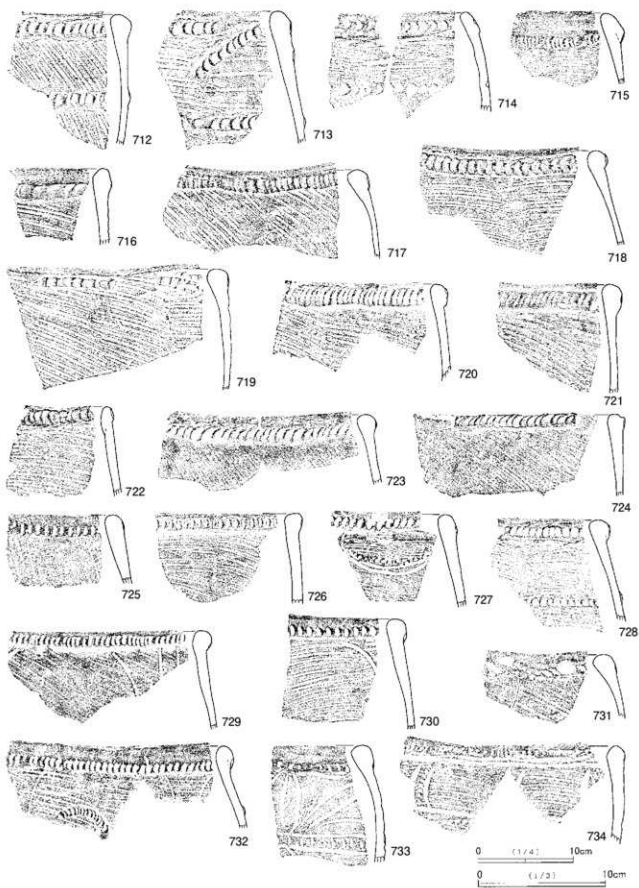
第90图 A区包含层出土土器(42)



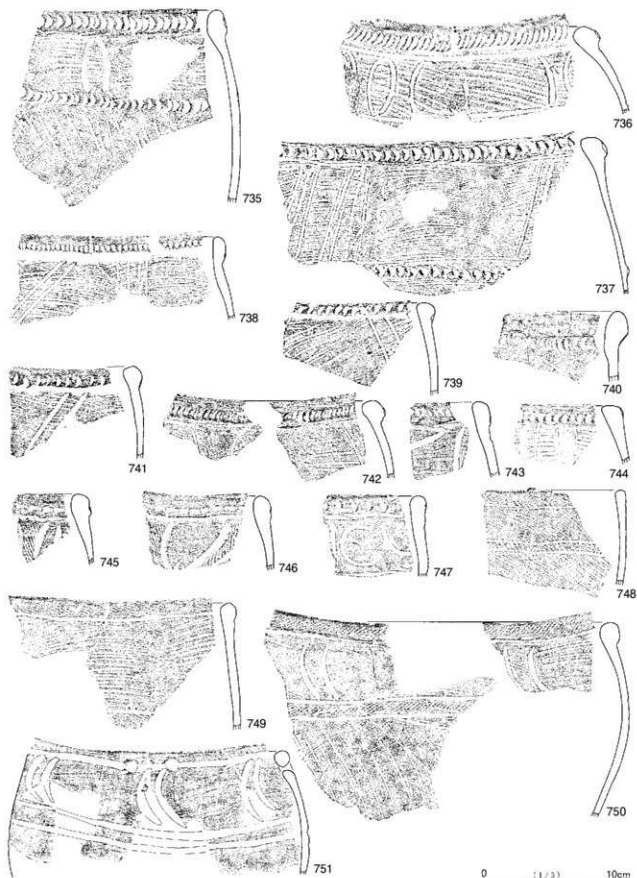
第91图 A区晚期土器出土分布图(12群)



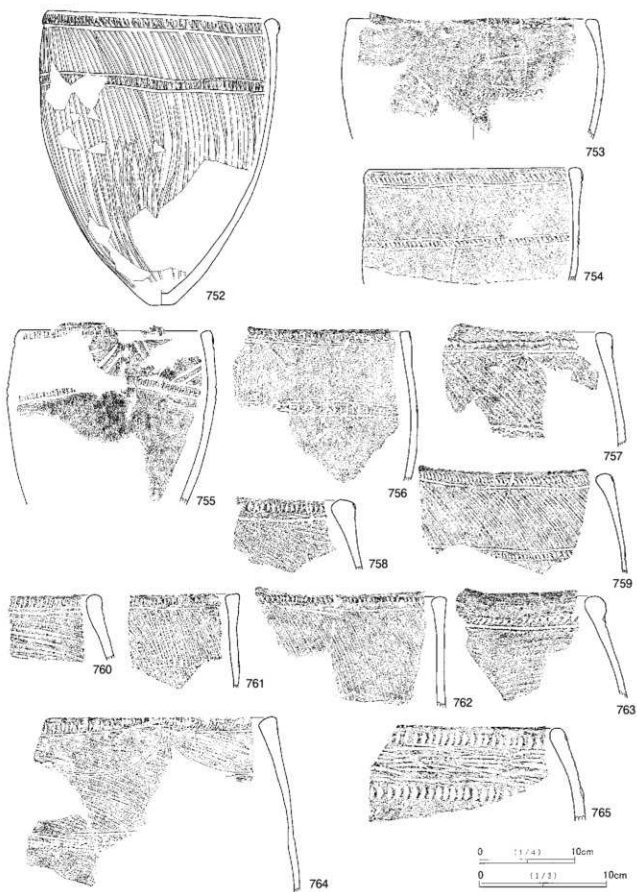
第92图 A区包含層出土土器(43)



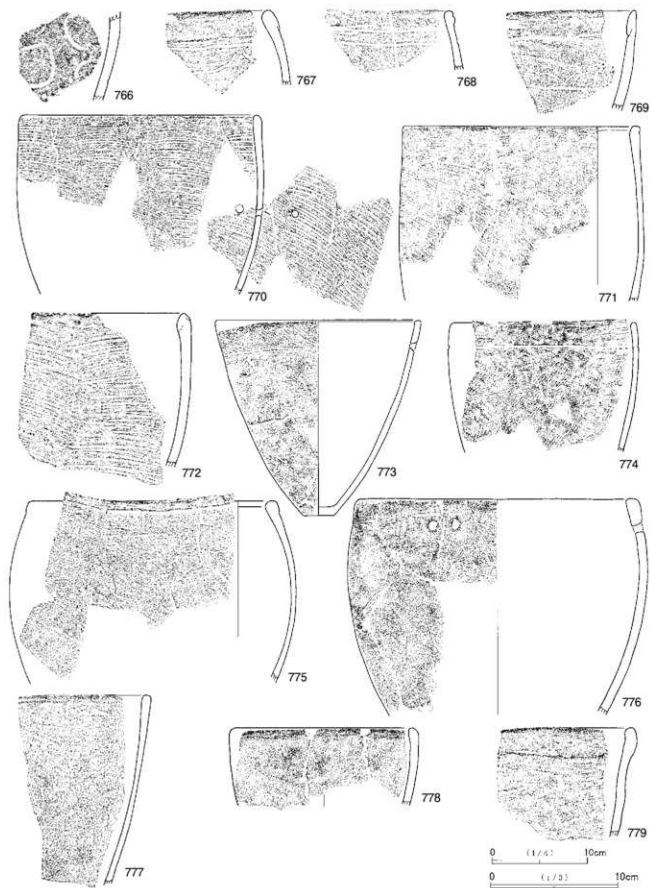
第93图 A区包含层出土器(44)



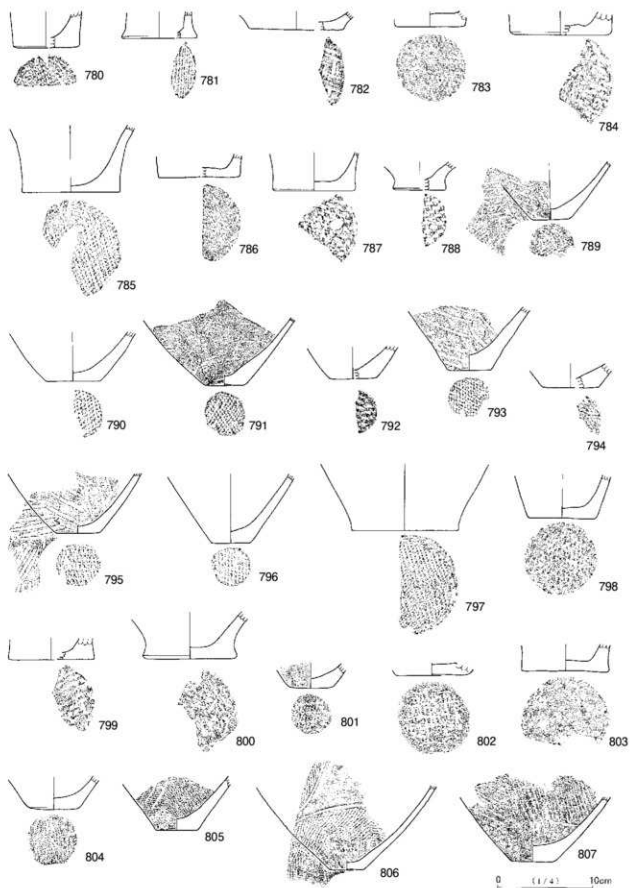
第94图 A区包含层出土器(45)



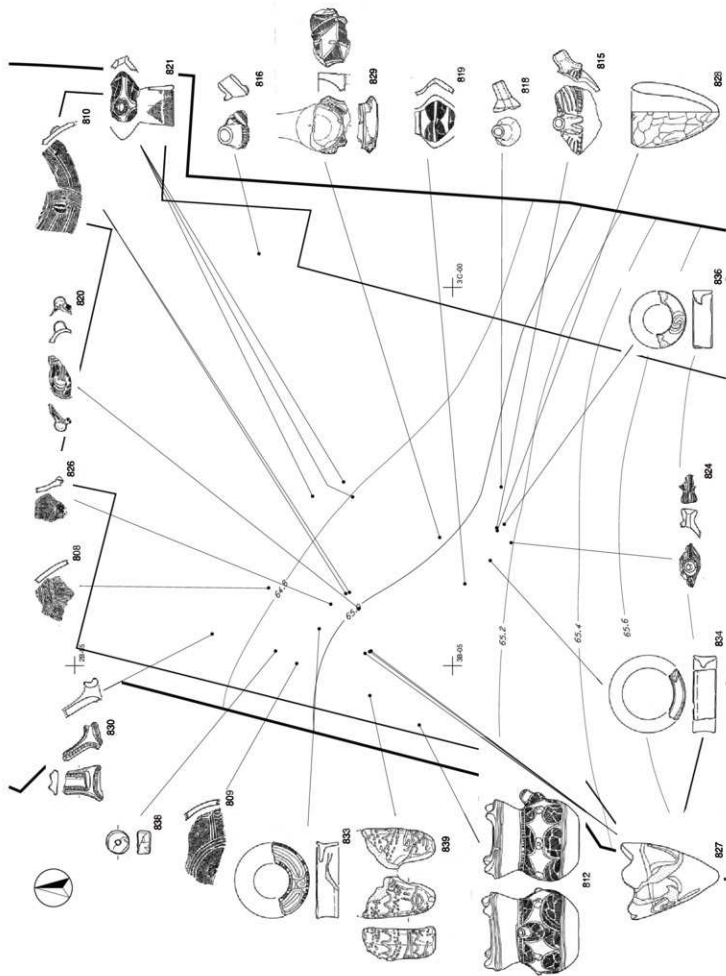
第95图 A区包含层出土土器(46)



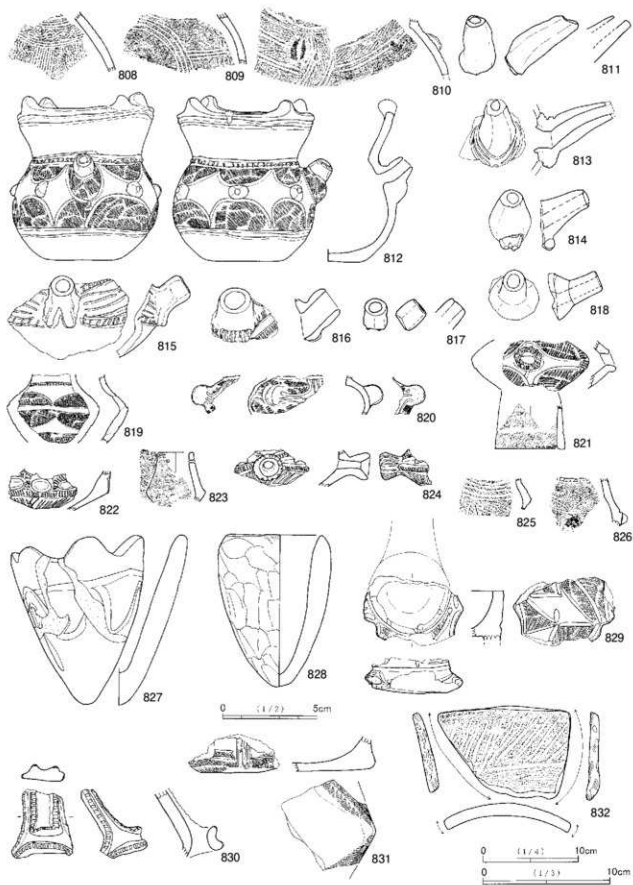
第96图 A区包含层出土土器(47)



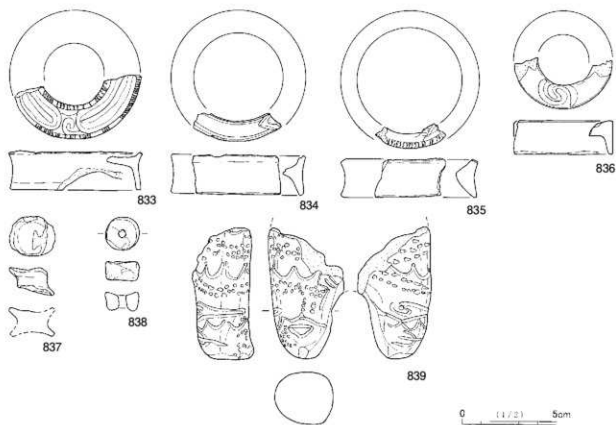
第97图 A区包含层出土土器(48)



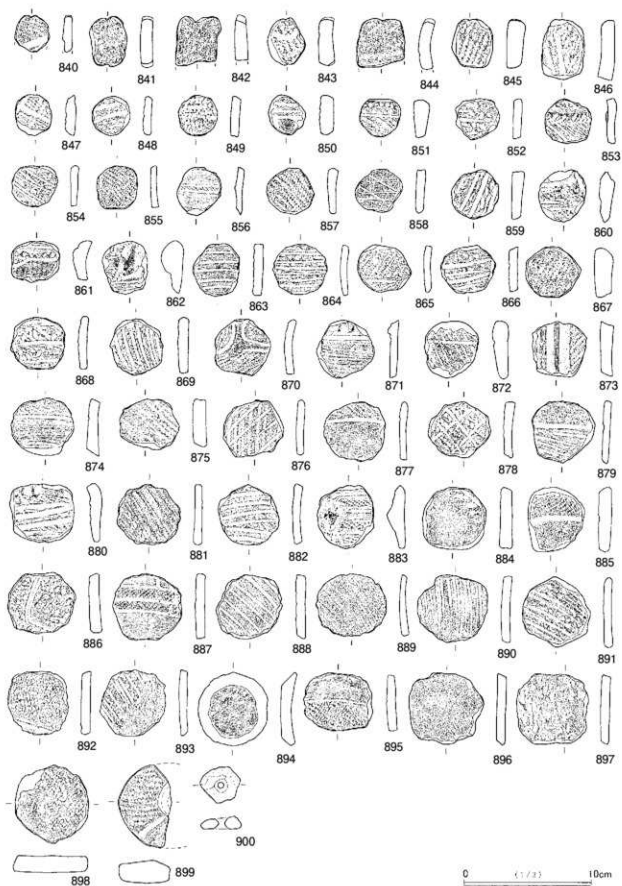
第98图 A区土製品出土分布图



第99图 A区包含层出土土器(49)



第100图 A区包含层出土土製品(1)



第101图 A区包含層出土土製品(2)

なる。胴部には縄文が充填された対向する弧線が施され弧線間に貼瘤が付く。加曾利B3式と考えられる。

811・813～818は注口部の破片であり、814～816は注口下部に貼付文が伴う。815は加曾利B3式、816は安行2式であろう。818は注口接合部が太くなる形状をしており、大洞系のもと考えられる。819～826は異形台付土器である。819は上下に背向する弧線文内に縄文が充填される。820は沈線区画内に縄文が充填され、突起が付く。821は縄文が施された上下に対向する弧線文が施され、双口部分には刺突が施される。加曾利B式と考えられる。822・824は沈線が施される。安行2式か。826は弧線内に沈線が充填される。安行3b式か。827・828はミニチュア土器である。827は7単位の波状口縁となり、胴部に弧線が施される。安行3c式か。829は手燭形土製品の台部の破片で突起を有する、沈線内に縄文が施される。安行2式と考えられる。830は釣手土器の把手部分である。加曾利B3式～安行1式か。832は加曾利B3式土器の破断面に擦痕が残る土器。833～838は耳飾りである。833～836は滑車形で、833は刻みが施され、横長の楕円文間に蕨手状の文様が施される。834は三又文状の文様が施される。836は沈線で入組文が施されている。時期は安行3c式～3d式であろう。837・838は白形の耳飾りで、838は穿孔がある。839は土偶で、横位に連続する弧線や入組文が廻り間には刺突が施される。安行3c式期と考えられる。840～846は挟りが施されるもので、土器片鏟と考えられる。847～897は土器片円盤である。899・900は有孔円板である。

A区包含層から出土した土器片円盤は、190点出土している。このうち欠損しているものが42点、完形と思われるものが148点である。利用した土器片は、中期加曾利E式・後期堀之内式・加曾利B式・曾谷式・安行1式の各時期のものである。約7割が加曾利B式の土器片を利用している。大きさは、直径が3cm前後から6cm前後までである。出土地点にまともではなく、一定の廃棄場所は認められない。

3 石器

A区は、上位段丘面の中央寄りに位置し、北向きに緩い斜面となっている。石器は土器とともに遺構外の包含層中から出土している。石器一覧表は、第6表に掲載した。

出土した石器の器種は、剥片石器類及び石核類では、石鏃50点、石鏃未成品77点、石錐4点、両極石核28点、石核39点である。石核石器類が磨製石斧13点、打製石斧36点、打製石斧未成品13点、磨石類109点、石皿12点などである。このほか墨形石製品7点、砥石16点などが出土している。石製品としては石棒15点、軽石の石製品2点、玉3点などが出土している。これらの合計は424点である。石鏃の未成品・両極石核・石核などの出土は、石鏃生産が行われていた可能性を示唆しているとともに、打製石斧についても、未成品の出土例から製作が行われていた可能性がある。また、生産用具の石斧類に比べ、加工具の磨石類が多いことも、特徴としてあげられる。

B区・C区と同様に時期的には、中期～晩期のもが含まれていると考えられ、石皿や石棒などある程度時期を反映した形態の器種を除けば、時期別の器種構成を詳述するのは難しい。その主体は、土器相を反映して後期～晩期の石器群と考えられる。

石鏃・石鏃未成品 (第102図、103図43～54、第115図206・207)

1～34・38～54は石鏃である。黒曜石を素材としているものが圧倒的に多い。完成品と未成品の峻別は難しいが、概ね完成品と考えられるものである。1～3は平基式の石鏃である。1・2は二辺に丸味がある。1は主要剥離面が認められ、未成品の可能性が高い。2はやや厚みがある。3は二等辺三角形を呈し、丁寧な調整が施されている。

4～34は凹基式の石鏃である。4～13は基部の挟りが浅いものである。二等辺三角形を呈するものが

主体であるが、二辺が緩く膨らむもの(4・5・6・7)、逆に二辺が挟れるもの(9・10・11)などがある。4・5・13は主要剥離面を残している。ともに調整剥離が少なく、4は若干不整形である。14～22は、基部の掛りが大きい、両脚はそれほど長くないものである。15は二辺に若干の突起らしいものがあり、いわゆる飛行機鎌かもしれない。全体に脚部を意識したか、二辺がやや膨らむものが目立つ。22は素材の自然面を残している。23～31は長脚のものである。柄縁りが深く、二辺が膨らむものがほとんどである。24は小型品だが丁寧な調整剥離が行われている。32・33は基部を失っているが、凹基式であろう。33は二辺が鋸歯状の特徴的な剥離が行われている。34は飛行機鎌で二辺にみられる突起が先端に近い特徴がある。

38～42・206・207は有茎石鎌である。38は茎が小さいが丁寧に作り出されている。39・41・42は、茎の作り出しのための掛りが緩いもので、菱形を呈している。40は茎の作り出しが不十分である。未成品とすべきかもしれない。206・207も飛行機鎌と考えられる。206は先端近くで巾が広がり、下部で凹む。2つとも関の形態がよく似ている。

35～37・43～54・61は石鎌の未成品と考えられるものである。35～37・43は調整剥離が不十分なものである。36は飛行機鎌を意図したものかもしれない。44は基部調整の途中、45は製作途中で破損したため廃棄されたものかもしれない。46・47は主要剥離面や自然面を残している。48～54は、円礫等の素材にやや剥離が施された程度であることから、いずれも石鎌製作初期段階のものであろう。61は自然礫の縁辺加工を施している。表裏に自然面を残している。

錐(第103図55～58)

点数は少ないものの錐が出土している。千葉県内では、定型的な錐の出土は縄文時代を通じて少ない。55は棒状を呈する小型品で、断面は四角を呈する。先端には回転による使用痕が認められる。56～58は剥片に錐状となる先端加工を加えたものである。

使用痕のある剥片(第103図63・64)

剥片の一部に使用痕が認められるものである。剥片には剥離が若干あるものの、素材の鋭利な部分を使用している。

両極石核・石核(第103図59・60・62・65～79、第104図、第105図)

石材がチャート、珪質頁岩などであることから、ほとんどは、石鎌素材を採取するためのものと考えられる。小さな円礫を石核としたもので、最初に両極打法によって剥片素材を得ようとしているものをここでは両極石核と呼んでいる。59・60・62は楕円形の円礫に両極打法による痕跡をよく残している。65～71・74には、両極打法による上下からの剥離が認められる。65・71は打面転換している。72～79は手ごろな円礫を素材としている。77はキューブ状の自然面を残す黒曜石である。それ以外はチャートで、いずれも石鎌素材となる剥片を探る目的と推測される。

磨製石斧(第106図80～85)

磨製石斧の出土点数は少なく、すべて欠損しているものである。両刃に限られ、81のような定角式は少なく、短冊状の形態である。80・82・85の刃部には使用によるとみられる潰れがある。

打製石斧・未成品(第106図86～94、107図、108図)

打製石斧の出土量は多かったが、全体的にかなり小型のものが主体となっている。未成品と思われる加工途中のものなども出土しており、自然礫の一部に剥離が認められるものも未成品も含めて示している。石材は、泥岩質のホルンフェルスが最も多く、砂岩、流紋岩などもみられる。整形のための剥離は全体に

粗く、使用により剥離稜線が摩耗しているものもあり、使い切った感じのものが多い。

86～89は分銅形である。86の挟れ部には光沢があり、装着による摩耗と考えられる。88は緑泥片岩を素材としており、石棒などからの転用かもしれない。90～99は撥形である。90は典型的な撥形を呈する。かなり小型品で、自然面を残している。91は刃部が両面研磨され両刃を呈するが、十分な研磨が施されず刃部には剥離面の痕跡を残している。92～98は撥形を呈し、自然面を残しているものが大半である。92・95は刃部が片刃で激しく潰れている。94は両面に自然面が残る、扁平な円礫の縁辺に粗い剥離が施されているだけである。96・98・99は刃部を欠損している。98は基部の端部である。100・101は基部を欠損している。

102～123は打製石斧の未成品としたものである。ほとんどが自然面を残しており、大小二種類の自然礫を素材としている。成品に至ることなく途中で放棄された可能性があり、集落内で打製石斧の生産が行われていたことを示唆するものであろう。大型の成品がほとんどないが、未成品には大型の素材がみられる。102は大型の円礫の縁辺に剥離を施している。基部が大きく欠損しており、製作途中で折損したのかもしれない。103～106は小型の円礫を加工している。106は側面に敲打痕があり、打製石斧ではなく敲石かもしれない。107は両端に潰れがあり、円礫を両極打法により打削しようとしたのかもしれない。111は側面の調整のみである。114は縁辺加工が若干施されたものである。119～123は素材となる扁平な円礫の形状をほぼ残している。いずれも刃部と基部の調整が若干行われている程度である。

磨石類 (第109～112図124～169)

凹石、叩石、磨石の各属性を伴う石器群を磨石類としてまとめた。全体的には、明瞭な凹みを伴う凹石は少ない。磨り面と敲打痕を伴うものは、敲石とも呼ばれるが、2つの属性を伴うものも多い。敲打痕のみの叩石と呼べるものも割合としては多い。手に持つのに程よい大きさのやや扁平な円礫が素材として選択されている。敲打痕しか伴わない叩石には、円柱状のやや細長い円礫が選択されている。

124～127は、明瞭な凹みを伴うものである。124は表裏に深い凹みを持つもので、研磨面を伴わない荒れた表面である。125は柱状を呈するもので、表裏に浅い凹みが認められる。126は丸みの強い円礫で深い凹みが表裏にある。127も凹みが深い。研磨の痕跡はない。

128～135は敲打痕が認められる叩石である。128は円礫の中央、側面にわずかな敲打痕を伴う。129は断面三角形の円礫で、三面に敲打痕を伴う。130は扁平な円礫で、両極打法による加撃で割れている。中央に敲打痕を伴っている。131は両端の敲打痕のほか、片面中央に凹みがある。132～135は円礫の先端と側縁に明瞭な敲打痕がある。133は表裏にも敲打痕がある。側縁敲打が明瞭なものは、トチノミなどの殻割りなどに使用されたのかもしれない。136は磨石である。表裏ともに光沢のある研磨面である。側面と片面には若干の敲打痕が認められる。137・138は研磨面と敲打痕を伴っている。139は側面の明瞭な敲打痕がある。140は摩滅が顕著で不明瞭であるが、端部と側縁に敲打痕がある。142・143は両端に明瞭な敲打痕がある。144は全面研磨されたほか、わずかな敲打痕がある。145は側縁に特異な箇所敲打痕がある。

146～153は敲打痕のみが認められるものである。146は欠損が発生しても敲打が続けられている。151は石鏡とでも言えるほどに両端の敲打が行われたものである。154は磨石である。155・157は折れ面の角に敲打痕が伴うものである。158は片面が研磨面で側縁に若干の敲打痕が認められる。159～169は概ね叩石と呼べるもので、全体に縦長の円礫が選択され、長軸の両端ないし片側に敲打痕を残している。159は大槌と呼べるような大きさの円礫を使用したものである。片側先端のみの使用である。169は小円礫である。

一端に敲打痕が確認できる。

石皿 (第113図170～174)

出土点数は少なく、すべて破片である。図示したものは、いずれも石材が異なっている。170は小型の石皿の破片で、外縁部に突帯を伴っていたが欠損し、その後の使用によって欠損部分も一部研磨されている。石材は多孔質安山岩である。171の石材は細粒砂岩である。上総層群の石材と思われる。周囲に凹みがあり、磨り面中央は相当に減っており、あるいは穴が空いてしまったのかもしれない。172は発泡度の低い安山岩で軽い。薄い板状の石皿である。173は礫岩である。上総層群の石材と思われる。磨り面が風化により荒れていると思われる。一部に凹みが認められるが、深い穴は生痕化石の可能性はある。174の石材は緑泥片岩である。明瞭な磨り面があり、底部には凹みが伴っている。板状の石皿である。

砂岩を使用した石製品 (第114図175～181)

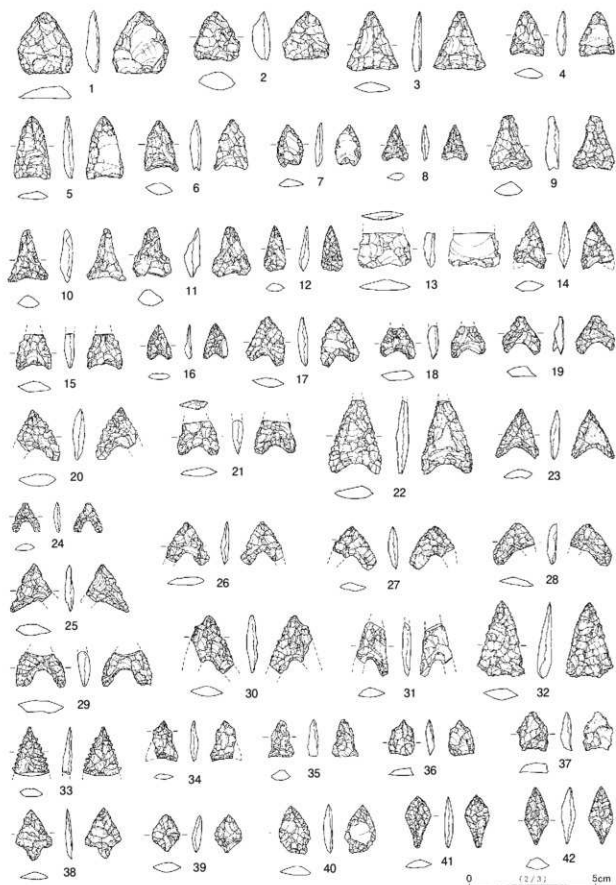
175～181は、素材が砂岩に限られるもので、形態は扁平な直方体の6面からなる。一部は長辺が膨らみ両端がすぼまったように見えるものもある。本遺跡が所在する地域の基盤層となっている第三紀層を主体とする上総層群にみられる細粒砂岩を利用したものと推測される。三浦層群などは砂岩・泥岩の互層が見られることから、素材自体が、原石採取時に板状を呈していた可能性がある。類似した砂岩を素材としている千葉県内の石器としては、鏡子市余山貝塚や千葉市六通貝塚などから出土している貝輪製作の不定形の砥石や弥生時代中・後期にみられる砥石などがある。175～181は、研磨されて6面の直方体に仕上げられていると考えられるもので、使用しているうちに6面の直方体に至ったとは考えにくいものであることから、石製品として掲載した。君津市鹿島台遺跡出土の「墨形石製品」と呼ばれたものと同類のもので(栗田ほか 2006)、小林清隆が改めて集成し、「鹿島台型砥石」と呼んだものの中に、本遺跡の出土例も含まれている(小林 2022)。小林によるその形態的特徴は、六面が研磨され、書画材料の「墨」に形態が似ていることで、石材が砂岩に限られる。時期は縄文時代後期～晩期のものとされており、本遺跡例も他の類例と同じ時期と考えられる。

175を除いて、欠損している。顕著な研磨痕などは見られない。175・176は扁平で、若干両端の幅が狭くなり、側面が緩い弧を描いている。175の方が厚く、176は各面の角がシャープである。177は最も厚みがあり、端部近くの側面に、当初からの剥離面が研磨されても残っている。178は端部が丸い。扁平で、側面の面取りのための研磨がやや緩い。最も広い表表面には、研磨が行き届いていない部分がある。179は両端が折損している。断面はやや楕円形状を呈する。広い表表面の中央に若干凹んだ面がある。180は側面が研磨されているものの研磨前の剥離痕が残されている。縦方向の断面は、緩い弧を描いている。181は端部のみで、面取りがやや甘く、断面は楕円形に近い。これらと同類の石製品は、C区でも14点出土している。

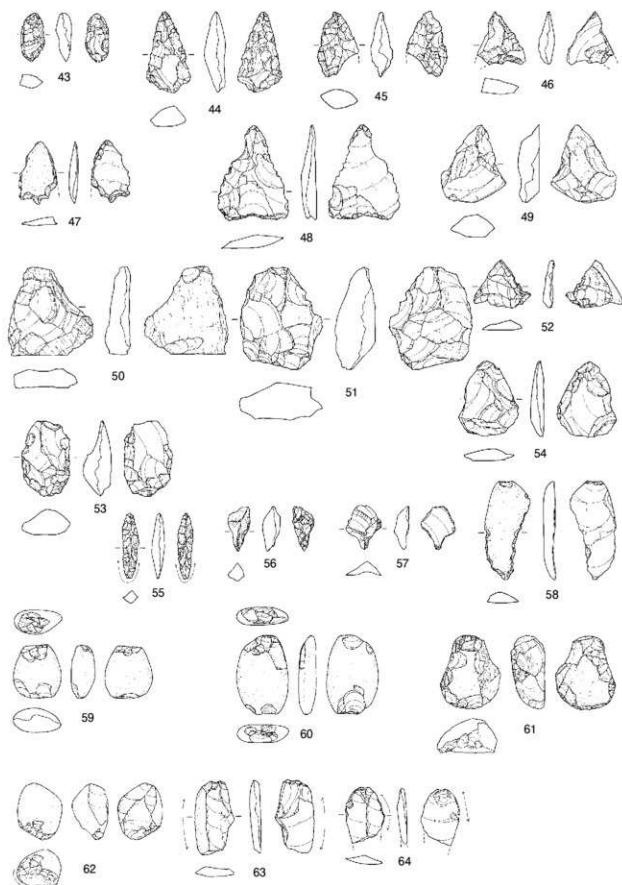
砥石 (第114図182～195)

上記石製品とは異なり、砥石として使用され、いくつかの研磨された面が認められることから砥石とした。182～189・191～195は砂岩、190は安山岩を石材としている。砂岩製の砥石については、上記石製品と同じく、上総層群からの石材採取とすれば、原石採取の段階ですでに板状を呈していた可能性が高い。

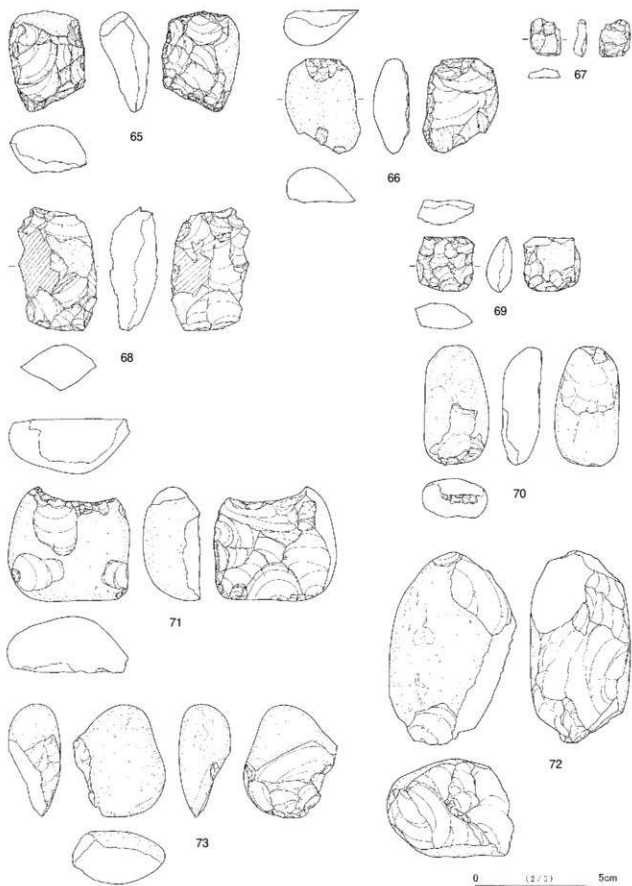
182・183は棒状を呈し、片方が折損している。断面は銀杏の種のような形状で、両端に鑿がある。184～187は、両側縁が両刃のような研磨面となっており、特徴的な形状である。金属包丁を研ぐ場合と同じく、両面とも一定の角度で研磨対象に当てなければ、このような形状にはならない。188は両面が研磨面となっており、中央が浅く凹んでいる。189は、片面のみが研磨面である。側面の加工は施されておらず、転石を



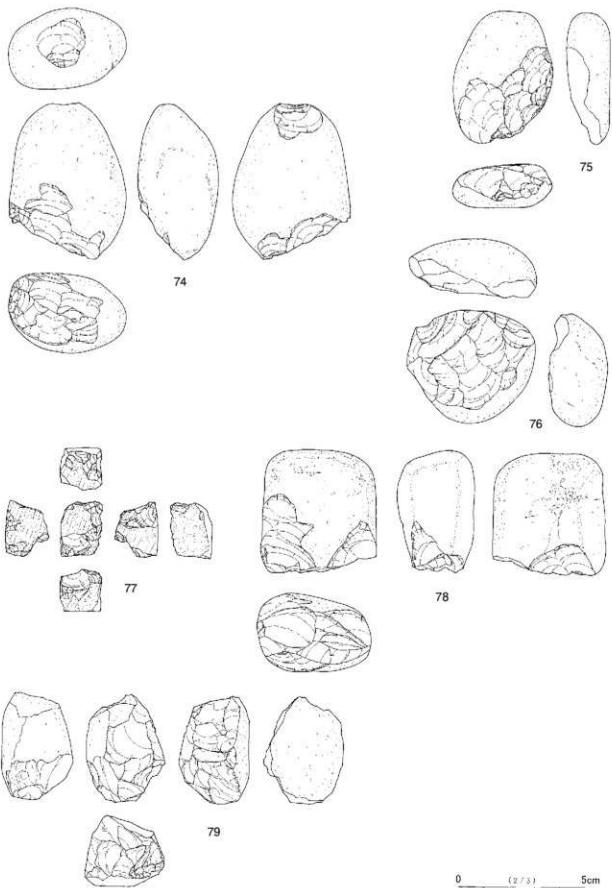
第102图 A区包含层出土石器(1)



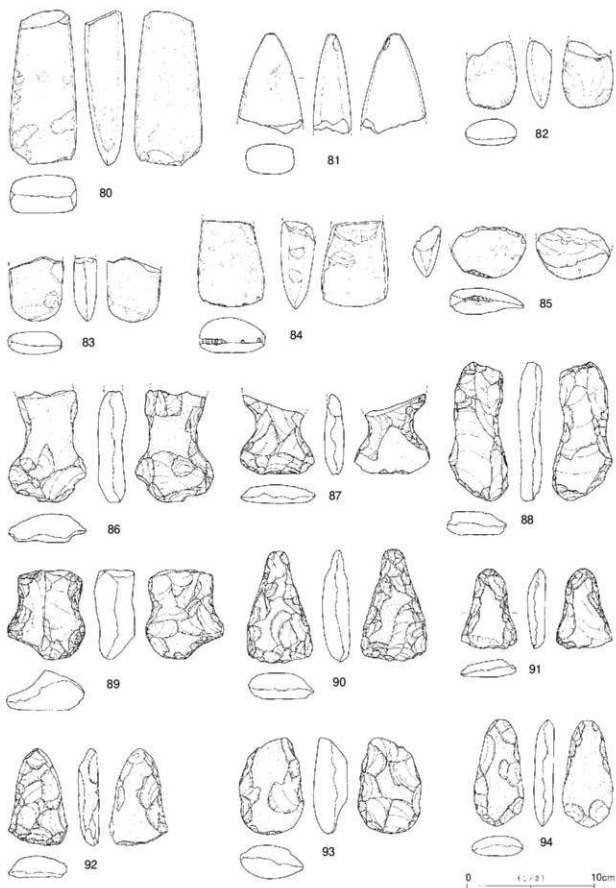
第103图 A区包含层出土石器(2)



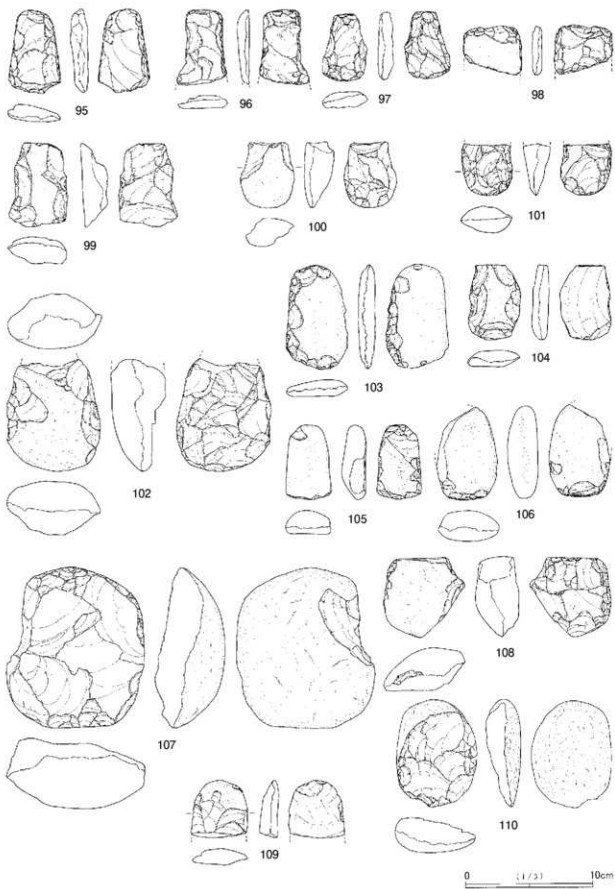
第104图 A区包含层出土石器(3)



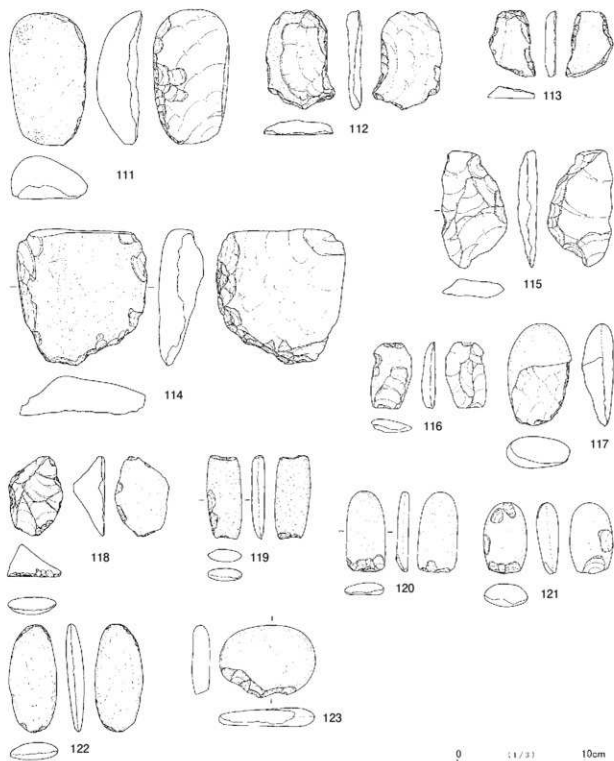
第105图 A区包含层出土石器(4)



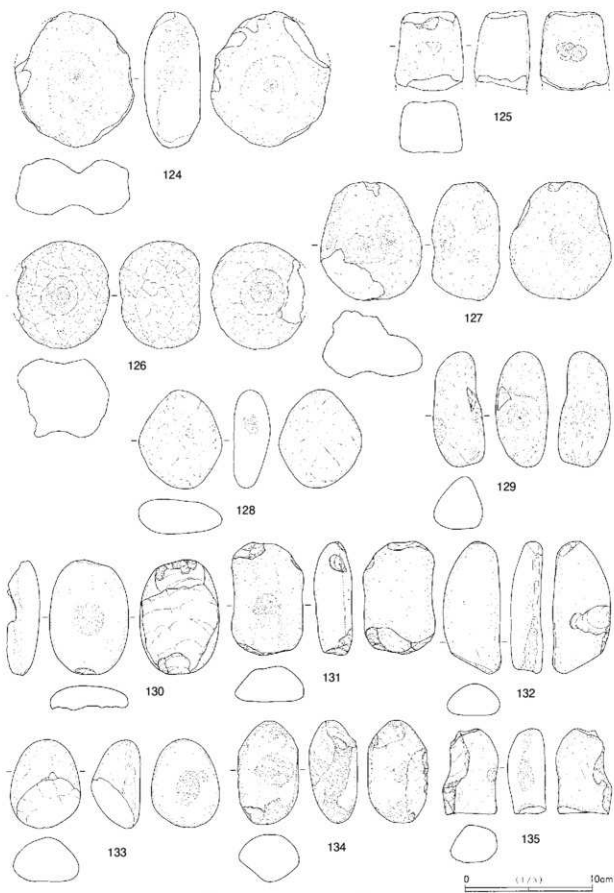
第106图 A区包含层出土石器(5)



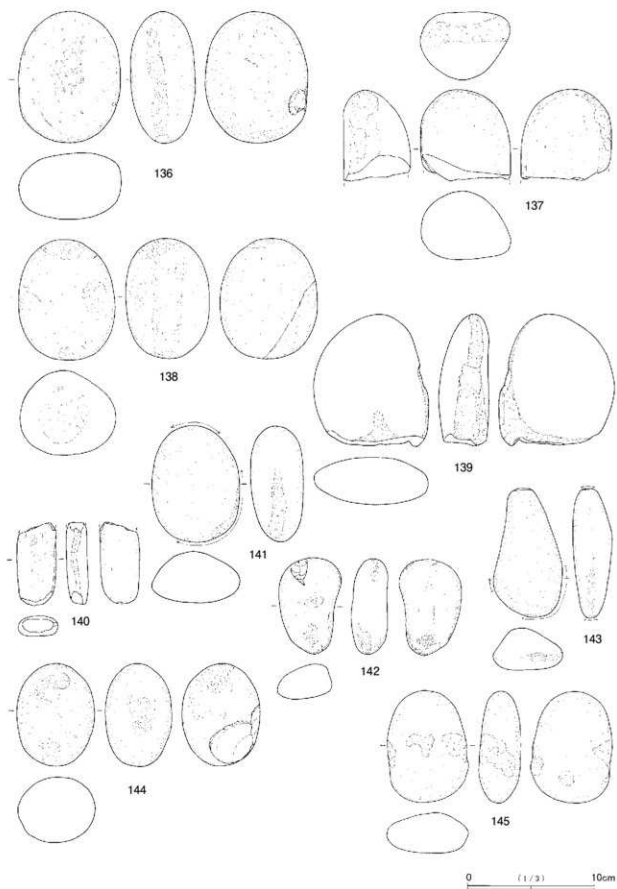
第107图 A区包含层出土石器(6)



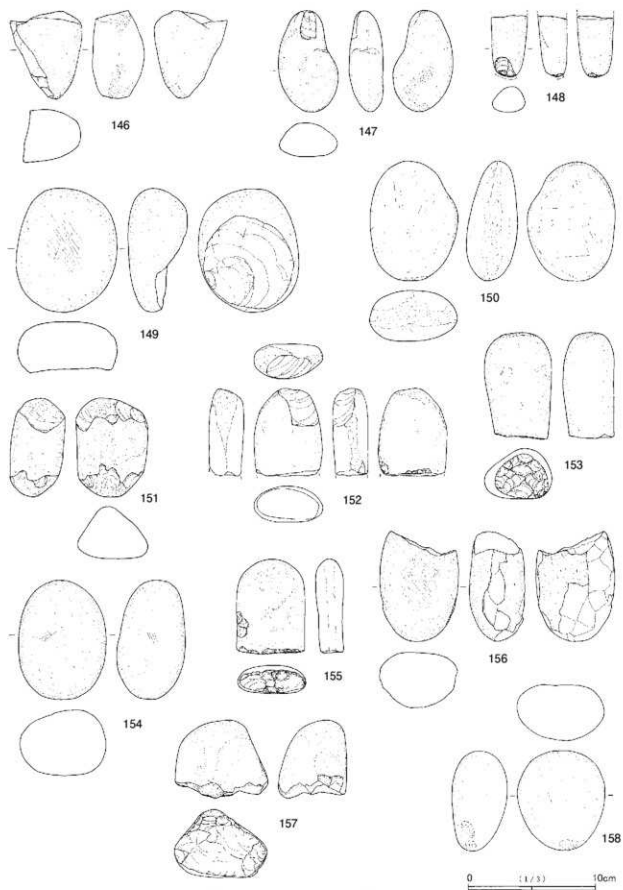
第108图 A区包含层出土石器(7)



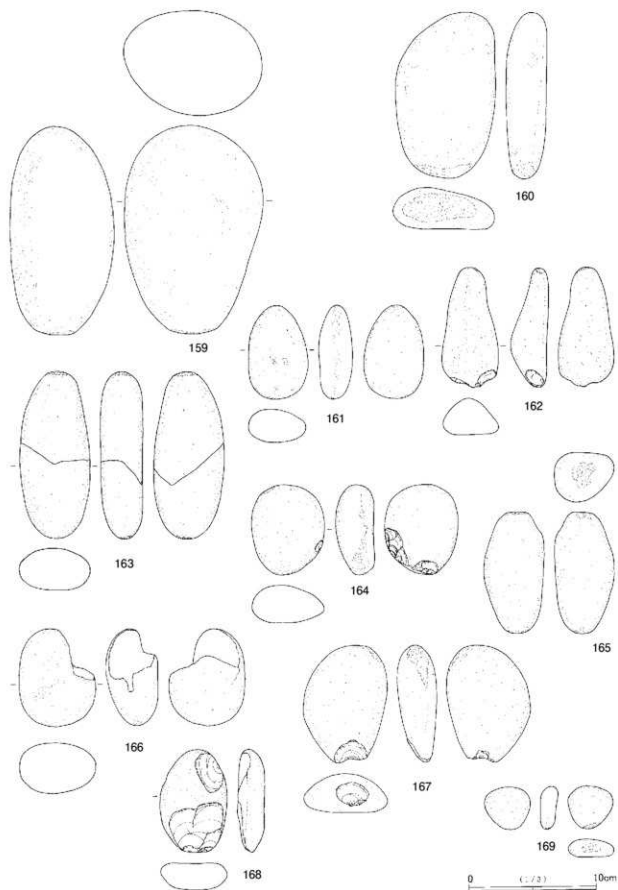
第109图 A区包含层出土石器(8)



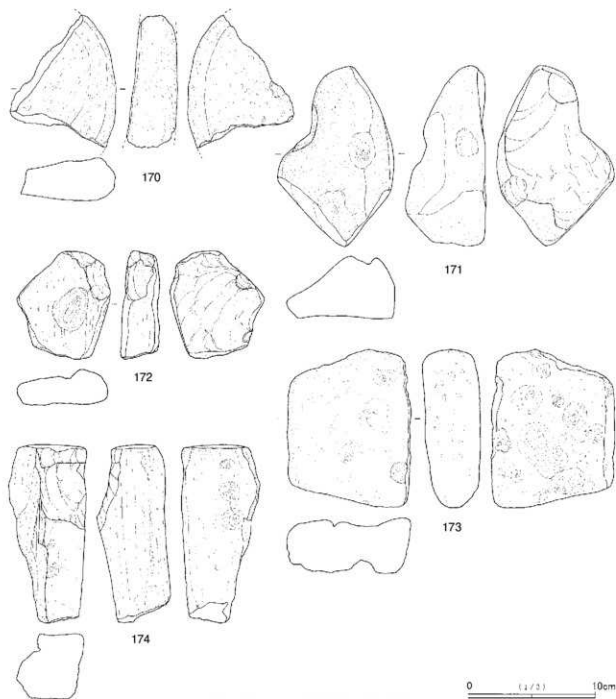
第110图 A区包含层出土石器(9)



第111图 A区包含层出土石器(10)

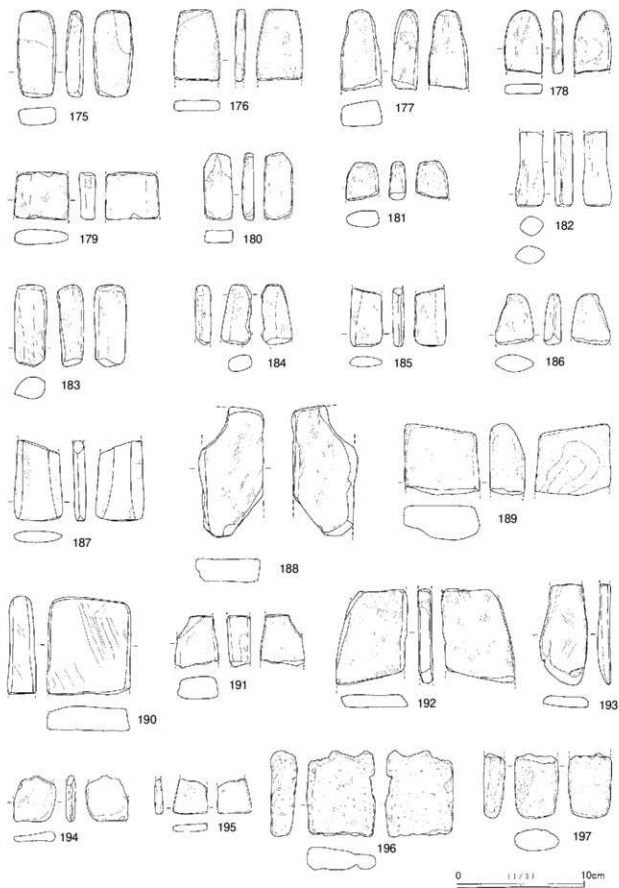


第112图 A区包含层出土石器(11)

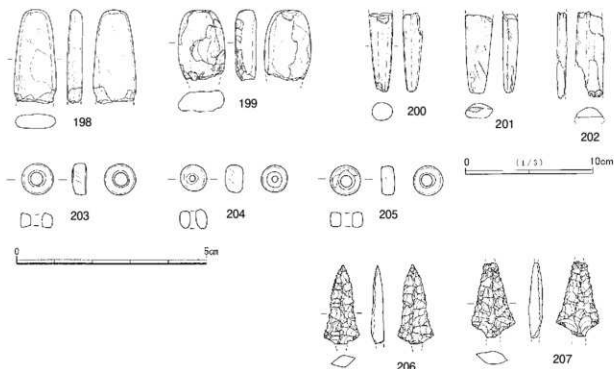


第113図 A区包含層出土石器(12)

採取して使用していると思われる。190は安山岩であるが、やや発砲しているためなのか軽い。原石を板状に加工していると考えられる。片面は浅く凹み、もう片面は数条の線状痕がある。192～195は表裏に研磨面があり、側面は研磨などの加工の痕跡がないものである。194は表裏が砂岩と礫岩の岩相が異なるものからなっている。



第114图 A区包含层出土石器(13)



第115図 A区包含層出土石製品

4 石製品

軽石製品 (第114図196・197)

軽石を板状に整形した石製品と考えられる。あるいは砥石として使用されたかもしれない。2点とも欠損している。C区からは穿孔を伴う軽石製品が出土しており、この2点も穿孔を伴っていたかもしれない。

石棒・石剣 (第115図198～202)

いずれも欠損した小破片である。198・199は石棒の頭部で、扁平な石棒である。石材は緑泥片岩である。括れ部で折れている。文様はなく、198は風化によるものか肌が荒れているが、199は丁寧な研磨が施されている。200～202は石剣の基部である。200は小型の石棒である。断面は丸い。201は断面がレンズ状を呈し、側面が鋭利な鎧となっている。石剣と言えるものである。202は体部の破片である。

玉類 (第115図203～205)

石製の白玉2点と丸玉1点が出土している。いずれも石材は滑石であるが、色調は3点とも異なっている。203は直径0.9cm、厚さ0.4cm、重さ0.41gで、黒色を呈する。穿孔は大きい。表裏の片面はやや膨らみ、もう片面は凹んでいる。同じ形態の白玉が連結されて、長年首に装着されていたことから、白玉同士が擦れて表裏の凹凸ができたのではないかと推測される。204は直径0.7cm、厚さ0.5cm、重さ0.33gで、若草色を呈する。穿孔は片側からの回転穿孔で、貫通後、反対側から孔を広げる作業を行っていない。C区でも同様の穿孔による丸玉が出土している。205は直径0.8cm、厚さ0.4cm、重さ0.39gで、薄緑色を呈する。穿孔は両側からの回転穿孔である。

参考文献

- 小林清隆 2022「墨形石製品の事例と類例－鹿島台型砥石の提唱－」『研究連絡誌』87号 財団法人千葉県教育振興財団
 栗田ほか 2006「君津市鹿島台遺跡(A区・D区)」『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書5』財団法人千葉県教育振興財団調査報告第529集

第3節 B区包含層

1 土器

B区は上位段丘面の南側外縁に位置し、北向きの緩斜面となっており、表土直下が基盤層の上総層群となる地点もあり、遺物を包含する堆積土層はA区に隣接した北側に限られたものであった。そのため、確認調査及び本調査によって出土した遺物は、他の地区に比べ少ない。

出土した縄文土器は、中期～晩期までにわたり、中期では加曾利E式、後期では称名寺式、堀之内式、加曾利B式、安行1・2式、晩期では安行3a式・3b式・3c式・3d式、前浦式、大洞式系などからなっている。掲載した土器点数は57点である。このうち中期2点、後期20点、晩期34点となり、晩期は安行3c式以降の土器片が主体を占める。北側のA区では中期の遺構が検出されたものの、B区では中期の遺構は検出されていないことから、中期後葉の加曾利EⅡ式の大形破片などがわずかに出土している程度であった。主体となるのは後期の堀之内式～加曾利B式土器で、堀之内式期の堅穴住居跡(1)SI001なども検出されていることから、遺構群の状況を反映した状況と考えられる。また、晩期中葉の安行3c式・3d式・前浦式・大洞式系土器は、堅穴状遺構群周辺を主体に出土しており、そのほとんどは堅穴状遺構群に関連した遺物として第19図～第31図に掲載している。

中期の土器(第116図1・2)

1は阿玉台式である。隆帯に沿って角押文が施される。2は加曾利EⅡ式土器。口縁部に隆帯による渦巻文が施される。胴部は磨消し縄文が垂下する。

称名寺式土器(第116図3)

3は沈線間に列点が施され、地文に縄文をもつ称名寺Ⅱ式である。

堀之内式土器(第116図4～6)

4は胴部無文で、橋状把手と突起が認められる。堀之内1式と考えられる。5は条線が斜位や縦位に施される。6は胴部に縄文のみが施される。

加曾利B式土器(第116図7～16)

7は口唇にキザミを施し、口縁部に4条の横帯文が施される。加曾利B1式と考えられる。10は口縁部がくの字状に開く浅鉢で、屈曲部にキザミが施される。11は丸底の浅鉢で、口縁部に稜をもち、体部中央が無文帯となる。12は平底のずんぐりした浅鉢で縄文を充填後に横位の沈線を施し、口縁部の無文帯を区画している。胴部に楕円文を施し、内部を磨消している。15は粗製土器で縄文のみが施される。16は台付鉢の台部であろう。

安行1式・2式土器(第116図17～22)

17は棒状文を伴う平口縁深鉢で、キザミを施した貼瘤とブタ鼻状貼付文が付く。安行2式か。18は紐線文土器で胴部に弧状の条線が施される。20は鉢で口縁部と胴部に縄文帯をもつ。22は台付鉢で、口唇内部にU字状の貼付けを付し、頸部は無文帯とし、胴部には弧状沈線内に縄文が充填される。

安行3c式・3d式土器(第117図23～30)

23～28は入組文・弧線文を伴い縄文が施されないものや列点を伴うものを一括した。23は浅鉢の口縁で、弧状となる平行沈線間に列点が施される。24は入組文と列点が施される。27は楕円の文様内に列点が施される。29・30は彫刻刀で彫り込んだような沈線で施文される。29は入組弧線文を施す。30は台付鉢の台で沈線による弧線が施される。

純山系波状口縁深鉢土器 (第117図31)

31は波頂部に鉢巻状貼付文が認められ、入組門弧文が施される。

前浦式 (第117図32～39)

太い単節LR縄文を施した前浦式がわずかだが出土している。器形は、32のようにソロバン玉状や33のように外反して口唇部がくの字状に内傾する深鉢、35のように外反する鉢などがある。32は楕円区画内に「の」の字文が施され、口唇部内面にも沈線を伴っている。35～38は口唇部内面に2条の沈線を伴い、受け口状の口縁を呈する。内面の調整は丁寧に行われている。

大洞系土器 (第117図40)

40は雲形文が施される大洞C1式である。

杵状文を伴う平口縁深鉢土器 (第117図41～47)

41～47は2段の杵状文を伴う平口縁深鉢で、44・46・47は胴部に粗く弧状の条線が施される。

条線のみが施される粗製土器 (第118図48～52)

口縁部が内湾乃至は内傾する砲弾型の器形で、口唇部は肥厚し、丸味のあるものよりも口端が面取りされた角頭状を呈するものが多い。弧状の条線を主体とし、条線は左から右への動きで施文されている。条線の密な施文から次第に疎らな施文へと簡略化され、さらに口縁部の横位条線が失われて、縦の条線のみとなるのであろう。本類の時期は安行3c～3d式であろう。48～52は条線のみが施される土器。口縁部が内湾ないしは内傾する砲弾型の器形で、48は口唇部に列点が施される。49は口端が面取りされた角頭状を呈する。52は胴部で縦位に条線が施される。

無文の粗製土器 (第118図53～57)

縄文や沈線文などが施されない無文の土器を本類とする。53は外反するもの。54は両側から面取りされ口唇先端がやや尖るもの。55は口縁部や縁く内傾するもの。57は浅鉢で焼成後穿孔がみられる。

2 土製品 (第118図58～60)

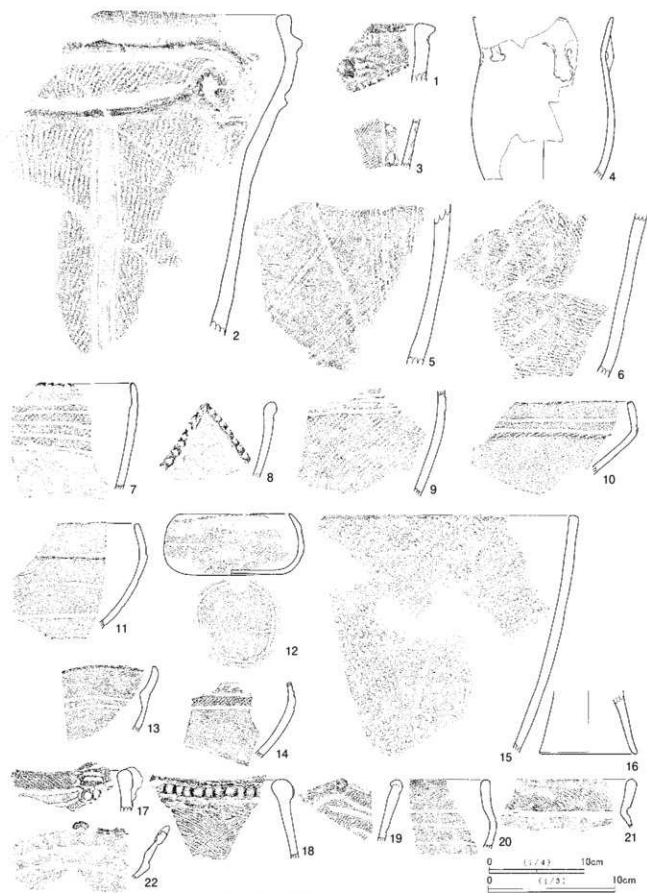
B区から出土した土製品は極めて少なかった。土偶1点、土器片錘1点、土器片円盤1点である。

58は中空土偶の腕部分である。破片中央部に渦巻文様がある。縄文を地文とし沈線によって文様が描かれている。59は中期の土器片錘、60は土器片円盤のようであるが、中央部に窪みがあり有孔円盤の未成品と考えられる。

3 石器・石製品 (第119図・第7表)

出土した石器は、剥片石器類が石鎌6点、石鎌未製品22点、両極石核3点、石核33点である。石核石器類が磨製石斧1点、打製石斧未成品1点、磨石類6点、石棒2点などである。これらの合計は74点で、そのうち図示したのは7点である。A区・C区と同様に時的には、中期～晩期のものが含まれていると考えられ、石皿や石棒などある程度時期を反映した器種を除けば、時期別の器種構成を詳述するのは難しい。

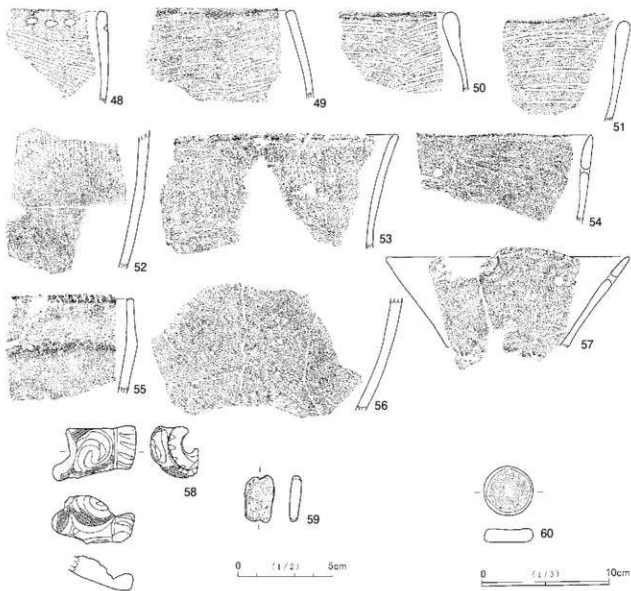
1は凹基式の石鎌である。先端が欠損している。二等辺三角形を呈し、二辺の調整が丁寧に行われている。2は黒曜石の両極石核である。打面転換している。3はチャートの円礫を石核としている。自然面を打面とし、打面を変えながら剥離を行っている。石鎌の素材生産を目的とした石核と思われる。4は円礫を両極打法で半裁し、縁辺剥離を行っている。側面に敲打痕を伴っていることから、敲石からの転用かもしれない。6は敲石である。片面の中央に敲打痕がある。7は石棒の頭部である。先端には沈線が巡り、三叉文が配置されている。さらにその下に楕円の沈線文が施されている。



第116图 B区包含层出土土器(1)



第117图 B区包含层出土土器(2)



第118图 B区包含層出土土器(3)・土製品



第119图 B区包含层出土石器

第4節 C区包含層

1 土器

C区は、A・B区が位置する段丘面よりも一段低い南側の段丘面上にある。この段丘面の段丘崖直下では、テラス状に一段高い堅穴住居跡などが検出されている段がある。その更に南側が緩い斜面となっており、遺物を主に包含するのはその斜面の堆積層である。

C区の縄文土器は、縄文時代前期前半～晩期末葉の土器からなり、前期では浮島式、中期では加曾利E式、後期では称名寺式、堀之内式、加曾利B1式～B3式、曾谷式、安行1式・2式、晩期では安行3a式・3b式・3c式・3d式、前浦式、大洞式系土器にわたっている。

掲載したC区の土器点数は、底部を除いて475点である。そのうち、前期の土器が1点、中期2点、後期388点、晩期84点に及び、後期がC区全体の土器量の8割を占めている。

後期前葉の土器は、称名寺式・堀之内式の土器が21点出土している。C区北側にまとまって出土しており、堀之内期の(1)SI001・(3)SI001などとの関連性が高い。後期では、加曾利B1式・B2式が散在的に出土している。主体となるのはA区と同様であり、後期の加曾利B3式～安行1式で、精製土器では加曾利B3式が160点、曾谷式が36点、安行1式が29点となり、加曾利B3式がC区全体土器量の約3割を占める。曾谷式、安行1式も一定量出土している。分布状況は、加曾利B3式は全域から出土しており、曾谷式～安行2式は散発的な出土にとどまっている。

晩期の土器は、晩期中葉の安行3c・3d式・前浦式がA区と比較するとまとまって出土している。標高61.6m前後に集中して分布しているが、C区南側は耕作により、晩期包含層が失われていることに起因するものと考えられる。

土器の分類はA区包含層出土土器で分類した13群に対応させて大別し、各群の中で類別を行った。

第1群 前期の土器(第121図1)

図示できるものは1点のみである。口唇部下に爪形文が施され、浮島式である。

第2群 中期の土器(第121図2・3)

2は横走する沈線間に半截竹管状工具による押し文が施され、沈線区画内には縦位の燃糸文が施される。加曾利E式と考えられる。3は連弧文土器である。口唇部下に2条の沈線が横走し、口縁部には2条の沈線による波状文が施される。波長部には列点が施される。

第3群 称名寺式・堀之内式土器

1類 称名寺式土器(第121図4～7)

4・5は称名寺I式土器である。4は沈線区画内に縄文LRを施す。5はJ字状文を無文とする。6・7は称名寺II式土器である。6・7は同一個体で、J字状文に列点が充填される。文様の付け根と先端に環状の貼付けが付く。

2類 堀之内式土器(第121図8～21)

8～19は堀之内1式である。8は垂下する蛇行沈線、9は蹠手文、10は渦巻文、12～14は垂下隆帯を施すもの。12・13はさらに弧線文を施す。15は橋状把手でキザミと沈線が施される。16は弧状や斜行する平行沈線が施される。17～19は口縁部の突起である。19は上端にC字状の沈線が施され、中央に刺突が加えられている。20・21は堀之内2式。20は三角文を施している。21は頸部に括れを持つ器形となり、口縁部は無文である。頸部に刻み目を伴った隆帯が1条巡り、口唇部に8の字状文を貼付する。口唇部内面には

隆帯が貼り付けられ、指頭の押捺により蛇行を呈している。

3類 縄文を伴う粗製土器 (第121図22～24)

堀之内1式から堀之内2式に伴う縄文を施した粗製土器をまとめた。23・24は内沈線が施される。23は縄文RLを施す。24は地文縄文に半截竹管状工具による鋸歯状の沈線が施される。

第4群 加曾利B1式・B2式土器・加曾利B式浅鉢

1類 加曾利B1式土器 (第121図25～34、第122図35～41)

精製の深鉢土器 (第121図25・26)

25・26は区画文をもつ横帯文を施すもの。25は4条の縄文帯に縦列に刺突を施し区画する。口唇部に刻み目を施している。26は波状口縁で口縁部は無文となる。胴部に鉤の手状の区画文が施される。

鉢・浅鉢など (第121図27～34、第122図35～41)

27～30は碗状の鉢。31～36は内湾する鉢で、35・36は口唇部がやや内屈するもの。27・28は鉤の手状の区画文が施される。29は口唇近くに刻みが施される。30はキザミを施す横帯文と縄文帯間に「の」の字文が施される。31は地文に荒い縄文が施され、刺突により縄文帯を区画する。32は縄文帯間に逆「の」の字文が施される。34・35は鉤の手状の区画文が施される。37・38は器面の内面に文様が施される浅鉢。37は口唇部に刻みが施され、口縁部内面に刺突を伴う突帯がめぐり、その下に5条の縄文帯がめぐり、38は沈線内に刻みが施され、アクセントとなる装飾が施されている。39は大きく開く浅鉢で口唇部外面に2条の沈線がめぐり、40・41は突起である。

2類 加曾利B2式土器 (第122図42～52、第123図53～57)

43は口唇部に刻みが施され、口縁部に楕円形文が施される。44～46は口縁部が外傾する深鉢で、44は地文縄文に頸部に3条の平行沈線を施し、胴部上半に菱形の文様を配し、磨消縄文帯を形成する。頸部の沈線は2個一対の縦列沈線により区画されている。45は口縁部を無文とし、頸部に縄文帯が施される。縦列の沈線で区画されている。46は口唇部近くに縄文帯が巡り、内沈線が巡る。

47～52は鉢類で、47は浅鉢である。刺突間に左右に対向する弧線文を配置し、弧線文間に上下に対向する弧線文を施し縄文を充填する。48～50・52は縦連対弧文により区画されるもの。50は波状口縁となる浅鉢で、6条の平行沈線による弧線文が施される。弧線の連結部には、竹管状工具による3単位の刺突が施された楕円文が施される。内面に段を有する。51は地文縄文に蛇行する磨消帯をもつ。53～55は帯状文が施されるもの。53は口縁部が大きく開く器形で、縄文帯間に上下に対向する弧線文が施され、内部に縄文が充填される。55渦巻状に入組んだ突起が貼付けられる。56は内湾する鉢で、口唇が肥厚し沈線による渦巻文が施される。口縁部には平行沈線の区画内にハの字状に条線を施している。57は口縁部が無文となり、胴部に竹管状工具による刺突が巡り、胴部には綾杉文が施される。

3類 加曾利B式無文浅鉢 (第123図58～62、第133図202～205、第134図)

大きく開く胴部に、内傾・直立する口縁部をもつ無文の浅鉢である。口縁部は無文でやや肥厚する。58・59・207～209は平口縁で口唇にキザミや刺突が施されるもの。58は指頭により押捺が施される。210は内湾する浅鉢で、口唇が肥厚する口唇直下に沈線が巡り、貼瘤が施される。60～62・206・212・214～215は緩やかな波状口縁となるもの。60は完形復元ができた浅鉢で、11単位の波状口縁となる。206は口唇にキザミが施され、波頂部下に鉤状の隆帯が貼付けられる。214・215は口縁部が直線的に開くもの。焼成後の穿孔が見られる。216～218は口唇が内屈する浅鉢で、216は平行沈線間に刻みを充填する。217・218

は帯縄文間に2条の沈線が横走る。202～205は加曾利B式の突起を一括した。双頭状の突起が付くもの。205は口唇に刻みが施される。

第5群 加曾利B3式深鉢土器

1類 波状口縁深鉢（第125図、第126図82～88・90～92・102～104、第127図105～110）

口縁部の特徴としては、波状となる口縁は66のように波頂部が緩やかなラインを描くものと、68のように波頂部が尖るものの2種がある。口縁部文様は、波状縁に沿って沈線が施され、刺突文や押し文が施される。78・79のように波頂部が肥厚するものがある。80のように波底部に瘤状の貼付が伴うものもある。81は沈線よりも縄文帯側に刺突が施される。頸部無文帯は、土器の大きさにかかわらず一定の幅が保持されている。82～88は口縁部に縄文帯が伴わないもの。87は複列の刺突が施される。88は波頂部が突起状に肥厚する。90～92は小波状の口縁となるもの。90は口縁部に沈線と充填縄文により文様が施される。

胴部の特徴としては、63は斜位条線を施すもの。64は横位条線を施し、蛇行沈線を垂下させる。65地文縄文に横位に弧状沈線を施すもの。66は互連弧充填縄文を施すもの。102は横位条線を施し、蛇行沈線を垂下させるもの。105は互連弧充填縄文を施すもの。106は瘤状の貼付けを施すもの。107はタスキ掛け状入組文が施され縄文が充填される。108～110は求心集合弧線文を伴うもの。地文縄文に十字文ヤトの字文を施し内部の縄文を磨り消している。

2類 平口縁深鉢（第126図93）

波状口縁深鉢が主体的な中で、1類の文様構成を持ちながら平口縁となる深鉢はほとんどないと言える。93は連続刺突文を伴う口唇部で、頸部まではほぼ同じ幅の縄文帯と無文帯が施されている。頸部の沈線は一条ですぐ下に連続刺突文が付けられる。内沈線が施される。

3類 瓢形深鉢（第126図89・94～101、第127図111）

この形態の深鉢は量的に限られており、図示した口縁部破片が確認できた程度である。胴部が最大径で頸部から上は内湾しながらすぼまる器形である。89・94～101は、口縁部に沈線と充填縄文により文様が施されるもの。89は緩やかに内湾する器形で、口唇部にキザミを施し、口縁部に互連弧充填縄文が施される。100は口唇部に縄文RLを施し、直下に刺突と横走る沈線を施す。口縁部には求心集合弧線を施す。111は、口縁部と胴部に互連弧充填縄文を施し、頸部直下が強く張り出した部分のみ縄文を施す珍しい例である。

4類 頸部無文帯を伴い条線を施す（第128図112～116、第129図122～128）

頸部に沈線区画された無文帯をもち、口縁部と胴部に斜位の条線を施す土器を本類とする。5単位の小波状口縁のものが主体となり、口唇部又は頸部に連続刺突文を施すものが多い。条線は充填されるものが多いが一部、磨り消されるものがある。口縁部の条線は右上がり、胴部の条線は右下がりに施されるものが多い。地文に一部縄文を伴うものもある。112は緩やかな波状口縁で口縁部に鋸歯状の条線が施される。113は平口縁となるもの、114は小波状の口縁となるもの。115は頸部無文帯が広く、口縁は刺突が施されるのみである。胴部には斜格子状に条線が施される。116は頸部上半で括れる器形である。121は縄文を施すものである。口唇部には突起を有し、頸部と胴部の間に刺突が施される。122～125は緩やかな波状口縁となり、126～128は小波状の突起が伴うものである。

5類 条線ないしは斜格子を伴う頸部無文帯土器

5a類 沈線区画された頸部無文帯を設けた後に、条線が充填されるもの（第128図118、第129図129）

118は緩やかな波状口縁で、頸部は括れず直線的に立ち上がる。口縁部には鋸歯状の条線、胴部には緩杉

状の条線が施される。129は口縁部、胴部ともに条線が横方向に密に施されている。

5b類 口縁部と胴部それぞれに条線を施した後に、頸部を磨消し無文帯とするもの（第128図117、第129図130～132・135）

117は地文に条線が縦位に施され、沈線で頸部を区画し、内部を磨消し無文帯とするもの。130～132・135は頸部を磨消し無文帯とするもの。地文に櫛歯状の条線が弧状に施される。

5c類 斜格子を施すもの（第128図119、第129図133・134）

119は沈線区画された頸部無文帯を設けた後に、斜格子を充填するもの。133・134は、口縁部と胴部に条線を施した後に、沈線で頸部を区画し内部を磨消すもの。134は弧状に条線を密に施し、さらに斜位に沈線を施すことにより、格子状にするものもみられる。

5d類 地文に縄文を施すもの（第128図120、第129図137～143）

120・137・138は地文縄文に沈線区画を行い、口縁部と胴部にそれぞれ条線を施した後、最後に頸部の縄文を磨消して無文帯とするもの。139～142は地文縄文に口縁部と胴部それぞれに斜格子文ないしは、条線を施した後、最後に沈線により区画し、頸部の縄文を磨消すもの。143は磨消しのみである。

5e類 鋸歯状文や綾杉文を施すもの（第130図、第131図）

144は3単位の大波状となる深鉢で、口唇部はやや折り返され肥厚する。波底部には刻みを施した「ノ」の字状の貼瘤がみられる。口縁部は無文となり、胴部には幅の狭い無文帯を挟む、2段の鋸歯状文を施す文様帯が巡る。145は144の同一個体と考えられる。146～148・153・154は波状口縁となるもので、153・154はやや直線気味に開く。149～152は直立気味に開くもの。158～162は浅鉢類と考えられる。158は4単位の波状口縁である。口唇にはキザミが巡り、体部には崩れた鋸歯状文が施される。159は弧状の条線が施される。

第6群 加曾利B式鉢・台付鉢

1類 ソロバン玉形鉢（第132図163～177）

胴部で屈曲するソロバン玉形鉢は量的には少ない。掲載したものがそのほとんどである。163・166・167は単沈線によるタスキ掛け状入組文が施され、入組み部分が磨消されている。胴部には横位の条線が施される。164・165は胴部で屈曲し、口縁部がくの字に開く器形である。頸部には弧線文が施され、その間に円文の凹み文が付けられる。弧線内部の縄文は磨り消される。胴部には斜位の条線が施される。170・171・176・177は口縁部に内部を磨り消した弧線文を施すもの。177は口縁部下端に帯縄文を施す。172は弧線文内に縄文を充填するもの。173は斜行する平行沈線間に縄文を施すもの。174は口縁部に刻みを施した垂下する隆帯により区画し、上下に対向する弧線を施す。胴部には鋸歯状に条線が施される。175は口縁部を連続刺突で区画している。口縁部には地文縄文に平行沈線を施し、沈線間の縄文を磨り消している。

2類 浅鉢（第132図178～184、第133図185～201）

加曾利B3式が主体で一部曾谷式にかかるものもありそうだ。器形は、内湾または緩く内湾し、全体に丸みの強く、丸底の器形が主体である。口縁部には、横位の沈線が2本巡り刺突が加えられる。178～180・183は体部中位に無文帯があり、沈線で区画された上下に縄文が充填されている。181は口唇部にキザミを施した隆帯を巡らせる。胴部には弧状沈線を施し、沈線間の縄文を交互に磨り消しているが、磨り消されない部分が連続する箇所がみられる。183は口縁部が外反する波状口縁で、無文帯となるもの。184は体部

にト・フ字文が施される。トの字文の先端はやや渦巻き、瘤状に隆起する。185～191は平口縁となるもので、口唇部に2条の沈線を施すもの。192・193は1条の沈線を施すもの。194は波状口縁となるもの。195～197は口唇部に刺突を施すもの。198・199は底部で、198は丸底で体部中位に帯縄文を施すもの。199は平底になるもので、胴部に無文帯を有する。200は球形に近い内湾する浅鉢の胴部で、胴部の張出部を境に上下に背向する弧線文が施され、縄文が充填されている。弧線間には貼瘤がある。201は大きく開く浅鉢で、互連弧充填縄文が施される。

3類 台付鉢など (第135図)

221・223～225・232～238は条線を施すもの。口縁部に斜位の条線を施し、頸部を無文帯とし、胴部に横位の弧状条線が施される。223は口縁部を広い無文帯とするもの。222・226～228・239・240は縄文を施すもの。222は口縁部に条線を施し、胴部に縄文を施す。弧状の沈線間を無文とする。227は弧状沈線内に縄文が充填される。228は沈線による楕円や鉤状の区画内に縄文が充填される。

第7群 曾谷式土器

口縁部の帯縄文をノの字状の貼付文で分割するものが多い。沈線は加曾利B式の沈線と比較すると細く弱々しく、弧線文なども粗雑に描かれるものが多い。加曾利B式に見られる口唇内面の沈線は残っている。

1類 波状口縁深鉢 (第137図241～247)

241・242・244は頸部に無文帯をもち、弱い沈線により区画されるもの。241・244は波底部にノの字状の貼瘤が付く。波底部間に大柄な弧線が施され縄文が充填される。242は緩やかな波状口縁で、口唇は肥厚し、複列の刺突が施される。245～247は波頂部に貼付文があるもの。245はボタン状の貼瘤が縦位に付く。246は刺突が施された隆帯が貼付けられる。内面にはボタン状の貼瘤が付く。247は縄文が施されたノの字状の貼瘤が付く。

2類 平口縁深鉢 (第138図257～267)

257～265は口縁部の帯縄文をノの字状の貼付文で分割している。帯縄文に施される沈線は浅く弱い点を特徴とする。頸部までの文様は弧線文が施され縄文が充填されている。266は口唇部にキザミが施され、6条の沈線が横走する。縦長のノの字状の貼瘤が付く。267はノの字状に開く深鉢土器。口唇にはくぼみを施す貼瘤が付く。口縁部は無文となり、胴部には弧状沈線内に縄文が充填される。

3類 瓢形深鉢 (第137図248～256)

胴部が最大径で、頸部から上は内湾しながらすぼまる器形である。248～250は胴部に互連弧充填縄文や縄文を充填した弧線文を施すもの。248は口縁部に多段の縄文帯が施される。貫通孔を伴う。249は口唇部から括れ部あたりまで広く縄文帯となり、無文帯の幅は狭い。胴部には互連弧充填縄文が施される。251は小ぶりのノの字状の貼瘤が付く。口縁部が4状の横走する沈線によって区画される。252は口縁部にタスキ掛け状入組文が施され縄文が充填されている。焼成後の穿孔がみられる。253は口縁部に粗雑な沈線で弧線を施したもの。254は肥厚する口唇に縄文が施され、直下に3列の刺突と縄文帯が施される。2つの貼瘤が付けられる。255は刻みが施された隆帯により口縁部を区画し、区画内に縄文が充填された弧線文を施す。256は胴部に上下に背向する弧線文が施され、縄文が充填されている。弧線間には貼瘤がある。口縁部には縄文を充填する弧線文が施される。

4類 鉢類 (第138図268～276)

268・269は内湾する鉢。268は口縁部に2条沈線を横走させ、胴部に斜位の条線を施す。269は上下に入

組む弧線文が施される。270は口縁部が外反するもの。口縁部上半に縄文が充填され、下半は無文帯となる。体部には弧状沈線が施され縄文が充填される。太い沈線により施される。271は台付鉢である。緩い波状の口縁で、口縁外面には細くて浅い沈線が3条施されており、3条の沈線により区画された胴部には縄文が施される。272は4条の条線が施される。273は口縁部は縄文帯に区画され、ノの字状の貼瘤が付く。274は横位条線を施した後に斜位条線が粗雑に施される。275は4単位の波状口縁となる浅鉢で、胴部には弧状沈線が施される。276は直線的に開く浅鉢である。

第8群 安行1式土器

安行1式については、精製土器と紐線文系土器の粗製土器に分けられる。量的には精製土器が多く、粗製土器の量は少ないと言える。粗製土器については別に記述する。曾谷式と安行1式を分ける目安としては、口縁部の帯縄文が2段から3段に多段化したものや単純な貼付文で分割された単文文様の枠内を太い沈線で区画するもの、多段化した帯縄文を連結するような縦長の貼付文を伴うものを本類とした。

1類 大波状口縁深鉢 (第139図277～282、第140図299)

277は扇状の波頂部を有し、縦長の貼付文が付く。278は扁平な波頂部を有し、2つの貼瘤と貫通孔が伴う。279～282は波頂部が山形となるもの。279・280は頭部に斜位条線が施される。299は波状口縁の波底部である。

2類 平口縁深鉢 (第139図283～297、第140図298・300・301)

2段～3段の帯縄文をもち平口縁となるものである。縦長の貼瘤を有する。283～287は帯縄文直下の連続する弧線文内に縄文が充填される。293～295は口縁が緩やかな波状になるもの。296は口唇部に沈線を施した突起が付き、突起の下に対となるブタ鼻状貼付文が貼付けられる。298・300・301は口縁部が内傾するもの。

3類 瓢形深鉢 (第140図302～304)

量的には極めて少ない。瓢形の深鉢で、帯縄文に沿って押引文が施されているもの。302・303は口縁部に弧状沈線を施し、内部に縄文を充填する。

4類 浅鉢類 (第139図297、第140図305)

297は緩く「く」の字状に屈曲して立ち上がる器形で、台付鉢と思われる。上下に2つの貼瘤が付く。305は緩い波状口縁となり、波底部に縦長の貼付文が付く。胴部にはタスキ掛け状入組文が施され縄文が充填されている。

第9群 安行2式土器

1類 大波状口縁深鉢 (第140図306～312)

306～309はキザミを伴う縦長の貼瘤やブタ鼻状の貼付文が施されるもの。307は口縁部に三角文、308は枠状文が施される。310は口縁部下半にブタ鼻状貼付文間に垂下する平行沈線と斜格子文が施され、311は斜位沈線を施す。

3類 瓢形深鉢 (第140図313・314)

内湾する深鉢で、瓢形になると考えられる。キザミを伴う縦長の貼瘤やブタ鼻状の貼付文が施される。314は貼付文間に沈線による弧状の文様が施される。

4類 鉢類 (第140図315～318)

315は浅鉢で蛇行沈線を伴うレンズ状の文様を施す。316～318は台付鉢である。316は2個一対の貼瘤

とブタ鼻状貼付文がつく。台には穿孔が巡る。318はキザミを伴う隆起線で多段区画を行い、中央には絞彩文が施される。

第10群 後期粗製土器

紐線文系、附点紐線系、条線・縄文のみのものを一括した。時期は堀之内式から曾谷式までが含まれると考えられる。紐線の押捺の重なり合うものは少ない。器形は頸部で括れ外反するものと、砲弾状のものがある。量的には精製土器以上の量が出土しているが、残念ながら総量を数値化していないため、その割合を示すことができない。出土層位は、精製土器と同様の層位から出土している。口縁内面に沈線を伴うものが多い。

1類 口縁部のみに紐線が貼付けられる土器 (第142図319～322、第144図337～342)

口縁部のみに紐線が施されるものは量的に限られている。紐線は太く、指頭圧による押捺がしっかり行われる。器形については、緩い括れがみられる。胴部文様は縄文に条線が施されるものが主となる。319・320は口縁部から胴部にかけて、弧線文を縦列の単位で施している。321・322は頸部に紐線の貼付けはないが、口縁部と胴部で条線の施文方向に違いがあり意識して施文しているようである。322は器高12cmの小ぶりのものである。

2類 口縁部及び頸部に紐線が貼付けられる土器 (第142図323～326、第143図327～330、第144図343～349、第146図377)

2a類 地文縄文に紐線貼付け後に条線充填するもの (第142図323・324、第143図329・330、第144図343～346・348、第146図377)

口縁部に横方向、胴部に斜方向の弧線状の条線が施されるものが多い。また、内沈線も明瞭なものが多い。条線が密に施される。器形は口縁部と胴部がほぼ同じ最大径となるものが多い。329・330は口縁部に多条化した対向弧線が施されている。377は口縁部に対向する弧線状に密な条線が施される。胴部には縄文が施されるのみである。紐線は細く、押捺も浅い。

2b類 地文縄文に条線を施し、最後に紐線が貼付けられる土器もの (第142図325・326、第143図327・328、第144図347・349、第146図378)

紐線は扁平化し、紐線に施した押捺が一部で重複するものがある。口縁部が最大径となるものが多い。条線はさらに密になり地文縄文の存在を消してしまうかのようなもの、さらには地文縄文が省略されるような例も見られる。328は頸部を境に口縁部と胴部の条線が別個に施され、最後に紐線が貼り付けられている。

3類 砲弾状の器形で、口縁部のみに紐線が施される土器 (第143図335、第146図376)

個体数は本群1類・2類の粗製土器に比べて極めて限られている。器形は、胴部が最大径となり滑らかな曲線を描く。平口縁が主体となる。紐線は押捺が一部で重複するものも見られる。口端はやや内傾し、内面沈線を伴うものはない。縄文を施した後に条線を施す。335は胴部上半に斜位の条線が施される。

4類 広口の壺で、口縁部に紐線による弧状の文様が施される土器 (第143図336)

336は口縁部に紐線を3条横走させ、2本の紐線で区画し、中央の紐線を扶んで対向弧線状に紐線を貼り付ける。器形は壺形に近い形となると考えられる。内沈線が2条巡り、内面もよく磨かれている。

5類 紐線に施した押捺が重なり合うことなく連続して施される土器 (第145図350、第146図375)

地文縄文に紐線に押捺が重なり合うことなく施される。350は直立気味に立ち上がるもの。2条の紐線

文が貼付けられる。375は内湾する器形で、口縁部に2条の紐線が貼付けられる。

6類 いわゆる附点紐線文系土器 (第146図381～384)

381～384は所謂附点紐線土器である。器形は内湾し、地文に条線を施す。口唇部に沈線、胴部にも同様の横位沈線区画が施される。381・382は口唇に連続するキザミが施される。前述A区包含層土器752～765と概ね同時期のものと考えられるが、口唇部の厚さを比較すると薄かったことから、後期の粗製土器に一括した。

7類 条線・縄文を地文とするもの (第146図385～390)

385～387は口縁部の小破片で詳細は不明であるが、櫛歯状工具に条線が施されるものを一括した。388～390は紐線を伴わないもので、器形は口縁が内湾する。388は砂粒を多量に含む。389・390は口唇部の口端が面取りされた角頭状を呈する。389は横位沈線に蛇行沈線が垂下する。390は内沈線が伴うもので縄文がしっかりと施されている。

第11群 晩期精製土器

1・2類 安行3a式・3b式土器 (第148図391～410)

391～398は陰刻の三叉文や入組文、弧線文を伴い、縄文が充填される安行3a式～3b式の破片資料である。391は三叉文を施す。392は入組文間に陰刻の三叉文を施す。393は平口縁の浅鉢で、体部に突帯を伴い最大径となっている。太い沈線による連続する弧線文が施される。胴部には平行沈線による弧線文が施され、内部に縄文が充填される。口縁部には対向弧線文間に陰刻の三叉文とステッキ状の沈線が施される。394は玉抱き入組三叉文が施される。395は口縁部に入組三叉文を施し、胴部に陰刻の三叉文を施す。396～398は陰刻の三叉文が施される。399～401は大波状口縁となるもの。399は波頂部に大柄な鉢巻状貼付文が認められる。400はキザミを伴った扇状の波頂部に、大柄なブタ鼻状貼付文が付き、口縁部には三角文が施される。402は口縁部に上下に対向する弧線文を施し、弧線が接する部分にブタ鼻状貼付文が付く。弧線文間に縄文が充填される。403は口縁部に横走する2条の沈線間に縦方向のキザミを充填する。2個一對のキザミを施した貼瘤を縦方向に付ける。その下の区画には弧線文間に縄文を充填する。404は入組文間に陰刻三叉文が施される。405～410は鉢類などで、405・406は鉢で、406は三叉文が施される。

407～409は台付鉢である。408は口唇部に粘土紐による波状の貼付文が施され、胴部には入組文が施される。409は口唇が肥厚し、連続する弧線が施される。胴部には上下に入組む弧線が横位に連続して施される。410は壺で、2本の沈線間にキザミが施され肩部に平行沈線と弧線文が施される。

3類 文様帯に細密沈線を充填する土器 (第148図411・412)

施文工具は先端の細い棒状工具であろう。器形は口縁部が内湾し砲弾型を呈するものと考えられる。411は横位の沈線で分割された文様帯を縦位の沈線で再分割し、弧線で仕切られた区画内に短い細密沈線を充填している。弧線文の間に細かいキザミが施されている。細密沈線は縦列に並ぶものや、綾杉文となるもの、斜行するものなどがある。本類は安行3b式～3c式と並行すると考えられる。

4類 安行3c式土器 (第148図413～420)

入組文・弧線文を伴い、縄文が施されないもの、また列点を伴うものを一括した。413・414は緩い括れを伴う深鉢で、413は入組三叉文が施される。414は入組文が施される。415はレンズ状の沈線文内部に刺突が施される。416は口唇にキザミが施され、波状の突起が付く。平行沈線間に列点が施される。複線化した入組文間に列点を充填する。417は平行沈線による弧線、418は入組弧線文が施される。419は台付鉢

の台で、平行沈線と弧線が施される。420は壺で平行沈線間に等間隔に刺突を施す。

5類 安行3d式とされる土器 (第149図421～424)

沈線は彫刻刀で彫り込んだような三角形の断面を呈した深い沈線によって描かれている。列点は充填されない。器形は胴部が膨らんで、緩い頸部を伴い、口縁部が外傾ないしは外反する。421は口縁部に入組三又文が施され、胴部には連続する弧線文が施される。423は入組文が施される。

6類 純山系波状口縁深鉢土器 (第149図425～432)

純山式及びその系統を引くものを一括した。口縁部は直立ないしは外反する。口縁部文様は、菱形文の区画を主文様とし、縦列に円文や、入組弧線文などが施されている。425～429は縄文が施されるもの。425・426は菱形文を主文様とし、波頂部下に円文が施される。427・428は入組弧線文が施される。429は垂下する2条の沈線が施され、間に列点文が充填されている。波頂部から菱形文を縦断して胴部区画文まで施されると考えられる。430・431は菱形文内を無文として、縦列文様に列点文が施される。

7類 前浦式土器 (第149図433～438)

434～436は「の」の字文が施される。437・438は舟形杵状文が施される。

8類 大洞系などその他の土器 (第151図467～475)

467～469は口唇にキザミや貼付文を付し、口縁部には羊歯状文が施されている。大洞B式か。469は沈線下に縄文が施される。470は鉢で小波状口縁となる。胴部には沈線と刺突列を施している。安行3c式～3d式か。471・472は玉抱き入組三又文が施される。474・475は壺形土器で、474は2個単位の突起を有する波状口縁となる。口縁部には1条の沈線が巡り、肩部には沈線と縄文が施される。丁寧に磨かれている。475は肩部に段が形成されている。

第12群 後期安行1式以降の粗製土器

1類 帯縄文による区画文を伴う平口縁深鉢土器 (第150図439)

439は帯縄文により区画された中に沈線による楕円形の杵状文が施された平口縁深鉢で上下2段の杵状文が施されており、杵状文間と下に簡略化したボタン状貼付文が伴う。横位に近い条線が胴部下半に施されている。安行2式～3a式と考えられる。

2類 杵状文を伴う平口縁深鉢土器 (第150図440～448)

440～448は杵状文を伴う平口縁深鉢で、440は胴部に緩い弧状の条線が施される。444は焼成後の穿孔がある。

3類 紐線文系土器 (第150図449～460、第151図461・462)

本類は、紐線文系として一括し、文様の有無などから細別する。加曾利B式期の紐線文系土器は、口縁部と胴部に貼り付けられた粘土紐に指頭押圧を加えるものが中心であったが、安行期になると押し引き状に指頭押圧を加えるものが主体となっていく。文様は、地文となった条線のものから次第に沈線による平行線や弧線による文様が施されるようになる。器形は、砲弾状を呈するものが主体となり、口唇部は肥厚して外面に粘土紐を貼付けるものが普通だが、内面側が肥厚するものもある。紐線文は、粘土紐の明瞭な貼付けから次第に口唇部で一体化し、口唇部下端に押し引き状の紐線文的な施文が行われるようになる。後期後葉からの紐線文土器は、紐線文の形状によってある程度の時期差を示すことは確かだが、施文される文様は漸次多様な施文方法によってバラエティを増やしていくことから各型式に峻別することは難しいと思われる。

3a類 地文となる条線のもの(第150図449～452)

加曾利B式期の紐線文に比べ、主に左から右方向への押引状の指頭圧により描出された紐線文からなり、口唇部と胴部に施される紐線文は指頭による押引状を呈する密なものが多い。おおよそ安行1式～2式の時期と考えられる。449は口縁部に斜位の条線が施される。450～452は横位の弧状条線が施される。

3b類 沈線による文様が増えらるるもの(第150図453・457)

口縁部文様帯に沈線によるレンズ状の弧線文、平行沈線による弧線・斜線などが施される。3a類に比べ紐線文は更に細かな押引状の指頭圧となるもののほか、ヘラ状工具によるものなどが見られる。地文となる条線は、全体に疎となる。本類の時期は、安行2式～安行3a式と考えられる。453・454はレンズ状の弧線文を施す。457はハの字状に斜行沈線と平行沈線による弧線文を施す。斜行沈線内には列点を充填する。胴部の紐線文の末端が上方に立ち上がっている。

3c類 口縁部文様帯に地文の条線と沈線文を施し、沈線文内部の条線を磨消すもの(第150図454)

条線を施した口縁部文様帯に沈線文を施し、沈線文部の条線を磨消す紐線文系土器一群で、量的には微量である。454はレンズ状弧線文と弧線文間の条線を磨り消している。時期は安行2式～安行3a式であろう。

3d類 沈線文が施されるもの(第150図455・456・458～460)

455は垂下する2条単位の平行沈線間に対向弧線文が施される。456は平行沈線による弧線文間に対向弧線文が施される。458は垂下する沈線と弧線が施される。460は弧線文間に2条の垂下する蛇行沈線を施す。

4類 附点紐線文系土器(第151図462)

紐線の貼付けがなく、工具による連続刺突文が主である。おおよそ安行1式～2式の時期と考えられる。462は紐線の貼付けがなく、器形は口縁部が内傾する土器で、口唇部と胴部に工具による連続する刺突が施される。

5類 条線のみが施される土器(第151図463～466)

口縁部が内湾ないしは内傾する砲弾型の器形で、口唇部が肥厚する。弧状の条線を主体とし、条線は左から右への動きで施文されている。本類の時期は安行3c～3d式であろう。466は密に条線が施される。

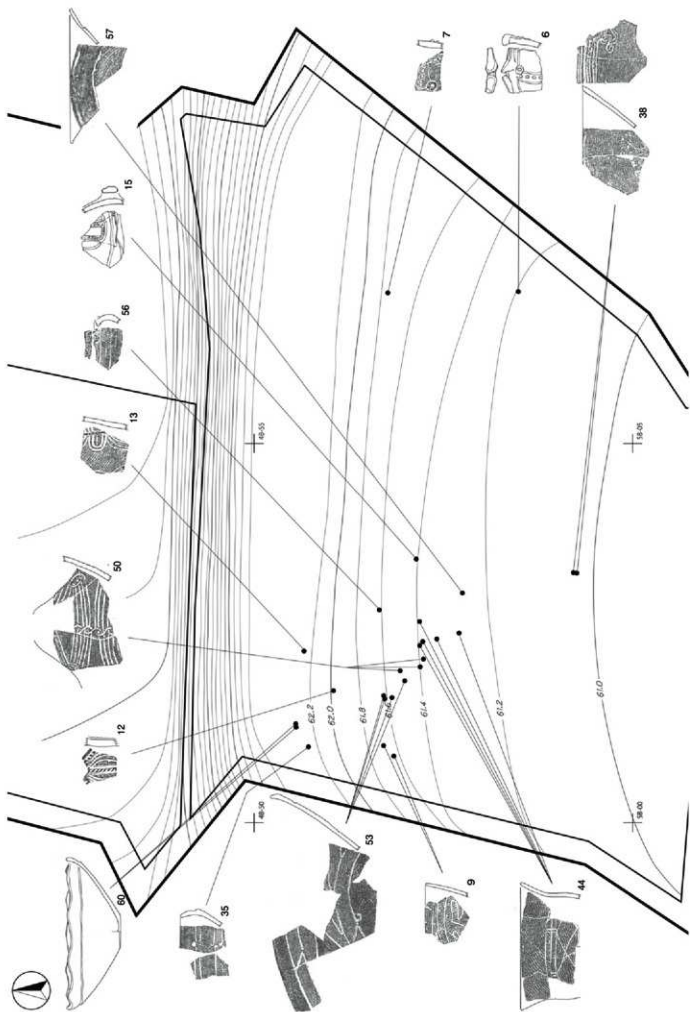
第14群 底部(第151図476～486)

網代痕を伴うものを一括した。476・477は、経2本潜り2本超え、緯2本超え2本潜り1本送り。478は、経2本潜り2本超え、緯2本超え2本潜り2本送り。479～484は、経2本潜り1本超え、緯2本超え1本潜り右1本送り。485は、経2本潜り1本超え、緯2本超え1本潜り左1本送り。186は木葉痕が施される。

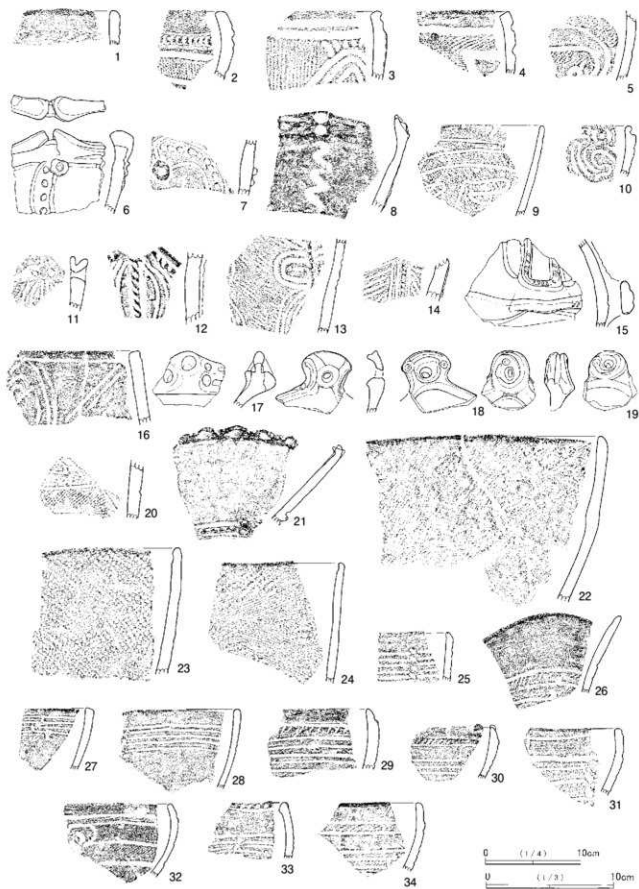
2 土製品(第153図～第155図)

C区から出土した土製品は、注口土器11点、異形台付土器2点、釣手土器1点、ミニチュア土器2点、突起2点、環状土製品1点、耳飾り1点、土偶3点、有孔円盤1点、土器片円盤は67点、このうち図化したものが34点である。時期は、後期中葉から晩期前葉にわたっている。

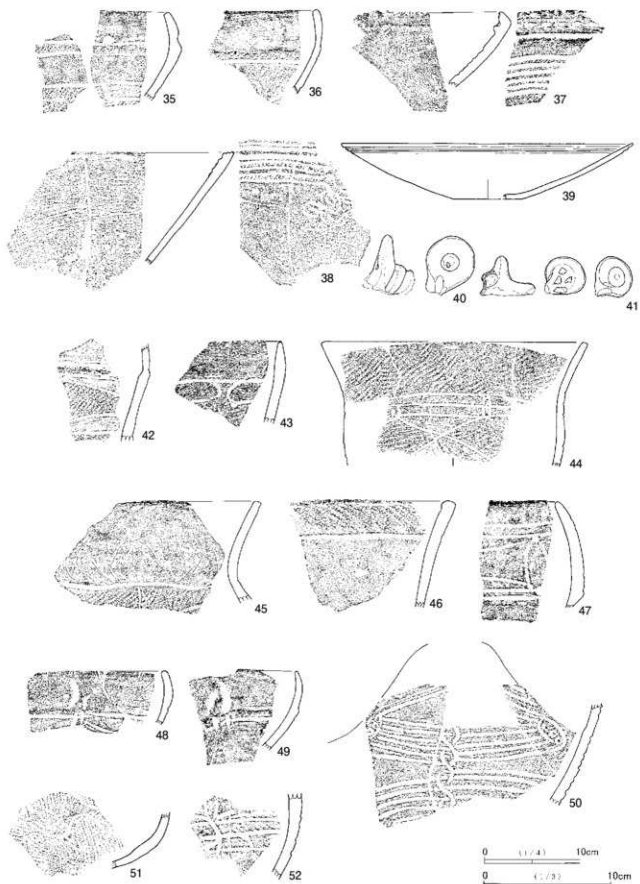
487～497は注口土器である。487～489は集合細線によって区画され、逆「の」の字状や蕨手状のモチーフが描かれる。加曾利B1式か。490は口縁部に5単位の突起が付き、多条の沈線によって区画された胴部上半に、逆「の」の字状のモチーフが描かれ、縄文が充填される。491は胴部が球状の器形となり、弧状の沈線内に縄文が充填される。加曾利B3式か。492は胴部がソロバン玉状になり張出部を境に上下に背向す



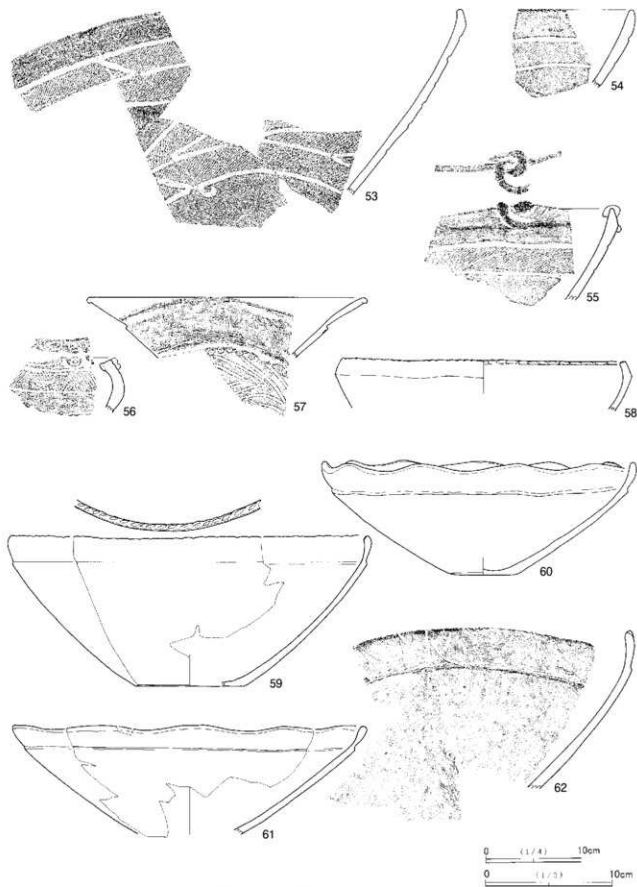
第120图 C区後期土器出土分布图(3·4群)



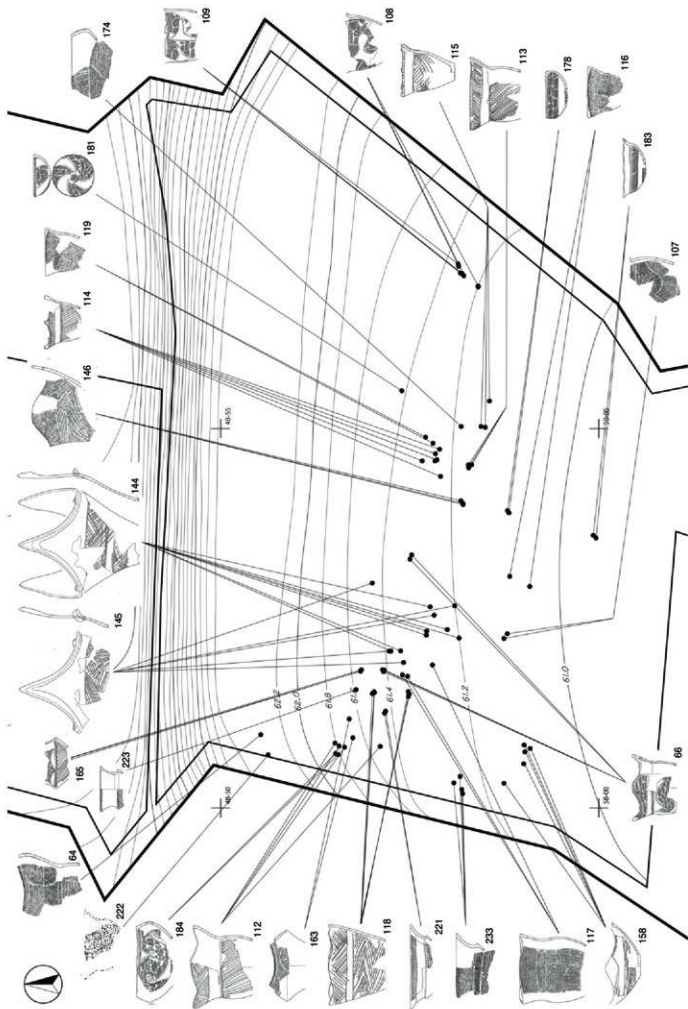
第121图 C区包含层出土土器(1)



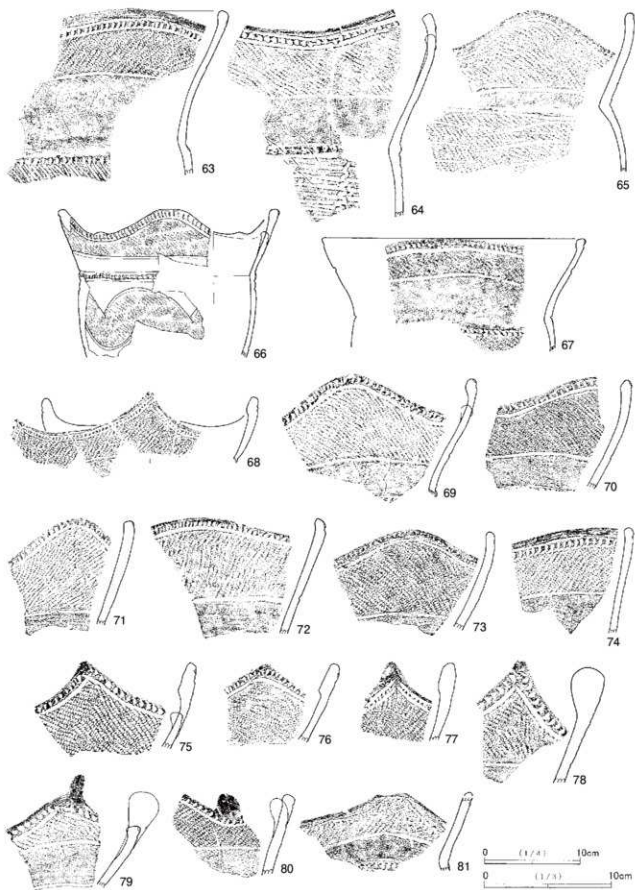
第122图 C区包含层出土土器(2)



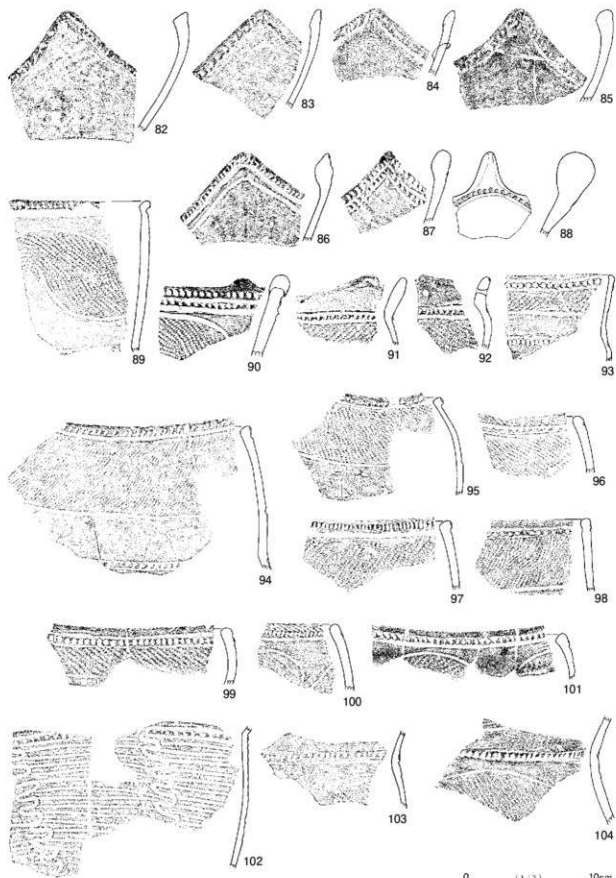
第123图 C区包含层出土土器(3)



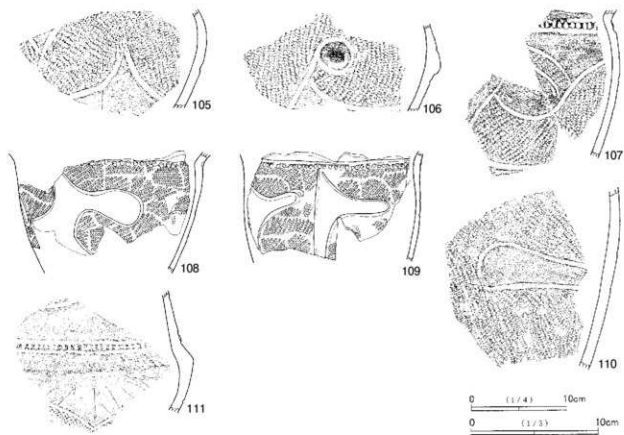
第124图 C区后期土器出土分布图(5·6群)



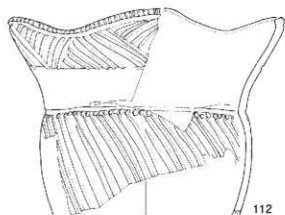
第125图 C区包含层出土土器(4)



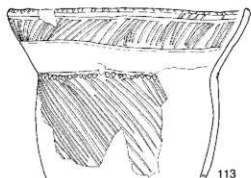
第126图 C区包含层出土土器(5)



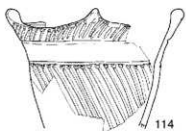
第127图 C区包含层出土土器(6)



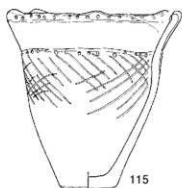
112



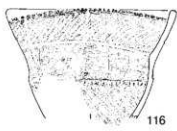
113



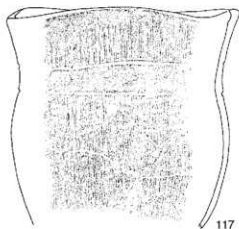
114



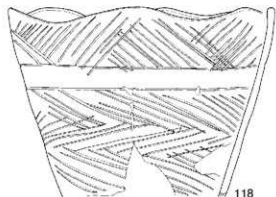
115



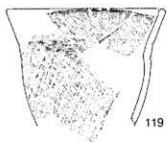
116



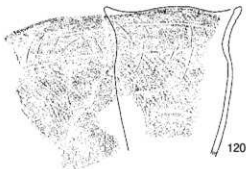
117



118



119



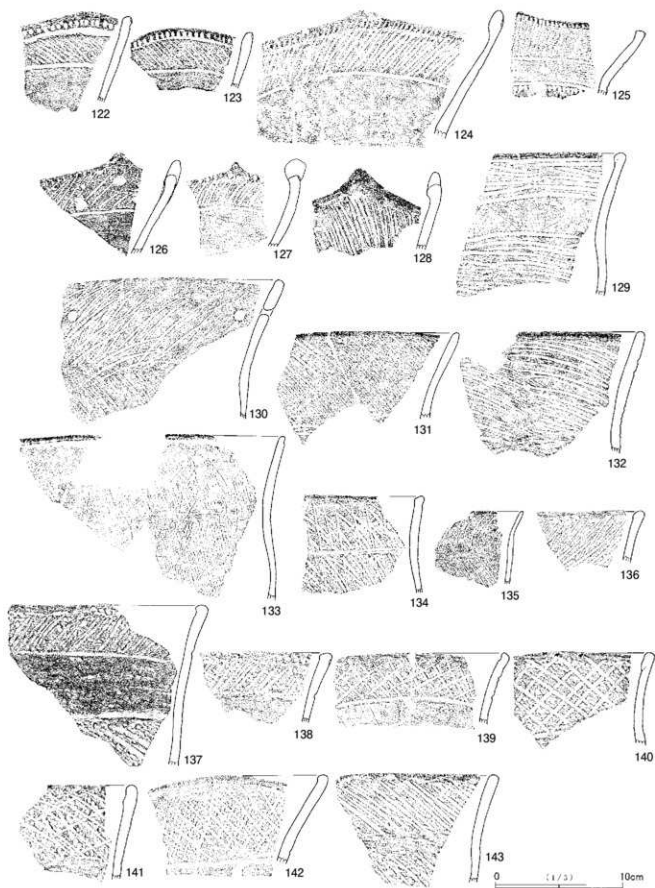
120



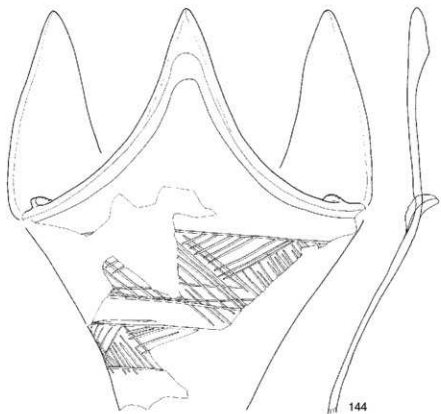
121

0 1:1/4 10cm

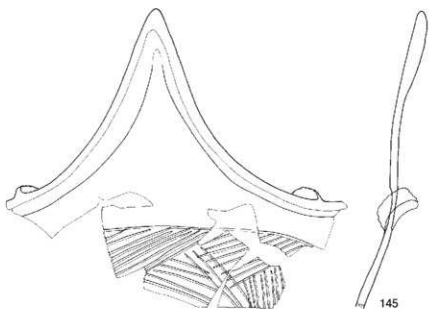
第128图 C区包含层出土土器(7)



第129图 C区包含层出土土器(8)



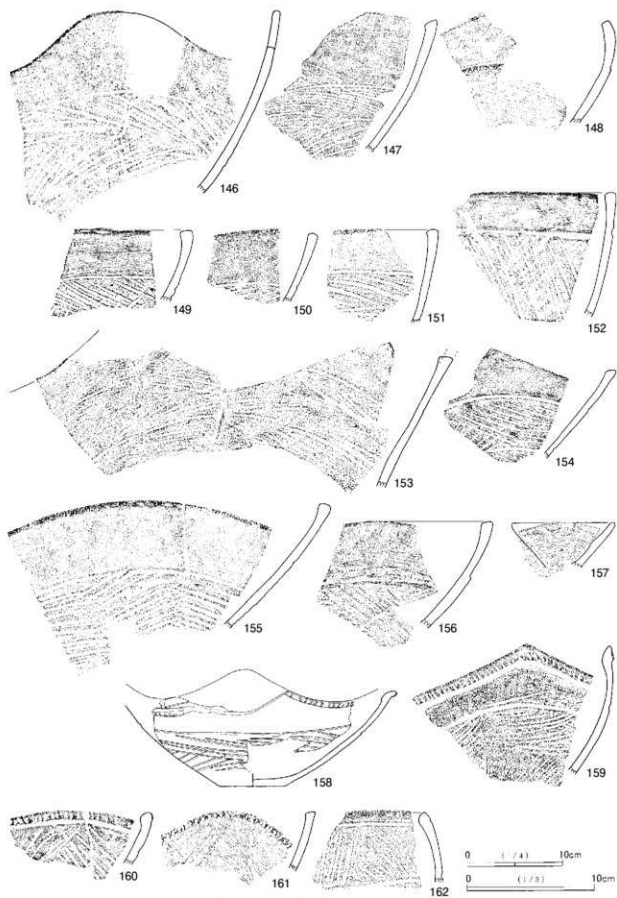
144



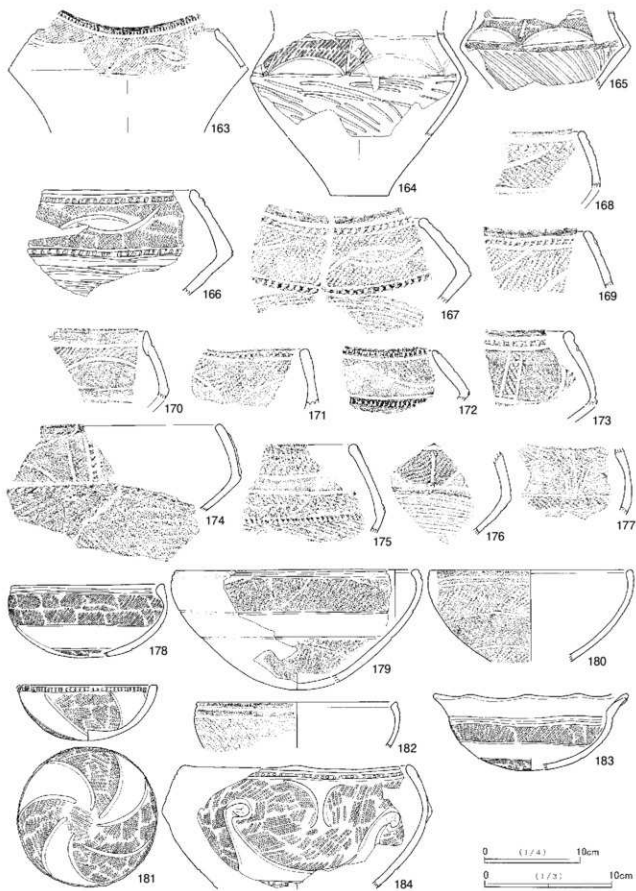
145

0 (1/3) 10cm

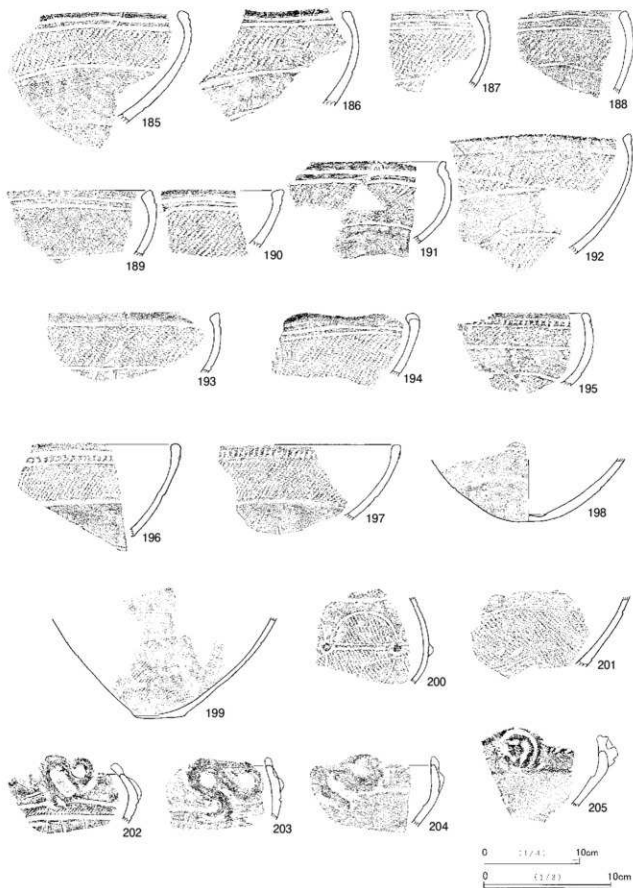
第130图 C区包含层出土土器(9)



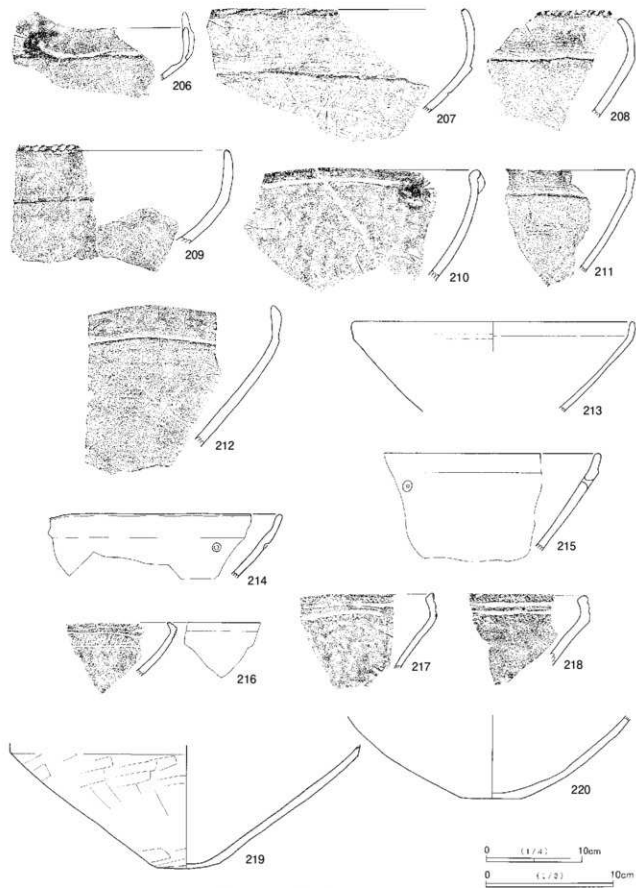
第131图 C区包含层出土土器(10)



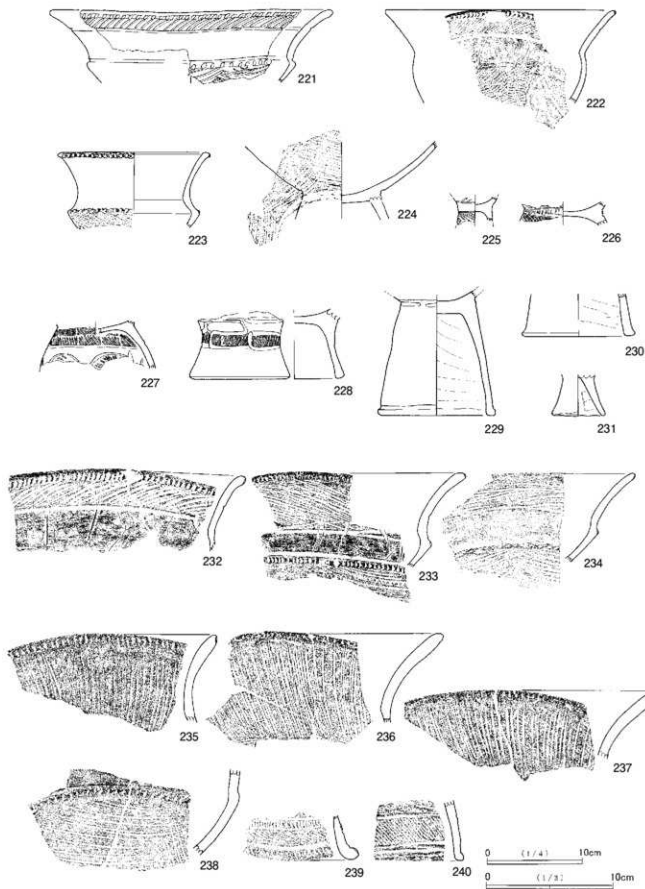
第132图 C区包含层出土土器(11)



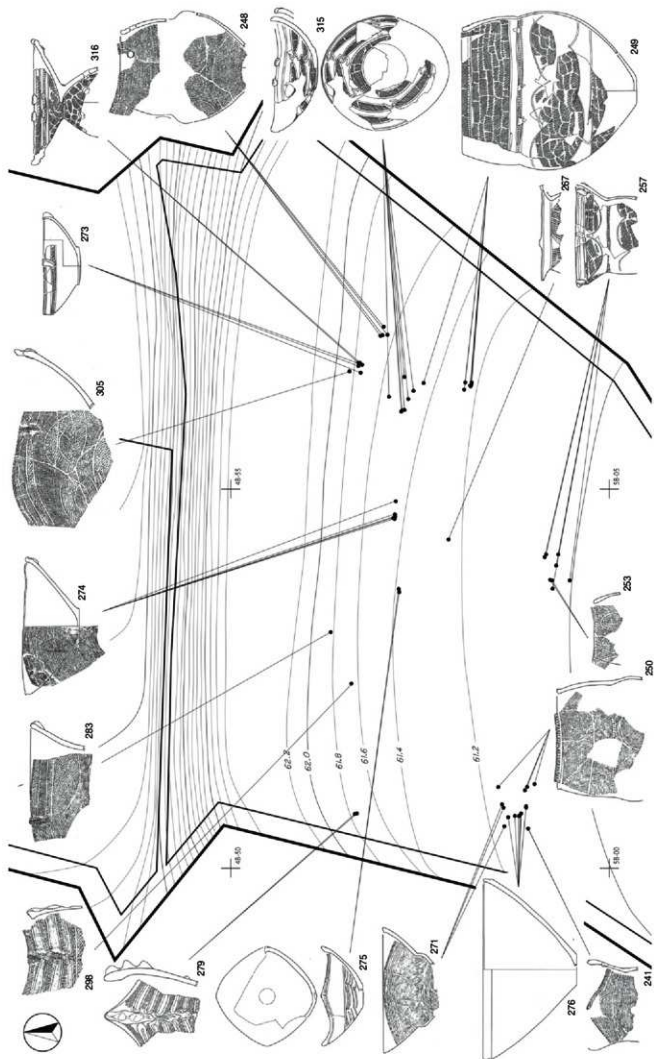
第133图 C区包含层出土土器(12)



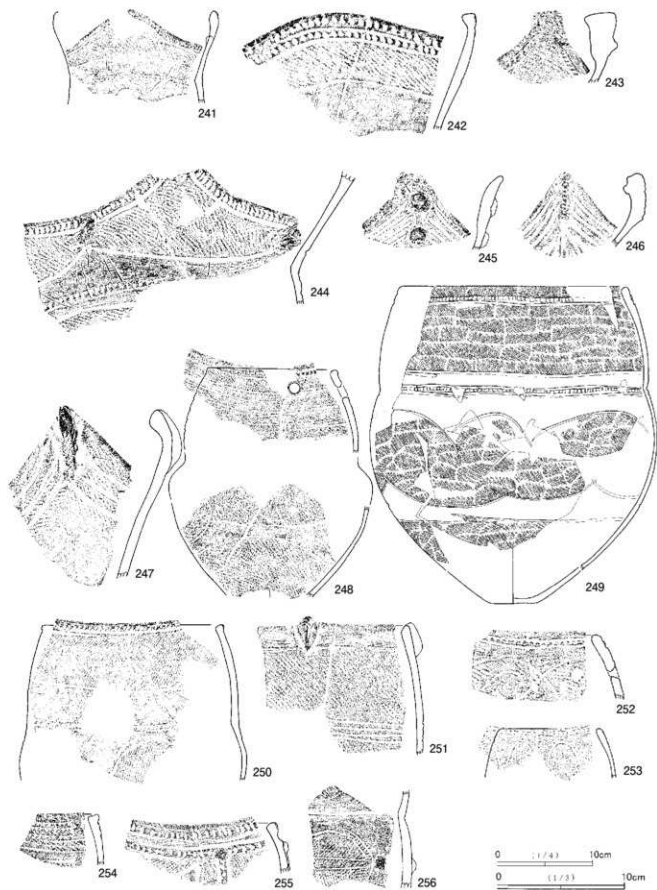
第134图 C区包含层出土土器(13)



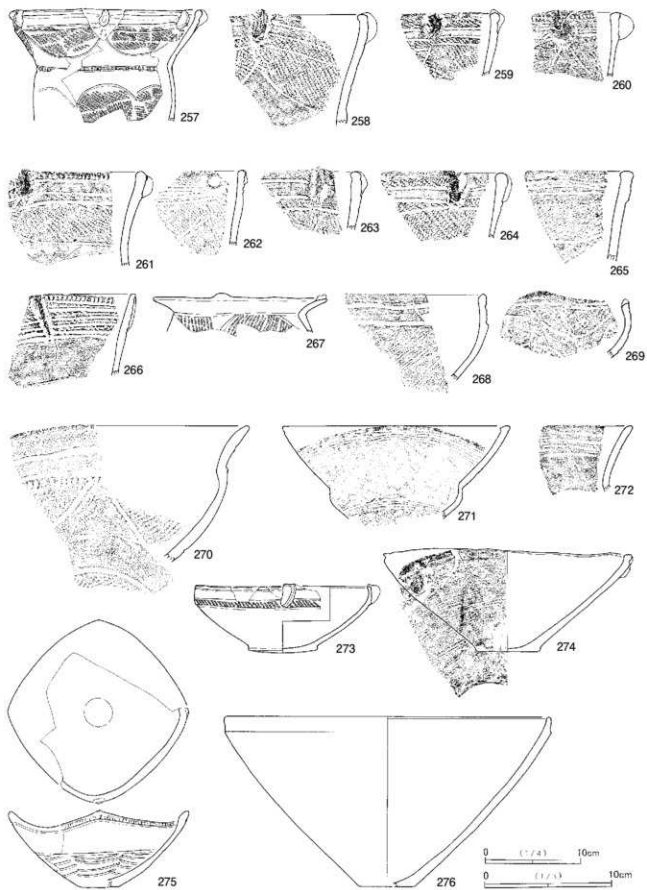
第135图 C区包含层出土土器(14)



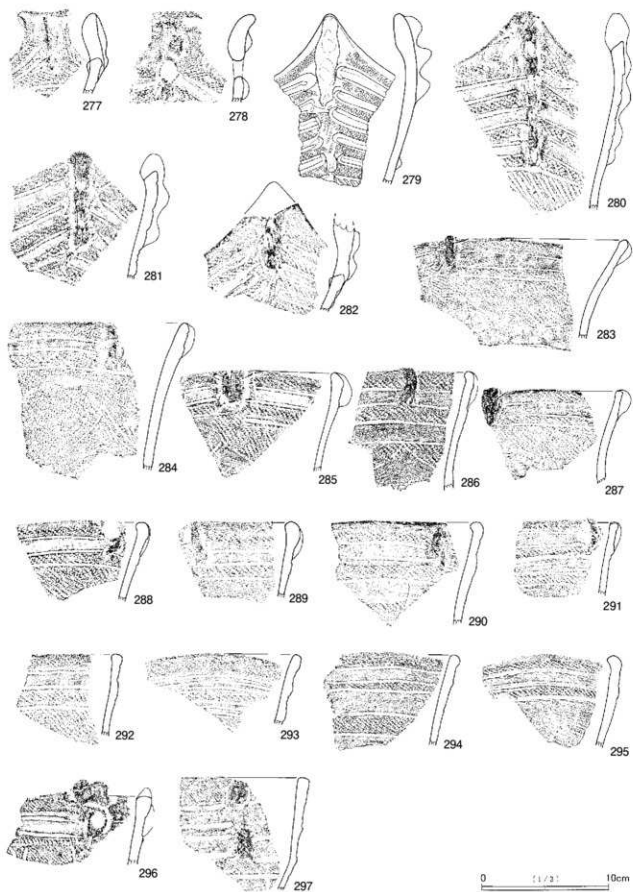
第136图 C区後期土器出土分布图(7~9群)



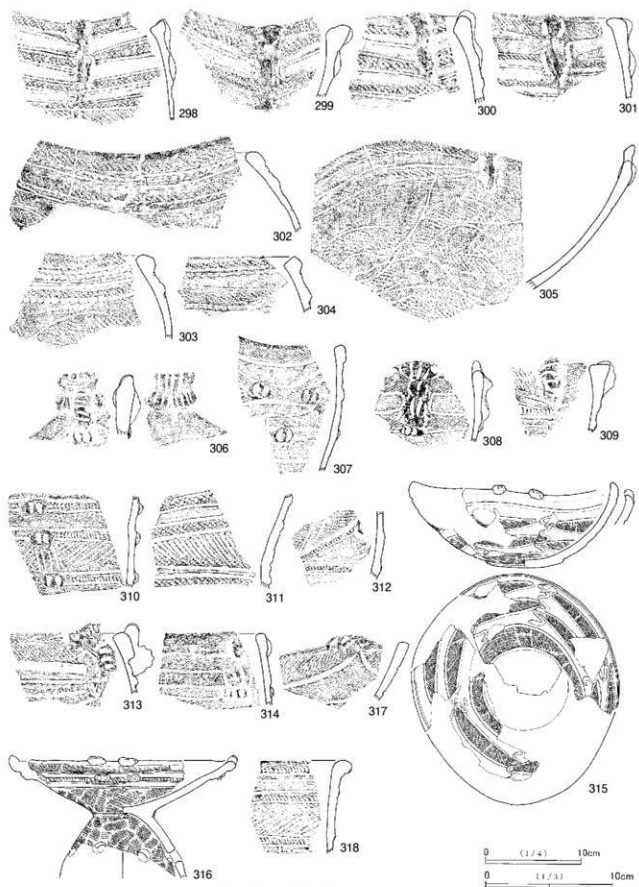
第137图 C区包含层出土土器 (15)



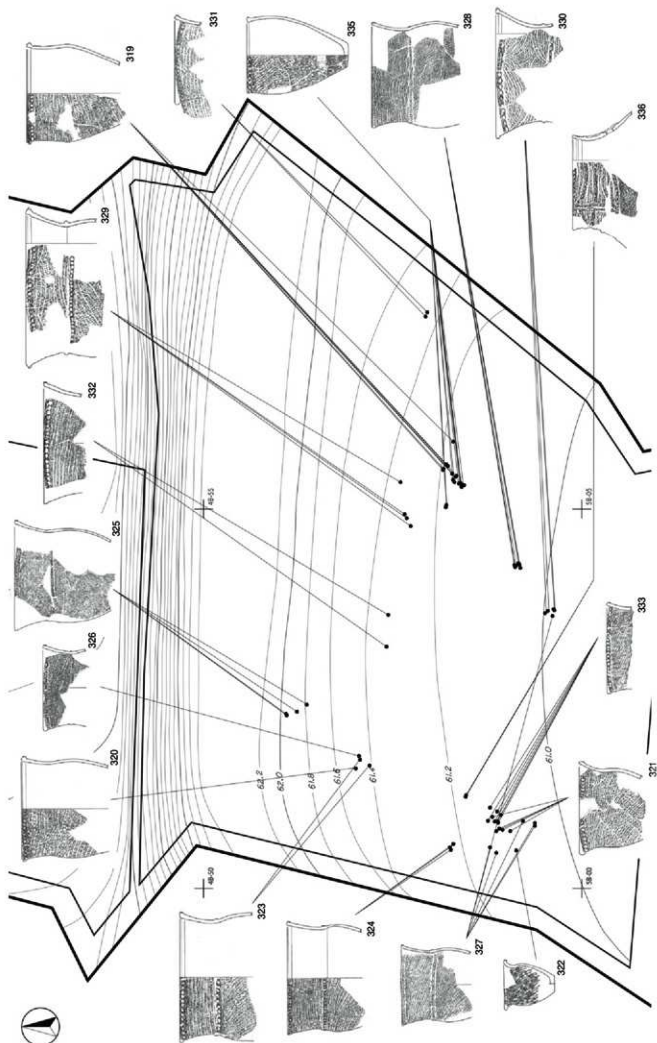
第138图 C区包含层出土土器(16)



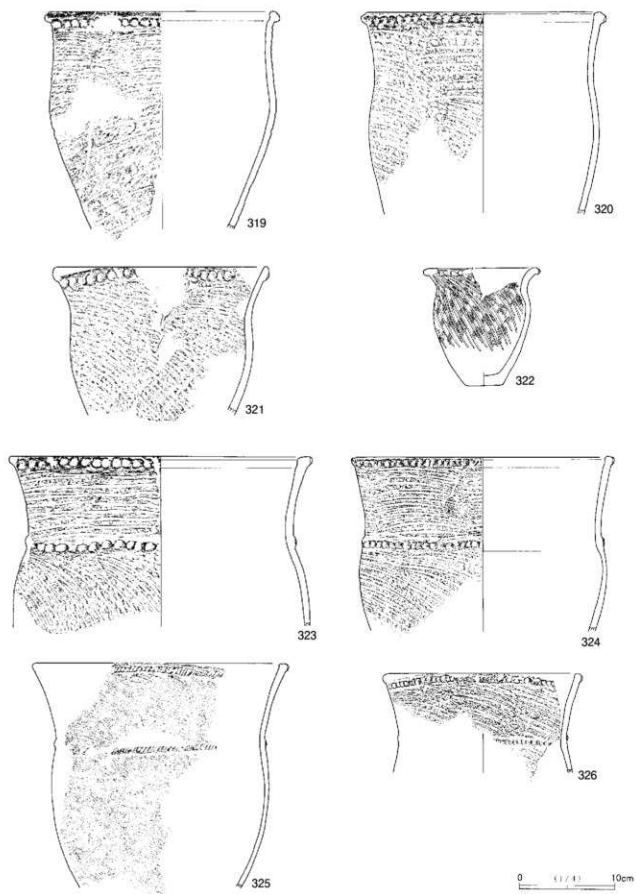
第139图 C区包含层出土土器(17)



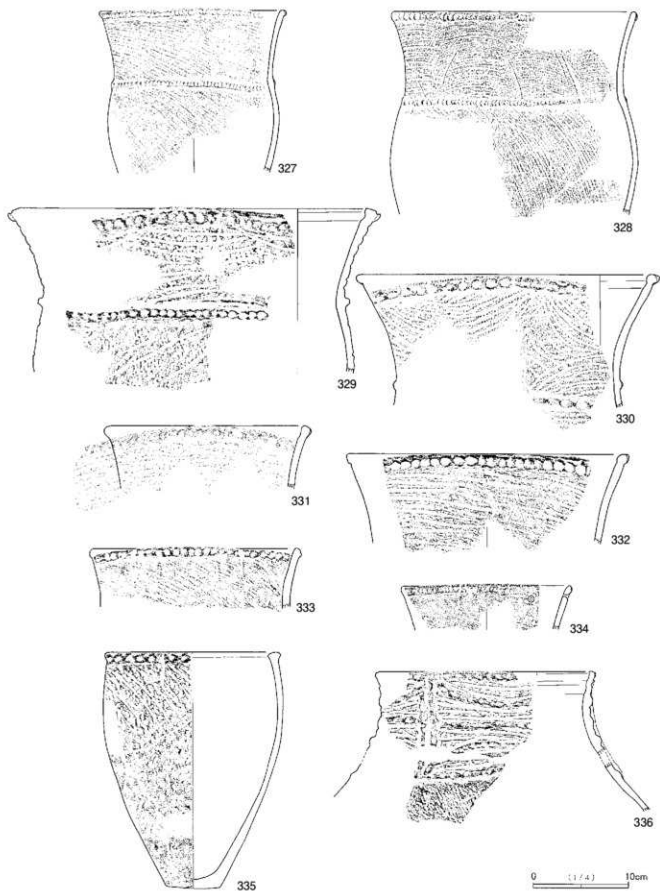
第140图 C区包含层出土土器(18)



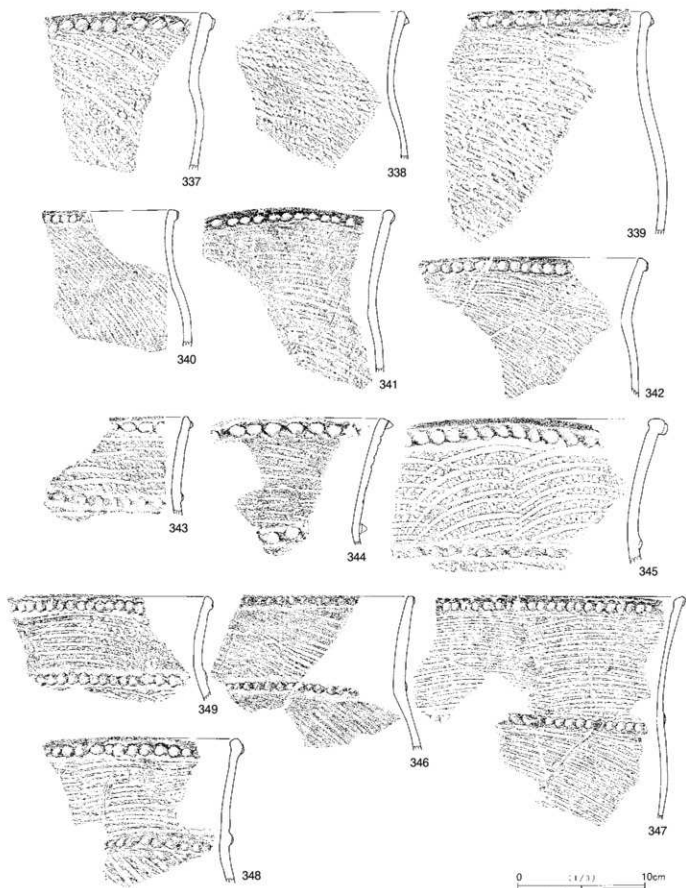
第141图 C区後期土器出土分布图(10群)



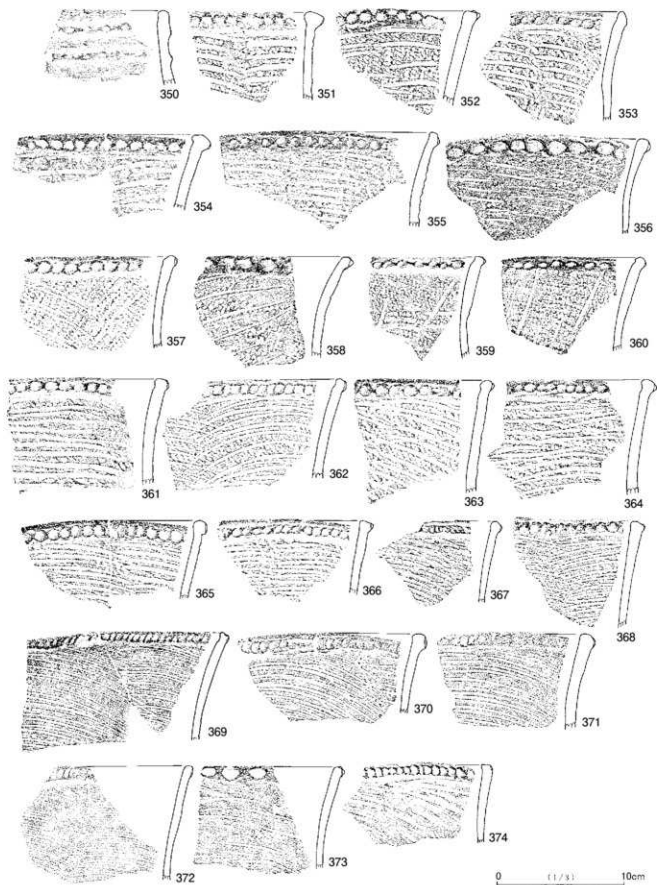
第142图 C区包含层出土土器(19)



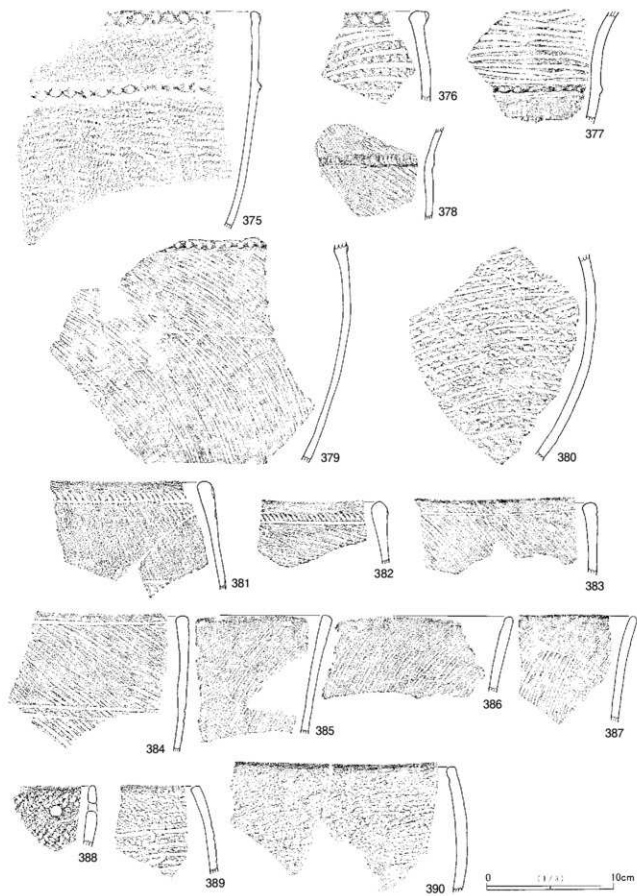
第143图 C区包含层出土土器(20)



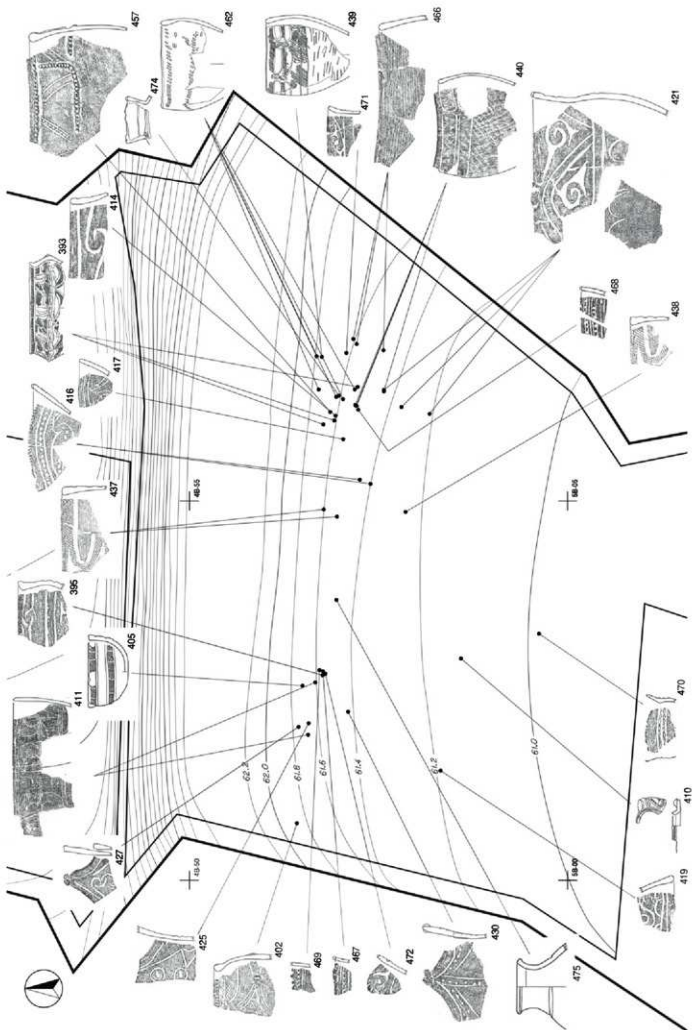
第144图 C区包含层出土土器(21)



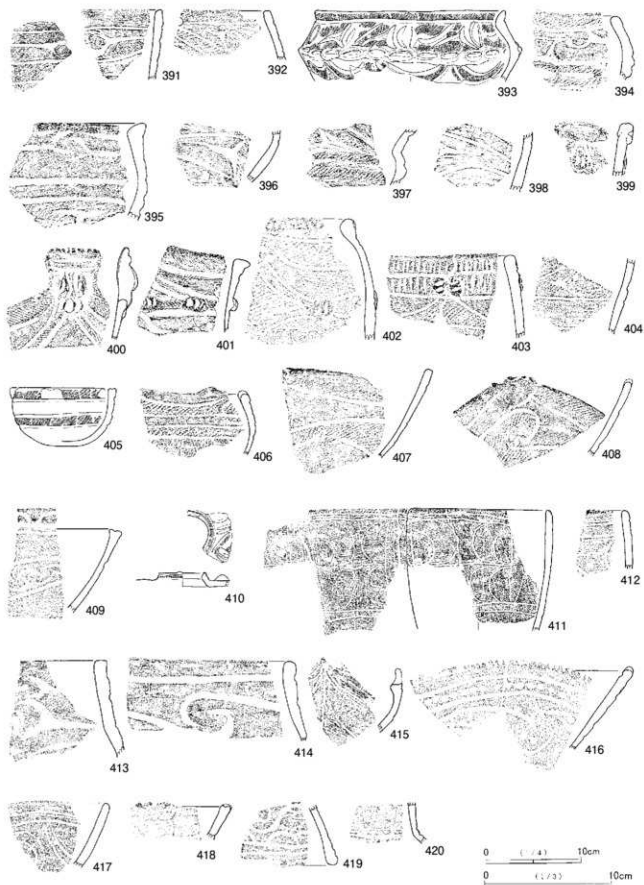
第145图 C区包含层出土土器(22)



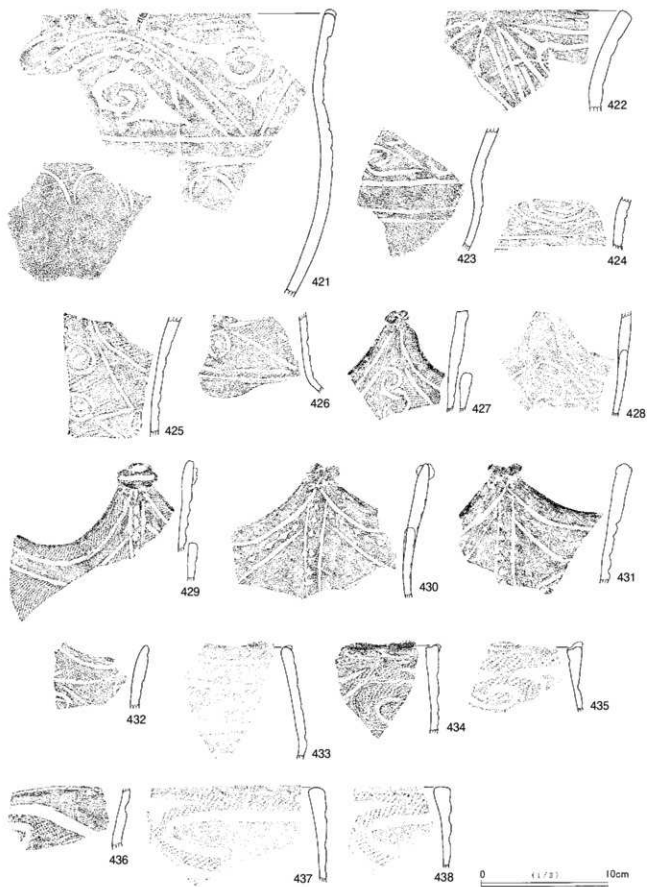
第146图 C区包含层出土土器(23)



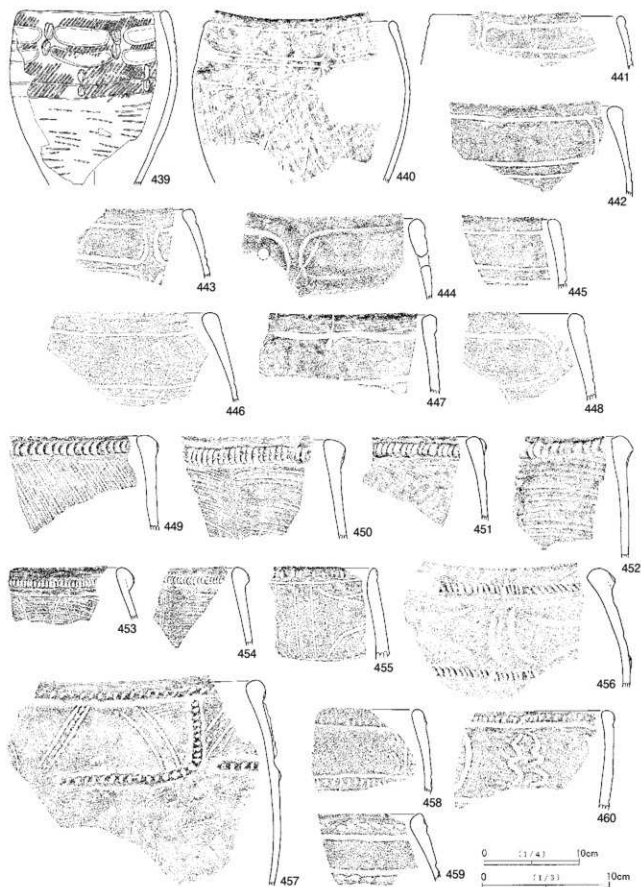
第147图 C区晚期土器出土分布图(11·12群)



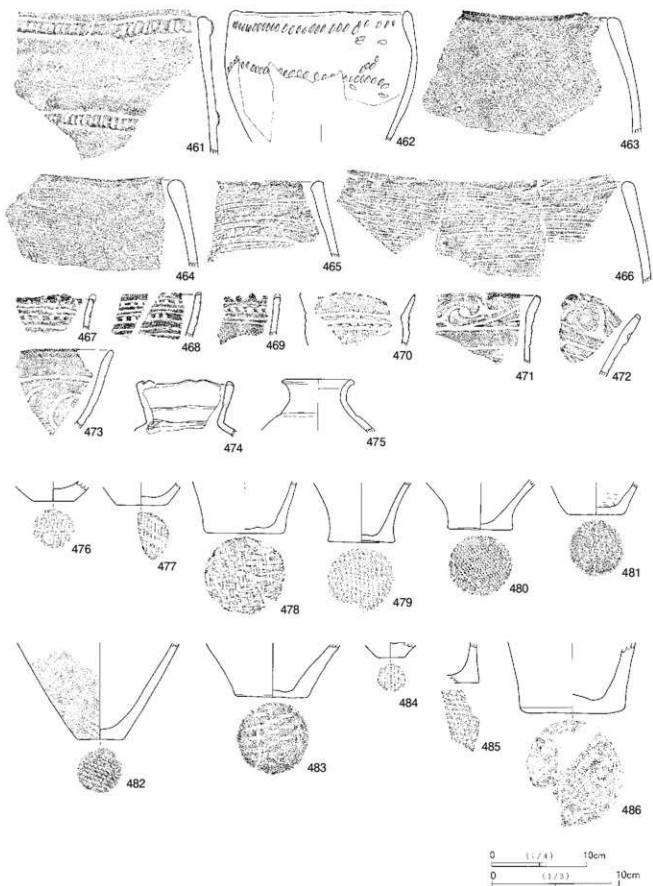
第148图 C区包含层出土土器(24)



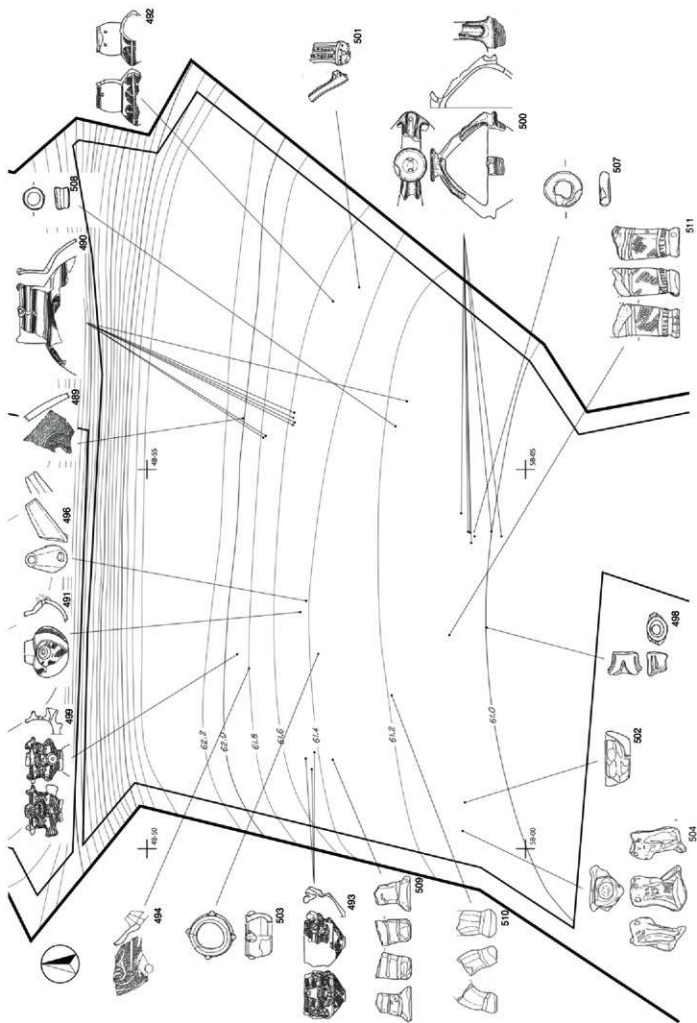
第149图 C区包含层出土土器(25)



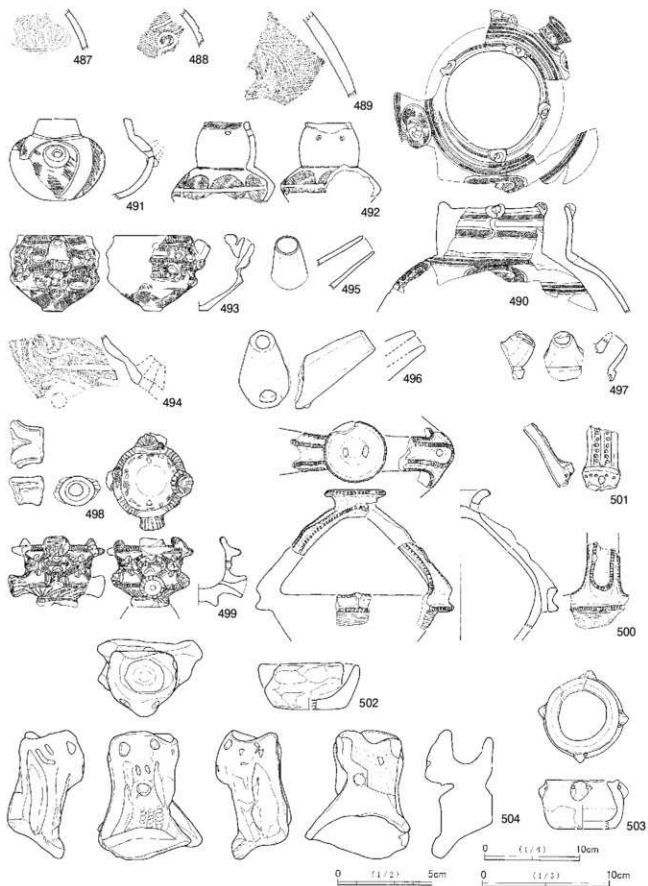
第150图 C区包含层出土土器(26)



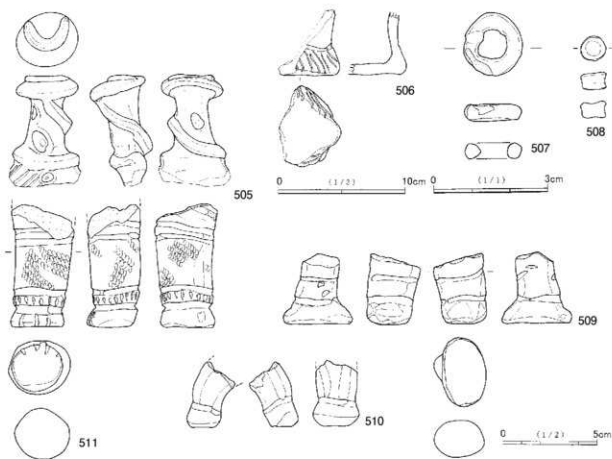
第151图 C区包含层出土土器(27)



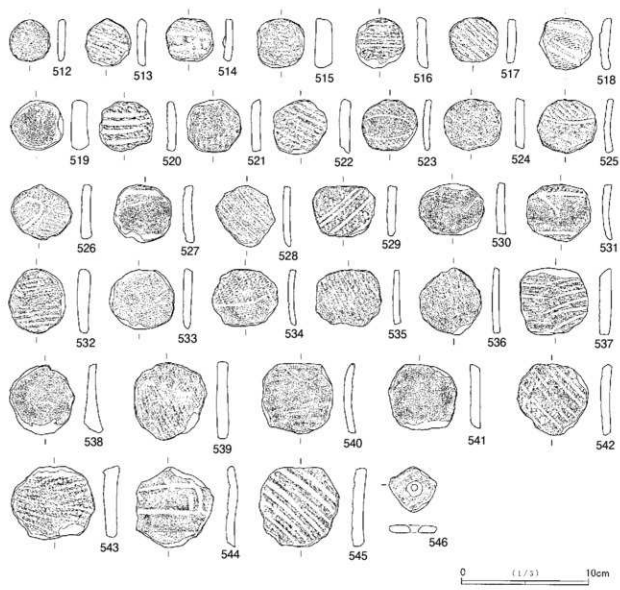
第152图 C区土製品出土分布图



第153图 C区包含层出土土器(28)



第154图 C区包含层出土土製品(1)



第155图 C区包含層出土土製品(2)

る弧線文が施される。弧線文間には貼瘤がはがれた痕が遺る。口縁部には3つの穿孔が施されている。安行1式か。493は隆帯にキザミが施され、杵状文が施される。内面は丁寧に磨かれている。安行2式である。494は入組三叉文が施される。安行3a式～安行3b式と考えられる。496は注口下部に貼付文が伴う。498・499は異形台付土器。498は双口部の破片で、陰刻の三叉文と沈線が施される。499は4単位のキザミが施された突起が付き、円や弧線状の透かしが施される。安行2式と考えられる。500・501は釣手土器である。500は2窓式の釣手土器で、隆帯上にキザミが施され胴部には条線が施される。釣手の頂部に王冠状の突起が付く。501は釣手部分の破片で沈線間に連続する刺突が施され体部の突起には穿孔がある。加曽利B3式か。502・503はミニチュア土器で、503は口唇部が受け口状になり、横方向に穿孔がある4単位の突起が貼付けられる。504は顔面の突起である。顔の表現が施され、その下には縄文が施される。左右で耳状の表現がやや異なっている。堀之内式～加曽利B式か。505は螺旋状に巻き付けられた隆帯が施され、頂部は円盤状となり、U字状の貼付けが施される。加曽利B3式と考えられる。507は環状土製品で、外径1.5cm、内径0.7cmを測る。加曽利B式か。508は径1.2cmの白形の耳飾りである。509～511は山形土偶である。509・511は右足部分、510は右腕部分と考えられる。511は縄文を施し、沈線間に刺突がめぐる。つま先部分には4本の沈線が施される。512～545は土器片円盤。546は有孔円盤である。

C区包含層からは土器片円盤167点が出土している。丁寧に縁辺を打ち欠き、研磨されているものもある。完形と思われるものが145点、明らかに欠損しているもの22点である。素材となった土器片は、中期加曽利E式・後期堀之内式・加曽利B式・曾谷式・安行1式の各時期のものである。90%が後期の土器片で、このうち70%以上が加曽利B式土器である。大きさは、直径が3cm前後から7cm前後までである。集中する地点はない。

3 石器

出土した石器は、剥片石器類及び石核類では、石鏃32点、石鏃未成品55点、石鏃5点、両極石核29点、石核26点である。石核石器類では、磨製石斧15点、打製石斧26点、打製石斧未成品3点、磨石類91点、石皿11点などである。このほか墨形石製品14点、砥石15点などが出土している。石製品としては石棒9点、軽石製品4点、玉類2点、玉の未成品類2点、垂飾品1点、白玉3点、玉の原石1点などで、これらの合計は342点である。また、定型石器ではないが、打ち欠かれた碟で用途が不明な碟器としたものも出土している。

石鏃の未成品・両極石核・石核などが出土していることから、遺跡内で石鏃生産が行われていた可能性があると同時に、打製石斧についても、未成品の出土例があることから、遺跡内で製作が行われていたと考えられる。また、生産用具の石斧類に比べ、加工具の磨石類が多いことも、特徴としてあげられる。B区・C区と同様に時期的には、中期～晩期のものが含まれていると考えられ、石皿や石棒などある程度時期を反映した形態の器種を除けば、時期別に器種構成を評述するのは難しい。その主体となるのは、土器相を反映して後期後半～晩期前半の石器群と考えられる。

石鏃・石鏃未成品 (第156図1～25・28～32)

1～20は石鏃である。黒曜石を素材としているものが多く、チャートもそれに次いで多い素材となっている。A区と同様に未成品との峻別は難しい。完形のもは微量で、欠損しているものがほとんどである。2・20を除けば凹基式の石鏃である。2は未成品としてもよいのかもしれない。三角形で主要剥離面を残しており縁辺の加工は、一部行われていない。1・3・4・5はやや浅い挟りが施されているものである。

6は二等辺三角形を呈し、二辺がやや弧を描いている。7は挟りが大きい。8も挟りが大きく、二辺のやや先端寄りに挟りが施されており、晩期の飛行機鎌と言えるかもしれない。9～11は小型品である。3点とも主要剥離面を残している。12は浅い挟りである。13は体部で欠損している。18は脚部が欠損したものを再生しているようである。19は脚部と思われるもので、欠けた脚部に調整剥離を加え再加工していると思われる。これも石鎌と呼べるかは疑問である。20は有茎石鎌である。先端を欠損している。

21～25・28～32・37～46は石鎌の未成品と考えられるものである。21～25は未成品の中でも調整剥離が進んだもの、28～32はある程度の調整剥離を施したものに分けられる。

錐 (第156図26・27、157図34～36)

A区と同様に、点数は少ないものの錐が出土している。千葉県内では、定型的な錐の出土例は縄文時代を通じて少ない。26・34～36は断面三角形形状を呈し、類似した形態を示している。26は不定形の黒曜石の剥片に加工を加えている。先端は使用による潰れが認められる。27も薄い剥片の縁辺に加工を加えている。34・36は全体に調整剥離を施している。

両極石核・石核 (第156図33、第157図37～46、第158図47～52)

33・37～46は両極石核である。主に円礫を素材としている。これらは、石鎌の素材を得るために両極打法を用いたものと考えられる。集落内に円礫などを持ち込んで、石鎌の生産を行っていた可能性が高く、持ち込まれた素材の円礫は、上総層群に含まれる礫層から採取されたものと推測される。石材のほとんどは、チャートである。40は打面転換している。

47～52は石核としたものである。石材は48が安山岩、51が流紋岩で、それ以外はチャートである。やや大きめの円礫を素材としていることから、小さな円礫は両極打法による剥片の生産を、大きな円礫の場合は、これら石核から剥片の生産を行っていた可能性がある。48は旧石器の可能性もある。

磨製石斧 (第159図53～64)

磨製石斧の出土点数は少なく、すべて欠損しているものである。全面が研磨された定角式磨製石斧のほか、早期の礫石斧のように円礫にあまり加工を加えず刃部だけを研磨しているものがある。

53は刃部の欠損が顕著である。使用によるものと考えられる。剥離面に若干の研磨の痕跡があることから、刃部が欠損しても研磨を行い使用していたものと考えられる。体部の研磨はあまく、製作途中の敲打痕が完全には取り切れていない。54・55は刃部のみである。鋭く研磨された両刃である。56は両刃の小型品である。基部が若干欠損している。57はかなり小さな磨製石斧と考えられるが、あるいは小型の石剣の一部かもしれない。側面の面取りがされておらず、断面は扁平な楕円形を呈する。58は石棒の基部近くの破片を研磨して、磨製石斧として再利用している。刃部は使用により潰れている。59は刃部のみである。やや片刃を呈しており、刃部再生をしているのかもしれない。60・62は円礫に若干の縁辺加工を施し、研磨により刃部を成形している。早期の礫石斧の可能性もあるのかもしれない。61は刃部のみである。鋭利な片刃を呈する。

打製石斧 (第159図65～80、第160図81～86)

打製石斧の出土量は多かったが、A区と同様に全体的にかなり小型のものが主体となっている。未成品と思われる加工途中のものなども出土しており、自然礫の一部に剥離が認められるものも未成品も含めて示している。石材は、泥岩質のホルンフェルスが最も多く、砂岩、玄武岩などもみられる。整形のための剥離は全体に粗く、大胆な剥離調整によって成品としているものが多く、使用により剥離後線が摩耗して

いるものもあり、小型のものは使い切った感じのものが目立つ。

65・66は楕形である。素材となった礫の自然面をともに残している。縁辺の剥離は粗く、使用によるものか、剥離稜線が摩耗している。また、刃部は研磨したかの如く、摩耗が顕著に認められる。

67～74は短冊形を呈する。67・68は楕円形の円礫に多少の剥離を加えただけのものである。68は片刃である。69・70も自然面を残している。69は刃部を欠損している。70は基部を欠損している。71も基部を欠損している。側面は細かい剥離調整しており、刃部のような稜線を呈している。72は小型品と判断したが、あるいは欠損した刃部かもしれない。73は楕形である。片面には自然面がほとんど残っている。74は刃部のみである。両面ともに研磨され、刃部近くまで及んでいる珍しい例である。75は粗い剥離調整である。76は刃部のみである。右側面には装着痕とみられる潰れがある。77は楕形の小型品である。78は石材が結晶片岩で、本遺跡では珍しい。79は基部のみである。80は基部を欠損している。両面に素材の自然面を大きく残している。剥離調整がかなり粗いことから、加工途中で基部が欠損したため放棄された未成品かもしれない。81は基部を欠損している。剥離稜線が摩耗しており、かなり使い込まれているようである。82は刃部を欠損している。83は長楕円形の扁平礫の両端に加工を加えている。刃部の剥離が粗く未成品なのかもしれない。84は片面全面が自然面である。もう片面の縁辺にも自然面が残っているが、丁寧な縁辺の剥離が施されている。85は基部を欠損している。わずかな加工を施して刃部としている。86は基部のみである。縁辺の調整剥離が丁寧に行われている。

磨石類 (第161図87～95、第162図～165図)

凹石、叩石、磨石の各属性を伴う石器群を磨石類としてまとめた。A区の出土石器群と同様に、全体的には、明瞭な深めの凹みを伴う凹石は微量である。研磨された面と敲打痕を伴うものは、敲石とも呼ばれることもあるが、2つの属性を伴うものも多い。敲打痕のみの叩石と呼べるものも割合としては多い。手に持ちやすい程よい大きさの扁平な円礫が素材として選択されている。敲打痕しか伴わない叩石には、円柱状のやや細長い円礫が選択されている。

87は石鹼型の典型的な磨石であるが、片面及び側面に多少の敲打痕を伴っている。88は丸味のある円礫で、全面研磨されているほか、両面中央と側面に敲打痕が認められる。89は磨石で両面ともに滑らかな研磨面となっている。両面中央に若干の敲打痕があり、属性を併せ持つ敲石と呼ぶべきものである。90は表裏面中央と側面に敲打痕が認められる。91は焼けている。片面に若干の研磨が認められ、表裏面に敲打痕、図の上端にも敲打痕が認められる。92は表面が荒れており滑らかな研磨面が認められなくなっているが、磨石と考えられる。やや平らな面に若干の凹みがあり、敲打によるものと考えられる。93はやや扁平な円礫で、両面は滑らかな研磨面となっている。両端に若干の敲打痕が認められる。94は楕円形の円礫の両端に敲打痕を伴う。平らな面の中央にも敲打痕が認められる。95は叩石である。円礫の片面に敲打痕があるほか長軸両端にも若干の敲打痕が認められる。96は三角おにぎり形の円礫で、最も広い面が研磨され滑らかになっており、中央には敲打による凹みが認められる。97は円礫の片面中央に敲打痕がある。また、片方の側面にも敲打による剥離が認められる。98は扁平な円礫の一端に敲打痕が認められる。99は円礫の表裏に若干の敲打痕が認められる。100は多孔質安山岩を石鹼型に加工した凹石である。101は楕円形の円礫の表裏が研磨面となっている。また、長軸両端に研磨痕が若干伴っている。102は磨石の可能性があるので、上総層群に含まれる凝灰岩質泥岩の礫である。生痕化石の2つの孔が貫通している。遺跡周辺からもたらされたものと推測される。103は三角おにぎり形の円礫で表裏ともに滑らかな研磨面となってい

る。104はやや扁平の円盤で、表裏が滑らかな研磨面となっている。106は楕円形の円盤で、帯状に非常に滑らかな研磨面となっている。また、状軸の一端に敲打痕が伴っている。107は半分欠損している。円盤の両面が研磨面となっており、側面には敲打痕が認められる。108は安山岩を石臼型に加工した磨石である。長軸両端に敲打痕がある。109は長楕円形の円盤で、表裏面が滑らかな研磨面となっている。両端には敲打痕がある。110は扁平な円盤の表裏面が研磨面となっている。111は叩石である。円盤の両端に敲打痕がある。112は円盤の一端に若干の敲打痕がある。113は扁平な円盤の表裏面が研磨面となっており、さらに両端に敲打痕を伴っている114は叩石である。小さな円盤の一端に敲打痕がある。115はやや扁平な円盤の表裏面に研磨痕があり、側面の一部に敲打痕が認められる。116は円盤の一端に敲打痕がある叩石である。117は扁平な円盤の表裏面が滑らかな研磨面となっている。また、側面に敲打痕があり、欠損部分には敲打により欠損した可能性が高い。118は若干の研磨痕と研磨面を伴っている。119～124・127は、棒状の円盤の両端または片方に敲打痕を伴うもので典型的な叩石である。121などは敲打の作業が繰り返され、敲打面が平らになっている。122は打裂石斧の可能性もあるかもしれないが、片方に剥離とともに潰れがあり、叩石として使用されたと考えられる。125・126は扁平な円盤の表裏面が滑らかな研磨面となっており、側面に敲打痕が伴っている。128は円盤の一端に敲打痕がある。129は欠損が顕著だが、表裏に研磨面があり、剥離面の敲打痕から欠損後も敲打に使用されていたと考えられる。

130～140は礫器としたものである。定型的な石器ではない。主に円盤の一端を打ち欠いて、調整のための剥離が行われているもので、早期のスタンプ形石器などを類推させるものもあるが、時期的には中期以降の石器が主体であることから、礫器として扱うことにした。131・132・138は円盤の片面からの敲打が主に行われている。192は磨石を打ち欠いている。134は敲打痕があり、敲石として使用されていたものである。135・140は円盤の一端を打ち欠き、破断面の周囲に調整を加えている。

石皿（第166図141～147）

出土点数は少なく、すべて破片である。144は後期以降にみられる楕円形の石皿の破片である。U字形の突帯の一部と掻き出し口部分と考えられる。多孔質まではいかないきめの細かい安山岩である。142は板状の石皿で、磨り面にも凹みが認められる。周囲は突帯とはならず、中央から外縁部にかけて緩い弧を描いており、全体が広く磨り面として使用されている。底面には多数の凹みがハチの巣石状に認められる。石材は多孔質安山岩である。143は軟質砂岩で、遺跡周辺から調達された可能性がある。板状の砂岩を母岩としており、平らな磨り面ではなく縦方向に約8mm幅の溝が認められる。第169図192が丸玉の未成品であることから、丸玉の砥石として使用されたのかもしれない。144も遺跡周辺で調達された可能性がある軟質砂岩を石材としている。風化して荒れているが、片面が磨り面となる石皿と考えられる。145は斑レイ岩の大きな円盤の平らな面にある程度の加工を施して、磨り面としている。長く使用され広く緩い凹みを磨り面に形成しているが、当初の加工痕を磨り面に残している可能性がある。底面にはほとんど加工の痕跡がない。146は板状の砂岩礫を石皿としている。片面のみが磨り面となっている。147は安山岩を石材とする石皿の破片である。側面はきれいな丸味を帯びている。

砂岩を使用した石製品（第167図148～158）

148～158は、研磨されて6面の直方体に仕上げられていると考えられるもので、A区において詳述した「墨形石製品」ないしは「鹿島台型砥石」とも呼ばれている扁平な直方体の6面からなる石製品である。本遺跡が所在する地域の基盤層となっている第三紀層を主体とする上総群層にみられる細粒砂岩を利用した

ものと推測され、素材自体が、原石採取時に板状を呈していた可能性がある。砥石として使用しているうちに6面の直方体に至ったとは考えにくいものであることから、石製品として掲載した。

148・150は典型的な「墨形石製品」と呼べる定型的な形のものである。148は一部が欠損、剥落している。151・152・153も欠損しているが、同類と思われる。149・154は一面だけが研磨されており、未成品かもしれない。154は裏面が薄くはがれている。155は部分的な研磨が行われているだけで、未成品といえるかもしれない。156は両面が研磨されているが、側面は研磨の途中のようである。157も片面のみよく研磨されており、裏面は節理面のままである。158は若干の研磨にとどまっており、157とともに未成品とすべきかもしれない。

砥石 (第167図159～173、第168図174・175)

上記の石製品とは異なり、いくつかの研磨された面が認められることから砥石としてまとめてみた。159～173からは不定形の砥石で、159は多孔質安山岩、それ以外は砂岩である。

159は一部欠損している。三角形の形態で、扁平である。片面がやや斜め方向の浅い溝状の凹みを伴っている。この1点のみ多孔質の安山岩で、異質である。160～173はすべて軟質の砂岩で、遺跡周辺の上総層群にみられる砂岩を使用していると推測される。上総層群は砂岩泥岩などの互層からなり、砥石として使用されているのは、きめの細かい細粒砂岩を使用しているものが多く、原石として採取された段階で板状を呈していたものと考えられる。161は楕円形状で、片面が石皿状に凹んでいる。

160は両面に若干の研磨を伴うだけのものである。162は、A区第114図187などと同様に、側面が刃部のようにになっている。現存するのは三辺で、あるいは欠損した一辺も刃部状を呈していたかもしれない。両面研磨され、鏡が認められる。163は片面が緩く凹んでいる。また、側面にも研磨面があり、直角状の面にはならず、斜めの研磨面となっていることから、手持ち砥石として使用されたと推測される。164は両面が研磨されているが、片面は凹凸があり研ぎ面の部分的な使用が行われているらしい。165は両面の荒れがひどく、研磨面の状況がわからないが砥石と考えられる。166は片面が研磨面で、もう片方は剥落している。

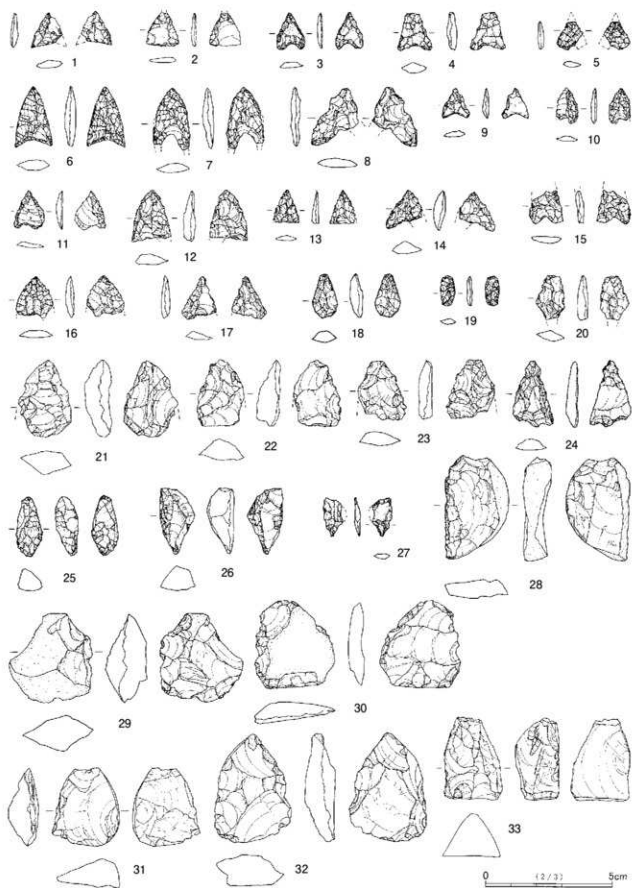
研磨面は平らではなく図の斜方向からの緩い凹み状を呈している。玉などの石製品の加工に使用されたものかもしれない。167は片面のみに研磨面が認められる。小さな凹凸があるほか、全体には石皿状に凹んでいる。168も片面のみが磨面となっている。169は両面、側面ともに研磨されていると思われるが荒れが顕著である。厚みがあるが「墨形石製品」の範疇に含められるものかもしれない。170～172は、表面が荒れており、研磨の状況がわからない。あるいは砥石の素材なのかもしれない。173は板状の砂岩を砥石として使用していることがよくわかる大型品である。片面のみが研磨面となっている。縁にはある程度の剥離が行われており、使用により丸味を帯びていることから、この形態で長らく使用されていたと考えられる。研磨面の中央縦方向に若干凹んでいる。

千葉県内の後・晩期遺跡では、多数の板状砥石が出土する例は少なく、板状の砂岩が採取しやすい地域というだけでは説明しきれない。凹みを伴う砥石などの出土例から、第169図187・188などの滑石製の玉類を研磨する砥石として使用されたものである可能性がある。

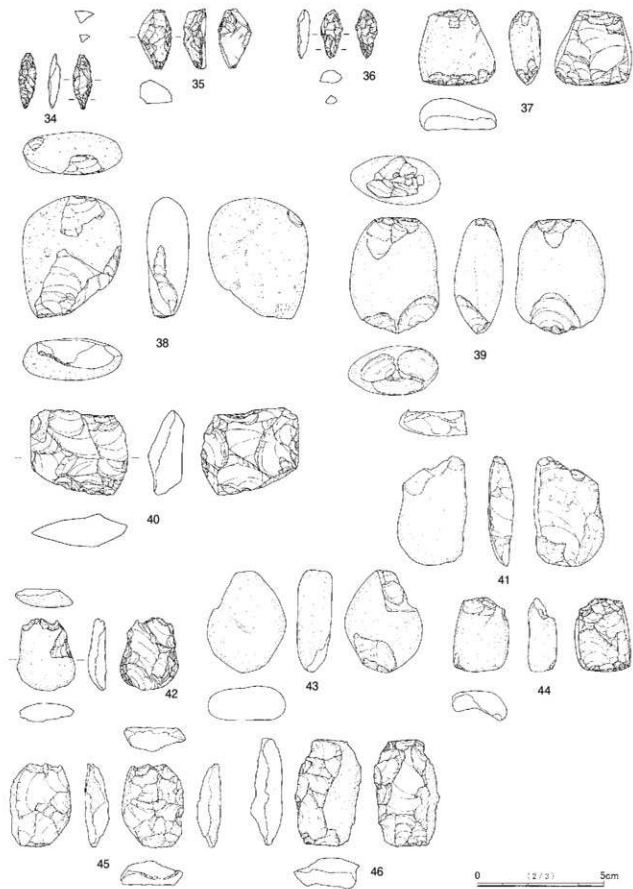
4 石製品

軽石製品 (第168図176～179)

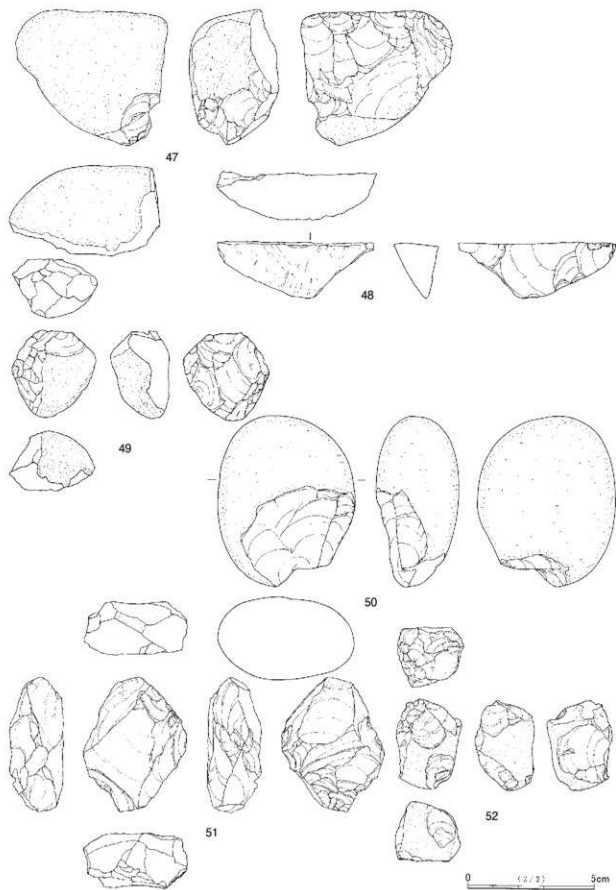
軽石を素材とした板状の石製品である。いずれも台形状を呈し、6面とも平らな面取りが施されている



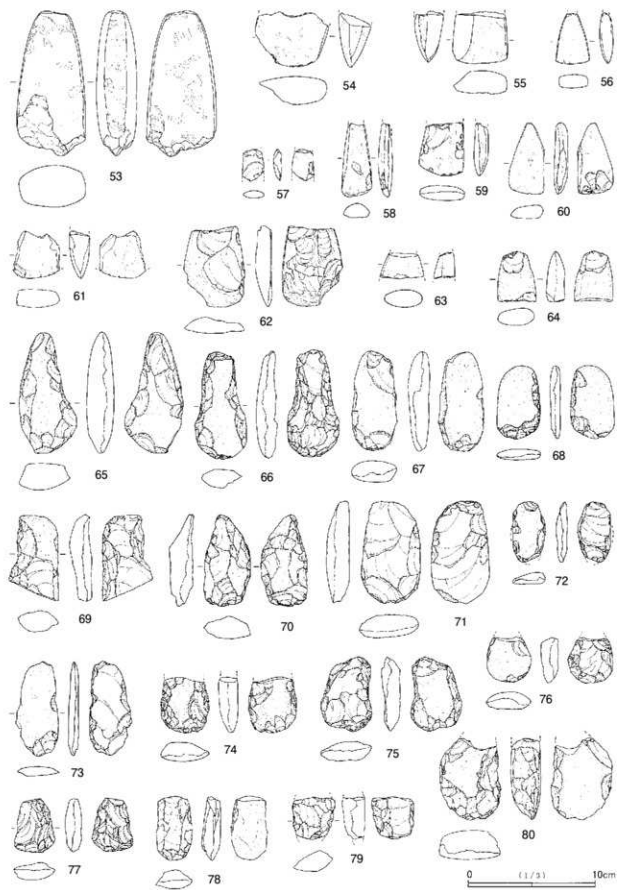
第156图 C区包含层出土石器(1)



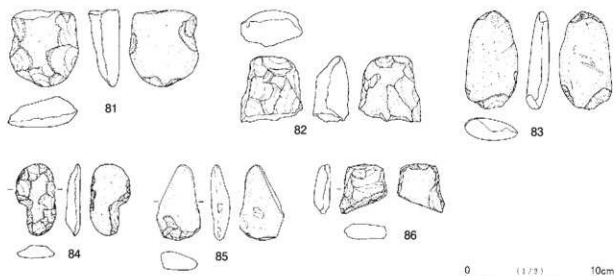
第157图 C区包含层出土石器(2)



第158图 C区包含层出土石器(3)



第159图 C区包含层出土石器(4)



第160図 C区包含層出土石器(5)

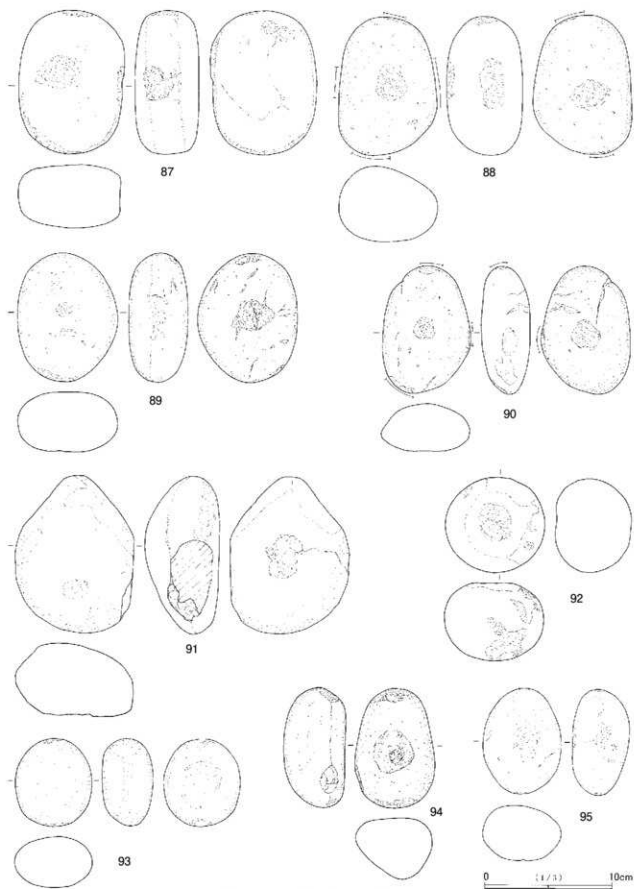
が、完形の178・179では最も刃の短い面にやや丸みがある。176・178・179には回転穿孔があり、ほぼ直に穿孔されている。穿孔には明瞭な紐ズレなどの痕跡が見られないが、紐が通されて、懸垂されていたと推測される。大きさには違いがあるものの、178・179には形態的な類似性が強く、砥石としての機能ではなく、目的的に成形された石製品と考えられる。

石棒・石剣(第169図180～185)

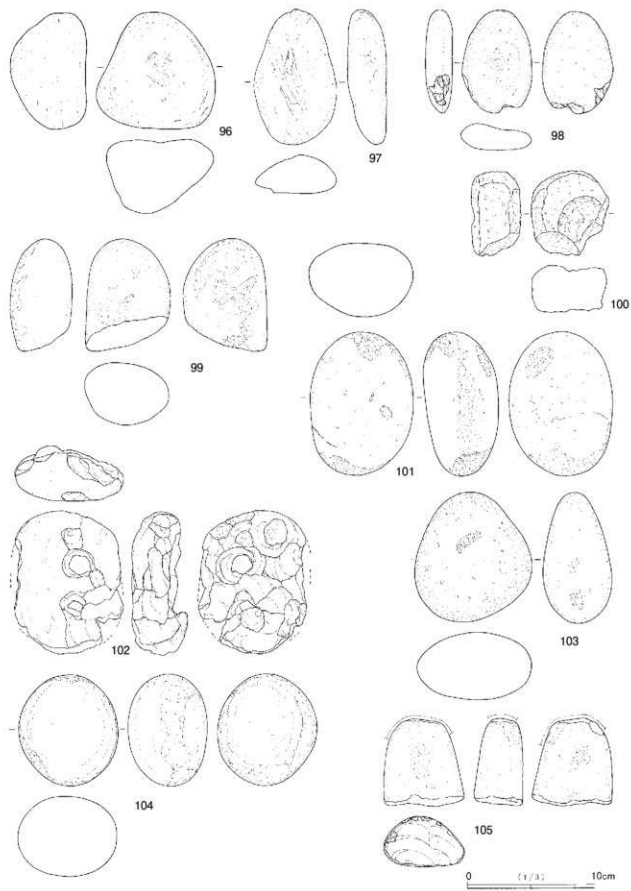
いずれも欠損している。181が石剣でそれ以外は石棒である。180は胴部破片である。断面は楕円形を呈すと考えられる。181は石剣である。断面は銀杏の実のような形状で、両側縁は刃部のようにシャープな稜線となっている。石材は粘板岩である。182～184は石棒の胴部である。182は外面の研磨は丁寧で滑らかである。欠損後に叩石に転用されたとみられる敲打痕が上下の破損面に残っている。石材は頁岩である。183は外面の研磨が丁寧に行われている。石材は凝灰岩である。184は大型の石棒である。外面が荒れているが、風化の影響によると思われる。石材は緑泥片岩である。185は頭部の一部から胴部上半分が遺存している。頭部は先端の欠損後ある程度の補修が行われていると思われる。外面は石材を反映してやや荒れた感がある。石材は緑泥片岩である。184・185は後期前半、それ以外は、後期後葉から晩期前半と考えられる。

垂飾品(第169図186)

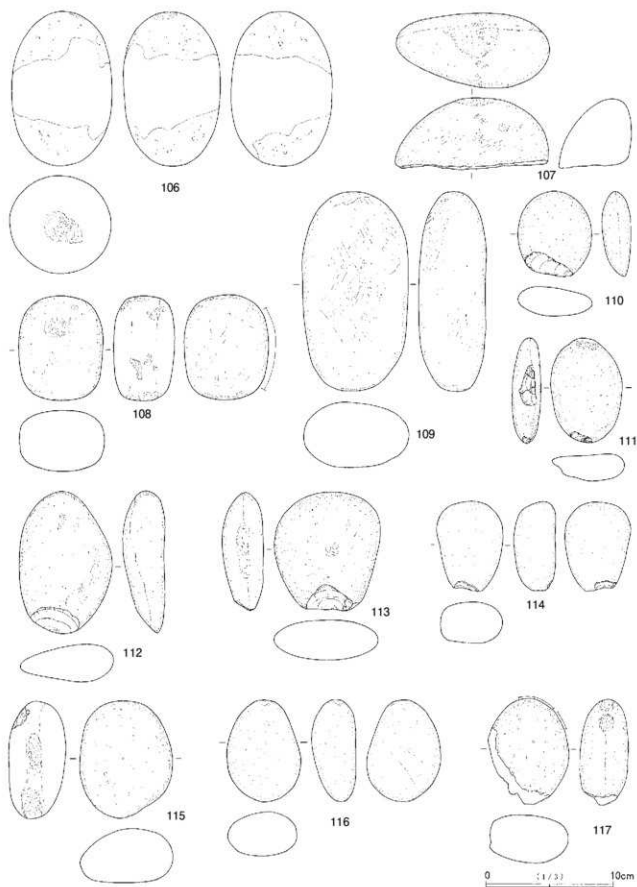
滑石製の垂飾品が1点出土している。石材としては192の石材とほぼ同一と考えられる。平面形態は半円形で、頭部には斜方向の切れ込みが表裏に2条あり、古墳時代などにも同様の切れ込みのある勾玉があることから、この垂飾品も勾玉と呼べるのかもしれない。断面は楕円形を呈する。5個の小孔があり、いずれも回転穿孔によるもので、片側からの穿孔が貫通した後に反対側も穿孔を広げて均等な口径となっている。下部末端にも穿孔の痕跡があることから、欠損したためにその部分を研磨し直しているのではないかと推測される。全部で6条の溝が廻り、上下の2条は溝が太く明瞭で、中央の2条は表裏ともに細い溝である。頭部と下端には、縦方向の切れ込みがあり、手の込んだ作りとなっている。表裏ともに細かな擦痕



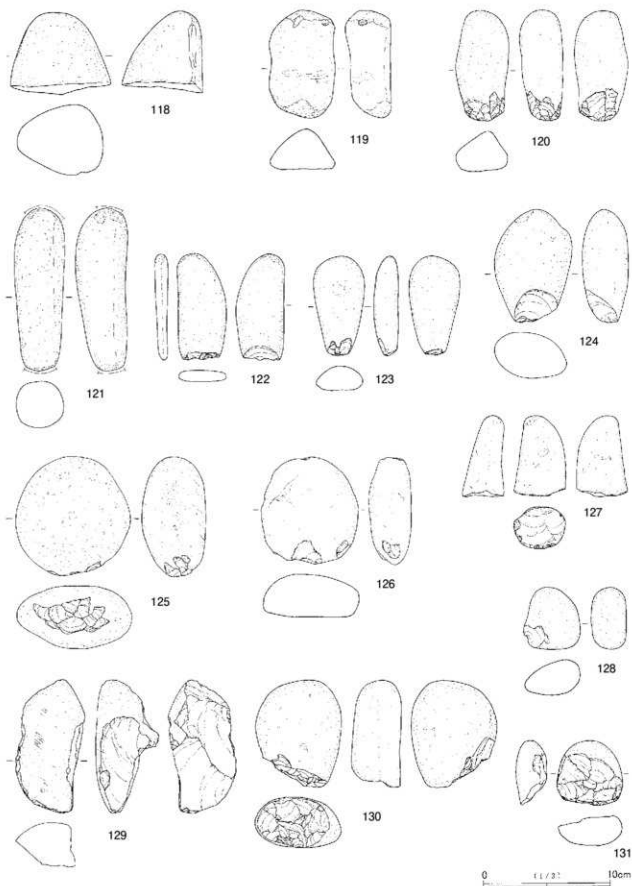
第161图 C区包含层出土石器(6)



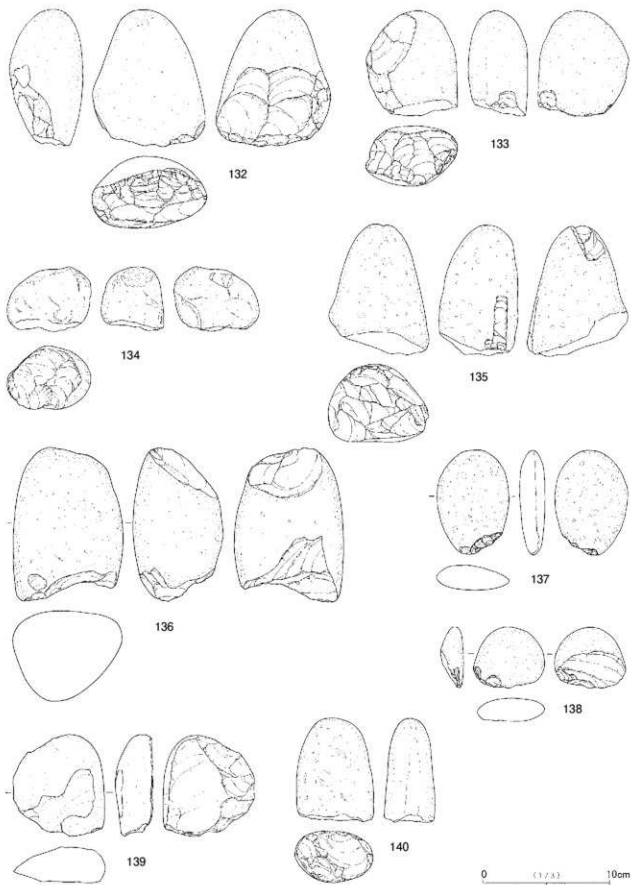
第162图 C区包含层出土石器(7)



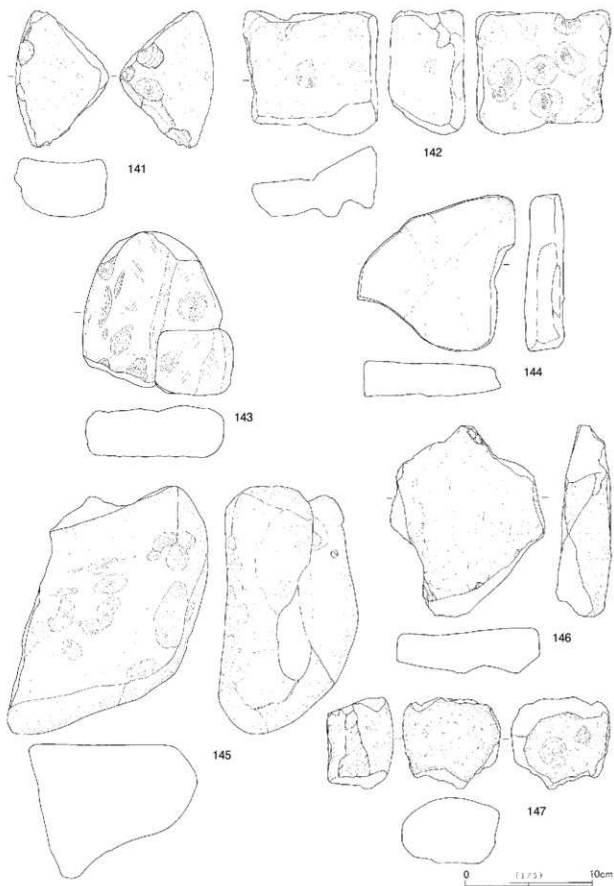
第163图 C区包含层出土石器(8)



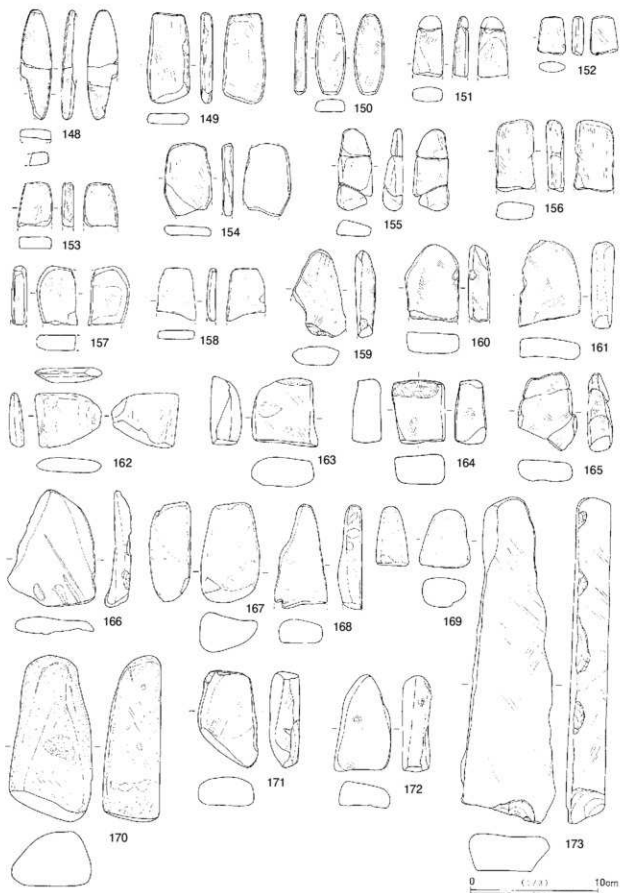
第164图 C区包含层出土石器(9)



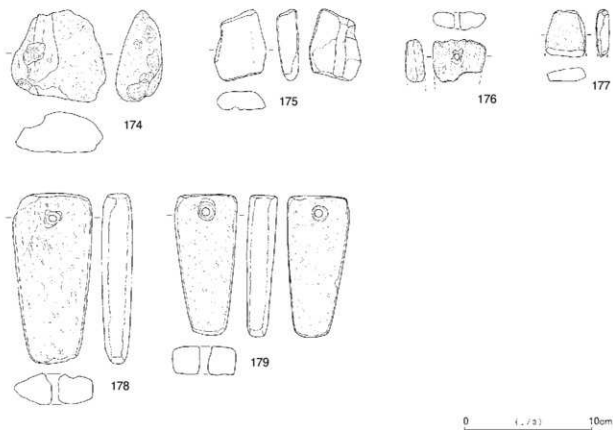
第165图 C区包含层出土石器(10)



第166图 C区包含层出土石器(11)



第167图 C区包含层出土石器(12)

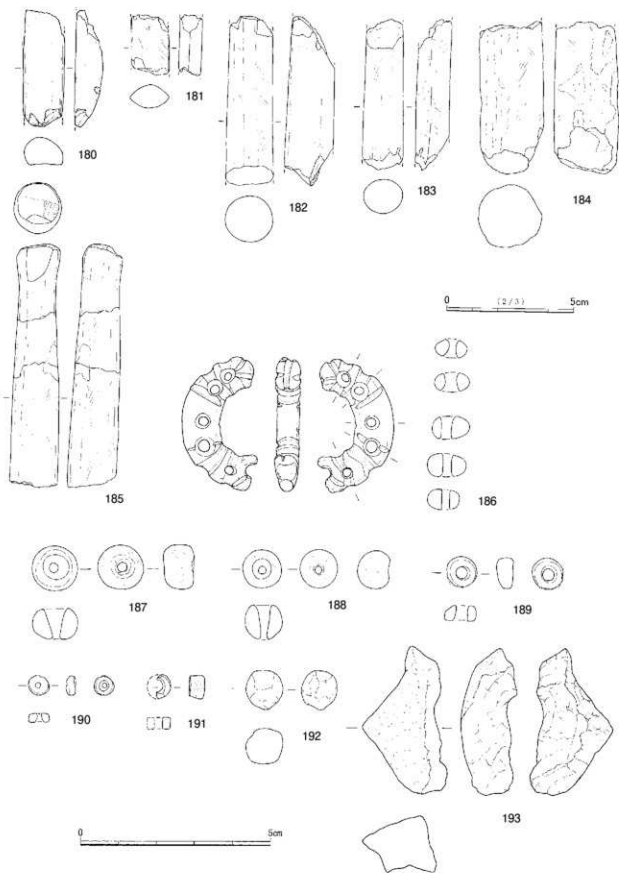


第168図 C区包含層出土石製品(1)

が表面に認められる。滑石の原石破片が出土していることから、玉だけでなく垂飾品も遺跡内で生産されていた可能性がある。時期は、玉類と同様に晩期前半の可能性が高い。

玉類(第169図187～192)

穿孔された石製の丸玉2点、石製の白玉3点が出土している。また、丸玉の未成品と思われるものが1点出土している。187・188は滑石製の丸玉である。187は直径1.2cm、厚さ0.8cm、重さ1.97g、188は直径1.0cm、厚さ0.8cm、重さ1.27gである。2点とも類似した薄い緑色を呈し、片側からの回転穿孔で、反対側は孔を広げる作業が行われていない。穿孔後には研磨されていないとみられることから、丸玉の整形がほぼ終了してから穿孔を行っている可能性が高い。189～191は白玉である。189は直径0.8cm、厚さ0.5cm、重さ0.42g、色調は青緑色で、片面は丸みがあり、もう一方は平らである。190は直径0.6cm、厚さ0.3cm、重さ0.09g、色調は淡緑色で、片方からの回転穿孔によるもので、反対側からは穿孔を拡大する作業を行っていない。191は半分欠損している。推定直径0.7cm、厚さ0.4cm、重さ0.13g、黒色を呈しており、A区から出土した203と同一石材と思われる。192は直径1.0cm、重さ1.44gで、薄緑色を呈する。粗い研磨の段階のものと考えられる。このような未成品がある点から、素材が持ち込まれ、集落内で成品に仕上げられていた可能性があり、穿孔が工程の最後であったことを示していると考えられる。第167図の砂岩製の板状砥石群は玉生産に使用されたのではないかと推測される。193は滑石の破片である。加工痕はないが、玉や垂飾品の原石と考えられ、集落内で原石からの玉生産が行われていた可能性を示唆している。玉類の時期は、後期後半よりも晩期前半の可能性が高いと考えられる。



第169图 C区包含层出土石制品(2)

第3表 土器片目録一覧表

加B:加曾利B式 加B組:加曾利B式組製土器

整理番号	地区	神隱番号	出土地点	遺物番号	時期	長(㎝)	幅(㎝)	厚(㎝)	重量(g)	欠損	整理番号	地区	神隱番号	出土地点	遺物番号	時期	長(㎝)	幅(㎝)	厚(㎝)	重量(g)	欠損
1	A	—	S1001	1	加組	3.88	3.42	0.83	13.58		81	A	—	T7	1	加組	3.47	3.22	0.7	8.78	
2	A	—	SK006	1	後群	3.80	3.72	0.84	10.26		82	A	—	2B-65	1	加組	3.60	3.36	0.76	10.70	
3	A	—	SK009	10	後群	5.29	4.85	0.79	24.40		83	A	—	2B-75	1	加組	3.56	2.81	0.79	7.81	
4	A	—	8015	1	加組	5.06	4.14	0.79	23.82	有	84	A	—	2B-85	1	加組	3.62	3.62	0.56	9.09	
5	A	—	SH099	1	加組	4.17	3.74	0.66	13.13		85	A	—	2B-85	1	加組	3.58	2.91	0.69	8.80	
6	A	—	SD001	4	加組	4.31	3.88	0.62	13.09		86	A	—	3B-07	1	加組	3.64	3.38	0.69	11.18	
7	A	第101図847	2C-71	1	加組	3.18	2.83	0.74	8.95		87	A	—	2B-65	1	後群	3.69	3.40	0.92	9.98	
8	A	第101図848	78	391	加組	3.19	3.00	0.71	7.31		88	A	—	2B-84	1	加組	3.66	3.19	0.54	7.34	
9	A	第101図849	2B-87	6	加組	3.26	3.13	0.77	10.08		89	A	—	2B-84	1	加組	3.67	2.69	0.39	3.84	
10	A	第101図850	T7	1	加組	3.29	2.79	1.06	10.57		90	A	—	2B-84	1	後群	3.74	3.01	0.82	9.39	
11	A	第101図851	2B-84	1	安行	3.30	3.08	1.18	14.93		91	A	—	2B-84	1	加組	3.72	3.57	0.86	10.61	
12	A	第101図852	2B-77	1	加組	3.48	3.06	0.68	9.26		92	A	—	T7	1	加組	3.73	2.77	1.20	11.77	有
13	A	第101図853	2B-74	1	加組	3.71	3.48	0.85	11.23		93	A	—	2B-84	1	加組	3.81	3.46	0.65	10.65	
14	A	第101図854	2B-75	1	加組	3.72	3.23	0.58	8.95		94	A	—	2B-87	43	後群	3.84	3.53	0.75	11.32	
15	A	第101図855	3B-17	1	加組	3.80	3.18	0.65	9.81		95	A	—	2B-95	1	後群	3.85	3.73	0.90	13.59	有
16	A	第101図856	T7	1	加組	3.82	3.29	0.54	8.47		96	A	—	2B-97	1	加組	3.81	2.98	0.77	11.40	
17	A	第101図857	T7	1	加組	3.83	3.76	0.74	11.94		97	A	—	2B-23	1	加組	3.76	3.66	1.11	14.81	
18	A	第101図858	2B-75	1	加組	3.85	3.46	0.72	10.01		98	A	—	2B-65	1	加組	3.94	3.81	0.59	10.52	
19	A	第101図859	3B-06	224	加組	3.96	3.58	0.96	15.05		99	A	—	2B-74	1	加組	3.85	2.49	1.17	11.60	有
20	A	第101図860	2B-96	73	安行	4.16	3.68	1.12	16.78		100	A	—	2B-76	1	後群	3.92	3.51	1.04	13.80	
21	A	第101図861	3B-06	1	加組	4.19	3.27	1.16	16.01		101	A	—	2B-85	1	後群	3.90	2.50	1.10	11.00	
22	A	第101図862	2B-85	64	曾谷	4.20	3.49	1.86	18.84		102	A	—	2B-94	1	後群	3.89	3.37	1.24	15.00	
23	A	第101図863	3B-06	1	加組	4.22	3.66	0.73	13.81		103	A	—	2B-94	1	加組	3.85	3.12	1.03	14.17	有
24	A	第101図864	2B-84	1	加組	4.25	4.05	0.57	12.42		104	A	—	2B-95	1	加組	3.86	3.46	0.99	13.95	
25	A	第101図865	T7	1	加組	4.27	3.68	0.62	11.53		105	A	—	3B-06	1	加組	3.93	3.36	0.68	12.51	
26	A	第101図866	2B-88	1	加組	4.34	3.75	0.77	15.02		106	A	—	T7	1	加組	3.94	3.74	0.57	9.37	
27	A	第101図867	2B-96	1	後群	4.37	4.00	1.47	27.05		107	A	—	2B-65	1	加組	4.04	3.47	0.76	13.82	
28	A	第101図868	3B-16	76	加組	4.43	4.39	0.79	17.14		108	A	—	2B-75	1	加組	3.98	2.19	0.70	7.82	有
29	A	第101図869	2B-74	24	加組	4.48	4.14	0.94	20.64		109	A	—	2B-77	1	後群	4.03	3.71	1.66	24.85	
30	A	第101図870	2B-96	1	加組	4.39	3.35	0.62	16.76		110	A	—	2B-85	1	加組	4.00	3.68	0.67	10.51	
31	A	第101図871	2B-85	1	加組	4.62	4.34	0.69	17.61		111	A	—	2B-94	1	加組	3.98	3.88	0.79	13.67	
32	A	第101図872	2B-75	75	加組	4.66	4.32	1.34	2.73		112	A	—	2B-96	1	後群	3.96	3.86	0.79	13.65	
33	A	第101図873	2B-96	1	中群	4.68	4.30	1.03	21.34		113	A	—	2B-97	1	加組	4.04	2.79	1.13	13.82	有
34	A	第101図874	2B-85	137	加組	4.73	4.53	1.05	36.66		114	A	—	2B-75	1	加組	4.06	3.78	0.77	16.07	
35	A	第101図875	2B-84	1	後群	4.77	3.73	1.16	24.03		115	A	—	2B-94	1	加組	4.11	4.00	0.77	13.36	
36	A	第101図876	2B-76	1	加組	4.80	4.15	0.65	17.71		116	A	—	2B-94	1	加組	4.09	3.99	0.89	16.90	
37	A	第101図877	3B-07	1	加組	4.87	4.75	0.56	18.58		117	A	—	3B-06	1	加組	4.14	3.46	0.99	15.98	有
38	A	第101図878	3B-06	1	加組	4.96	4.44	0.77	19.01		118	A	—	3B-17	1	加組	4.14	3.75	0.99	19.76	
39	A	第101図879	2B-65	1	加組	4.99	4.92	0.63	18.56		119	A	—	T7	1	加組	4.08	3.40	0.72	12.02	
40	A	第101図880	2B-87	1	加組	4.99	4.67	1.00	29.22		120	A	—	T8	1	後群	4.07	3.22	0.80	13.33	有
41	A	第101図881	2B-96	59	加組	5.02	4.91	0.68	19.20		121	A	—	T8	135	加組	4.08	3.60	0.57	8.93	
42	A	第101図882	2B-86	37	加組	5.05	4.78	0.73	19.22		122	A	—	2B-85	1	加組	4.24	3.93	0.69	10.35	有
43	A	第101図883	3B-06	29	安行	5.10	4.60	1.47	23.52		123	A	—	2B-98	1	加組	4.20	3.88	0.64	11.92	有
44	A	第101図884	2B-97	30	加組	5.31	4.98	1.00	33.27		124	A	—	3B-06	1	加組	4.19	3.16	0.84	13.42	
45	A	第101図885	2B-96	1	加組	5.32	4.43	1.03	28.14		125	A	—	2B-77	1	後群	4.30	2.45	0.56	8.49	
46	A	第101図886	2B-94	93	堀之内	5.45	4.76	0.97	30.89		126	A	—	2B-85	1	後群	4.33	2.90	0.79	12.85	有
47	A	第101図887	3B-07	161	加組	5.51	5.21	0.82	30.32		127	A	—	2B-85	1	後群	4.34	4.25	0.86	15.22	
48	A	第101図888	2B-87	8	加組	5.53	5.04	0.81	25.37		128	A	—	2B-85	92	加組	4.25	3.98	0.73	14.24	
49	A	第101図889	2B-84	1	加組	5.56	5.06	0.64	19.99		129	A	—	2B-86	1	加組	4.32	4.13	0.83	16.82	
50	A	第101図890	3B-06	114	加組	5.59	5.23	0.87	25.97		130	A	—	2B-87	1	堀之内	4.26	4.13	1.04	16.14	有
51	A	第101図891	2B-77	7	加組	5.61	5.03	0.68	23.67		131	A	—	3B-06	1	加組	4.26	3.40	0.76	14.34	
52	A	第101図892	2B-85	1	加組	5.61	4.86	0.78	25.76		132	A	—	T8	1	後群	4.29	2.73	1.31	14.21	有
53	A	第101図893	2B-85	256	加組	5.63	5.24	0.79	23.35		133	A	—	2B-84	1	後群	4.39	4.23	0.65	13.62	
54	A	第101図894	3B-07	49	加組	5.76	5.59	1.21	39.21		134	A	—	2B-84	1	加組	4.37	3.79	1.03	19.98	
55	A	第101図895	2B-85	50	加組	5.78	4.64	0.80	24.04		135	A	—	2B-87	1	加組	4.41	2.70	1.19	13.41	有
56	A	第101図896	3B-18	1	加組	5.93	5.65	0.82	32.31		136	A	—	2B-87	1	後群	4.36	2.40	0.80	17.07	
57	A	第101図897	2B-84	1	加組	6.28	6.21	0.74	32.08		137	A	—	2B-94	1	後群	4.42	3.70	1.19	17.55	
58	A	第101図898	T7	260	堀之内	8.97	5.66	1.31	52.10		138	A	—	2B-97	1	後群	4.37	3.15	1.43	21.80	有
59	A	—	2B-86	10	加組	6.71	3.72	0.69	16.47		139	A	—	2B-96	1	加組	4.38	4.13	0.71	13.39	
60	A	—	2B-87	1	後群	2.72	3.25	0.84	6.70		140	A	—	3B-80	加組	4.38	3.88	0.72	16.49		
61	A	—	2B-98	1	堀之内	2.94	2.89	0.91	7.18		141	A	—	2B-86	1	後群	4.49	2.97	1.23	18.53	有
62	A	—	2B-65	1	後群	2.98	2.87	0.88	8.68		142	A	—	2B-87	1	後群	4.52	2.22	0.69	8.54	有
63	A	—	T7	1	後群	3.03	2.62	0.68	5.77		143	A	—	2B-95	1	加組	4.49	3.54	0.92	15.88	有
64	A	—	2B-65	71	加組	3.07	3.04	0.55	6.03		144	A	—	2B-98	1	後群	4.47	3.73	1.08	19.90	有
65	A	—	2B-86	1	加組	3.14	3.04	0.85	10.06		145	A	—	3B-06	1	加組	4.47	3.62	0.87	16.15	
66	A	—	2B-65	1	加組	3.15	1.76	0.20	6.42		146	A	—	2B-94	1	後群	4.57	3.72	1.25	18.88	
67	A	—	2B-84	1	加組	3.19	3.06	0.79	9.00		147	A	—	3B-06	1	後群	4.59	2.40	1.50	28.46	
68	A	—	2B-85	1	加組	3.24	2.46	1.09	9.06	有	148	A	—	2B-77	1	加組	4.65	3.85	0.64	13.47	
69	A	—	2B-85	1	加組	3.31	2.85	0.59	5.70		149	A	—	2B-85	1	加組	4.74	2.58	1.01	10.02	有
70																					

整理番号	地区	押印番号	出土地名	遺物番号	時期	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	欠損
161	A	--	38-06	1	加那	4.85	4.07	0.86	20.20	
162	A	--	28-85	133	加那	4.97	4.82	0.62	18.00	
163	A	--	28-87	1	加那	5.05	3.56	0.67	13.29	有
164	A	--	28-94	1	後期	4.97	4.57	1.10	26.66	
165	A	--	28-95	1	後期	5.03	3.62	0.98	17.58	有
166	A	--	28-97	1	加那	4.96	3.78	1.03	19.15	有
167	A	--	38-06	1	加那	5.05	3.92	0.81	18.11	有
168	A	--	28-66	1	後期	5.10	4.26	0.95	21.47	
169	A	--	28-85	1	加那	5.08	2.10	0.96	11.62	有
170	A	--	28-96	1	後期	5.12	4.38	0.77	20.41	
171	A	--	28-85	1	後期	5.16	3.20	1.05	19.31	
172	A	--	28-95	1	加那	5.21	4.55	0.90	24.10	有
173	A	--	28-98	1	中期	5.16	3.97	1.06	30.92	
174	A	--	38-06	1	加那	5.25	3.33	0.94	12.42	
175	A	--	28-84	1	加那	5.28	4.27	0.77	22.02	
176	A	--	38-06	1	加那	5.28	4.98	0.83	23.83	
177	A	--	28-84	1	後期	5.40	5.24	1.17	35.02	
178	A	--	28-85	105	後期	5.43	4.19	0.80	23.52	
179	A	--	28-88	1	後期	5.36	4.86	1.12	32.31	
180	A	--	28-65	1	後期	5.51	4.81	0.95	23.91	
181	A	--	28-65	1	加那	5.47	5.43	0.58	17.53	
182	A	--	28-98	1	堀之内	5.64	3.96	1.40	38.73	
183	A	--	28-98	1	加那	5.73	5.38	0.61	19.87	
184	A	--	28-65	1	加那	5.86	4.69	1.01	24.50	有
185	A	--	28-97	1	加那	6.04	4.36	1.00	33.38	
186	A	--	38-06	1	加那	5.99	4.80	0.97	23.42	
187	A	--	38-06	15	後期	5.98	3.84	0.88	25.08	有
188	A	--	38-06	1	加那	5.97	4.72	0.82	28.12	
189	A	--	38-06	1	加那	6.53	5.45	0.83	32.40	有
190	A	--	17	1	後期	6.72	3.55	1.45	54.55	有
191	B	--	48-11	160	後期	3.24	2.96	0.61	6.73	
192	B	--	48-01	1	加那	3.33	3.02	0.56	6.62	
193	B	--	38-93	1	後期	3.67	3.38	0.73	9.35	
194	B	--	48-12	1	後期	3.77	3.37	0.61	8.17	
195	B	--	48-02	1	後期	3.88	2.64	0.80	9.27	有
196	B	--	38-91	1	後期	4.14	4.23	0.78	14.83	
197	B	--	48-02b	1	後期	4.23	3.72	0.86	14.19	
198	B	--	48-00	13	後期	5.59	3.90	1.64	29.77	
199	C	第155図512	T14	1	後期	3.25	3.24	0.53	6.85	
200	C	第155図513	T14	1	加那	3.64	3.61	0.71	11.47	
201	C	第155図514	48-62	1	加那	3.69	3.35	0.93	12.79	
202	C	第155図515	48-62	1	堀之内	3.85	3.71	1.40	24.37	
203	C	第155図516	T16	1	加那	4.00	3.90	0.80	14.28	
204	C	第155図517	48-71	28	加那	4.05	2.62	0.55	7.22	
205	C	第155図518	48-62	95	曾谷	4.07	4.07	0.90	16.09	
206	C	第155図519	48-73	115	堀之内	4.13	3.99	1.38	24.53	
207	C	第155図520	48-94	1	加那	4.30	3.90	0.70	15.92	
208	C	第155図521	48-62	15	加那	4.38	4.35	0.83	17.58	
209	C	第155図522	T14	30	加那	4.41	4.22	0.99	18.17	
210	C	第155図523	48-62	1	加那	4.44	4.05	0.56	12.61	
211	C	第155図524	48-51	1	加那	4.59	4.06	0.83	18.77	
212	C	第155図525	T16	112	加那	4.70	4.30	0.64	14.25	
213	C	第155図526	48-72	45	加那	4.78	4.11	0.79	18.38	
214	C	第155図527	48-60	1	加那	4.81	4.49	0.79	21.27	
215	C	第155図528	48-61	1	加那	4.87	4.11	0.65	14.51	
216	C	第155図529	48-90	84	加那	4.90	4.90	0.70	17.73	有
217	C	第155図530	T14	1	後期	5.09	4.09	0.72	19.05	
218	C	第155図531	48-82	1	加那	5.10	4.40	0.50	16.53	
219	C	第155図532	48-94	1	加那	5.10	4.40	0.90	26.17	
220	C	第155図533	48-62	101	後期	5.21	4.72	0.72	22.84	
221	C	第155図534	48-74	25	加那	5.30	4.90	0.60	19.11	
222	C	第155図535	48-76	9	加那	5.30	4.70	0.50	16.68	
223	C	第155図536	T16	1	喜房女子	5.30	4.80	0.60	17.48	
224	C	第155図537	48-77	99	加那	5.40	5.40	0.90	34.22	
225	C	第155図538	48-61	101	加那	5.51	5.02	1.50	27.44	
226	C	第155図539	48-82	28	加那	5.70	5.90	0.90	41.93	
227	C	第155図540	T16	1	加那	5.70	5.60	0.70	28.69	
228	C	第155図541	48-93	74	後期	5.70	5.50	0.70	29.55	
229	C	第155図542	48-70	27	加那	5.95	5.16	0.77	30.18	
230	C	第155図543	T14	1	堀之内	6.55	6.02	0.80	30.55	
231	C	第155図544	48-61	59	加那	6.62	5.72	1.16	50.79	
232	C	第155図545	48-84	27	加那	6.80	6.40	0.90	46.21	
233	C	--	48-66	223	加那	2.30	2.30	0.50	3.43	
234	C	--	T16	294	後期	2.26	2.25	0.66	3.74	
235	C	--	48-77	1	加那	2.70	2.70	0.60	4.79	
236	C	--	48-86	1	加那	2.90	2.70	0.70	6.53	
237	C	--	48-66	1	加那	3.10	3.10	0.70	8.46	
238	C	--	48-80	1	加那	3.10	3.00	0.60	6.75	
239	C	--	48-83	1	加那	3.20	2.90	0.60	7.61	
240	C	--	48-67	1	後期	3.30	3.20	0.70	9.04	
241	C	--	48-75	12	後期	3.30	3.30	0.60	8.93	
242	C	--	48-63	1	後期	3.40	2.83	0.87	8.41	
243	C	--	48-66	32	加那	3.40	2.90	0.70	8.69	
244	C	--	48-72	1	後期	3.37	3.20	0.68	8.65	
245	C	--	48-80	1	後期	3.40	3.10	0.60	7.09	
246	C	--	48-80	59	加那	3.40	2.90	0.50	18.37	
247	C	--	T14	1	後期	3.37	2.05	0.78	6.65	有
248	C	--	T14	1	後期	3.44	2.14	0.82	6.81	
249	C	--	48-51	1	加那	3.53	3.20	0.63	9.85	
250	C	--	48-61	1	加那	3.54	3.45	0.81	8.92	
251	C	--	48-62c	168	加那	3.53	3.33	0.49	7.21	
252	C	--	48-80	1	加那	3.50	3.00	0.50	6.66	
253	C	--	T14	1	後期	3.46	2.50	0.90	7.17	有
254	C	--	T15	1	後期	3.50	3.10	1.30	16.07	
255	C	--	48-51	1	後期	3.58	3.53	0.90	12.21	
256	C	--	48-66	1	後期	3.60	3.10	0.70	10.91	
257	C	--	T14	1	後期	3.59	3.33	1.16	15.21	
258	C	--	T16	1	加那	3.60	3.60	0.60	9.76	
259	C	--	T16	1	加那	3.60	3.50	0.50	7.05	
260	C	--	T16	1	加那	3.60	3.30	0.50	7.94	
261	C	--	T16	1	加那	3.60	3.50	0.70	9.31	
262	C	--	T16	1	加那	3.60	3.10	0.60	7.36	
263	C	--	48-62	169	加那	3.75	3.26	0.76	12.20	
264	C	--	48-62	1	加那	3.74	2.87	0.54	6.85	
265	C	--	48-84	1	加那	3.70	3.70	0.60	11.65	
266	C	--	48-85	73	加那	3.70	3.50	0.10	15.21	
267	C	--	48-51	1	加那	3.83	3.53	0.64	10.56	
268	C	--	48-62	1	加那	3.85	3.50	0.78	14.02	
269	C	--	48-62	58	加那	3.80	3.37	0.79	12.54	
270	C	--	48-64	7	後期	3.80	3.60	0.90	14.57	
271	C	--	48-76	126	加那	3.80	3.30	0.60	7.52	
272	C	--	T14	1	後期	3.82	3.34	0.87	9.62	
273	C	--	T14	1	後期	3.76	3.28	1.34	17.33	
274	C	--	T16	1	加那	3.80	3.70	1.40	7.48	
275	C	--	T16	180	加那	3.81	3.52	0.72	11.95	
276	C	--	48-66	1	加那	3.90	3.60	0.80	15.88	
277	C	--	48-70	31	加那	3.85	3.57	0.63	10.39	
278	C	--	48-71	1	加那	3.93	3.55	0.79	12.82	有
279	C	--	48-74	3	加那	3.90	3.50	0.60	10.49	
280	C	--	48-81	1	加那	3.90	3.80	0.60	11.32	
281	C	--	48-92	1	後期	3.90	3.50	0.80	12.62	
282	C	--	48-62	168	後期	4.00	4.43	0.59	11.04	
283	C	--	48-87	15	後期	4.00	3.80	1.00	18.25	
284	C	--	48-92	1	後期	4.00	3.80	0.80	16.11	
285	C	--	T16	1	加那	4.00	3.60	0.70	12.28	
286	C	--	48-61	1	加那	4.08	3.75	0.89	15.87	
287	C	--	48-62	242	加那	4.14	3.67	1.08	9.24	
288	C	--	48-72	1	加那	4.11	3.58	0.66	11.66	
289	C	--	48-76	1	加那	4.10	3.80	0.80	14.32	
290	C	--	48-90	1	加那	4.10	4.00	0.60	11.12	
291	C	--	48-62	1	後期	4.21	3.93	0.64	12.92	
292	C	--	48-62	130	加那	4.21	3.91	0.66	13.09	
293	C	--	48-62	92	後期	4.20	3.86	0.97	17.25	
294	C	--	48-77	1	後期	4.20	3.80	0.70	14.35	
295	C	--	48-92	1	加那	4.20	4.00	0.70	13.14	
296	C	--	T16	1	加那	4.20	3.40	0.70	12.61	
297	C	--	48-62	1	加那	4.32	4.23	0.75	16.70	
298	C	--	48-66	1	加那	4.30	3.10	0.90	12.36	有
299	C	--	48-77	1	加那	4.30	3.40	0.60	10.24	
300	C	--	48-81	1	後期	4.30	3.90	0.6		

整理番号	地区	探洞番号	出土地点	遺物番号	時期	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	欠損	整理番号	地区	探洞番号	出土地点	遺物番号	時期	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	欠損	
311	C	-	4B-70	113	堀之内	4.44	4.37	0.83	15.95		339	C	-	T14	1	加粗組	4.87	3.96	0.73	17.40	有	
312	C	-	4B-72	47	加粗	4.39	3.98	0.57	12.65		340	C	-	T14	1	加粗	4.92	3.67	0.76	16.54	有	
313	C	-	4B-74	107	加粗	4.40	4.10	0.80	17.96		341	C	-	T16	1	安行I	4.90	4.00	0.90	21.15		
314	C	-	4B-82	1	後期	4.40	2.50	1.00	11.67	有	342	C	-	4B-66	1	加粗	5.00	4.60	0.60	16.58		
315	C	-	4B-83	18	加粗	4.40	4.10	0.90	18.84		343	C	-	4B-84	1	加粗	5.00	4.00	0.50	13.65	有	
316	C	-	4B-90	1	後期	4.40	3.60	1.00	18.73	有	344	C	-	4B-93	81	加粗	5.00	4.80	0.60	17.76		
317	C	-	T16	1	加粗	4.40	4.30	0.80	18.24		345	C	-	4B-93	12	加粗	5.00	4.70	0.80	25.23		
318	C	-	4B-94	27	加粗	4.50	3.70	0.60	11.12	有	346	C	-	T14	1	後期	4.95	3.94	0.78	14.52	有	
319	C	-	4B-94	106	後期	4.50	4.30	0.80	15.39		347	C	-	T14	1	加粗	5.04	3.60	0.77	14.58	有	
320	C	-	T16	1	加粗	4.50	3.90	0.70	14.67		348	C	-	T14	1	加粗	5.01	4.14	0.74	16.92		
321	C	-	4B-74	1	加粗	4.60	3.90	0.50	13.06		349	C	-	4B-94	47	加粗	5.10	4.20	0.70	20.72		
322	C	-	4B-76	33	後期	4.60	4.40	0.70	15.67		350	C	-	4B-77	73	後期	5.20	3.30	0.70	13.52		
323	C	-	4B-77	1	後期	4.60	4.20	0.80	21.62		351	C	-	4B-80	1	後期	5.20	4.50	0.90	27.77		
324	C	-	4B-77	48	加粗	4.60	4.60	0.60	15.15		352	C	-	T14	1	加粗	5.23	4.73	0.79	22.74		
325	C	-	T16	1	後期	4.60	4.50	0.50	12.97		353	C	-	T14	1	後期	5.24	4.23	0.83	20.46		
326	C	-	4B-66	1	後期	4.70	3.70	1.00	18.23		354	C	-	T15	1	加粗	5.20	4.30	0.80	17.84	有	
327	C	-	4B-66	11	後期	4.70	4.70	0.60	18.35		355	C	-	4B-83	1	加粗	5.30	4.70	0.90	22.01	有	
328	C	-	4B-72	1	後期	4.73	4.27	0.69	14.61		356	C	-	4B-84	39	加粗	5.30	5.30	0.90	29.52		
329	C	-	4B-72	1	後期	4.66	4.42	0.80	19.63		357	C	-	4B-73	70	加粗	5.39	4.91	0.97	27.34	有	
330	C	-	4B-77	1	堀之内	4.70	4.10	0.80	14.98		358	C	-	4B-62	1	加粗	5.55	4.09	0.73	19.42		
331	C	-	T14	1	後期	4.75	4.37	0.71	14.92		359	C	-	T16	1	後期	5.70	4.30	0.90	23.48	有	
332	C	-	4B-63	1	後期	4.85	4.36	1.26	2.91		360	C	-	T16	1	加粗	5.90	4.60	0.70	28.23	有	
333	C	-	4B-76	93	後期	4.80	4.10	0.60	14.15		361	C	-	T16	1	加粗	6.10	4.20	0.80	25.51	有	
334	C	-	4B-80	1	後期	4.80	4.30	1.20	27.97	有	362	C	-	T16	178	加粗	6.20	5.80	0.90	35.58		
335	C	-	4B-60	1	加粗	4.88	3.64	0.66	12.56		363	C	-	T14	1	後期	6.30	5.04	0.77	28.59	有	
336	C	-	4B-60	1	加粗	4.85	3.42	0.91	24.13		364	C	-	T14	1	堀之内	6.40	4.37	1.35	41.78	有	
337	C	-	4B-76	73	加粗	4.90	4.60	0.60	19.48		365	C	-	4B-73	1	加粗	7.17	4.62	0.71	26.85		
338	C	-	4B-92	20	加粗	4.90	4.70	0.60	17.12													

第4表 旧石器時代から縄文時代草創期の石器一覧表

探洞番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第9窟 1	B区	4B-92b	35	石刃	チャート	8.0	2.2	1.2	19.82		旧石器
第9窟 2	A区	2B-96b	16	尖頭器	ホルンフェルス	7.2	2.8	1.7	32.73	先端欠損か	石藪か
第9窟 3	C区	4B-70a	76	尖頭器	チャート	3.4	1.3	0.7	2.46		石藪か
第9窟 4	C区	14T	2	尖頭器	チャート	2.3	1.4	0.6	2.64	基部、先端欠損	石藪か

第5表 遺構出土石器一覧表

探洞番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第11窟 7	B区	(1-2)S1004	11	石鏃	黒曜石	1.2	1.7	0.3	0.51	先端欠損	
第11窟 8	B区	(1-2)S1004	12	石鏃	黒曜石	1.7	2.0	0.3	0.70	先端、基部欠損	先端削撃剥離
第11窟 9	B区	(1-2)S1004	31	打製石斧	ホルンフェルス	8.9	4.8	1.3	60.62		
第11窟 10	B区	(1-2)S1004	34	打製石斧	ホルンフェルス	7.4	3.7	1.3	43.45		分銅型
第11窟 11	B区	(1-2)S1004	4	磨石類	ホルンフェルス	10.3	5.5	3.3	228.12		
第11窟 12	B区	(1-2)S1004	14	磨石類	砂岩	11.3	8.1	5.6	717.49		
第14窟 26	A区	(1)S1001	352	石鏃未成品	チャート	2.8	2.4	0.9	5.95		
第14窟 27	A区	(1)S1001	386	石鏃未成品	チャート	2.6	2.2	1.4	6.35		
第14窟 28	A区	(1)S1001	454	石刃	火山礫凝灰岩	17.3	10.9	6.9	1136.33		
第14窟 29	A区	(1)S1001	408	磨石類	砂岩	12.4	8.2	4.8	660.69		
第14窟 30	A区	(1)S1001	410	磨石類	石英斑岩	11.2	4.5	2.5	177.69		
第14窟 31	A区	(1)S1001	368	石棒	緑泥片岩	13.7	2.3	2.2	146.75	端部欠損	
第10窟 18	A区	(1)S1002	74	石鏃	黒曜石	1.4	1.1	0.3	0.36		
第10窟 19	A区	(1)S1002	193	石鏃	チャート	2.0	1.6	0.3	0.76		
第10窟 20	A区	(1)S1002	220	打製石斧	砂岩	6.7	3.8	1.2	43.99		鏃石斧
第10窟 21	A区	(1)S1002	248	磨製石斧	緑色岩	4.7	3.0	1.1	27.70	上下両端	定角式
第10窟 22	A区	(1)S1002	245	磨石類	砂岩	7.9	4.9	2.1	111.72		
第28窟 215	A区	(1)S1005~S1008	24	石鏃	チャート	3.6	1.9	0.5	2.51	両脚欠損	
第28窟 216	A区	(1)S1005~S1008	65	石鏃	チャート	3.5	1.7	0.9	3.81		
第28窟 217	A区	(1)S1005~S1008	322	石鏃	チャート	3.4	1.7	0.6	2.06		飛行機鏃
第28窟 218	A区	(1)S1005~S1008	7	石鏃	チャート	4.1	1.8	0.6	2.67		飛行機鏃
第28窟 219	A区	(1)S1005~S1008	13	石鏃	流紋岩	2.0	1.1	0.5	0.75		
第28窟 220	A区	(1)S1005~S1008	120	石鏃	チャート	2.0	1.3	0.5	0.89		飛行機鏃
第28窟 221	A区	(1)S1005~S1008	147	石鏃	チャート	1.9	1.3	0.4	0.61		飛行機鏃
第28窟 222	A区	(1)S1005~S1008	182	石鏃	チャート	1.9	1.2	0.4	0.65	先端部欠損	飛行機鏃
第28窟 223	A区	(1)S1005~S1008	97	石鏃未成品	チャート	3.7	2.6	1.0	6.83		

押図番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第28図 224	A区	(1)S1005~S1008	2	石織未成品	チャート	3.0	2.3	0.9	5.18		
第28図 225	A区	(1)S1005~S1008	7	石織未成品	チャート	2.3	1.2	0.5	1.37		
第28図 226	A区	(1)S1005~S1008	2	打製石斧未成品	緑色凝灰岩	8.3	5.7	3.6	204.48		
第28図 227	A区	(1)S1005~S1008	142	両極石核	チャート	2.7	2.0	0.7	3.55		
第29図 228	A区	(1)S1005~S1008	217	石鏃	チャート	4.0	0.7	0.6	1.43		
第29図 229	A区	(1)S1005~S1008	2d	石鏃	チャート	3.6	1.3	0.7	4.16	先端部欠損	
第29図 230	A区	(1)S1005~S1008	87	石鏃	チャート	2.8	1.2	0.7	2.15	先端部欠損	
第29図 231	A区	(1)S1005~S1008	5	石鏃	黒曜石	1.9	0.8	0.4	0.60	体部欠損	石織の再利用か
第29図 232	A区	(1)S1005~S1008	33	石鏃	黒曜石	1.3	1.7	0.4	0.24		
第29図 233	A区	(1)S1005~S1008	12	使用痕ある剥片	メノウ	5.6	6.7	2.2	89.79		
第29図 234	A区	(1)S1005~S1008	25	石核	珪質頁岩	4.2	3.7	2.4	38.49		
第29図 235	A区	(1)S1005~S1008	2a	石製円盤	砂岩	2.9	3.2	1.1	12.19		
第30図 236	A区	(1)S1005~S1008	2	磨石類	砂岩	5.6	3.5	2.2	62.30		
第30図 237	A区	(1)S1005~S1008	12	磨石類	砂岩	8.1	6.1	2.2	139.81		
第30図 238	A区	(1)S1005~S1008	28	磨石類	石英斑岩	9.2	6.9	3.6	344.63		
第30図 239	A区	(1)S1005~S1008	10	磨石類	凝灰岩	7.4	4.9	3.6	174.48		
第30図 240	A区	(1)S1005~S1008	16	磨石類	デイサイト	8.4	6.2	3.3	224.08		
第30図 241	A区	(1)S1005~S1008	23	機器	石英斑岩	6.6	8.5	5.6	404.23		
第30図 242	A区	(1)S1005~S1008	22	機器	砂岩	8.6	7.6	4.9	360.73		
第30図 243	A区	(1)S1005~S1008	14	石核	チャート	3.4	6.0	2.6	68.74		
第30図 244	A区	(1)S1005~S1008	2a	石核	チャート	4.2	9.2	4.1	281.08		
第31図 245	A区	(1)S1005~S1008	194	磨製石斧	砂岩	10.0	5.1	2.9	224.91		定角式
第31図 246	A区	(1)S1005~S1008	53	磨製石斧	砂岩	8.8	6.8	2.7	308.74	胴部から基部	定角式
第31図 247	A区	(1)S1005~S1008	2a	磨石類	砂岩	9.2	7.1	4.2	392.93		敲打痕
第31図 248	A区	(1)S1005~S1008	14	磨石類	安山岩	8.8	7.5	5.2	458.67		敲打痕
第31図 249	A区	(1)S1005~S1008	63	磨石類	砂岩	8.3	5.7	3.6	248.19		敲打痕
第31図 250	A区	(1)S1005~S1008	21	磨石類	砂岩	5.4	5.0	3.4	129.41		敲打痕
第31図 251	A区	(1)S1005~S1008	5	磨石類	石英斑岩	11.8	8.8	5.8	870.99		敲打痕・凹み
第31図 252	A区	(1)S1005~S1008	13	磨石類	安山岩	15.4	9.3	5.1	1115.90		敲打痕
第31図 253	A区	(1)S1005~S1008	29	磨石類	安山岩	11.0	7.9	2.5	311.65		敲打痕・凹み
第16図 4 C区	(3)S1001	67	石鏃	安山岩	14.2	14.4	10.3	1525.71	破片		
第16図 5 C区	(3)S1001	64	打製石斧	安山岩	5.3	3.1	1.5	32.94			
第36図 5 A区	(1)S8004	5	石鏃	黒曜石	2.5	1.6	0.4	1.28	片脚欠損	信州産	
第36図 4 A区	(1)S8012	13	石鏃	メノウ	1.4	1.2	0.5	0.76	上下両端欠損		
第36図 9 C区	(3)S8006	29	磨製石斧	緑色凝灰岩	6.5	3.0	1.8	54.69			
第36図 6 C区	(3)S8007	2	墨形石製品	砂岩	6.4	2.5	1.3	28.54			
第37図 9 C区	(3)S8014	4	石鏃	黒曜石	1.7	1.4	0.4	0.55	片脚欠損		
第37図 10 C区	(3)S8012・(3)S8013・(3)S8014	2	石織未成品	黒曜石	1.5	1.5	0.3	0.71			

第6表 A区遺構外出土石器一覧表

押図番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第102図 1	A区	2B-85a	218	石鏃	チャート	2.5	2.2	0.5	2.77		
第102図 2	A区	2B-84c	43	石鏃	黒曜石	2.0	1.9	0.7	2.22		
第102図 3	A区	2B-97c	50	石鏃	ホルンフェルス	2.3	2.2	0.4	1.62	先端部欠損	
第102図 4	A区	3B-06d	148	石鏃	チャート	1.8	1.4	0.4	0.94		
第102図 5	A区	3B-06d	2a	石鏃	安山岩	2.5	1.4	0.3	1.28		
第102図 6	A区	2B-97d	16	石鏃	安山岩	2.1	1.4	0.5	1.18		飛行機痕
第102図 7	A区	2B-86d	2a	石鏃	黒曜石	1.7	1.1	0.3	0.44		信州産

押戻番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第102図 8	A区	28-75d	106	石鏃	黒曜石	1.4	1.1	0.3	0.29		
第102図 9	A区	28-86c	97	石鏃	黒曜石	2.2	1.6	0.6	1.58	先端部欠損	
第102図 10	A区	28-75c	110	石鏃	チャート	2.1	1.6	0.5	1.00		
第102図 11	A区	28-96d	50	石鏃	黒曜石	2.0	1.5	0.7	1.29		
第102図 12	A区	28-75b	108	石鏃	黒曜石	1.8	0.9	0.4	0.43		
第102図 13	A区	28-67a	20	石鏃	チャート	1.5	2.2	0.4	1.75	先端部欠損	
第102図 14	A区	28-16a	43	石鏃	黒曜石	1.9	1.3	0.4	0.72		
第102図 15	A区	28-87d	65	石鏃	チャート	1.4	1.4	0.5	0.97	先端部欠損	
第102図 16	A区	28-96d	121	石鏃	黒曜石	1.4	1.0	0.3	0.32		
第102図 17	A区	28-97c	3	石鏃	黒曜石	2.0	1.6	0.4	0.84		神津島産
第102図 18	A区	28-06d	64	石鏃	黒曜石	1.3	1.4	0.4	0.58	先端部欠損	
第102図 19	A区	28-94d	73	石鏃	黒曜石	1.5	1.5	0.4	0.58		
第102図 20	A区	28-74c	122	石鏃	黒曜石	2.2	1.8	0.5	1.17	片脚欠損	神津島産
第102図 21	A区	28-86a	67	石鏃	黒曜石	1.4	1.7	0.5	0.96	先端部欠損	
第102図 22	A区	28-75c	132	石鏃	チャート	2.9	2.1	0.5	2.59	先端部欠損	
第102図 23	A区	28-87c	18	石鏃	チャート	2.0	1.7	0.4	0.71		
第102図 24	A区	28-65c	61	石鏃	黒曜石	1.2	1.2	0.3	0.27		
第102図 25	A区	28-94b	81	石鏃	チャート	2.1	1.5	0.4	0.71	片脚欠損	
第102図 26	A区	28-65c	68	石鏃	黒曜石	1.7	1.8	0.3	0.62	片脚欠損	
第102図 27	A区	28-06c	127	石鏃	黒曜石	1.8	1.8	0.4	0.74	片脚欠損	信州産
第102図 28	A区	28-84b	55	石鏃	黒曜石	1.7	1.6	0.4	0.69	片脚欠損	
第102図 29	A区	28-85b	98	石鏃	黒曜石	1.4	2.0	0.5	0.96	先端欠損	
第102図 30	A区	28-95a	118	石鏃	黒曜石	2.3	1.6	0.4	1.15	片脚欠損	
第102図 31	A区	28-65c	58	石鏃	チャート	2.1	1.4	0.4	0.85	先端、片脚欠損	
第102図 32	A区	28-84d	64	石鏃	黒曜石	3.1	1.9	0.6	2.40		
第102図 33	A区	T7	501	石鏃	黒曜石	2.0	1.4	0.4	0.64	脚部欠損	鋸歯縁加工
第102図 34	A区	28-85d	222	石鏃	黒曜石	1.7	1.0	0.3	0.40	片脚欠損	飛行機旗
第102図 35	A区	28-74c	139a	石鏃未成品	黒曜石	1.6	1.0	0.4	0.44		
第102図 36	A区	S1099	35	石鏃未成品	黒曜石	1.4	1.0	0.3	0.41		
第102図 37	A区	28-06d	171	石鏃未成品	黒曜石	1.5	1.2	0.4	0.78		有茎
第102図 38	A区	28-97d	11	石鏃	黒曜石	2.0	1.4	0.3	0.65		平基有茎鏃
第102図 39	A区	28-85c	174	石鏃	黒曜石	1.5	1.1	0.4	0.43		
第102図 40	A区	28-65a	5	石鏃	黒曜石	2.0	1.3	0.4	0.90		異形鏃
第102図 41	A区	28-96a	81	石鏃	チャート	2.1	1.0	0.3	0.51		有茎
第102図 42	A区	T8	420	石鏃	黒曜石	2.3	1.0	0.6	0.83		凸基
第103図 43	A区	28-76c	32	石鏃未成品	黒曜石	2.0	0.9	0.6	1.08	-	
第103図 44	A区	28-75b	4	石鏃未成品	メノウ	3.2	1.8	0.8	3.93	-	
第103図 45	A区	T7	93	石鏃未成品	チャート	2.6	1.7	0.9	2.51	-	
第103図 46	A区	28-75a	139	石鏃未成品	黒曜石	2.2	1.9	0.5	1.88	-	
第103図 47	A区	28-06c	74	石鏃未成品	チャート	2.5	1.5	0.3	1.42	-	異形鏃
第103図 48	A区	28-84b	348	石鏃未成品	安山岩	3.8	2.8	0.6	4.69	-	
第103図 49	A区	28-76a	66	石鏃未成品	建賢頁岩	3.3	2.6	1.1	7.19	-	
第103図 50	A区	28-65c	2a	石鏃未成品	チャート	3.5	3.4	0.8	12.65	-	
第103図 51	A区	28-96d	174	石鏃未成品	流紋岩	4.1	3.3	1.7	22.77	-	
第103図 52	A区	28-98c	74	石鏃未成品	黒曜石	1.9	2.0	0.4	0.96	-	
第103図 53	A区	28-75d	60	石鏃未成品	チャート	3.1	2.0	1.2	5.99	-	
第103図 54	A区	28-85d	2b	石鏃未成品	チャート	3.1	2.4	0.5	3.62	-	
第103図 55	A区	28-65d	5	石鏃	チャート	2.6	0.6	0.5	0.79	-	
第103図 56	A区	28-06c	69	石鏃	黒曜石	1.8	0.8	0.7	0.81	-	
第103図 57	A区	28-75b	9	石鏃	黒曜石	1.8	1.4	0.5	0.78	-	
第103図 58	A区	28-96c	2b	石鏃	チャート	4.0	1.6	0.6	4.04	-	
第103図 59	A区	28-87a	24	両極石核	安山岩	4.2	3.8	1.9	42.43	-	
第103図 60	A区	28-87d	14	両極石核	ホルンフェルス	6.3	4.1	1.5	86.70	-	
第103図 61	A区	28-17b	18	石鏃未成品	チャート	5.9	4.6	2.5	80.29	-	
第103図 62	A区	28-86d	141	両極石核	建賢頁岩	4.0	3.5	2.7	50.14	-	
第103図 63	A区	28-85d	213	使用痕ある剥片	チャート	3.0	1.6	0.5	2.46	-	
第103図 64	A区	28-75b	198	使用痕ある剥片	黒曜石	2.1	1.5	0.4	1.11	-	信州産
第104図 65	A区	28-95a	82	両極石核	頁岩	3.9	3.0	1.9	23.92	-	
第104図 66	A区	28-97a	2b	両極石核	チャート	3.8	2.9	1.5	17.23	-	
第104図 67	A区	28-66a	3	両極石核	黒曜石	1.5	1.2	0.4	0.92	-	
第104図 68	A区	28-75b	8	両極石核	チャート	5.0	3.1	1.9	28.13	-	
第104図 69	A区	28-65d	21	両極石核	建賢頁岩	2.2	2.3	1.0	6.37	-	
第104図 70	A区	28-69d	2a	両極石核	チャート	4.7	2.7	1.6	26.53	-	
第104図 71	A区	28-96b	67	石核	チャート	4.6	4.8	2.2	65.83	-	
第104図 72	A区	28-97c	5	石核	チャート	7.7	5.1	4.0	188.10	-	
第104図 73	A区	28-05b	2	石核	チャート	4.5	4.0	2.2	36.38	-	
第105図 74	A区	28-96b	2b	石核	チャート	6.3	4.7	3.3	117.81	-	
第105図 75	A区	28-96b	2	石核	チャート	5.3	4.0	1.8	50.38	-	

採石番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考	
第1058	76	A区	2B-98a	58	石核	チャート	4.6	5.1	2.3	66.35	-	
第1058	77	A区	2B-98a	18	石核	黒曜石	2.2	1.7	1.8	7.48	-	神津島産
第1058	78	A区	2B-65c	9	石核	チャート	5.0	4.6	3.1	106.95	-	
第1058	79	A区	2B-77d	9	石核	チャート	4.4	3.1	2.8	45.44	-	
第1068	80	A区	2B-85b	58	磨製石斧	粗粒玄武岩	12.1	5.3	3.1	359.84	基部欠損	
第1068	81	A区	3B-07a	221	磨製石斧	粗粒玄武岩	7.5	5.1	3.0	152.08	刀部欠損	
第1068	82	A区	3B-09a	58	磨製石斧	緑色岩	5.5	4.1	2.1	70.55	基部欠損	
第1068	83	A区	3B-08a	48	磨製石斧	粗粒玄武岩	5.1	4.4	1.8	63.43	基部欠損	被熱
第1068	84	A区	2B-76a	35	磨製石斧	粗粒玄武岩	6.9	5.2	2.7	163.03	基部欠損	定角式
第1068	85	A区	2B-75a	40	磨製石斧	緑色岩	4.1	5.9	1.9	54.17	刀部片	
第1068	86	A区	T7	61	打製石斧	ホルンフェルス	8.9	6.2	2.3	139.12	基部欠損	
第1068	87	A区	T8	63	打製石斧	ホルンフェルス	6.3	5.9	1.6	61.67	刀部片	分瓣形
第1068	88	A区	3B-18b	18	打製石斧	緑泥片岩	11.0	4.7	1.7	121.97		分瓣形
第1068	89	A区	2B-84b	21	打製石斧	頁岩	7.1	6.2	3.3	137.36		
第1068	90	A区	3B-26d	3	打製石斧	ホルンフェルス	8.9	5.3	2.1	108.72		瓣形
第1068	91	A区	2B-96d	16	打製石斧	ホルンフェルス	6.3	4.4	1.4	43.84		
第1068	92	A区	3B-07b	44	打製石斧	ホルンフェルス	7.7	4.7	1.5	71.13		
第1068	93	A区	2B-66a	8	打製石斧	ホルンフェルス	7.6	5.1	2.7	117.96	基部欠損	
第1068	94	A区	2B-76d	3	打製石斧	安山岩	8.5	4.0	1.6	74.64		
第1078	95	A区	2B-59a	5	打製石斧	ホルンフェルス	6.5	4.1	1.2	45.34		
第1078	96	A区	2B-85d	2e	打製石斧	粘板岩	5.8	4.0	1.0	28.94	刀部欠損	
第1078	97	A区	2B-96b	27	打製石斧	ホルンフェルス	5.4	3.5	1.2	28.56		
第1078	98	A区	2B-89d	1	打製石斧	安山岩	4.7	3.9	0.8	19.05	刀部欠損	
第1078	99	A区	2B-89a	8	打製石斧	ホルンフェルス	6.6	4.6	2.2	65.90	刀部欠損	
第1078	100	A区	2B-75c	114	打製石斧	砂岩	5.1	4.3	2.3	54.35	基部欠損	
第1078	101	A区	2B-97c	2	打製石斧	砂岩	4.1	4.0	2.1	35.63	基部欠損	
第1078	102	A区	2B-97b	6	打製石斧未成品	流紋岩	8.9	7.5	4.5	333.79	基部欠損	
第1078	103	A区	2B-95b	130	打製石斧未成品	流紋岩	8.3	5.0	1.3	69.85		
第1078	104	A区	2B-57d	2	打製石斧未成品	ホルンフェルス	6.0	4.0	1.3	45.71		
第1078	105	A区	2B-75a	39	打製石斧未成品	粗粒玄武岩	5.9	3.6	1.9	65.57		
第1078	106	A区	2B-96c	30	打製石斧未成品	流紋岩	7.4	4.8	2.4	112.32	基部欠損	礫素材
第1078	107	A区	2B-95a	86	打製石斧未成品	チャート	10.6	12.8	5.1	880.54		
第1078	108	A区	2B-96c	29	打製石斧未成品	ホルンフェルス	6.4	6.7	3.3	166.11		
第1078	109	A区	2B-74b	18	打製石斧未成品	ホルンフェルス	4.6	4.4	1.5	35.88	基部欠損	
第1078	110	A区	2B-96b	8	打製石斧未成品	ホルンフェルス	8.5	6.3	2.7	168.23		
第1088	111	A区	2B-55d	7	打製石斧未成品	石英斑岩	10.6	5.8	3.3	276.85	-	
第1088	112	A区	2B-89d	5	打製石斧未成品	緑泥片岩	7.8	5.3	1.1	66.97	刀部欠損	
第1088	113	A区	2B-85b	2g	打製石斧未成品	ホルンフェルス	5.2	4.0	0.9	22.18	基部破片	
第1088	114	A区	2B-75a	149	打製石斧未成品	ホルンフェルス	10.8	10.4	3.0	402.51		
第1088	115	A区	2B-67a	2b	打製石斧未成品	石英閃緑岩	5.1	9.3	1.5	80.08		
第1088	116	A区	2B-87b	18	打製石斧未成品	ホルンフェルス	5.4	3.2	1.0	19.44	-	
第1088	117	A区	2B-56c	2b	打製石斧未成品	砂岩	8.1	4.9	2.5	110.95	-	
第1088	118	A区	2B-85c	60	打製石斧未成品	砂岩	6.1	4.3	2.7	47.96	-	
第1088	119	A区	3B-06d	102	打製石斧未成品	ホルンフェルス	6.7	2.8	1.0	31.13	-	礫素材
第1088	120	A区	2B-84c	14	打製石斧未成品	ホルンフェルス	6.4	3.2	1.1	35.92	-	礫素材
第1088	121	A区	2B-55d	4	打製石斧未成品	ホルンフェルス	5.7	3.4	1.8	47.29	-	礫斧
第1088	122	A区	2B-97d	54	打製石斧未成品	ホルンフェルス	8.6	3.8	1.3	58.03	-	
第1088	123	A区	2B-76a	87	打製石斧未成品	安山岩	7.6	5.6	1.6	100.85	-	
第1098	124	A区	2B-85d	9	磨石類	多孔質安山岩	10.5	9.1	4.4	363.57	端部欠損	明瞭な凹み
第1098	125	A区	2B-96b	17	磨石類	火山礫凝灰岩	6.0	5.3	4.2	122.05	両端部欠損	
第1098	126	A区	2B-94c	95	磨石類	火山礫凝灰岩	8.5	6.6	6.8	335.53	端部欠損	明瞭な凹み
第1098	127	A区	2B-99b	8	磨石類	多孔質安山岩	9.4	7.9	5.7	218.31		明瞭な凹み
第1098	128	A区	3B-16b	31	磨石類	チャート	6.5	6.7	2.8	197.29		
第1098	129	A区	2B-86b	65	磨石類	安山岩	9.1	4.2	4.1	202.21		
第1098	130	A区	T8	295	磨石類	安山岩	9.1	6.4	2.8	179.63		裏面両側剥離
第1098	131	A区	2B-66c	38	磨石類	安山岩	8.9	5.7	2.9	152.64		
第1098	132	A区	2B-74b	57	磨石類	砂岩	10.2	4.6	2.5	162.04		
第1098	133	A区	2B-56b	2a	磨石類	砂岩	7.0	5.6	4.1	170.62	端部欠損	
第1098	134	A区	2B-67a	2c	磨石類	ホルンフェルス	8.2	4.4	3.9	198.94		
第1098	135	A区	2B-95b	13b	磨石類	石英斑岩	6.6	4.3	2.9	129.71	端部欠損	
第1108	136	A区	2B-94b	57	磨石類	石英斑岩	10.4	8.2	5.2	643.42		
第1108	137	A区	2B-84c	208	磨石類	砂岩	7.1	7.1	5.4	393.33	端部破片	
第1108	138	A区	2B-94b	238	磨石類	砂岩	9.6	7.7	6.8	675.58		
第1108	139	A区	2B-75b	3	磨石類	砂岩	10.6	8.8	3.8	554.80		
第1108	140	A区	2B-86c	118	磨石類	ホルンフェルス	6.6	3.1	1.7	60.17	端部欠損	
第1108	141	A区	T7	488	磨石類	石英斑岩	9.3	7.1	4.2	380.82		被熱、赤化
第1108	142	A区	2B-95b	2a	磨石類	チャート	7.7	4.9	2.7	153.36		
第1108	143	A区	3B-07d	32	磨石類	石英斑岩	10.4	5.6	3.0	218.62		

押戻番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第110図 144	A区	38-06d	164	磨石類	砂岩	8.2	6.1	5.4	360.21		
第110図 145	A区	28-76b	4	磨石類	石英斑岩	8.8	6.3	3.2	274.36		
第111図 146	A区	28-85b	14	磨石類	石英	7.2	5.3	4.1	192.05	破片	
第111図 147	A区	38-06d	4	磨石類	流紋岩	8.1	4.5	2.7	130.67		
第111図 148	A区	38-18c	11	磨石類	砂岩	4.9	3.0	2.2	47.00	端部欠損	
第111図 149	A区	38-06c	237	磨石類	鹿レイ岩	9.9	7.9	4.9	530.01	裏面欠損	
第111図 150	A区	28-85d	65	磨石類	砂岩	9.5	6.9	4.0	354.15		
第111図 151	A区	28-65d	2c	磨石類	石英斑岩	7.8	5.6	4.2	249.39		
第111図 152	A区	28-87a	10	磨石類	砂岩	6.8	5.4	2.9	162.76		
第111図 153	A区	38-06d	104	磨石類	石英斑岩	8.4	5.3	4.1	290.02		
第111図 154	A区	28-94b	23	磨石類	石英斑岩	9.6	7.0	5.3	514.97		
第111図 155	A区	28-57a	2c	磨石類	砂岩	7.5	5.4	2.2	155.40		
第111図 156	A区	38-07b	74	磨石類	砂岩	8.8	6.3	4.4	325.28	端部欠損	
第111図 157	A区	28-65c	74	磨石類	石英斑岩	5.9	6.3	5.2	268.49		
第111図 158	A区	28-76a	4	磨石類	砂岩	7.9	6.9	4.4	330.63		
第112図 159	A区	28-76a	6	磨石類	安山岩	16.5	10.8	7.5	1869.23		
第112図 160	A区	28-86d	116	磨石類	砂岩	13.2	8.0	3.3	519.07		
第112図 161	A区	28-96b	75	磨石類	砂岩	7.5	4.7	2.6	131.97		
第112図 162	A区	28-65d	7	磨石類	頁岩	9.4	4.4	2.9	135.04		
第112図 163	A区	38-07a	185	磨石類	砂岩	13.4	5.5	3.4	175.52		
第112図 164	A区	38-07d	215	磨石類	砂岩	7.2	5.9	3.1	190.31		
第112図 165	A区	28-87b	13	磨石類	安山岩	9.6	4.7	3.9	232.04		
第112図 166	A区	28-76d	72	磨石類	砂岩	7.6	6.0	4.2	212.90	端部欠損	
第112図 167	A区	28-76b	2c	磨石類	石英斑岩	9.3	6.4	3.1	241.34		
第112図 168	A区	38-08d	29	磨石類	石英斑岩	8.1	5.4	2.2	132.98		
第112図 169	A区	38-96b	2b	磨石類	チャート	3.5	3.6	1.3	24.54		
第113図 170	A区	28-94b	141	石皿	多孔質安山岩	9.1	8.4	3.3	298.19	破片	
第113図 171	A区	38-07d	40	石皿	砂岩	14.3	9.3	6.1	529.54	破片	
第113図 172	A区	78	84	石皿	安山岩	8.6	7.2	3.0	153.32	破片	
第113図 173	A区	2c-71a	5	石皿	礫岩	12.4	9.7	4.4	397.47	破片	
第113図 174	A区	28-65c	62	石皿	緑泥片岩	14.3	6.3	5.4	651.54	破片	
第114図 175	A区	38-07a	206	墨形石製品	砂岩	6.9	3.1	1.4	37.11		
第114図 176	A区	28-85b	132	墨形石製品	砂岩	5.5	3.6	0.7	25.83	端部欠損	被熱・赤化
第114図 177	A区	28-74c	5	墨形石製品	砂岩	6.2	3.2	1.8	61.31	端部破片	
第114図 178	A区	28-74c	2d	墨形石製品	砂岩	5.0	3.0	0.8	19.08	端部欠損	
第114図 179	A区	28-75a	2e	墨形石製品	砂岩	3.8	4.3	1.3	28.44	両端欠損	
第114図 180	A区	28-85d	2d	墨形石製品	砂岩	5.2	2.2	1.0	20.45		
第114図 181	A区	28-75c	2b	墨形石製品	砂岩	3.1	2.6	1.3	12.91	端部破片	
第114図 182	A区	28-84c	252	砥石	砂岩	5.9	2.3	1.4	23.96	端部欠損	
第114図 183	A区	28-75b	33	砥石	砂岩	6.5	2.8	2.2	44.44		
第114図 184	A区	38-06c	2	砥石	砂岩	4.8	2.4	1.2	16.08	破片	
第114図 185	A区	28-84c	2a	砥石	砂岩	4.6	2.6	1.9	15.40	端部破片	
第114図 186	A区	28-86c	2b	砥石	砂岩	4.0	3.1	1.3	17.35	端部破片	
第114図 187	A区	38-06c	30	砥石	砂岩	6.4	3.8	0.9	30.62	端部欠損	
第114図 188	A区	38-06b	55	砥石	砂岩	10.3	5.2	1.9	158.84	両端欠損	
第114図 189	A区	28-75d	104	砥石	砂岩	5.4	6.0	2.7	135.43	端部破片	
第114図 190	A区	28-89c	17	砥石	安山岩	7.8	6.6	2.2	122.09	端部破片	
第114図 191	A区	28-95c	2b	砥石	砂岩	4.0	3.4	1.7	36.72	破片	
第114図 192	A区	28-96a	128	砥石	砂岩	7.0	5.4	1.0	69.10		
第114図 193	A区	38-16a	30	砥石	砂岩	8.0	3.8	0.9	37.31	端部欠損	
第114図 194	A区	28-85b	2a	砥石	砂岩	3.7	3.4	0.8	7.36	破片	
第114図 195	A区	28-85d	2f	砥石	砂岩	2.8	2.8	0.6	5.24	破片	
第114図 196	A区	28-74b	3	石製品	軽石	6.6	5.2	1.8	16.45		
第114図 197	A区	38-06b	147	石製品	軽石	5.2	3.5	1.7	8.99	端部欠損	
第115図 198	A区	28-97a	24	石棒	緑泥片岩	7.4	3.4	1.2	58.26	端部破片	
第115図 199	A区	28-66b	2c	石棒	緑泥片岩	5.6	3.8	1.7	62.76	端部破片	
第115図 200	A区	38-09a	13	石棒	緑泥片岩	6.2	1.9	1.5	23.59	基部破片	
第115図 201	A区	28-98b	9	石棒	粗粒玄武岩	6.3	2.2	1.3	21.94	基部破片	
第115図 202	A区	28-89c	3	石棒	粘板岩	6.8	2.2	0.8	16.30	破片	
第115図 203	A区	28-94a	119	玉	滑石	0.9	0.9	0.4	0.41		
第115図 204	A区	28-74b	33	玉	滑石	0.7	0.7	0.5	0.33		
第115図 205	A区	28-59b	3	玉	滑石	0.8	0.8	0.4	0.39		
第115図 206	A区	28-98d	7	石鏝	硬質頁岩	3.2	1.5	0.5	1.74	基部欠損	縄文晩期か
第115図 207	A区	28-65d	3	石鏝	チャート	3.1	1.8	0.6	2.28	基部、先端欠損	縄文晩期か

第7表 B区 遺構外出土石器一覧表

押戻番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第119図 1	B区	40-12b	121	石鏝	頁岩	2.1	1.8	0.5	1.32	先端部欠損	
第119図 2	B区	40-03b	12	両極石核	黒曜石	1.4	1.8	1.0	2.21	-	
第119図 3	B区	38-93d	29	石核	チャート	4.7	4.0	3.2	74.28	-	
第119図 4	B区	38-91b	4	打製石斧半成品	砂岩	10.0	6.2	3.3	297.17	-	
第119図 5	B区	38-90b	4	磨製石斧	ホルンフェルス	8.8	5.3	2.9	193.41		

採番番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第11968	6	B区	4B-03b	4	磨石類						
第11968	7	B区	4B-13a	3	石棒						

第8表 C区 遺構外出土石器一覧表

採番番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第15688	1	C区	4B-57d	2a	石鏃	1.3	1.2	0.3	0.35	片脚欠損	
第15688	2	C区	4B-82a	15	石鏃	1.4	1.3	1.2	0.36		
第15688	3	C区	4B-64c	151	石鏃	1.5	1.1	0.2	0.27		
第15688	4	C区	4B-65d	65	石鏃	1.5	1.4	0.4	0.68	先端部欠損	
第15688	5	C区	4B-64c	19	石鏃	1.1	1.0	0.2	0.27	先端・脚部欠損	
第15688	6	C区	4B-85c	55	石鏃	2.4	1.5	0.5	1.24		
第15688	7	C区	4B-80b	35	石鏃	2.4	1.5	0.5	1.16	片脚欠損	
第15688	8	C区	4B-80c	40	石鏃	2.5	2.0	0.4	1.23	片脚欠損	
第15688	9	C区	4B-65c	57	石鏃	1.2	1.1	0.3	0.25		
第15688	10	C区	4B-73b	24	石鏃	1.4	0.8	0.2	0.24	片脚欠損	
第15688	11	C区	4B-93a	12	石鏃	1.6	1.3	0.2	0.42		
第15688	12	C区	T14	11	石鏃	2.0	1.6	0.5	1.32	脚部欠損	
第15688	13	C区	4B-77b	83	石鏃	1.3	1.0	0.3	0.31	脚部欠損	
第15688	14	C区	4B-64c	74	石鏃	1.6	1.2	0.5	0.72		
第15688	15	C区	4B-70b	118	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.46	先端部欠損	
第15688	16	C区	4B-87d	16	石鏃	2.5	2.1	0.3	2.27	脚部欠損	
第15688	17	C区	4B-85c	56	石鏃	1.8	1.4	0.3	0.58	片脚欠損	
第15688	18	C区	4B-62b	96	石鏃	1.8	1.0	0.5	0.77	先端、基部欠損	
第15688	19	C区	4B-76a	228	石鏃	1.2	0.6	0.2	0.19		
第15688	20	C区	4B-85a	17	石鏃未成品	1.8	1.1	0.4	0.86		
第15688	21	C区	T14	27	石鏃未成品	3.0	2.1	1.1	6.55		
第15688	22	C区	4B-93b	8	石鏃未成品	2.7	1.9	0.9	4.21		
第15688	23	C区	4B-91a	18	石鏃未成品	1.6	1.5	0.5	0.70		
第15688	24	C区	4B-72c	20	石鏃未成品	2.7	1.6	0.5	1.77		
第15688	25	C区	4B-65d	2e	石鏃未成品	2.4	1.0	0.9	2.08		
第15688	26	C区	4B-55d	2c	石鏃	2.6	1.5	1.1	3.54		
第15688	27	C区	4B-65a	29	石鏃	1.5	0.8	0.3	0.27		
第15688	28	C区	4B-62b	137	石鏃未成品	4.2	2.6	1.0	13.48		
第15688	29	C区	4B-70c	15	石鏃未成品	3.6	3.4	1.6	15.43		
第15688	30	C区	4B-61d	173	石鏃未成品	3.3	3.8	0.7	8.40		
第15688	31	C区	4B-62c	25	石鏃未成品	3.1	2.7	1.1	9.52		
第15688	32	C区	4B-82b	3	石鏃未成品	4.3	3.1	0.2	15.61		
第15688	33	C区	T14	2c	両極石核	3.3	2.4	1.8	14.95		
第15788	34	C区	4B-64c	93	石鏃	2.2	0.7	0.5	0.60		
第15788	35	C区	4B-61d	207	石鏃	2.4	1.3	0.9	2.80		
第15788	36	C区	4B-75b	14	石鏃	1.9	0.9	0.5	0.86		
第15788	37	C区	表採	2j	両極石核	3.0	3.1	1.3	15.37		
第15788	38	C区	4B-80c	10	両極石核	4.7	4.0	1.7	43.07		
第15788	39	C区	5B-02b	21	両極石核	4.6	3.6	2.0	44.64		
第15788	40	C区	T14	305	両極石核	4.1	3.2	1.3	19.00		
第15788	41	C区	4B-70c	2b	両極石核	4.3	2.7	1.0	16.22		
第15788	42	C区	4B-72d	106	両極石核	2.9	2.3	0.7	5.32		
第15788	43	C区	T14	2a	両極石核	4.1	3.2	1.4	23.30		
第15788	44	C区	4B-70b	24	両極石核	3.0	2.2	1.2	8.70		
第15788	45	C区	4B-62d	141	両極石核	3.4	2.5	0.9	8.25		
第15788	46	C区	4B-62a	42	両極石核	4.2	2.6	1.1	13.10		
第15888	47	C区	4B-96b	2	石核	5.3	6.1	3.6	143.25		
第15888	48	C区	4B-72c	91	石核	6.3	2.2	1.8	23.62		
第15888	49	C区	4B-73c	37	石核	3.5	3.3	2.3	27.97		
第15888	50	C区	4B-83a	78	石核	6.8	5.5	3.3	160.14		
第15888	51	C区	4B-83a	4	石核	3.8	4.4	2.8	49.08		
第15888	52	C区	4B-75b	15	石核	2.7	3.6	2.7	26.82		
第15988	53	C区	4B-77d	85	磨製石斧	11.6	5.6	3.2	366.16		
第15988	54	C区	4B-84d	6	磨製石斧	4.4	5.8	2.7	70.36	刃部片	
第15988	55	C区	表採	4	磨製石斧	4.1	4.3	2.3	61.28	刃部片	
第15988	56	C区	4B-70b	76b	磨製石斧	4.1	2.7	1.1	17.94	基部欠損	
第15988	57	C区	4B-75d	120	磨製石斧	2.5	1.8	0.7	3.58	基部破片	
第15988	58	C区	表採	3	磨製石斧	5.8	2.4	1.1	19.08	基部欠損	
第15988	59	C区	4B-62c	178	磨製石斧	4.3	3.6	1.1	25.37	基部欠損	
第15988	60	C区	4B-73a	3	磨製石斧	5.7	3.0	1.0	25.05	刃部欠損	
第15988	61	C区	4B-67d	103	磨製石斧	3.8	3.6	1.6	32.89	刃部片	

押戻番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
第15902	62	C区	T16	238	磨製石斧	ホルンフェルス	6.3	4.8	1.4	53.82	刃部・基部欠損
第15903	63	C区	4B-65c	131	磨製石斧	斑レイ岩	2.2	3.5	1.6	20.26	破片
第15904	64	C区	表採	2b	磨製石斧	粗粒玄武岩	4.0	3.1	1.3	27.38	基部片
第15905	65	C区	4B-75a	63	打製石斧	ホルンフェルス	9.6	4.6	2.1	105.58	
第15906	66	C区	4B-75b	65	打製石斧	安山岩	8.5	4.1	1.4	59.58	
第15907	67	C区	4B-77b	38	打製石斧	砂岩	7.9	3.6	1.7	65.46	基部欠損
第15908	68	C区	4B-90b	17	打製石斧	ホルンフェルス	5.8	3.5	0.8	26.68	
第15909	69	C区	4B-92b	7	打製石斧	ホルンフェルス	6.7	4.2	1.7	50.97	刃部欠損
第15910	70	C区	4B-83c	25	打製石斧	砂岩	7.3	3.8	1.9	52.94	
第15911	71	C区	4B-62b	30	打製石斧	ホルンフェルス	8.2	4.7	1.8	83.94	
第15912	72	C区	T15	2j	打製石斧	ホルンフェルス	4.8	2.7	0.9	13.29	
第15913	73	C区	4B-87b	3	打製石斧	ホルンフェルス	7.5	3.5	0.8	25.55	刃部欠損
第15914	74	C区	4B-82b	75	打製石斧	緑色岩	4.3	3.9	1.5	34.33	基部欠損
第15915	75	C区	4B-73a	82	打製石斧	ホルンフェルス	5.9	4.2	1.3	39.68	
第15916	76	C区	4B-80b	173	打製石斧	ホルンフェルス	3.6	3.5	1.4	22.70	基部欠損
第15917	77	C区	5B-02b	22	打製石斧	ホルンフェルス	4.3	3.3	1.3	21.01	
第15918	78	C区	T14	133	打製石斧	結晶片岩	5.0	2.8	1.5	25.94	
第15919	79	C区	4B-71a	2	打製石斧	ホルンフェルス	3.4	3.3	1.8	24.01	破片
第15920	80	C区	4B-71a	137	打製石斧未成品	流紋岩	6.2	4.9	2.4	91.64	-
第16001	81	C区	4B-63c	82	打製石斧	ホルンフェルス	6.1	5.5	2.0	94.38	基部欠損
第16002	82	C区	4B-66b	25	打製石斧	ホルンフェルス	5.2	5.0	3.0	85.20	基部破片
第16003	83	C区	表採	3	打製石斧	ホルンフェルス	7.9	4.1	1.6	72.60	
第16004	84	C区	4B-63c	157	打製石斧未成品	砂岩	5.7	3.1	1.0	21.50	-
第16005	85	C区	4B-66c	73	打製石斧未成品	砂岩	5.9	3.4	1.5	33.30	-
第16006	86	C区	4B-74d	2	打製石斧	ホルンフェルス	3.6	3.8	1.3	21.98	基部破片
第16101	87	C区	T15	93	磨石類	火山礫凝灰岩	11.8	8.1	5.0	590.59	
第16102	88	C区	4B-74b	136	磨石類	石英斑岩	11.0	7.8	5.9	783.80	
第16103	89	C区	4B-84d	15	磨石類	砂岩	10.3	8.0	4.7	573.99	
第16104	90	C区	4B-74a	20	磨石類	チャート	10.3	7.1	3.9	394.78	
第16105	91	C区	4B-66b	35	磨石類	石英斑岩	12.5	9.8	5.8	934.32	
第16106	92	C区	4B-84b	37	磨石類	ノジュール	7.9	7.5	6.1	373.82	
第16107	93	C区	4B-71d	11	磨石類	安山岩	7.0	6.1	4.1	236.50	
第16108	94	C区	4B-84a	20	磨石類	砂岩	9.6	6.4	4.7	432.88	
第16109	95	C区	4B-66d	242	磨石類	チャート	8.4	6.2	4.5	328.47	
第16201	96	C区	4B-62d	199	磨石類	流紋岩	9.3	10.0	5.9	668.99	
第16202	97	C区	4B-67d	66	磨石類	チャート	10.8	6.6	3.1	276.17	
第16203	98	C区	4B-62b	40	磨石類	石英斑岩	8.1	5.6	2.0	127.40	
第16204	99	C区	4B-65c	7	磨石類	砂岩	8.6	6.5	4.9	406.47	端部欠損
第16205	100	C区	4B-94b	33	磨石類	多孔質安山岩	6.5	6.0	3.9	126.87	端部破片
第16206	101	C区	T16	4	磨石類	砂岩	11.6	8.2	5.9	712.15	
第16207	102	C区	4B-85a	158	磨石類	凝灰岩質泥岩	11.2	8.5	4.0	138.00	
第16208	103	C区	4B-83a	82	磨石類	安山岩	9.5	9.6	5.5	651.95	
第16209	104	C区	4B-78a	5	磨石類	砂岩	8.8	7.8	6.3	611.01	
第16210	105	C区	4B-88a	2	磨石類	砂岩	6.8	6.4	3.9	246.24	
第16301	106	C区	T14	141	磨石類	砂岩	12.3	8.2	7.8	1104.21	
第16302	107	C区	4B-93a	20	磨石類	砂岩	12.2	5.2	6.1	496.60	
第16303	108	C区	4B-84b	35	磨石類	安山岩	8.4	6.7	4.8	492.21	
第16304	109	C区	5B-02b	23	磨石類	安山岩	15.8	8.4	5.1	1057.88	
第16305	110	C区	4B-92b	18	磨石類	安山岩	6.6	5.9	2.3	126.51	端部欠損
第16306	111	C区	4B-92b	12	磨石類	砂岩	8.4	5.7	2.2	147.10	
第16307	112	C区	4B-95a	3	磨石類	ホルンフェルス	11.4	7.4	3.2	342.65	
第16308	113	C区	4B-85b	63	磨石類	砂岩	9.5	8.5	3.2	360.99	
第16309	114	C区	4B-78a	3	磨石類	流紋岩	7.1	5.2	3.3	185.19	端部欠損
第16310	115	C区	T14	265	磨石類	石英斑岩	9.1	7.6	4.5	457.21	
第16311	116	C区	4B-62c	133	磨石類	石英斑岩	8.1	5.8	3.5	224.47	
第16312	117	C区	4B-85d	23	磨石類	安山岩	8.4	6.6	3.9	260.63	端部欠損
第16401	118	C区	4B-84a	18	磨石類	砂岩	6.5	7.8	6.1	363.43	端部破片
第16402	119	C区	4B-63c	2a	磨石類	チャート	8.3	5.2	3.6	221.38	
第16403	120	C区	4B-65d	117	磨石類	石英斑岩	8.8	4.1	3.3	170.15	
第16404	121	C区	4B-75c	26	磨石類	砂岩	12.9	4.1	4.1	318.78	
第16405	122	C区	4B-80c	183	磨石類	砂岩	8.4	3.8	0.9	51.77	
第16406	123	C区	4B-73c	28	磨石類	砂岩	7.9	4.1	1.9	84.66	
第16407	124	C区	4B-81a	68	磨石類	砂岩	9.0	6.2	3.6	266.95	
第16408	125	C区	4B-66c	136	磨石類	安山岩	9.4	9.2	4.9	567.12	
第16409	126	C区	4B-53d	2a	磨石類	流紋岩	8.6	7.7	3.3	322.75	端部欠損
第16410	127	C区	4B-55d	2d	磨石類	流紋岩	6.5	3.9	3.2	103.72	
第16411	128	C区	4B-63d	2a	磨石類	石英	4.6	5.1	2.7	85.14	

挿入番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考	
第1648	129	C区	4B-54b	2c	磨石類	砂岩	10.5	5.4	3.6	250.45	-	
第1648	130	C区	4B-62d	101	礎器	流紋岩	8.2	6.8	3.9	304.85	-	
第1648	131	C区	4B-65d	118	礎器	石英斑岩	5.0	5.2	2.6	84.35	-	
第16500	132	C区	4B-58d	2b	礎器	砂岩	10.6	8.8	6.0	700.75	-	
第16500	133	C区	4B-58c	2a	礎器	石英斑岩	8.2	7.1	4.8	389.48	-	
第16500	134	C区	4B-92d	2	礎器	流紋岩	5.4	5.7	4.7	224.80	-	
第16500	135	C区	4B-77d	5	礎器	石英斑岩	9.7	8.3	6.1	570.02	-	
第16500	136	C区	T15	2b	礎器	安山岩	12.1	8.6	7.1	960.00	-	
第16500	137	C区	T14	315	礎器	石英斑岩	8.3	5.8	2.0	139.24	-	
第16500	138	C区	4B-85a	195	礎器	ホルンフェルス	5.0	5.6	1.9	60.01	-	
第16500	139	C区	4B-61a	66	礎器	ホルンフェルス	7.2	7.9	2.7	211.96	-	
第16500	140	C区	表探	2	礎器	安山岩	8.0	6.2	4.0	285.57	-	
第16698	141	C区	4B-65b	18	石皿	安山岩	8.5	8.4	4.7	368.62	破片	
第16698	142	C区	4B-70c	23	石皿	多孔質安山岩	9.6	11.0	5.3	532.09	破片	
第16698	143	C区	4B-84b	84a	石皿	砂岩	12.5	12.0	4.0	787.39	端部欠損	
第16698	144	C区	4B-72d	69	石皿	砂岩	13.0	11.7	2.9	381.40	破片	
第16698	145	C区	4B-73b	153	石皿	斑レイ岩	21.9	13.6	10.9	4250.00	端部欠損	
第16698	146	C区	4B-74c	144	石皿	砂岩	12.0	12.5	3.9	852.76	端部欠損	
第16698	147	C区	4B-82c	80	石皿	安山岩	7.3	7.7	5.1	276.98	破片	
第16798	148	C区	4B-96a	2	彫形石製品	砂岩	8.7	2.5	1.0	26.41	端部欠損	
第16798	149	C区	4B-90c	48	彫形石製品	砂岩	7.2	3.3	0.9	32.13	-	
第16798	150	C区	4B-97a	118	彫形石製品	砂岩	6.4	2.3	1.0	26.41	-	
第16798	151	C区	4B-96a	10	彫形石製品	砂岩	4.8	2.4	1.2	15.39	端部欠損	
第16798	152	C区	表探	2f	彫形石製品	砂岩	3.0	2.2	0.9	8.11	破片	
第16798	153	C区	4B-72b	2c	彫形石製品	砂岩	3.5	2.7	0.9	14.01	端部破片	
第16798	154	C区	4B-61b	2	彫形石製品	砂岩	5.8	3.7	0.8	23.49	表面剥落	
第16798	155	C区	4B-63a	2e	彫形石製品	砂岩	6.5	2.8	1.6	27.54	-	
第16798	156	C区	4B-80d	2b	彫形石製品	砂岩	5.6	3.0	1.4	36.98	-	
第16798	157	C区	4B-62a	2a	彫形石製品	砂岩	4.6	3.0	1.2	25.62	端部片	
第16798	158	C区	4B-67c	2	彫形石製品	砂岩	4.1	3.1	0.7	12.38	端部破片	
第16798	159	C区	4B-73d	24	砥石	安山岩	6.9	4.3	1.6	35.00	-	
第16798	160	C区	4B-73d	72	砥石	砂岩	5.9	4.3	1.7	62.46	-	
第16798	161	C区	4B-85a	20	砥石	砂岩	6.7	4.8	1.7	69.85	端部欠損	
第16798	162	C区	T16	25	砥石	砂岩	5.2	4.3	1.1	25.32	端部欠損	熱熱赤化
第16798	163	C区	4B-83a	33	砥石	砂岩	5.3	5.3	2.5	91.99	端部欠損	
第16798	164	C区	4B-92a	2	砥石	砂岩	5.0	4.2	2.5	71.61	端部欠損	
第16798	165	C区	4B-84d	23	砥石	砂岩	6.2	4.7	2.0	50.61	端部欠損	
第16798	166	C区	4B-63a	9	砥石	砂岩	9.2	7.1	1.4	50.15	表面剥落	
第16798	167	C区	4B-77c	56	砥石	砂岩	7.9	5.0	3.3	144.06	-	
第16798	168	C区	4B-53d	2b	砥石	砂岩	8.0	4.2	1.9	71.27	端部破片	
第16798	169	C区	4B-77c	4	砥石	砂岩	4.7	4.0	2.4	48.94	基部破片	
第16798	170	C区	4B-84a	19	砥石	砂岩	13.1	6.5	4.5	426.93	破片	
第16798	171	C区	4B-63c	125	砥石	砂岩	7.4	4.6	2.4	102.79	破片	
第16798	172	C区	4B-80c	70	砥石	砂岩	7.7	4.4	2.1	83.62	破片	
第16798	173	C区	4B-75c	48	砥石	砂岩	25.8	7.4	2.9	754.13	破片	
第16898	174	C区	4B-75c	57	砥石	軟質凝灰岩	7.1	7.3	3.6	99.04	破片	
第16898	175	C区	4B-73a	1	砥石	安山岩	5.0	4.2	1.7	28.23	破片	
第16898	176	C区	T16	306	石製品	軽石	3.3	4.2	1.4	3.96	端部破片	有孔
第16898	177	C区	4B-71b	2	石製品	軽石	3.7	3.3	1.1	3.71	破片	
第16898	178	C区	4B-85b	46	石製品	軽石	13.5	6.2	2.4	49.97	-	有孔
第16898	179	C区	4B-72b	140	石製品	軽石	11.2	5.0	2.3	46.33	-	
第16908	180	C区	T8	3	石棒	粘板岩	9.2	3.3	2.4	83.76	破片	
第16908	181	C区	4B-75b	10	石剣	粘板岩	4.7	3.0	1.8	39.28	破片	
第16908	182	C区	4B-75b	141	石棒	頁岩	13.3	3.7	3.7	299.30	破片	
第16908	183	C区	T14	26	石棒	凝灰岩	11.9	3.0	2.7	168.32	破片	
第16908	184	C区	4B-64c	46	石棒	緑泥片岩	12.0	5.2	4.9	583.54	破片	
第16908	185	C区	4B-70d・ 4B-81a	19・20・ 96	石棒	緑泥片岩	19.5	4.0	3.8	513.99	頭部・基部欠損	
第16908	186	C区	4B-66c	71	垂飾品	滑石	3.5	2.9	0.6	4.51	一部欠損	
第16908	187	C区	4B-87a	125	丸玉	ヒスイ	1.2	-	0.8	1.97	完形	
第16908	188	C区	4B-67d	3	丸玉	滑石	1.0	-	0.8	1.27	完形	
第16908	189	C区	4B-70b	26	白玉	滑石	0.8	-	0.5	0.42	完形	
第16908	190	C区	4B-80c	190	白玉	滑石	0.6	-	0.3	0.09	完形	
第16908	191	C区	4B-65d	85	白玉	滑石	0.7	-	0.4	0.13	半分欠損	
第16908	192	C区	4B-62b	77	玉未成品	滑石	1.0	-	1.0	1.44	-	
第16908	193	A区	14T	2	原石	滑石	3.9	2.2	1.6	9.27	-	

第9表 石器一覧表(挿入非掲載分)

挿入番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
1	A区	(1)S001	2	石鏡	黒曜石	1.1	0.7	0.2	0.14	片断片	
2	A区	(1)S001	416	石鏡	黒曜石	1.0	1.0	0.3	0.13	片断片	信州産
3	A区	(1)S002	217	石鏡	黒曜石	2.9	1.6	0.5	1.70	片断欠損	
4	A区	(1)S002	238	石鏡	黒曜石	1.6	1.0	0.5	0.47	片断片	

通し番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
5	A区	(1) S1002	263	石鏡	黒曜石	1.6	0.9	0.2	0.28	端部片	神津島産
6	A区	28-51b	3	石鏡	黒曜石	1.9	0.7	0.3	0.38	片脚のみ	
7	A区	28-65a	2	石鏡	黒曜石	1.7	1.0	0.4	0.57	片脚欠損	
8	A区	28-74b	29	石鏡	黒曜石	0.9	1.0	0.3	0.13	先端破片	
9	A区	28-74c	110	石鏡	黒曜石	1.8	0.7	0.4	0.39	破片	
10	A区	28-75a	172	石鏡	黒曜石	1.7	1.0	0.4	0.51	片脚片	信州産
11	C区	48-84b	36	石鏡	黒曜石	1.0	1.1	0.3	0.26	端部破片	
12	A区	28-75c	24	石鏡	黒曜石	1.7	0.7	0.3	0.30	片脚欠損	
13	A区	28-85b	141	石鏡	黒曜石	1.0	1.3	0.6	0.48	先端破片	
14	A区	28-86a	47	石鏡	黒曜石	1.7	1.1	0.3	0.55	破片	
15	A区	28-94d	49	石鏡	黒曜石	1.3	0.8	0.2	0.22	片脚片	
16	A区	28-97a	2	石鏡	黒曜石	1.6	0.9	0.3	0.39	破片	
17	B区	38-92a	2	石鏡	珪質頁岩	1.8	1.3	0.5	0.99	先端欠損	晚期飛行機鏡
18	B区	48-11b	102	石鏡	黒曜石	1.3	0.9	0.3	0.23	破片	
19	C区	T14	27	石鏡	黒曜石	2.1	1.2	0.4	0.60	片脚欠損	
20	C区	T14	2	石鏡	黒曜石	1.2	0.9	0.3	2.30	破片	
21	C区	48-65a	21	石鏡	黒曜石	1.1	1.1	0.3	0.32	片脚片	
22	C区	48-66d	152	石鏡	黒曜石	1.2	0.7	0.4	0.20	破片	
23	C区	48-70b	96	石鏡	黒曜石	1.1	0.5	0.2	0.15	片脚破片	
24	C区	48-73c	27	石鏡	黒曜石	1.3	1.6	0.3	0.34	破片	
25	C区	48-73d	6	石鏡	黒曜石	1.0	1.1	0.3	0.30	破片	
26	C区	48-74b	5	石鏡	チャート	1.3	0.8	0.3	0.23	破片	
27	C区	48-76c	53	石鏡	黒曜石	1.0	0.8	0.3	0.13	片脚片	
28	C区	48-77a	225	石鏡	黒曜石	1.2	0.6	0.4	2.10	片脚片	
29	A区	28-65a	2	石鏡未成品	黒曜石	2.1	1.1	0.9	1.71	-	
30	A区	28-65a	2	石鏡未成品	チャート	2.4	2.8	0.6	5.27	-	
31	A区	28-65b	25	石鏡未成品	黒曜石	2.5	1.9	0.9	4.40	-	神津島産
32	A区	28-68a	4	石鏡未成品	チャート	3.2	2.9	1.3	9.00	-	
33	A区	28-74c	2	石鏡未成品	チャート	1.5	1.2	0.5	0.96	-	
34	A区	28-74c	2	石鏡未成品	チャート	3.0	4.1	1.0	11.83	-	
35	A区	28-75a	76	石鏡未成品	ホルンフェルス	3.9	2.6	0.8	6.19	-	
36	A区	28-75a	118	石鏡未成品	黒曜石	1.7	1.3	0.4	0.81	-	
37	A区	28-75a	190	石鏡未成品	珪質頁岩	2.2	1.5	0.3	0.72	-	
38	A区	28-75b	2	石鏡未成品	チャート	2.5	0.8	0.8	0.64	-	
39	A区	28-75b	40	石鏡未成品	チャート	3.1	2.2	0.8	4.85	-	
40	A区	28-75c	123	石鏡未成品	チャート	3.1	3.4	1.1	11.76	-	
41	A区	28-76a	23	石鏡未成品	チャート	2.7	2.3	0.7	3.37	-	
42	A区	28-84b	16	石鏡未成品	チャート	2.4	2.0	0.5	2.26	-	
43	A区	28-84b	140	石鏡未成品	チャート	3.5	1.6	1.6	8.36	-	
44	A区	28-84b	183	石鏡未成品	メノウ	3.0	2.9	1.3	14.80	-	
45	A区	28-84c	2	石鏡未成品	チャート	2.2	2.1	0.1	5.21	-	
46	A区	28-84c	2	石鏡未成品	チャート	1.3	1.6	0.3	0.78	-	
47	A区	28-84c	2	石鏡未成品	チャート	2.3	2.8	1.6	11.62	-	
48	A区	28-85b	40	石鏡未成品	黒曜石	2.4	1.6	1.0	3.36	-	
49	A区	28-85b	252	石鏡未成品	メノウ	1.7	1.4	0.4	0.97	-	
50	A区	28-85d	253	石鏡未成品	黒曜石	1.9	1.8	0.9	3.33	-	
51	A区	28-86a	58	石鏡未成品	黒曜石	0.8	1.5	0.5	0.48	-	
52	A区	28-86a	71	石鏡未成品	黒曜石	2.2	0.8	0.8	1.43	-	
53	A区	28-87d	7	石鏡未成品	黒曜石	2.0	2.0	0.5	1.08	-	
54	A区	28-87d	52	石鏡未成品	黒曜石	2.3	1.9	0.6	2.09	-	
55	A区	28-88b	3	石鏡未成品	チャート	4.7	3.5	1.3	17.10	-	
56	A区	28-88b	22	石鏡未成品	黒曜石	2.5	2.9	0.9	6.24	-	
57	A区	28-89c	11	石鏡未成品	黒曜石	2.4	1.6	0.7	1.53	-	
58	A区	28-94a	127	石鏡未成品	チャート	2.8	1.8	0.9	5.84	-	
59	A区	28-94a	138	石鏡未成品	チャート	2.6	2.0	0.7	3.82	-	
60	A区	28-94b	2	石鏡未成品	チャート	4.0	2.7	1.4	15.38	-	
61	A区	28-94b	159	石鏡未成品	黒曜石	1.4	2.2	0.7	1.82	-	信州産
62	A区	28-94b	206	石鏡未成品	黒曜石	2.4	1.8	0.8	3.09	-	
63	A区	28-95c	33	石鏡未成品	チャート	1.7	1.6	0.5	1.00	-	
64	A区	28-96d	2	石鏡未成品	チャート	2.3	3.1	0.7	5.96	-	
65	A区	28-97c	2	石鏡未成品	チャート	4.2	3.1	0.7	10.74	-	
66	A区	28-97c	90	石鏡未成品	黒曜石	2.0	1.8	0.5	1.27	-	神津島産
67	A区	28-97d	2	石鏡未成品	黒曜石	2.0	2.6	1.1	5.64	-	
68	A区	28-98a	56	石鏡未成品	黒曜石	1.7	1.3	0.3	0.63	-	
69	A区	28-98b	2	石鏡未成品	チャート	3.5	2.9	1.1	10.43	-	
70	A区	38-04b	4	石鏡未成品	黒曜石	1.5	1.0	0.4	0.70	-	
71	A区	38-06b	76	石鏡未成品	チャート	1.9	1.6	0.4	1.60	-	
72	A区	38-06b	17	石鏡未成品	チャート	4.2	2.5	0.5	5.29	-	
73	A区	38-06c	116	石鏡未成品	黒曜石	2.1	1.7	0.7	1.84	-	
74	A区	38-06d	26	石鏡未成品	黒曜石	2.6	2.0	0.4	1.55	-	
75	A区	38-07a	2	石鏡未成品	チャート	3.7	4.3	1.0	20.06	-	
76	A区	38-07a	183	石鏡未成品	チャート	2.9	2.6	0.8	5.39	-	

通し番号	地区	出土地点	遺物 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
78	A区	3B-07d	17	石織未成品	黒曜石	1.9	1.8	0.7	2.02	-	
79	A区	3B-07d	192	石織未成品	黒曜石	2.1	1.2	0.4	1.18	-	
80	A区	(1)S8005	2	石織未成品	チャート	2.6	2.7	0.8	6.90	-	
81	A区	(1)S8046	3	石織未成品	黒曜石	1.8	1.2	0.7	1.25	-	
82	A区	(1)S1001	399	石織未成品	チャート	3.5	3.4	1.1	15.99	-	
83	A区	(1)S1001	403	石織未成品	黒曜石	2.2	1.2	0.6	1.50	-	
84	A区	(1)S1002	201	石織未成品	黒曜石	1.8	1.4	0.3	1.03	-	神津島産
85	A区	T20	2	石織未成品	黒曜石	1.4	1.4	0.4	0.74	-	
86	A区	T7	2	石織未成品	黒曜石	2.8	2.3	1.3	8.63	-	
87	A区	T7	2	石織未成品	チャート	3.5	2.2	1.3	11.80	-	
88	A区	T7	2	石織未成品	チャート	2.5	1.8	0.8	3.72	-	
89	A区	T7	2	石織未成品	チャート	3.0	1.8	0.7	4.36	-	
90	A区	T7	68	石織未成品	チャート	3.0	3.1	0.8	9.09	-	
91	A区	T7	112	石織未成品	黒曜石	3.7	2.6	0.9	6.89	-	
92	A区	T7	428	石織未成品	黒曜石	3.0	1.3	0.4	1.19	-	
93	A区	T8	2	石織未成品	メノウ	2.6	2.1	1.0	5.10	-	
94	A区	T8	125	石織未成品	黒曜石	2.2	1.8	0.5	0.97	-	
95	A区	T8	312	石織未成品	黒曜石	2.0	1.6	1.1	3.68	-	
96	A区	T8	442	石織未成品	黒曜石	2.0	2.0	1.1	4.30	-	
97	A区	表採	2	石織未成品	チャート	3.2	2.0	0.7	5.20	-	
98	B区	3B-91c	2	石織未成品	チャート	5.0	4.2	1.9	31.19	-	
99	B区	3B-92a	2	石織未成品	チャート	2.8	2.9	1.3	12.16	-	
100	B区	3B-92b	2	石織未成品	頁岩	3.4	2.6	0.7	5.69	-	
101	B区	3B-93b	6	石織未成品	チャート	2.8	2.8	0.9	4.62	-	
102	B区	3B-93b	12	石織未成品	チャート	2.7	1.7	0.7	2.92	-	
103	B区	4B-01d	9	石織未成品	チャート	2.6	2.0	1.2	5.10	-	
104	B区	4B-01d	373	石織未成品	チャート	2.2	1.1	0.5	0.93	-	
105	B区	4B-02a	2	石織未成品	チャート	2.0	2.4	0.5	2.38	-	
106	B区	4B-02a	18	石織未成品	チャート	3.5	2.1	0.9	6.73	-	
107	B区	4B-02b	2	石織未成品	チャート	2.3	1.5	1.1	3.20	-	
108	B区	4B-02b	15	石織未成品	黒色頁岩	2.4	3.1	1.0	6.74	-	
109	B区	4B-02c	56	石織未成品	チャート	3.2	2.3	0.7	5.46	-	
110	B区	4B-02d	2	石織未成品	チャート	2.7	2.5	0.9	4.77	-	
111	B区	4B-03c	4	石織未成品	チャート	3.8	2.1	1.2	10.93	-	
112	B区	4B-11a	3	石織未成品	チャート	3.5	3.1	1.3	10.87	-	
113	B区	4B-11a	139	石織未成品	チャート	2.5	1.7	1.0	4.33	-	
114	B区	4B-11b	80	石織未成品	チャート	3.0	2.0	0.9	4.56	-	
115	B区	4B-11c	5	石織未成品	チャート	3.6	2.1	0.8	6.61	-	
116	B区	4B-12a	2	石織未成品	珉質頁岩	2.7	2.0	0.9	4.71	-	
117	B区	4B-12a	2	石織未成品	頁岩	3.0	1.4	0.7	1.63	-	
118	B区	T11	12	石織未成品	硬質頁岩	3.0	2.3	1.4	7.39	-	
119	B区	T12	12	石織未成品	黒曜石	2.1	1.3	0.6	1.41	-	
120	C区	4B-54a	2	石織未成品	チャート	3.1	3.6	1.4	15.04	-	
121	C区	4B-56d	2	石織未成品	黒曜石	1.6	1.3	0.4	0.80	-	
122	C区	4B-61b	60	石織未成品	黒曜石	1.3	0.7	0.4	0.39	-	
123	C区	4B-61d	157	石織未成品	チャート	2.1	1.2	0.6	1.63	-	
124	C区	4B-62b	51	石織未成品	チャート	3.2	2.7	1.2	7.17	-	
125	C区	4B-62c	229	石織未成品	黒曜石	2.2	1.7	0.3	1.11	-	
126	C区	4B-63d	2	石織未成品	チャート	3.1	1.7	0.9	4.69	-	
127	C区	4B-65a	2	石織未成品	黒曜石	1.7	1.4	0.4	0.86	-	
128	C区	4B-65b	2	石織未成品	黒曜石	2.3	1.7	0.9	3.58	-	
129	C区	4B-65c	2	石織未成品	チャート	2.7	2.2	0.9	5.01	-	
130	C区	4B-65c	183	石織未成品	黒曜石	1.9	1.6	0.8	2.40	-	
131	C区	4B-65c	202	石織未成品	チャート	2.5	2.0	0.8	3.23	-	
132	C区	4B-65d	19	石織未成品	黒曜石	1.6	1.2	0.6	0.84	-	
133	C区	4B-65d	134	石織未成品	チャート	2.3	2.0	1.0	3.61	-	
134	C区	4B-66b	28	石織未成品	黒曜石	2.1	1.5	0.6	1.55	-	
135	C区	4B-66d	2	石織未成品	チャート	3.4	2.4	1.0	8.19	-	
136	C区	4B-66d	168	石織未成品	黒曜石	1.8	1.5	0.6	1.56	-	
137	C区	4B-70b	87	石織未成品	黒曜石	1.0	1.2	0.3	0.31	-	
138	C区	4B-72a	15	石織未成品	赤玉石	3.5	2.5	1.7	11.68	-	
139	C区	4B-72a	96	石織未成品	チャート	2.4	3.2	1.3	8.37	-	
140	C区	4B-72b	61	石織未成品	チャート	4.3	2.9	1.6	12.71	-	
141	C区	4B-72d	27	石織未成品	黒曜石	2.0	1.8	0.8	2.18	-	
142	C区	4B-72d	34	石織未成品	黒曜石	2.3	1.5	0.8	2.38	-	
143	C区	4B-75a	142	石織未成品	黒曜石	2.0	1.3	0.6	1.62	-	
144	C区	4B-75b	22	石織未成品	チャート	3.6	2.5	0.9	8.21	-	

通し番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
145	C区	4B-76a	2	石鏝未成品	黒曜石	1.7	1.7	0.9	1.90	-	
146	C区	4B-76a	151	石鏝未成品	チャート	3.8	2.3	0.9	5.00	-	
147	C区	4B-76a	152	石鏝未成品	メノウ	3.4	2.8	1.4	10.38	-	
148	C区	4B-76d	106	石鏝未成品	黒曜石	1.6	0.7	0.5	0.59	-	
149	C区	4B-90b	178	石鏝未成品	チャート	2.3	1.6	0.6	2.37	-	
150	C区	4B-90d	2	石鏝未成品	黒曜石	1.4	1.9	0.4	1.14	-	
151	C区	4B-83a	8	石鏝未成品	黒曜石	4.6	2.6	1.4	11.62	-	
152	C区	4B-85a	14	石鏝未成品	チャート	2.7	1.8	0.7	3.38	-	
153	C区	4B-85b	21	石鏝未成品	黒曜石	2.5	1.5	0.8	2.75	-	
154	C区	4B-86a	2	石鏝未成品	黒曜石	1.8	1.2	0.4	0.70	-	
155	C区	4B-87a	2	石鏝未成品	チャート	2.9	2.3	1.5	11.38	-	
156	C区	4B-87b	10	石鏝未成品	チャート	2.3	1.9	0.6	3.28	-	
157	C区	T14	2	石鏝未成品	チャート	4.7	3.0	1.1	14.88	-	
158	C区	T14	2	石鏝未成品	チャート	4.1	2.0	1.1	11.03	-	
159	C区	T14	2	石鏝未成品	チャート	2.3	1.4	0.8	2.98	-	
160	C区	T14	2	石鏝未成品	黒曜石	2.5	1.7	0.9	3.05	-	
161	C区	T15	2	石鏝未成品	砂岩	3.3	1.8	0.5	2.95	-	
162	C区	T15	25	石鏝未成品	チャート	2.8	1.9	0.8	2.69	-	
163	C区	T16	302	石鏝未成品	黒曜石	2.4	1.4	1.5	3.51	-	
164	C区	T18	2	石鏝未成品	チャート	2.8	2.0	0.8	4.85	-	
165	C区	表採	2	石鏝未成品	黒曜石	1.8	1.4	0.4	1.01	-	
166	C区	表採	3	石鏝未成品	黒曜石	1.7	1.3	0.3	0.98	-	
167	A区	2B-65a	2	両極石核	黒曜石	2.6	1.6	0.9	3.12	-	
168	A区	2B-67d	6	両極石核	チャート	2.3	3.8	2.0	14.43	-	
169	A区	2B-77a	16	両極石核	安山岩	5.6	4.0	1.6	54.03	-	
170	A区	2B-84b	299	両極石核	チャート	2.8	1.7	1.1	3.72	-	
171	A区	2B-84b	2	両極石核	チャート	3.0	2.3	0.7	5.38	-	
172	A区	2B-84d	6	両極石核	チャート	3.3	2.5	1.2	11.48	-	
173	A区	2B-85a	2	両極石核	チャート	3.5	3.1	1.2	10.55	-	
174	A区	2B-85a	217	両極石核	黒曜石	2.7	2.1	0.8	5.58	-	信州産
175	A区	2B-85d	2	両極石核	チャート	2.0	2.6	0.7	4.37	-	
176	A区	2B-86c	14	両極石核	砂岩	3.7	6.6	1.3	51.34	-	
177	A区	2B-86c	46	両極石核	黒曜石	1.8	1.5	0.7	1.71	-	信州産
178	A区	2B-89c	2	両極石核	チャート	3.7	3.3	1.4	24.85	-	
179	A区	2B-96c	89	両極石核	チャート	2.8	2.0	0.8	6.35	-	
180	A区	2B-97a	54	両極石核	チャート	3.3	5.1	2.0	44.14	-	
181	A区	3B-16b	61	両極石核	黒曜石	2.1	1.6	1.1	2.98	-	
182	A区	(1)S1001	2	両極石核	チャート	2.2	1.4	1.4	5.92	-	
183	A区	T7	2	両極石核	チャート	3.7	2.8	0.4	4.90	-	
184	A区	T7	257	両極石核	黒曜石	1.5	1.4	0.5	0.88	-	
185	A区	T7	337	両極石核	黒曜石	1.3	1.3	0.9	1.30	-	
186	A区	T7	454	両極石核	チャート	2.4	1.8	0.7	2.62	-	
187	B区	3B-93c	2	両極石核	チャート	3.6	2.7	2.1	18.65	-	
188	B区	4B-10b	68	両極石核	チャート	2.4	1.2	0.4	1.44	-	
189	C区	4B-63c	2	両極石核	チャート	4.9	4.3	1.7	54.83	-	
190	C区	4B-63d	2	両極石核	チャート	4.9	2.0	1.3	17.85	-	
191	C区	4B-65a	2	両極石核	メノウ	2.5	1.9	1.4	9.56	-	
192	C区	4B-65a	2	両極石核	チャート	4.0	3.2	1.5	22.32	-	
193	C区	4B-66d	2	両極石核	チャート	2.3	2.2	1.1	5.92	-	
194	C区	4B-66d	182	両極石核	チャート	3.4	3.3	1.8	23.81	-	
195	C区	4B-73d	11	両極石核	チャート	4.3	3.6	1.7	26.36	-	
196	C区	4B-76a	16	両極石核	チャート	3.0	4.3	1.2	18.10	-	
197	C区	4B-80b	2	両極石核	ホルンブルグ	3.1	3.0	1.1	11.26	-	
198	C区	4B-80d	2	両極石核	ホルンブルグ	2.9	2.2	0.9	6.45	-	
199	C区	4B-84c	2	両極石核	チャート	4.3	3.5	1.4	25.71	-	
200	C区	4B-85b	41	両極石核	黒曜石	2.0	0.8	1.0	1.60	-	
201	C区	4B-87a	115	両極石核	チャート	4.0	4.4	1.5	32.69	-	
202	C区	4B-90a	19	両極石核	チャート	3.1	2.3	1.1	7.98	-	
203	C区	T14	9	両極石核	黒曜石	2.1	1.3	0.7	2.09	-	
204	C区	T14	339	両極石核	黒曜石	2.1	2.0	0.9	3.35	-	
205	C区	T15	2	両極石核	チャート	6.3	4.6	2.7	107.50	-	
206	C区	T15	2	両極石核	チャート	6.2	4.0	2.1	73.99	-	
207	A区	2B-65c	2	石核	チャート	-	-	-	251.68	-	
208	A区	2B-65c	51	石核	黒曜石	-	-	-	3.74	-	神津島産
209	A区	2B-75b	127	石核	石英	-	-	-	36.20	-	
210	A区	2B-75c	59	石核	黒曜石	-	-	-	7.02	-	信州産
211	A区	2B-76c	42	石核	黒曜石	-	-	-	15.35	-	

通し番号	地区	出土地点	遺物 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備 考
212	A区	2B-76d	2	石核	チャート	-	-	-	28.36	-	
213	A区	2B-78c	3	石核	チャート	-	-	-	34.66	-	
214	A区	2B-84b	2	石核	チャート	-	-	-	24.17	-	
215	A区	2B-84c	125	石核	黒曜石	-	-	-	12.06	-	
216	A区	2B-85a	214	石核	チャート	-	-	-	43.11	-	
217	A区	2B-85b	2	石核	チャート	-	-	-	15.16	-	
218	A区	2B-85b	197	石核	黒曜石	-	-	-	3.14	-	神津島産
219	A区	2B-86a	2	石核	チャート	-	-	-	37.96	-	
220	A区	2B-86c	18	石核	黒曜石	-	-	-	4.08	-	
221	A区	2B-95b	2	石核	チャート	-	-	-	40.79	-	
222	A区	2B-96a	14	石核	チャート	-	-	-	17.92	-	
223	A区	2B-96d	44	石核	チャート	-	-	-	95.18	-	
224	A区	2B-98b	2	石核	チャート	-	-	-	25.28	-	
225	A区	3B-04a	11	石核	チャート	-	-	-	23.13	-	
226	A区	3B-05b	6	石核	黒曜石	-	-	-	5.41	-	
227	A区	3B-06a	2	石核	チャート	-	-	-	83.55	-	
228	A区	3B-06b	2	石核	チャート	-	-	-	38.77	-	
229	A区	3B-07b	9	石核	チャート	-	-	-	4.92	-	
230	A区	3B-08c	24	石核	黒曜石	-	-	-	5.50	-	
231	A区	3B-08c	26	石核	黒曜石	-	-	-	4.42	-	
232	A区	3B-08d	21	石核	黒曜石	-	-	-	2.22	-	
233	A区	SH-029	2	石核	チャート	-	-	-	6.85	-	
234	A区	(1)SI002	2	石核	チャート	-	-	-	35.16	-	
235	A区	(1)SI002	75	石核	黒曜石	-	-	-	1.84	-	
236	A区	(1)SI004	29	石核	珩質頁岩	-	-	-	16.31	-	
237	A区	(2)SI004	2	石核	チャート	-	-	-	20.12	-	
238	A区	(1)SK012	18	石核	チャート	-	-	-	108.25	-	
239	A区	(1)SK012	2	石核	チャート	-	-	-	8.64	-	
240	A区	T1	2	石核	黒曜石	-	-	-	7.50	-	
241	A区	T7	2	石核	チャート	-	-	-	11.13	-	
242	A区	表探	2	石核	チャート	-	-	-	1.58	-	
243	B区	3B-84d	2	石核	珩質頁岩	-	-	-	16.19	-	
244	B区	3B-91c	2	石核	緑色凝灰岩	-	-	-	36.40	-	
245	A区	3B-38b	4	石核	黒曜石	-	-	-	20.00	-	
246	B区	3B-94a	8	石核	チャート	-	-	-	9.91	-	
247	B区	4B-00c	151	石核	チャート	-	-	-	11.94	-	
248	B区	4B-01b	2	石核	チャート	-	-	-	29.63	-	
249	B区	4B-01c	103	石核	チャート	-	-	-	16.31	-	
250	B区	4B-01d	91	石核	チャート	-	-	-	18.14	-	
251	B区	4B-01d	298	石核	チャート	-	-	-	43.26	-	
252	B区	4B-01d	335	石核	赤玉石	-	-	-	24.75	-	
253	B区	4B-01d	396	石核	チャート	-	-	-	85.46	-	
254	B区	4B-02a	2	石核	チャート	-	-	-	38.48	-	
255	B区	4B-02c	2	石核	珩質頁岩	-	-	-	24.66	-	
256	B区	4B-02c	52	石核	チャート	-	-	-	5.55	-	
257	B区	4B-02d	2	石核	チャート	-	-	-	15.47	-	
258	B区	4B-02d	42	石核	チャート	-	-	-	35.73	-	
259	B区	4B-03a	30	石核	チャート	-	-	-	106.30	-	
260	B区	4B-03b	35	石核	チャート	-	-	-	77.49	-	
261	B区	4B-10b	72	石核	黒曜石	-	-	-	3.05	-	
262	B区	4B-11a	78	石核	チャート	-	-	-	10.67	-	
263	B区	4B-11a	155	石核	チャート	-	-	-	54.73	-	
264	B区	4B-11b	153	石核	流紋岩	-	-	-	14.34	-	
265	B区	4B-11d	2	石核	チャート	-	-	-	3.63	-	
266	B区	4B-12a	113	石核	珩質頁岩	-	-	-	7.51	-	
267	B区	4B-12a	116	石核	チャート	-	-	-	21.14	-	
268	B区	4B-12a	136	石核	チャート	-	-	-	44.34	-	
269	B区	4B-12a	199	石核	チャート	-	-	-	22.23	-	
270	B区	4B-12b	162	石核	チャート	-	-	-	29.89	-	
271	B区	4B-12b	108	石核	チャート	-	-	-	3.34	-	
272	B区	4B-15c	2	石核	チャート	-	-	-	40.64	-	
273	B区	4B-31	2	石核	チャート	-	-	-	14.08	-	
274	B区	T11	125	石核	黒曜石	-	-	-	4.03	-	
275	C区	4B-58c	2	石核	メノウ	-	-	-	11.22	-	
276	C区	4B-61d	171	石核	チャート	-	-	-	3.75	-	
277	C区	4B-63c	158	石核	黒曜石	-	-	-	4.01	-	
278	C区	4B-65d	54	石核	チャート	-	-	-	7.12	-	
279	C区	4B-65d	90	石核	チャート	-	-	-	31.07	-	

通し番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
280	C区	4B-66b	2	石核	チャート	-	-	-	53.54	-	
281	C区	4B-70c	93	石核	チャート	-	-	-	72.55	-	
282	C区	4B-71a	73	石核	硬質頁岩	-	-	-	206.05	-	
283	C区	4B-71d	6	石核	チャート	-	-	-	9.31	-	
284	C区	4B-72b	119	石核	黒曜石	-	-	-	6.10	-	
285	C区	4B-73b	77	石核	チャート	-	-	-	40.53	-	
286	C区	4B-73c	2	石核	チャート	-	-	-	87.62	-	
287	C区	4B-75a	104	石核	チャート	-	-	-	19.24	-	
288	C区	4B-75d	17	石核	チャート	-	-	-	9.85	-	
289	C区	4B-82b	32	石核	黒曜石	-	-	-	1.46	-	
290	C区	4B-84c	54	石核	黒曜石	-	-	-	15.34	-	
291	C区	T14	219	石核	チャート	-	-	-	43.58	-	
292	C区	T15	2	石核	チャート	-	-	-	14.29	-	
293	C区	T23	2	石核	硬質頁岩	-	-	-	8.80	-	
294	C区	表採	2	石核	チャート	-	-	-	13.30	-	
295	-	表採	2	石核	硬質頁岩	-	-	-	85.95	-	
296	A区	2B-75d	2	磨製石斧	玄武岩質スコリア	-	-	-	26.53	刃部片	被熱
297	A区	2B-86c	15	磨製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	75.85	破片	
298	A区	2B-94d	2	磨製石斧	緑色凝灰岩	-	-	-	77.13	破片	
299	A区	2B-96a	114	磨製石斧	緑色岩	-	-	-	43.12	破片	
300	A区	2B-97a	3	磨製石斧	緑色凝灰岩	-	-	-	6.77	破片	
301	A区	2C-51b	2	磨製石斧	砂岩	-	-	-	20.94	破片	
302	A区	3B-06c	168	磨製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	57.96	基部破片	
303	C区	4B-70d	10	磨製石斧	透閃石岩	-	-	-	3.82	刃部片	
304	C区	4B-72d	3	磨製石斧	緑色岩	-	-	-	28.11	刃部片	
305	C区	T14	2	磨製石斧	緑色岩	-	-	-	101.34	破片	定角式
306	C区	T15	2	磨製石斧	緑色凝灰岩	-	-	-	34.63	破片	
307	A区	(1) S1004	28	打製石斧	片状砂岩	-	-	-	232.64	胴部片	
308	C区	(3) SD002	5	打製石斧	粘板岩	-	-	-	48.05	破片	
309	A区	2B-75a	80	打製石斧	安山岩	-	-	-	107.37	破片	
310	A区	2B-84c	121	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	34.41	刃部片	
311	A区	2B-85b	2	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	19.20	基部破片	
312	A区	2B-86a	65	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	76.25	刃部欠損	分瓣形
313	A区	2B-87a	15	打製石斧	安山岩	-	-	-	58.75	基部欠損	
314	A区	2B-88c	2	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	21.01	破片	
315	A区	2B-94b	2	打製石斧	砂岩	-	-	-	47.16	基部片	
316	A区	2B-94b	140	打製石斧	安山岩	-	-	-	58.56	刃部片	
317	A区	2B-96a	30	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	31.41	基部破片	
318	A区	2B-97c	55	打製石斧	粗粒玄武岩	-	-	-	40.37	基部破片	
319	A区	2B-97d	2	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	29.88	刃部片	
320	C区	4B-62d	106	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	19.39	刃部片	
321	C区	4B-70c	2	打製石斧	緑色岩	-	-	-	19.48	刃部片	
322	C区	4B-72d	131	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	25.23	刃部片	
323	C区	4B-84d	2	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	28.19	刃部欠損	
324	C区	4B-95a	2	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	44.65	-	
325	C区	T14	2	打製石斧	ホルンフェルス	-	-	-	36.50	基部片	
326	A区	2B-56c	2	磨石類	安山岩	-	-	-	270.39	破片	
327	A区	2B-56c	2	磨石類	砂岩	-	-	-	127.37	破片	
328	A区	2B-57a	2	磨石類	砂岩	-	-	-	101.77	破片	
329	A区	2B-57b	5	磨石類	砂岩	-	-	-	89.11	破片	
330	A区	2B-65c	2	磨石類	安山岩	-	-	-	126.57	破片	
331	A区	2B-65c	2	磨石類	安山岩	-	-	-	82.62	破片	
332	A区	2B-65c	34	磨石類	多孔質安山岩	-	-	-	120.36	破片	
333	A区	2B-66b	2	磨石類	安山岩	-	-	-	94.95	破片	
334	A区	2B-67a	2	磨石類	石英斑岩	-	-	-	215.63	破片	
335	A区	2B-74c	2	磨石類	砂岩	-	-	-	26.24	破片	
336	A区	2B-76a	86	磨石類	砂岩	-	-	-	71.51	破片	
337	A区	2B-76b	2	磨石類	砂岩	-	-	-	108.66	破片	
338	A区	2B-76b	2	磨石類	砂岩	-	-	-	106.77	破片	
339	A区	2B-76b	57	磨石類	砂岩	-	-	-	167.95	破片	
340	A区	2B-76c	2	磨石類	石英斑岩	-	-	-	306.08	破片	
341	A区	2B-76d	21	磨石類	安山岩	-	-	-	180.11	破片	
342	A区	2B-76d	19	磨石類	砂岩	-	-	-	167.75	破片	
343	A区	2B-78a	2	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	59.92	破片	
344	A区	2B-84c	3	磨石類	砂岩	-	-	-	155.92	破片	
345	A区	2B-84d	32	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	62.01	破片	
346	A区	2B-84d	33	磨石類	ノジュール	-	-	-	34.09	破片	
347	A区	2B-84d	67	磨石類	砂岩	-	-	-	159.28	破片	
348	A区	2B-85b	28	磨石類	石英斑岩	-	-	-	80.86	破片	
349	A区	2B-85d	34	磨石類	石英斑岩	-	-	-	247.58	破片	
350	A区	2B-86a	51	磨石類	安山岩	-	-	-	218.35	破片	
351	A区	2B-86a	2	磨石類	砂岩	-	-	-	47.23	破片	
352	A区	2B-86a	16	磨石類	砂岩	-	-	-	109.51	破片	
353	A区	2B-86a	23	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	108.45	破片	

通し番号	地区	出土地点	遺物 番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
354	A区	2B-86d	2	磨石類	石英斑岩	-	-	-	80.21	破片	
355	A区	2B-86b	17	磨石類	砂岩	-	-	-	62.17	破片	
356	A区	2B-86b	49	磨石類	砂岩	-	-	-	150.91	破片	
357	A区	2B-87a	12	磨石類	安山岩	-	-	-	130.84	破片	
358	A区	2B-87d	42	磨石類	石英斑岩	-	-	-	59.21	破片	
359	A区	2B-87d	48	磨石類	砂岩	-	-	-	247.14	破片	
360	A区	2B-88b	2	磨石類	安山岩	-	-	-	45.04	破片	
361	A区	2B-89c	2	磨石類	砂岩	-	-	-	119.99	破片	
362	A区	2B-89c	19	磨石類	礫岩	-	-	-	135.81	破片	
363	A区	2B-94b	2	磨石類	砂岩	-	-	-	80.85	破片	
364	A区	2B-94c	2	磨石類	石英斑岩	-	-	-	206.01	破片	
365	A区	2B-94d	81	磨石類	砂岩	-	-	-	443.70	破片	
366	A区	2B-96a	84	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	70.81	破片	
367	A区	2B-96b	2	磨石類	砂岩	-	-	-	39.92	破片	
368	A区	2B-96c	2	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	62.16	破片	
369	A区	2B-96d	123	磨石類	安山岩	-	-	-	115.79	破片	
370	A区	2B-98a	50	磨石類	安山岩	-	-	-	123.29	破片	
371	A区	2B-98d	2	磨石類	安山岩	-	-	-	170.55	破片	
372	A区	2B-99b	14	磨石類	砂岩	-	-	-	34.15	破片	
373	A区	3B-06a	17	磨石類	砂岩	-	-	-	98.99	破片	
374	A区	3B-06b	2	磨石類	流紋岩	-	-	-	279.17	破片	
375	A区	3B-06b	13	磨石類	安山岩	-	-	-	340.33	破片	
376	A区	3B-06b	35	磨石類	閃緑岩	-	-	-	135.46	破片	
377	A区	3B-06b	40	磨石類	砂岩	-	-	-	57.79	破片	
378	A区	3B-06c	297	磨石類	安山岩	-	-	-	96.77	破片	
379	A区	3B-07a	36	磨石類	石英斑岩	-	-	-	192.54	破片	
380	A区	3B-07d	28	磨石類	砂岩	-	-	-	801.15	破片	
381	A区	3B-08a	3	磨石類	砂岩	-	-	-	27.81	破片	
382	A区	3B-08a	37	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	330.99	破片	
383	A区	3B-18d	4	磨石類	火山礫凝灰岩	-	-	-	416.25	破片	
384	A区	3B-19d	4	磨石類	砂岩	-	-	-	185.04	破片	
385	A区	3B-23d	19	磨石類	砂岩	-	-	-	51.16	破片	
386	A区	(1) S1001	2	磨石類	粗粒玄武岩	-	-	-	73.60	破片	
387	A区	(1) S1001	253	磨石類	安山岩	-	-	-	58.39	破片	
388	A区	(1) S1002	240	磨石類	安山岩	-	-	-	22.82	破片	
389	A区	(1) S1004	22	磨石類	砂岩	-	-	-	53.36	破片	
390	A区	(1) S1004	24	磨石類	砂岩	-	-	-	111.10	破片	
391	A区	T7	509	磨石類	砂岩	-	-	-	171.28	破片	
392	A区	表探	2	磨石類	緑色凝灰岩	-	-	-	56.55	破片	
393	A区	表探	2	磨石類	砂岩	-	-	-	266.67	破片	
394	B区	4B-01c	288	磨石類	砂岩	-	-	-	56.82	破片	
395	B区	4B-02a	2	磨石類	砂岩	-	-	-	48.57	破片	
396	B区	4B-10b	76	磨石類	砂岩	-	-	-	85.98	破片	
397	B区	4B-11a	174	磨石類	石英斑岩	-	-	-	383.51	破片	
398	B区	4B-30	2	磨石類	石英斑岩	-	-	-	69.39	破片	
399	C区	4B-52c	2	磨石類	砂岩	-	-	-	254.96	破片	
400	C区	4B-58d	2	磨石類	砂岩	-	-	-	669.41	破片	
401	C区	4B-60c	75	磨石類	砂岩	-	-	-	123.31	破片	
402	C区	4B-61a	2	磨石類	石英	-	-	-	230.93	破片	
403	C区	4B-61d	2	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	211.72	破片	
404	C区	4B-62a	2	磨石類	石英斑岩	-	-	-	87.05	破片	
405	C区	4B-62b	48	磨石類	石英斑岩	-	-	-	300.85	破片	
406	C区	4B-62c	292	磨石類	多孔質安山岩	-	-	-	81.35	破片	
407	C区	4B-62d	47	磨石類	流紋岩	-	-	-	110.17	破片	
408	C区	4B-63c	60	磨石類	流紋岩	-	-	-	474.57	破片	
409	C区	4B-65b	22	磨石類	石英斑岩	-	-	-	153.98	破片	
410	C区	4B-70c	153	磨石類	安山岩	-	-	-	81.99	破片	
411	C区	4B-71a	134	磨石類	安山岩	-	-	-	156.92	破片	
412	C区	4B-72a	35	磨石類	チャート	-	-	-	671.43	破片	
413	C区	4B-72a	66	磨石類	砂岩	-	-	-	77.74	破片	
414	C区	4B-73a	2	磨石類	石英斑岩	-	-	-	625.16	破片	
415	C区	4B-73c	2	磨石類	安山岩	-	-	-	62.10	破片	
416	C区	4B-75b	126	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	147.74	破片	
417	C区	4B-77b	11	磨石類	砂岩	-	-	-	142.39	破片	
418	C区	4B-77d	53	磨石類	安山岩	-	-	-	144.88	破片	
419	C区	4B-80b	69	磨石類	砂岩	-	-	-	152.45	破片	
420	C区	4B-80c	109	磨石類	流紋岩	-	-	-	54.35	破片	
421	C区	4B-80c	189	磨石類	安山岩	-	-	-	28.44	破片	
422	C区	4B-80d	57	磨石類	安山岩	-	-	-	107.38	破片	
423	C区	4B-82b	12	磨石類	石英斑岩	-	-	-	107.22	破片	
424	C区	4B-82c	12	磨石類	石英斑岩	-	-	-	106.26	破片	
425	C区	4B-84a	10	磨石類	砂岩	-	-	-	1487.68	破片	
426	C区	4B-84a	25	磨石類	砂岩	-	-	-	144.42	破片	
427	C区	4B-84a	38	磨石類	流紋岩	-	-	-	87.64	破片	

通し番号	地区	出土地点	遺物番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	欠損状況	備考
428	C区	4B-84c	42	磨石類	安山岩	-	-	-	54.56	破片	
429	C区	4B-85a	119	磨石類	砂岩	-	-	-	161.25	破片	
430	C区	4B-85b	67	磨石類	石英斑岩	-	-	-	125.12	破片	
431	C区	4B-86a	14	磨石類	砂岩	-	-	-	17.40	破片	
432	C区	4B-87a	2	磨石類	石英斑岩	-	-	-	120.38	破片	
433	C区	4B-95a	2	磨石類	砂岩	-	-	-	204.61	破片	
434	C区	(3) SK015	130	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	68.75	破片	
435	C区	T14	2	磨石類	砂岩	-	-	-	60.89	破片	
436	C区	T14	2	磨石類	安山岩	-	-	-	269.00	破片	
437	C区	T14	2	磨石類	流紋岩	-	-	-	158.61	破片	
438	C区	T14	2	磨石類	安山岩	-	-	-	84.24	破片	
439	C区	T14	2	磨石類	砂岩	-	-	-	41.39	破片	
440	C区	T14	140	磨石類	砂岩	-	-	-	290.76	破片	
441	C区	T15	2	磨石類	砂岩	-	-	-	62.94	破片	
442	C区	T15	54	磨石類	砂岩	-	-	-	119.94	破片	
443	C区	T15	75	磨石類	砂岩	-	-	-	125.07	破片	
444	C区	T16	2	磨石類	ホルンフェルス	-	-	-	283.08	破片	
445	C区	T16	5	磨石類	砂岩	-	-	-	1027.02	破片	
446	C区	T16	120	磨石類	砂岩	-	-	-	70.89	破片	
447	C区	T19	2	磨石類	安山岩	-	-	-	197.60	破片	
448	A区	2B-84d	3	石皿	糜レイ岩	-	-	-	166.43	破片	
449	A区	2B-84d	30	石皿	安山岩	-	-	-	256.31	破片	
450	A区	2B-86c	34	石皿	糜レイ岩	-	-	-	191.67	破片	
451	A区	2B-86d	33	石皿	糜レイ岩	-	-	-	311.16	破片	
452	A区	2B-86d	81	石皿	安山岩	-	-	-	839.27	破片	
453	A区	2B-95b	2	石皿	多孔質安山岩	-	-	-	49.82	破片	
454	A区	3B-06b	131	石皿	閃緑岩	-	-	-	164.14	破片	
455	C区	4B-61a	31	石皿	安山岩	-	-	-	197.07	破片	
456	C区	4B-61d	198	石皿	安山岩	-	-	-	149.77	破片	
457	C区	4B-71a	59	石皿	多孔質安山岩	-	-	-	106.38	破片	
458	C区	4B-80b	132	石皿	糜レイ岩	-	-	-	238.52	破片	
459	A区	2B-95a	2	砥石	砂岩	-	-	-	27.63	破片	
460	A区	3B-06a	54	砥石	白色凝灰岩	-	-	-	12.75	端部破片	
461	C区	4B-93c	2	砥石	砂岩	-	-	-	32.71	端部欠損	
462	A区	SK-001	25	石棒	粘板岩	-	-	-	9.62	破片	中期か
463	A区	2B-84b	279	石棒	安山岩	-	-	-	98.62	破片	後期～晩期
464	A区	2B-94b	2	石棒	安山岩	-	-	-	53.69	破片	後期～晩期
465	A区	2B-95a	2	石棒	緑泥片岩	-	-	-	74.27	破片	後期～晩期
466	A区	2B-95c	2	石棒	ホルンフェルス	-	-	-	14.29	破片	中期か
467	A区	3B-05b	2	石棒	結晶片岩	-	-	-	9.22	破片	中期か
468	A区	4B-00c	79	石棒	緑泥片岩	-	-	-	27.33	破片	中期か
469	A区	4B-01d	153	石棒	結晶片岩	-	-	-	28.84	破片	中期か
470	A区	4B-10c	52	石棒	緑泥片岩	-	-	-	278.85	破片	中期か
471	A区	4B-12a	75	石棒	粘板岩	-	-	-	64.25	破片	中期か
472	B区	4B-11b	140	石棒	粘板岩	-	-	-	9.97	破片	中期か
473	C区	(3) SD001	7	石棒	安山岩	-	-	-	239.25	破片	
474	C区	4B-61d	18	石棒	安山岩	-	-	-	62.56	破片	後期～晩期
475	C区	T14	2	石棒	粘板岩	-	-	-	23.71	破片	中期か
476	C区	T14	341	石棒	粘板岩	-	-	-	24.50	破片	中期か
477	A区	2B-76a	105	石核	チャート	-	-	-	343.75	-	
478	A区	3B-06b	2	石核	チャート	-	-	-	136.47	-	
479	A区	3B-06c	230	石核	チャート	-	-	-	53.16	-	
480	A区	3B-17a	34	石核	チャート	-	-	-	89.87	-	
481	B区	4B-01d	59	石核	流紋岩	-	-	-	129.95	-	
482	B区	4B-02b	2	石核	チャート	-	-	-	130.06	-	
483	B区	4B-03c	8	石核	チャート	-	-	-	531.85	-	
484	B区	4B-10b	30	石核	珪質頁岩	-	-	-	95.76	-	
485	B区	4B-10b	58	石核	チャート	-	-	-	569.05	-	
486	B区	2B-86b	2	石核	珪質頁岩	-	-	-	84.00	-	
487	B区	4B-12b	159	石核	チャート	-	-	-	815.47	-	
488	C区	4B-63a	2	石核	流紋岩	-	-	-	152.34	-	
489	C区	4B-64c	13	石核	チャート	-	-	-	148.43	-	
490	C区	4B-73a	64	石核	チャート	-	-	-	127.29	-	
491	C区	4B-74c	55	石核	チャート	-	-	-	838.42	-	
492	C区	4B-80a	5	石核	チャート	-	-	-	76.63	-	
493	C区	T15	98	石核	チャート	-	-	-	76.72	-	
494	-	表掘	2	石核	流紋岩	-	-	-	519.05	-	
495	C区	4B-83a	95	磨製石斧	緑色凝灰岩	4.2	1.4	1.0	9.23	刃部破片	

第5章 総括

本遺跡が所在する小櫃川中流域から約6km上流の亀山湖の周囲1kmには、標高約100m～140mの丘陵上に縄文時代中期～晩期を主体とする遺跡が点在している。坂畑南遺跡では、中期中葉の竪穴住居跡が15軒検出されているほか、後期～晩期末葉の遺構・遺物も確認されている。寺ノ代遺跡では、堀之内1式を主体とし、安行1式期までの竪穴住居跡11軒、土坑8基が緩斜面に展開する。豊田遺跡では、中期～後期にかけての竪穴住居跡が11軒検出されている。豊田遺跡の北側斜面には、後・晩期安行式期を主体とする中期勝坂式～晩期千網式に至る遺物包含層が検出されている。このような周辺状況のなか、芋窪原遺跡が立地する小櫃川中流域における縄文時代の遺跡調査は、鉄塔工事等に係る小規模調査に留まっており、限定的であったが、今回、国道バイパス事業に伴い2.540㎡の本調査を実施し、中期の竪穴住居跡2軒・土坑1基、後期の竪穴住居跡2軒・土坑9基、晩期の竪穴状遺構4基・土坑8基、後期の所産と考えられるビット342基、焼土3か所などからなる、中期後葉から晩期中葉の集落跡、後期～晩期の遺物包含層などを検出したことは、限定的な小櫃川中流域の集落の動態を探るうえで、貴重な成果といえる。

1 芋窪原遺跡における集落の動態

集落の開始時期は中期後葉と考えられる。上位段丘面の北側低位面において、加曾利EⅠ式～EⅡ式期の竪穴住居跡が2軒と土坑1基を検出した。中期の居住域はA区北側を中心としていたものと考えられ、広い上位段丘面の中でも中央部に近いやや低い範囲を中心に集落が展開していたことが推測される。

後期では、堀之内1式期に、上位段丘面上と、下位段丘面上に竪穴住居跡2軒が管まれ、段丘崖を挟んで上位段丘面と下位段丘面の両方に竪穴住居が展開するようになる。当時の段丘崖と現在の地形はほとんど変わっていないと考えられる。その2軒の覆土下層からは全体的に焼土及び炭化材が出土しており、焼土住居と考えられる。下位段丘面南西側では、土坑9基が検出された。平面形は円形を呈するものが多く、後期中葉～後葉の遺物が出土しており、当該期と考えられる。

晩期中葉では上位段丘面の高位面に、竪穴状遺構4基と土坑8基を検出した。竪穴状遺構群は、連続的に竪穴の構築がなされていたと考えられる。出土した土器のほとんどは、覆土中位～上位にかけての出土であることから、遺構群の廃絶後、埋没する過程で晩期中葉を主体とする多量の遺物が廃棄されたと考えられる。土坑は、上位段丘面北側緩斜面で1基、竪穴状遺構群の北東側で7基を検出した。平面形は楕円形を呈し、主軸は南北方向を示すものが多い。北側緩斜面で検出した(2)SK001は、長軸方向の南東側に礫とともに安行3b式期の浅鉢が横位に据え置かれている状況で出土しており、おそらくは被葬者の頭部に被せられた可能性が高いことから、土坑墓と考えられる。周辺の土坑群と併せ墓域となっていたと推測される。千葉県内では当該期の土坑墓で、本遺構のように土器が人為的に据えられていた事例は極めて少なく、当時の葬送形態を示す貴重な事例と考えられる。

各時期で中心となる生活域を変えており、中期後葉に上位段丘面の北側低位面に居住域が展開することが分かった。東方向に向かう緩い谷地形に沿って集落が展開すると想定される。後期前葉の堀之内式期になると上位段丘面と下位段丘面の段丘崖を挟んで2軒の住居跡が展開する。晩期中葉には上位段丘高位面に竪穴状遺構群、その東側には墓坑を含む土坑群が展開する。高位面は西側へ緩やかに下っており、西側隣接地に晩期遺構が展開するものと推定される。生活域の変化は気候変化等の視点からも検討する必要が

あると考えられる。

2 遺物包含層について

本調査区の北側には、古い時期に形成された標高80mの南総Ⅱ面と呼ばれる段丘面があり、本調査区とは15mあまりの高低差がある。調査区上位面は段丘面が広く、中央が窪み、東方向に向かう緩い谷地形となっており、調査前まで水田として利用されてきた。この谷地形に堆積した粘質の強い腐食土層中に遺物包含層が形成されていた。第1章第3節2基本土層で示したように上位段丘面と下位段丘面の緩斜面に堆積しており、2層の暗褐色土、3層の黒色土層、4層の黒色土層の大きく3層に分けることができた。各層位の概要と伴出遺物を以下でまとめてみる。

2層の暗褐色土層は、耕作により多くが失われていたが、晩期前葉～末葉の遺物を包含していた。安行3a式・3b式・3c式・3d式、姥山式、前浦式、大洞式系などの各時期の遺物が出土している。また、この層には上総層群由来の白色礫片が多く含まれており、上位・下位段丘面の両包含層が堆積する過程で上総層群由来の土が流入したものと考えられる。この白色礫片は3層には含まれないことから、B区の地山は常に露出し両方の緩斜面に流れ込んでいたわけではなく、晩期の竪穴状遺構などの地山掘削を伴う廃棄行為により、2層中に堆積したものと想定される。2層を晩期包含層として概ね捉えることができる。

3層の黒色土層は、後期中葉を主体とする後期初頭～後葉後期の遺物を包含していた。称名寺式が数点、加曾利B1式は上位段丘面の緩斜面で多く出土している。加曾利B2式も少量出土している。加曾利B3式精製土器は、包含層出土土器全体の約3割を占める。曾谷式・安行1式も比較的多く出土しており、安行2式になると土器量が減少する。分布は2B-84グリッドと3B-06グリッドを中心に集中しており、この傾向は後期前葉～晩期の各時期にかけてみられる。地形的制約や包含層の遺存状態による影響も考慮されるが、この範囲は、後期包含層の厚さが約40cmを測る厚い堆積であることから、土器が集中して検出された可能性が考えられる。今回の調査では、両方の緩斜面上に後期中葉から後葉における住居跡などの遺構は検出されなかったが、多量に廃棄された土器と焼土やピット群が検出されたことから、段丘上ではある程度の規模を有する集落が継続的に営まれ、本調査区の東西緩斜面には集落が展開するものと考えられる。

4層の黒色土層は、中期の遺物が3層の下位から本層位にかけて混在して出土しており、上位段丘面低位面では加曾利EⅡ式期を主体とする土器が集中して出土している。遺物の出土は、上位段丘面高位面や下位段丘面では、微量しかなく、低位面を主体としている。後期以降の遺物は本層位ではほとんど出土しない。本層上面近くが後期の生活面と想定される。第3層を後期包含層として概ね捉えることができる。

3 包含層出土土器について

包含層から出土した土器は、前期の浮島式、黒浜式、中期の勝坂式、阿玉台式、加曾利E式、曾利式、後期の称名寺式、堀之内式、加曾利B式、曾谷式、安行1式・2式、晩期の安行3a式・3b式・3c式・3d式、姥山式、前浦式、大洞系等土器である。

後期が全体の7割を占めている。中期では中期後葉が主体となり、後期では精製土器が約8割、粗製土器が約2割を占め、浅鉢も一定量出土している。

晩期では精製・粗製土器が各々約5割で、安行3a～3d式、姥山式、前浦式、大洞式系などの各時期の土器が少量であるが出土している。本遺跡で主体となる後期中葉以降の土器の様相を第170図に示した。

加曾利B1式は、深鉢・浅鉢ともに一定量出土しており、鉤の手状沈線や、縦連対弧文、「の」の字状文、三角形文などの区画文が施されるものが多い。加曾利B2式精製深鉢は、所謂平尾タイプ、縄文を多用する

中妻タイプが少量出土している。加曾利B2～B3式に伴う無文浅鉢も多量に出土している。

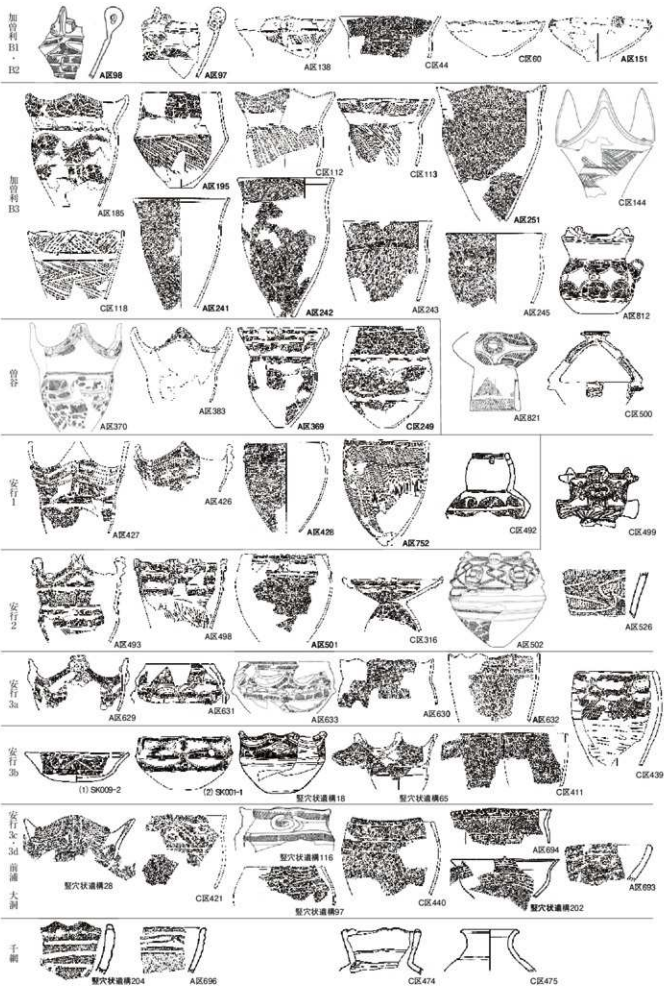
加曾利B3式は縄文が施される波状口縁深鉢が多く、胴部には互連弧充填縄文、タスキ掛け状入組文、求心集合弧線文が施される。条線が充填される波状口縁深鉢も多く出土しており、口縁部を無文とし、胴部に窟歯状文を施す大波状口縁深鉢も数点出土している。平口縁深鉢は数点のみで、半精製土器である頸部無文帯を有する深鉢は、地文に窟歯状文、綾杉文、格子状文、条線などがあり、地文と無文帯の施文順序をみると、頸部を沈線で区画し、無文帯を構成したのちに条線を充填するものから、次第に地文条線を施文後に頸部を沈線で区画し磨消すもの、さらには沈線による区画も無くなり、ただ磨消すだけのものへと変遷を追うことができる。ソロバン玉形の鉢や、鉢形土器、台付鉢が一定量出土している。注口土器・異形台付土器・釣手土器などの特殊遺物が出土している。

曾谷式は口縁部の帯縄文をノの字状の貼付文で区画するものが多い。沈線表現は加曾利B式よりも細く、弱々しくまた、口唇内面に沈線を残すものが多い。波状口縁深鉢は少なく、高井東式系と考えられる土器が出土している。頸部に弧線文を施す平口縁深鉢や、互連弧充填縄文を施す瓢形深鉢が多く出土している。安行1式期も一定量出土しており、口縁部の帯縄文が2段～3段に多段化した大波状口縁深鉢、平口縁深鉢が多く、瓢型深鉢は少量が出土している。砲弾型の器形を呈する杵状文、附点紐線系土器が出土している。安行2式期になると土器量が減少する。口縁部にキザミを施した隆帯によって三角形文に、小ぶりのブタ鼻状貼付文を施した波状口縁深鉢や、杵状文を伴う平口縁深鉢、当該期に並行する楯付土器の小破片が1点出土している。注口土器や異形台付土器、手燭形土製品、ミニチュア土器などの特殊遺物が出土している。晩期前葉の土器は量的には少ない。安行3a式は入組三叉文を施すものの特徴とし、波状口縁深鉢、平口縁深鉢、浅鉢が出土している。3b式は波状口縁、平口縁は小破片が数点のみである。浅鉢が多く出土している。半精製土器である細密沈線を施す土器が少量であるが出土している。

晩期中葉安行3c～3d式または、それに併行する土器は、包含層中からも小破片が少量出土しているが、特に堅穴状遺構群の覆土中からは、姥山Ⅱ・Ⅲ式の系譜の土器、前浦式Ⅰ・2式、大洞式系土器がまとめて出土している。粗製土器は杵状文を伴う平口縁深鉢が多く出土している。少量であるが、千網式が出土しており、晩期終末に近い壺形土器は、今回の調査で最も新しい時期の土器と考えられる。包含層から出土している土器からも連続と継続して集落営まれていたことが伺える。

4 土器片円盤について

包含層を主体に、土器片円盤が365点出土している。このうち欠損しているものが65点、完形と思われるものが300点である。素材となった土器片は、中期加曾利E式・後期堀之内式・加曾利B式・曾谷式・安行1式の各時期のものである。製作時期は、加曾利B式土器を加工しているものが最も多かったことから、この時期を主体に後期中葉～後期安行期に製作されたものと考えられる。千葉県内の諸遺跡から出土するこの種の円盤については後期を主体としているものが一般的である。中期の土器を素材としている円盤は、後期の時期に加工されたものと推測される。使用された土器片は、胴部破片が主体で、口縁部や底部は数点認められる程度である。平面形態は、真円を呈するものは少なく、略円形ないしは隅丸方形と言えるものが主体である。最小は2.26cm、最大は8.09cmで、7cmないしは8cmのものは各1点しかなく、3cm～5cmの大きさが主体となっている。ただし、約5cm以上の大きさになると、隅丸方形を呈する例が多くなっていくようである。欠損品を除く平均値は4.40cm、重量の平均値は16.48gである。円盤の縁辺の状態は、良く磨かれて丸味を帯びるものが全体の3割を占め、縁辺に荒い調整による剝離痕を残しているものが全体



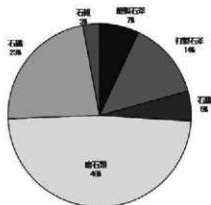
第170図 後期中葉以降の精製土器集成図

の7割を占めている。縁辺の凹凸がなく平滑なものは、大きさが2cm～3cmの小ぶりのものが多い。その多くが使用されずに廃棄されたものである可能性は低いと考えられることから、縁辺が丸味を帯びるもの、あるいは磨れているものは、使用されたものである可能性が高いのかもしれない。

5 縄文時代石器の組成 (第171～175図)

芋窪原遺跡から出土した縄文時代石器は、定形石器で473点に及んでいる。その時期は中期～晩期にわたり、かなりの時期幅がある。詳しく見ると中期は加曽利E式期、後期は加曽利B式～安行2式期、晩期は安行3a式～安行3d式期などの時期の石器が混在している。本編では、調査区をA区・B区・C区に分けて遺構外出土土器について詳述しているが、ここでは、全区域をまとめた石器組成について、見ていくことにしたい。石器の出土状況は、特にA区とC区の遺物包含層から出土しており、石器の特徴から時期が特定することができるものもあるが、全てを時期別に分けることは困難であることから、堅穴住居跡から出土した石器も含め、少々手あらいことは否めないが、全体をまとめてその組成を見てみることにしたい。

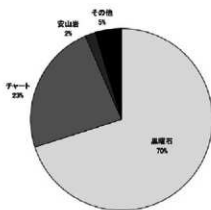
出土した定形石器は、石鏃、石錐、磨製石斧、打製石斧、磨石類、石皿などから構成されており、一般的な房総半島の縄文遺跡から出土している器種が全てそろっている。第171図にその組成を示した。石鏃23%、石錐3%、磨製石斧7%、打製石斧14%、磨石類48%、石皿5%となっており、磨石類の割合が高いことがわかる。磨石類としたものは、磨石・凹石・叩石などからなり、今回の調査で出土した磨石類には、2つ以上の敲打・凹み・研磨の痕跡を伴うものがほとんどである。主体を占めるのは、敲打と研磨の痕跡を伴うもので、円礫の表裏面に明らかな凹みを伴う例はあるものの、凹み単独の属性しか伴わないものは、極めて少なかった。敲打痕のみの例は、ある程度数が認められた。そのほとんどは細長い円礫の両端に敲打痕を伴うものである。千葉県内遺跡のほとんどは、このような複数の属性を伴うものが多く、石材の調達事情をある程度反映したものなのかもしれない。



第171図 器種組成

以下で、各定形石器の概要と石材について若干の所見を記すことにしたい。

石鏃 千葉県下の縄文遺跡にしては、石鏃の割合23%は高い方であろう。一般的に中期の遺跡では、石鏃の割合が低調であることから、そのほとんどは、後期加曽利B式期以降のものと思われる。主体となるのは凹基無茎鏃である。中には長脚のものもあるが限られている。平基無茎鏃は微量である。特記されるのは、晩期のいわゆる飛行機鏃が出土していることである。茎を伴い、二辺の中間にわずかな突起の作り出しがある。大きさ的には小型である。一方、第28図218のような大型で、二辺の先端寄りが脹らみ、茎寄りが緩く凹むものも飛行機鏃の一種とみた方がよいだろう。石材の組成を第172図に示した。黒曜石が70%、チャートが23%、安山岩2%、その他5%となっており、黒曜石が圧倒的な割合で、次いでチャートが占めている。



第172図 石鏃石材組成

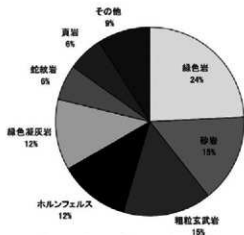
石鏃 千葉県内では、定型的な石鏃の出土例は極めて少なく、ほとんどは加工を施さない剥片を利用していたものと推測される。石材は黒曜石57%、チャート43%に限られている。石鏃又は石鏃未成品のなかに石鏃が含まれている可能性がある。

磨製石斧 全体組成では7%を占め、定角式の形態が主体を占めている。定形の出土例はなく、そのほとんどは、使用により欠損し廃棄されたものと推測される。大きさにはバラツキがある一方、小型のものは少ない。石材の組成を第173図に示した。緑色岩24%、砂岩15%、粗粒玄武岩15%、ホルンフェルス12%、緑色凝灰岩12%、蛇紋岩6%、頁岩6%、その他9%となっており、万田野礫層などから調達されている可能性もあるが、石材はバラエティに富むことから、成品として流通し、遺跡にもたらされたものが主体ではないかと推測される。

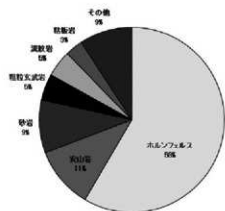
打製石斧 全体組成では14%を占め、その多くは欠損したものだ。楕形、分銅形、短冊形のもの認められ、主体となるのは、若干刃部幅が広がる楕形のものである。石材はホルンフェルス58%、安山岩11%、砂岩9%、粗粒玄武岩5%、流紋岩5%、粘板岩3%、その他9%となっており、石材はバラエティに富む。打製石斧未成品の数は少ないが、石材の組成を第174図に示した。ホルンフェルス54%、安山岩8%、砂岩13%、粗粒玄武岩4%、流紋岩4%、粘板岩2%、その他14%で、成品に似たような石材構成である。未成品の出土例から打製石斧については、その一部は万田野礫層などから調達され、集落内で加工された可能性が高い。ホルンフェルスは、泥岩・シルト岩の変成を受けたもので、千葉県内では一般的にみられるものである。

磨石類 磨石や叩石などの属性を兼ね備えた個体が多く、全体組成では48%を占め、最も構成比が高い。石材の組成を第175図に示した。砂岩(硬質)41%、安山岩20%、石英斑岩17%、ホルンフェルス6%、流紋岩5%、チャート3%、その他8%となっており、石材はバラエティに富んでいるが、その主体となるのは砂岩と安山岩で、石皿と合わせ植物加工の機能を発揮するのに適した石材であると考えられる。前述したように、石材の多様さから、他地域から搬入されてきたものが含まれている可能性がある一方、集落周辺の万田野礫層から一定量は調達されていた可能性があるだろう。

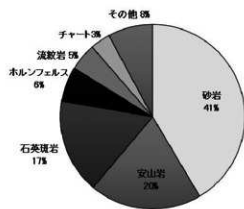
石皿 組成では5%を占めている。全て破片で出土している。石材は多孔質安山岩を含む安山岩48%、斑レイ岩20%、砂岩16%、その他16%となっており、石材が約半分の構成比となっている。石皿に適した大



第173図 磨製石斧石材組成



第174図 打製石斧石材組成



第175図 磨石類石材組成

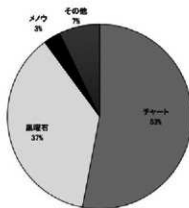
きな素材調達が遺跡周辺では難しいことから、ほとんどは搬入品と考えられる。

6 石鏝製作における石材調達

今回の調査では、主に包含層中から石鏝107点のほか、石鏝未成品168点、両極石核68点、石核126点などが出土している。これらの石材には、黒曜石とチャートが主体を占めている。成品の石鏝は、黒曜石を使用しているものが70%と圧倒的な割合を占め、チャートは23%であることから、チャートが補完的な石材として使用されていると考えられる。両極石核は小円礫に両極から加撃を加え、両極剥片または両極石核を素材として石鏝製作を行ったと考えられるものである。石核としたものは小型の円礫が素材となっている。石鏝未成品の出土例は石鏝製作が遺跡内で行われたことを直に示すものであるが、そのほとんどは、完成品に至らずに剥離調整の痕跡を残しているもので、剥片素材にわずかな剥離をとどめるものから成品にもう一步というもので、加工の度合いには幅がある。石鏝未成品の石材は第176図に示したように、チャートが57%、黒曜石が37%、メノウが3%、その他が7%となっており、チャート・黒曜石が主体となっている。両極石核の石材は、チャートが63%、黒曜石が19%、その他が18%となっている。剥片剥離石核の石材は、チャートが69%、黒曜石が19%、珩質頁岩が8%、その他が10%となっている。

成品となった石鏝の石材では、黒曜石が最も多いにもかかわらず、未成品・両極石核・石核ではいずれもチャートが多い。黒曜石は、両極石核のものが低調で、その多くは搬入された黒曜石の石核から作出された剥片素材を使用しており、成品に至る可能性が高い剥片しか使われていない可能性があること、しかも選ばれた剥片は成品に至るものが多かったことを示していると考えられる。両極打法から素材となる剥片を獲得するのは、決して容易ではなく、成品に至るまでに加工を諦めざるを得ないものが多かったことを示しているようである。黒曜石を除くほとんどの石材は、近くを流れる小瀬川や段丘崖の露頭に見られる万田野礫層から得られた小円礫と考えられる。成品の石材では黒曜石が圧倒的に多いことから、必要量の石鏝を生産するために、黒曜石の不足を補う石材として、チャートが主に選ばれていたと考えられる。

石鏝製作の時期については、芋窪原遺跡においては、中期の可能性は低い。その理由としては、最も石鏝類が出土したA区・C区の包含層の形成時期が、後期堀之内式以降であることである。石鏝の主体は凹基無茎鏝で、平基無茎鏝は微量であった。一方、A区からは明らかな晩期の飛行機鏝と呼ばれる有茎石鏝が出土していることから、生産された石鏝の主体となる凹基無茎鏝の時期は自ずと限られてくる。土器相を見ると芋窪原遺跡では、後期中葉の加曾利B式～晩期前葉あたりまでの時期に石鏝生産が行われた可能性が高い。しかし、特定の時期だけに生産が行われたというよりは、万田野礫層の露頭が多く、石材の獲得が容易なこの地域では、中期以降、継続的にチャートを石材とする石鏝生産が黒曜石を補完するかたちで行われていたのではないかと推測される。千葉県内の佐倉市池向遺跡(四柳 1995)では中期後半に円礫から両極打法による石鏝生産が行われていることが詳しく解明されており、この池向遺跡でも黒曜石が石材の中心となっていた。黒曜石の需要は時期を問わず一貫して高く、チャートなどその他の石材はその需要を補う補完的なものであったと推測され、それが房総半島における石鏝生産の実態であったのではないかと考えられる。



第176図 石鏝未製品石材組成

参考文献

- 市原市教育委員会 2020「市原市山新道跡第2地点」市原市埋蔵文化財調査センター報告書第50集
- (財)千葉県文化財センター 2005「印西市西根道跡」調査報告第500集
- (財)千葉県教育振興財団 2013「市川市道免き谷津道跡第1地点(4)」『東京外かく環状道跡埋蔵文化財調査報告書4』調査報告第703集
- (財)千葉県教育振興財団 2014「市川市道免き谷津道跡第1地点(3)」『東京外かく環状道跡埋蔵文化財調査報告書5』調査報告第729集
- 橋本勝雄 2022「円盤状土製品の製作に関する覚書－両極打法の応用－」『研究連絡誌』87号 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 四柳 隆 1995「第3章7節3. 池向道跡出土の石鏃」『佐倉市池向道跡－佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』千葉県文化財センター調査報告第268集

附章 石器の黒色付着物の材質分析

パレオ・ラボ 藤根 久

1. はじめに

芋窪原遺跡の縄文時代後期の堅穴住居跡(1)SI001から出土した石皿に認められた黒色付着物の材質を調べるために、赤外分光分析と元素分析を行った。

2. 試料と方法(表1、図版1・2)

表1 分析資料

分析No	検体番号	遺構	遺物	時期	付着物の特徴	分析法
1	第14図-28	(1) SI001	石皿	縄文時代後期(層ノ内式)	黒色、やや光沢有、散在して付着	赤外分光分析・元素分析

分析は、赤外分光分析とレーザー元素分析を行った。赤外分光分析では、黒色付着物から少量(0.5mm角程度)を採取し、ダイヤモンドセルに薄く押延ばして測定した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計(日本分光株式会社製FT/IR-4X、IRT-5200-16)を用いて、透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。測定条件は、測定面積 $100 \times 100 \mu\text{m}$ 、測定時間200秒間である。

レーザー元素分析では、2個体の小片をスライドガラスに両面テープで固定した。分析には、株式会社キーンエンス製EA-300 VHXシリーズを使用した。レーザー元素分析は、レーザー誘起ブレイクダウン分光法(LIBS)により、水素(H)より重い元素の測定が可能である。測定条件は、クラス1レーザー(最も弱いレベルのレーザー光、IEC/EN60825-1 JIS C 6802)、測定雰囲気が大気、レーザー波長355nm、スポットサイズ $10 \mu\text{m}$ 、測定感度1%以上である。

定量元素は、水素(H)、炭素(C)、酸素(O)、ナトリウム(Na)、マグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、リン(P)、硫黄(S)、塩素(Cl)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)である。

3. 結果及びまとめ

以下に、石器に付着する黒色物の特徴と、赤外分光分析およびレーザー元素分析の結果について述べる。なお、図版3の赤外吸収スペクトル図の縦軸は透過率(%T)、横軸は波数(Wavenumber(cm^{-1});カイザー)を示し、吸収の数字はアスファルト(新潟県鎌倉新田産)の主な吸収位置を示す(表2)。

[分析結果]

付着物は、やや光沢のある黒色物で、散在する(図版1・2)。黒色物の赤外分光分析では、炭化水素の吸収(No.3~No.5のメチル基)はわずかであった。1029 cm^{-1} と1639 cm^{-1} に大きな吸収が見られるものの、主なアスファルトの吸収は確認されなかった(図版3)。

表2 アスファルト(新潟県鎌倉新田産)の赤外吸収位置とその強度

No	位置	強度	成分
1	3046.98	93.2741	O-H基
2	2930.35	78.9005	
3	2923.56	71.8750	
4	2863.77	81.9246	メチル基(CH_3)またはメチレン基(CH_2)
5	2731.92	99.5406	
6	1691.27	97.4445	カルボニル基($\text{C}=\text{O}$)
7	1602.56	89.4970	
8	1432.14	82.3473	δ CH_2 基、 δ α CH_3 基
9	1376.93	88.2646	δ CH_3 基
10	1321.00	92.2487	
11	1231.22	94.6473	
12	1157.08	94.6473	
13	1033.66	96.9332	S=O基またはC=O基
14	948.81	99.8901	
15	873.60	94.0687	
16	811.88	94.3815	
17	748.25	92.8427	

表3 黒色物のレーザ元素分析結果(単位:重量%)

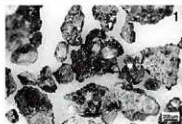
分析%	点No.	O	Si	Cl	Mn	Fe	Al	S	Ti	H	C	Na	Mg	P	K	Ca	total
1	1	71.6	99	0.0	7.0	6.3	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	2	56.5	106	0.0	0.0	8.6	3.9	20.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	3	57.2	83	17.5	5.1	8.2	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	4	36.2	129	24.4	9.7	8.0	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	5	37.9	15.1	12.8	8.9	9.9	9.3	0.0	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	平均値	51.9	11.1	10.9	6.1	8.2	6.2	4.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	1	49.4	8.6	0.0	17.0	8.4	5.6	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	2	49.8	8.8	0.0	5.9	12.3	2.8	12.8	3.6	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	3	43.0	5.9	0.0	18.1	7.3	0.0	16.0	6.3	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	4	47.3	11.2	10.6	15.7	9.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	5	48.2	11.2	0.0	0.0	8.0	6.1	26.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	平均値	47.5	9.1	2.1	11.3	9.1	4.0	13.3	2.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

2個体のレーザ元素分析では、多く検出される酸素(O)が51.9%と47.5%、次いでケイ素(Si)が11.4%と9.1%、塩素(Cl)が10.9%と2.1%、マンガン(Mn)が6.1%と11.3%、鉄(Fe)が8.2%と9.1%、アルミニウム(Al)が6.2%と4.0%、イオウ(S)が4.1%と13.3%などであった。有機物を構成する水素(H)が0.2%において1.5%、炭素(C)はいずれも0.0%であった(表3)。

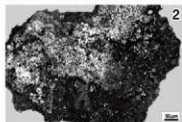
[まとめ]赤外分光分析において炭化水素の吸収は確認されず、2個体の元素分析においても、水素(H)は極少なく、また炭素(C)も全く含まれなかったため、黒色付着物はアスファルトなどの有機物ではなく、主にマンガン(Mn)や鉄(Fe)、イオウ(S)などで構成されるマンガン鉄化合物であった。

マンガン(Mn)や鉄(Fe)は、土壤中に比較的多量に含まれる。マンガン酸化物や鉄酸化物(Mn/Fe酸化物)の生成には、微生物の酸化が大きく関与している。土壤中のMn/Fe酸化物は、安定して存在しているのではなく、環境条件に応じて(再)溶融や変化をする。特に、乾湿を繰り返す土壌では、Mn/Fe酸化物が濃縮したノジュールや斑紋(斑鉄・マンガン斑)が確認されることがある(須田・牧野, 2015)。これらのMn/Fe酸化物が、当時付着したと思われる有機物の酸化に関わり、当時の付着物は保存されなかったと考えられる。

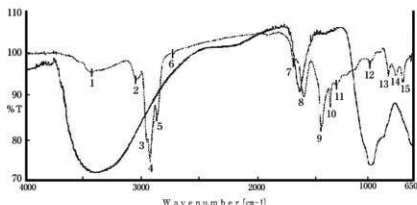
図版1 黒色付着物(採取した試料)



図版2 黒色付着物(分析試料)



図版3 黒色物の赤外吸収スペクトル図



(実線:表面,点線:アスファルト,数字:アスファルトの主な赤外吸収位置)

引用文献

須田碧海・牧野知之(2015)土壌におけるMn/Fe酸化物と重金属との関係. 日本土壌肥科学雑誌, 324-331.

写 真 图 版



半官原遺跡



遺跡全景（北から）



A区全景（北から）



B区全景 (北東から)



C区全景 (南から)



(1) SI001 (北から)



(1) SI001 遺物出土状況 (北から)



(1) SI001 炭化材検出状況 (北西から)



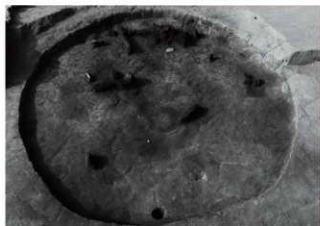
(1) SI002 (北西から)



(1) (2) SI004 (北から)



(3) SI001 (南から)



(3) SI001 遺物出土状況 (南から)



(3) SI001 炭化材検出状況 (南から)



(3) SI001 遺物出土状況



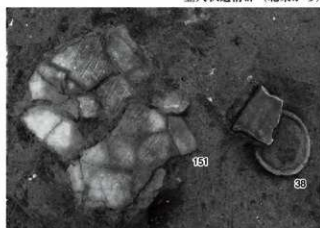
(3) SI001 調査風景 (南から)



竪穴状遺構群 (北東から)



竪穴状遺構群 遺物出土状況 (東から)



竪穴状遺構群 遺物出土状況 (1)



竪穴状遺構群 遺物出土状況 (2)



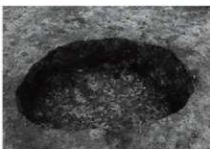
竪穴状遺構群 遺物出土状況 (3)



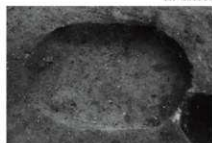
(1) SK001



(1) SK002



(1) SK004



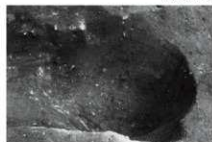
(1) SK008



(1) SK009



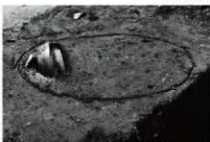
(1) SK010



(1) SK011



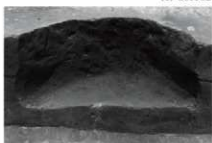
(1) SK012



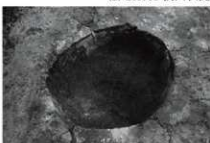
(2) SK001 检出状况



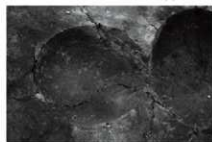
(3) SK006



(3) SK007



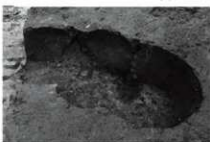
(3) SK008



(3) SK009



(3) SK010



(1) SK012 · 013 · 014



(1) SK015



(1) SD001



(1) SD002



A区調査風景 (南東から)



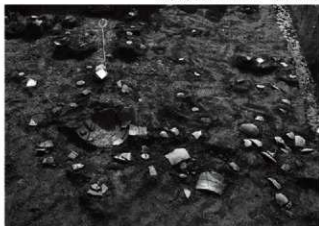
A区南北セクション (東から)



A区東西セクション (南から)



A区3B-06 グリッド焼土検出状況 (南から)



A区包含層遺物出土状況 (1)



A区包含层遗物出土状况 (2)



A区包含层遗物出土状况 (3)



A区包含层遗物出土状况 (4)



A区包含层遗物出土状况 (5)



A区包含层遗物出土状况 (6)



A区包含层遗物出土状况 (7)



A区包含层遗物出土状况 (8)



A区包含层遗物出土状况 (9)



C区調査風景（北東から）



C区調査風景（北西から）



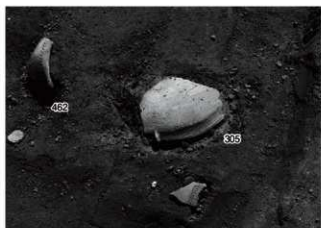
C区南北セクション（北西から）



C区包含層遺物出土状況（1）



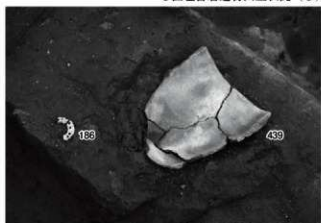
C区包含層遺物出土状況（2）



C区包含层遗物出土状况 (3)



C区包含层遗物出土状况 (4)



C区包含层遗物出土状况 (5)



C区包含层遗物出土状况 (6)



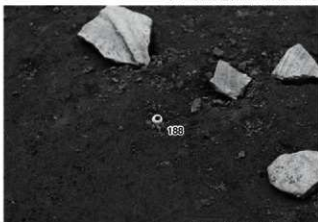
C区包含层遗物出土状况 (7)



C区包含层遗物出土状况 (8)



C区包含层遗物出土状况 (9)



C区包含层遗物出土状况 (10)



(1)SI001-1



(1)SI001-2



(1)SI001-19



(1)SI001-24



(3)SI001-1



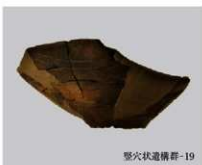
(1)SI002-17



(1-2)SI004-2



整穴状遺構群-18



整穴状遺構群-19



整穴状遺構群-28



整穴状遺構群-38



整穴状遺構群-42



整穴状遺構群-43



整穴状遺構群-46



整穴状遺構群-65



整穴状遺構群-116



竖穴状道構群-133



竖穴状道構群-136



竖穴状道構群-137



竖穴状道構群-138



竖穴状道構群-145



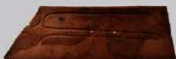
竖穴状道構群-148



竖穴状道構群-151



竖穴状道構群-153



竖穴状道構群-154



竖穴状道構群-198



竖穴状道構群-206



(1)SK009-2



(1)SK009-4



(1)SK009-7



(1)SK009-9



(1)SK009-10



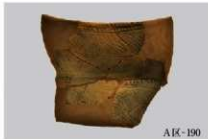
(2)SK001-1



(3)SD001-14



AK-71





AK-238



AK-243



AK-252



AK-239



AK-244



AK-266



AK-240



AK-245



AK-303



AK-241



AK-249



AK-304



AK-242



AK-250



AK-306



AK-251



AK-307



AIK-308



AIK-309



AIK-311



AIK-312



AIK-313



AIK-314



AIK-318



AIK-321



AIK-322



AIK-323



AIK-326



AIK-327



AIK-342



AIK-351



AIK-354



AIK-361



AIK-362



AIK-365



AIK-366



AIK-368



AIK-369



AIK-374



AIK-380



AIK-370



AIK-375



AIK-382



AIK-376



AIK-371



AIK-377



AIK-383



AIK-373



AIK-378

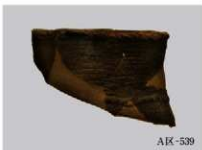
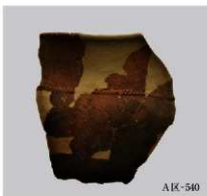


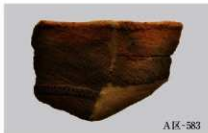
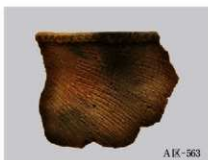
AIK-384



AIK-385









AK-625



AK-631



AK-710



AK-626



AK-633



AK-751



AK-634



AK-752



AK-627



AK-694



AK-753



AK-628



AK-703



AK-754



AK-629



AK-704



AK-770



AK-771



AK-773



AK-775



AK-776



AK-778



BK-2



BK-4



BK-12



CK-44



CK-53



CK-58



CK-60



CK-66



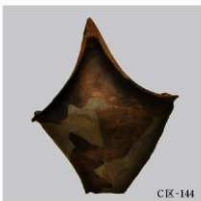
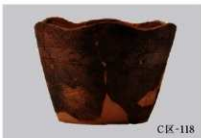
CK-67



CK-102



CK-108





CK-180



CK-181



CK-182



CK-183



CK-184



CK-199



CK-221



CK-224



CK-225



CK-226



CK-227



CK-228



CK-229



CK-231



CK-244



CK-248



CK-249



CK-257



CK-267



CK-271



CK-273



CK-274



CK-275



CK-276



CK-315



CK-316



CK-319



CK-320



CK-321



CK-322



CK-323



CK-324



CK-325



CK-327



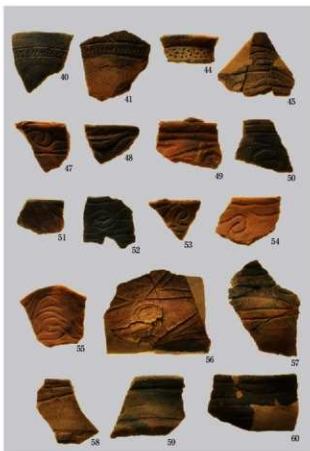
CK-328



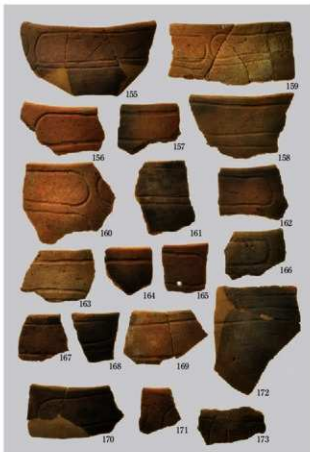
CK-329



竖穴状遺構群



竖穴状遗構群



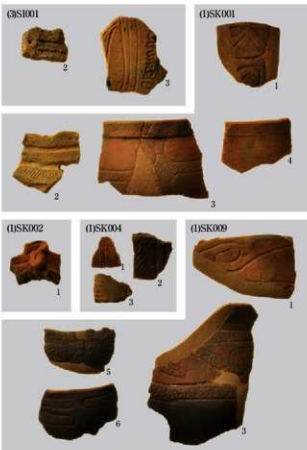
竖穴状造構群



竖穴状造構群



竖穴状造構群

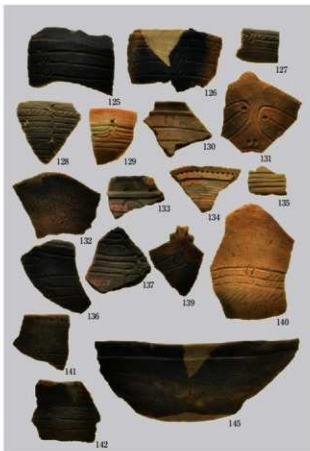




A区包含层



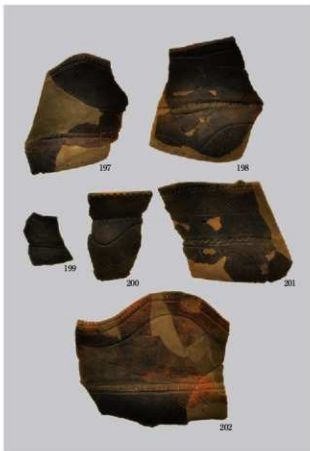
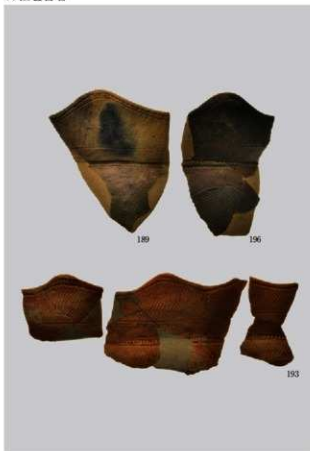
A 区包含层



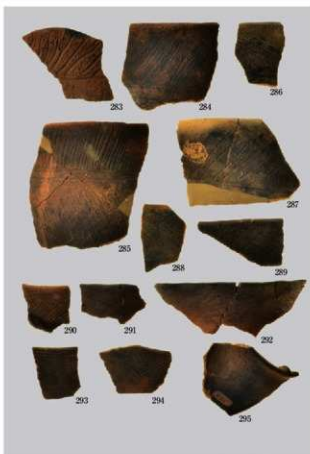
A 区包含层



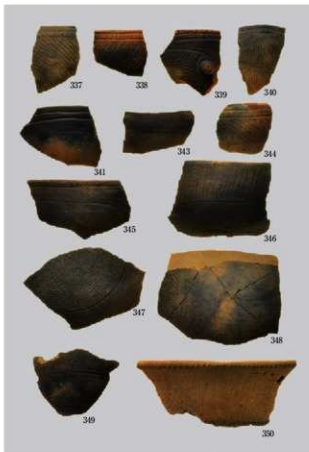
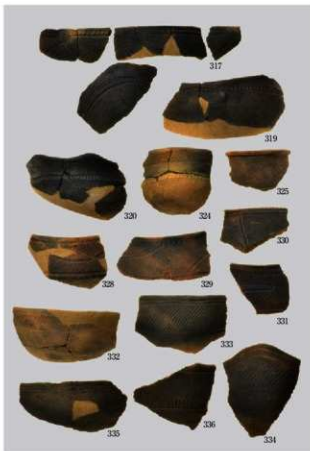
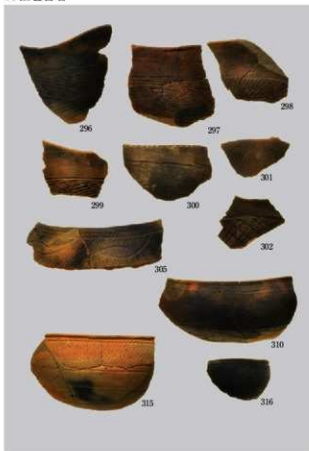
A 区包含层



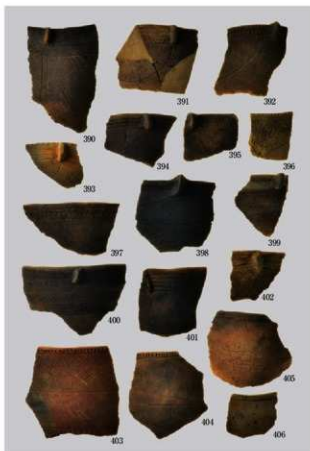
A 区包含层



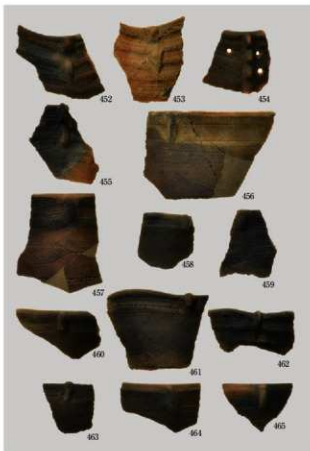
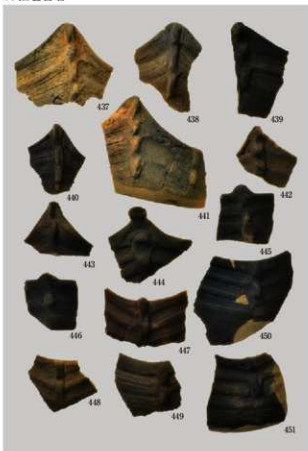
A 区包含层



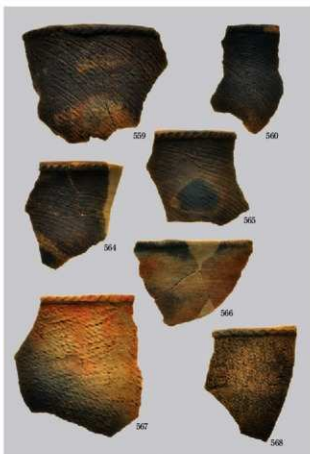
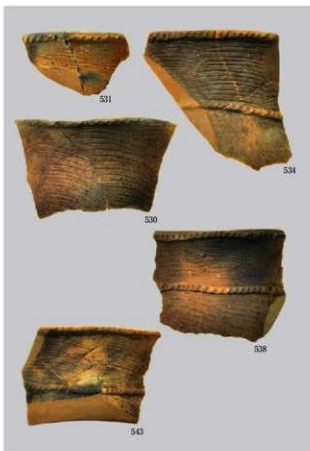
A 区包含层



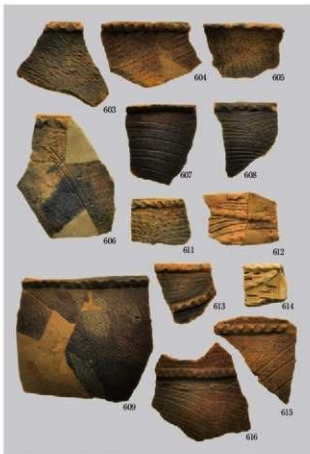
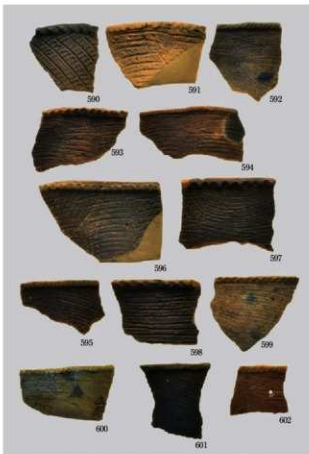
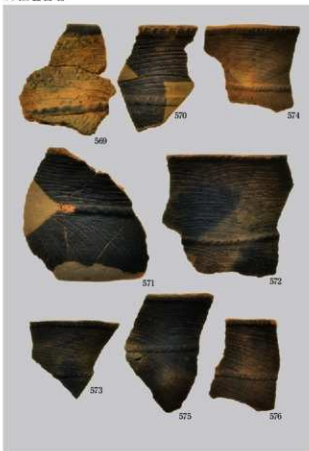
A区包含层



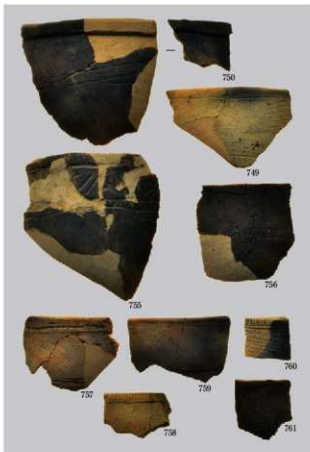
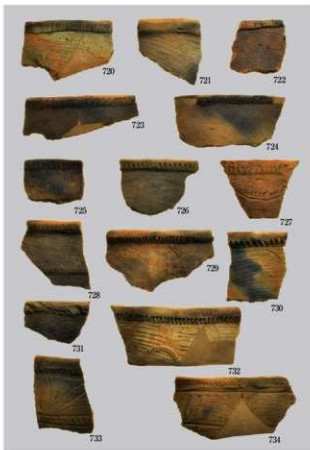
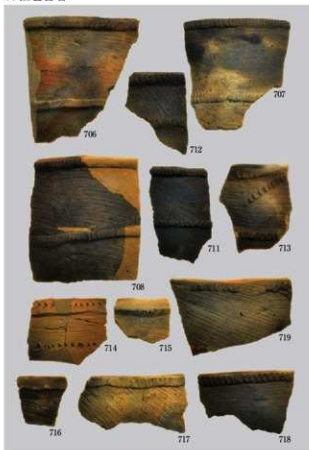
A区包含层



A 区包含层



A 区包含层



B区包含物



C区包含物



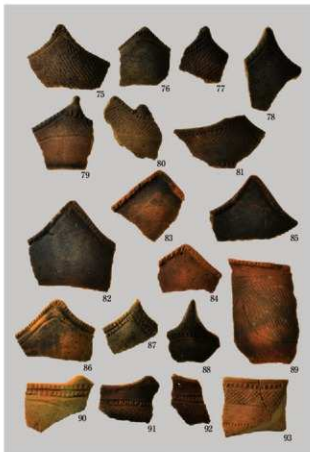
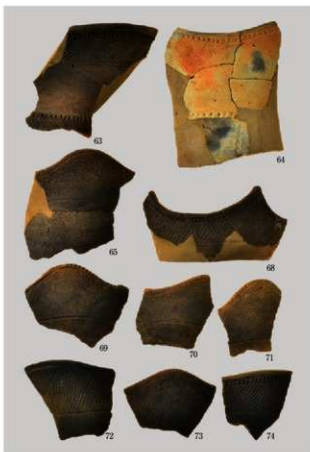
C区包含物



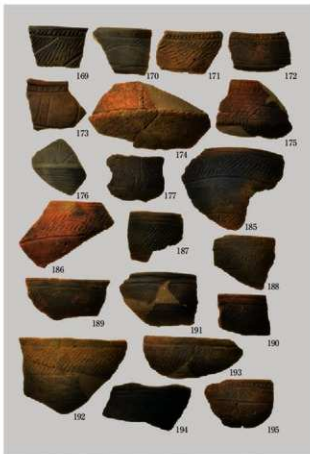
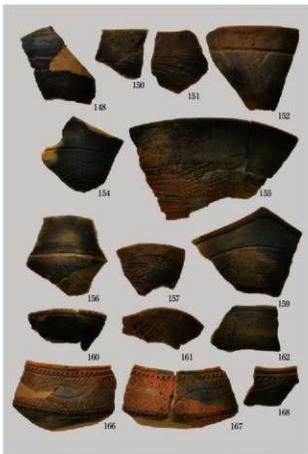
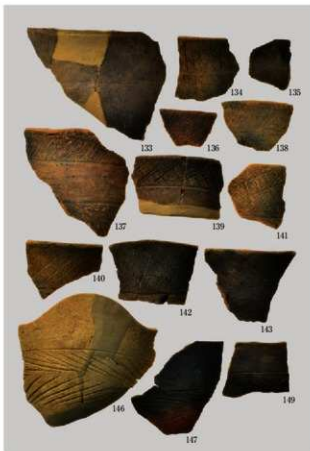
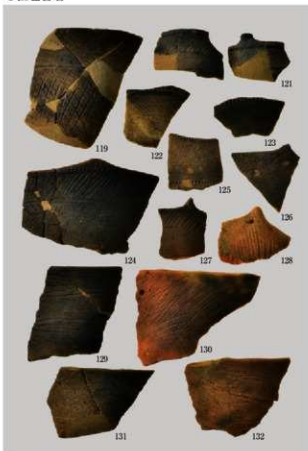
C区包含物



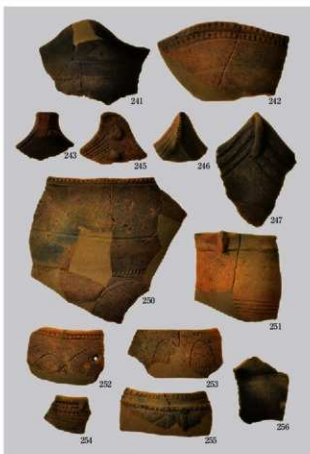
C区包含层



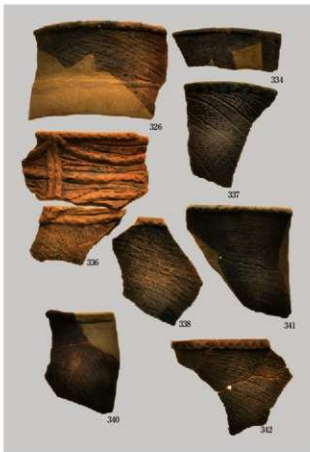
C区包含层



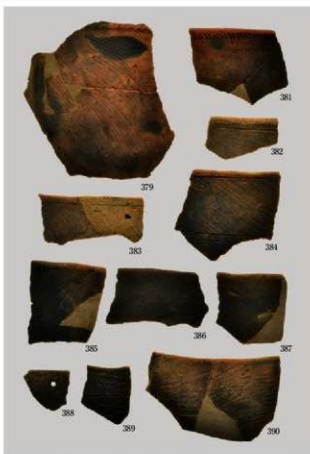
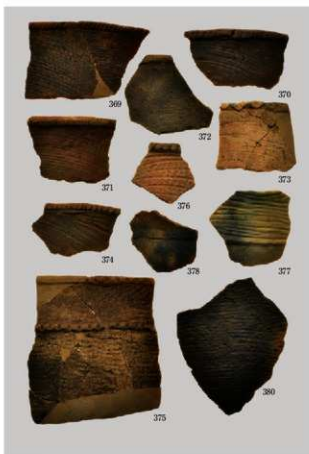
C区包含层



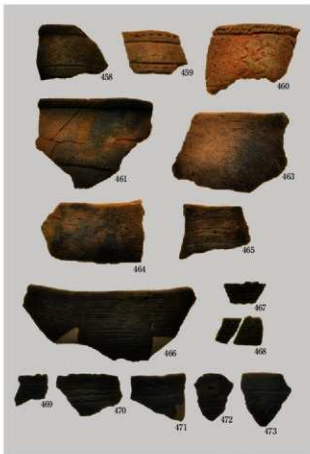
C区包含层



C区包含层



C区包含层



竖穴灰道墓葬群



A区包合组



B区包含物



C区包含物



508

507

503

509

504

510

506

511

505

500

501

497

502

494

495

496

492

493

490

487

488

489

491

58

59

60

511

A区包含层



C区包含层

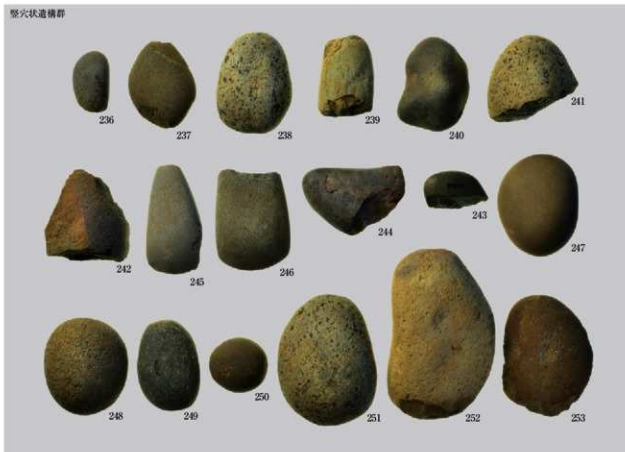




竖穴状造模群



竖穴状造模群



旧石器时代から縄文時代早期石器



A区包含物



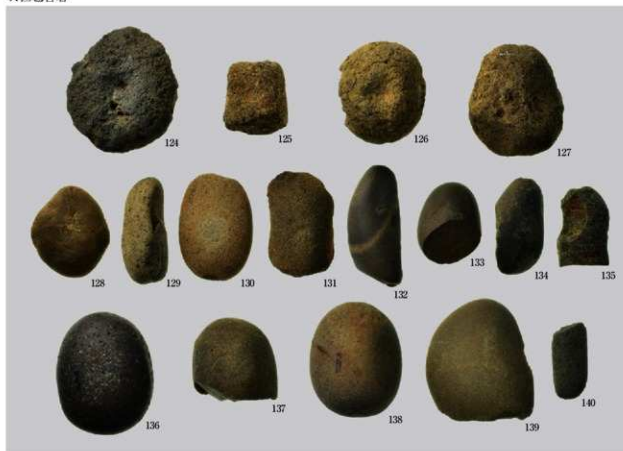
A区包含层



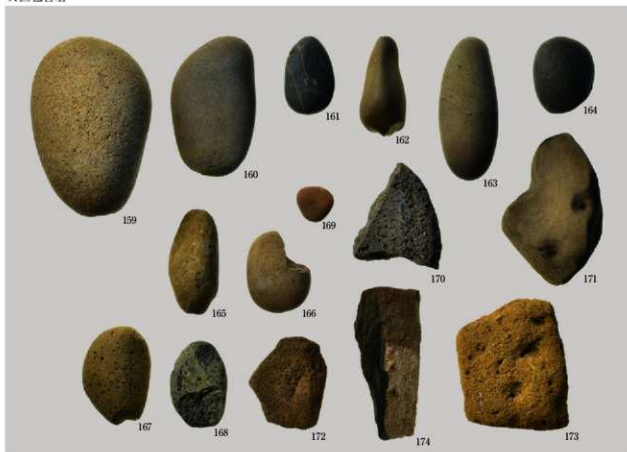
A区包含层



A区包含层



A区包含层



A区包含物



203



204



205



206



207

B区包含物



4



5



6



7

C区包含物



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39

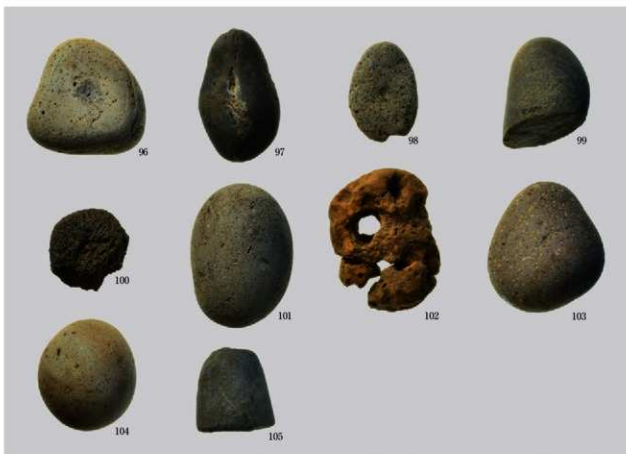


40

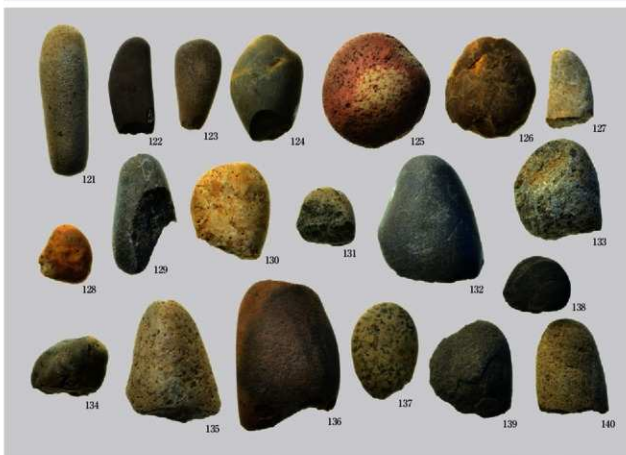
C区包含层



C区包含层



C区包含层



C区包含层



C区包含层



報告書抄録

ふりがな	きみつしいもくぼはらいせき							
書名	君津市芋窪原遺跡							
副書名	一般国道410号久留里馬来田バイパス事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第51集							
編著者名	館 祐樹 蜂屋孝之							
編集機関	千葉県教育委員会							
所在地	〒260-8662 千葉県千葉市中央区市場町1-1 TEL043-223-4129							
発行年月日	西暦2024年3月19日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
芋窪原遺跡	きみつしいもくぼはらいせき 君津市芋窪字 芋窪台124の 一部ほか	12225	033	35度 27分 81秒	140度 05分 46秒	20180717 ~ 20181226 20190415 ~ 20190530 20190527 ~ 20190830	5,100㎡	道路建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
芋窪原遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代	竪穴住居跡4軒 竪穴状遺構4基 土坑18基 溝2条 遺物包含層3か所		縄文土器、土製品、 石器、石製品		小櫃川中流域における段丘上に営まれた縄文時代中期～晩期の集落跡	
要約	君津市を流れる小櫃川によって形成された段丘上の縄文時代中期後葉～晩期中葉の集落跡である。道路建設に伴う調査のため調査面積が限られているものの、中期加曾利E式期の集落が段丘上にある程度の規模で展開していること、また、竪穴住居跡だけでなく、包含層から後期中葉から晩期後葉にかけての土器を主体とする遺物が多量に出土していることから、段丘上には集落が継続的に営まれていたことが判明した。山間部の高低差の顕著な地形環境において展開した集落の実態を探る上で貴重である。また、石鏃や打製石斧の一部は、集落の周辺で採取できる石材を利用していただ可能性が高いことも判明した。							

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第51集

君津市芋窪原遺跡

— 一般国道410号久留里馬来田バイパス事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和6年3月19日発行

編集・発行 千葉県教育委員会
千葉県中央区市場町1-1
印刷 株式会社 弘文社
市川市市川南2-7-2
